

独立行政法人 日本芸術文化振興会 委託事業

シンガポールにおける文化 芸術活動に対する支援を はじめとする文化振興方策 等に関する実態調査

報告書



Nomura Research Institute Singapore Pte. Ltd.

独立行政法人 日本芸術文化振興会 委託事業

シンガポールにおける文化芸術活動に対する支援を はじめとする文化振興方策等に関する実態調査



Nomura Research Institute Singapore Pte. Ltd.

シンガポールにおける文化芸術活動に対する支援をはじめとする 文化振興方策等に関する実態調査 報告書 目次

Table of Contents

はじめに	7
凡例・略語・用語・ヒアリング調査実施先一覧	9
第1部 シンガポールの文化芸術活動に対する支援	12
第1章 政府の文化芸術政策	13
1-1. シンガポールの概要	14
1-2. 政府の文化芸術行政の目的・体制	15
1-3. 文化コミュニティ青年省の概要	19
1-3-1. 文化コミュニティ青年省の戦略	19
1-3-2. 文化コミュニティ青年省の体制と職員	21
1-3-3. 文化コミュニティ青年省の支出	21
1-3-4. 文化コミュニティ青年省のKPI	24
1-4. 文化コミュニティ青年省による助成制度	26
1-4-1. 助成制度の分類	26
1-4-2. 助成対象・助成内容	27
1-4-3. 助成申請と支払いの手続き	31
1-5. 文化コミュニティ青年省と文化芸術団体の関係	32
1-5-1. 助成を通じた被助成団体との相互関係	32
1-5-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係	32
1-6. 文化コミュニティ青年省による調査研究とデータ	33
第2章 ナショナルアーツカウンシルの文化芸術助成	36
2-1. ナショナルアーツカウンシルの概要	37
2-1-1. ナショナルアーツカウンシルの沿革	37
2-1-2. ナショナルアーツカウンシルの戦略	38
2-1-3. ナショナルアーツカウンシルの体制と職員	41
2-1-4. ナショナルアーツカウンシルの収支	42
2-2. ナショナルアーツカウンシルとその他公的機関の関係	46
2-3. ナショナルアーツカウンシルによる助成制度	47
2-3-1. 助成制度の分類	48
2-3-2. 助成制度の予算・規模	51
2-3-3. 助成対象・助成内容	52
2-3-4. 助成事業に関する手続き	54
2-3-5. 助成申請と採択後の手続き	56
2-3-6. 助成事業実施中の手続き	66
2-3-7. 助成事業終了後の手続き	68

2-4.	ナショナルアーツカウンシルと文化芸術団体の関係	70
2-4-1.	助成を通じた被助成団体との相互関係	70
2-4-2.	被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係	70
2-5.	ナショナルアーツカウンシルによる調査研究とデータ	72
2-5-1.	助成事業の改善に資するための調査研究と政策提言の実態	72
2-5-2.	国内における文化芸術活動や文化芸術団体などの実態に関する情報の収集・研究・評価方法	73
2-5-3.	文化芸術活動に対する助成の波及効果の具体的な検証方法	73
第3章	国家遺産局の文化芸術助成	75
3-1.	国家遺産局の概要	76
3-1-1.	国家遺産局の沿革	76
3-1-2.	国家遺産局の戦略	77
3-1-3.	国家遺産局の体制と職員	78
3-1-4.	国家遺産局の収支	79
3-2.	国家遺産局とその他公的機関の関係	81
3-3.	国家遺産局による助成制度	82
3-3-1.	助成制度の分類	82
3-3-2.	助成制度の予算・規模	83
3-3-3.	助成対象・助成内容	84
3-3-4.	審査の概要	85
3-3-5.	助成申請と採択後の手続き	86
3-3-6.	助成事業実施中の手続き	87
3-3-7.	助成事業終了後の手続き	88
3-4.	国家遺産局と文化芸術団体の関係	89
3-5.	国家遺産局による調査研究とデータ	90
第4章	アンブレラ組織・カンパニー・芸術施設	93
4-1.	アンブレラ組織の概要	94
4-2.	カンパニーの概要	99
4-3.	アンブレラ組織・カンパニーと文化コミュニティ青年省・ナショナルアーツカウンシルの関係性	106
4-4.	芸術施設の概要	107

第2部 シンガポールの文化芸術を取り巻く周辺政策	113
第1章 シンガポール人のアイデンティティ形成を支える政策と地域行政サービス	115
1-1. 民族融和政策における教育	116
1-2. 地域行政サービス・コミュニティ組織	118
1-2-1. 人民協会(PA)	119
1-2-2. 社会開発協議会(CDC)	120
1-2-3. 草の根団体(Grassroots Organisation)	121
1-2-4. コミュニティセンター、コミュニティクラブ	122
第2章 シンガポールの文化芸術を維持・発展させる仕組み作り	123
2-1. シンガポールの文化芸術における周辺分野連携	124
2-1-1. 教育分野との連携	124
2-1-2. 都市再開発分野との連携	128
2-1-3. 観光分野との連携	131
2-1-4. 医療分野との連携	132
2-1-5. 地域行政サービス・コミュニティとの連携	133
2-2. 持続可能な文化芸術活動・運営を促進する仕組み	134
2-2-1. 芸術産業におけるキャリアパスの創出	134
2-2-2. 民間企業とのパートナーシップ	135
2-2-3. 文化芸術分野への寄付の動向と寄付金を増やす仕組み	136
2-3. 文化芸術における海外との連携	141
おわりに	144

はじめに

本調査は、独立行政法人日本芸術文化振興会（以下、振興会）がNomura Research Institute Singapore Pte. Ltd. に委託して実施したものである。振興会では文化芸術の振興に関する基本方針（第3次（2011年1月）、第4次（2015年4月））に基づき、諸外国のアーツカウンシルに相当する仕組み（専門家による助言、審査、事後評価、調査研究などの機能）を、2016年度に本格導入した。その仕組みに資するべく諸外国のアーツカウンシルの実態を調査している。

振興会はこの度、シンガポール共和国（以下、シンガポール）を調査対象として選定し、そのアーツカウンシルや文化芸術活動に対する支援の現状を明らかにした。シンガポールは、中国系、マレー系、インド系、ヨーロッパ系など、さまざまな民族が生活する多民族都市国家であり、各民族の言語や宗教、文化が共生してきた。アジアの経済的なハブであるシンガポールは、文化芸術面でも国際的なアートイベントを開催するなど積極的な活動を展開している。文化芸術と経済の好循環に向け、どのようにアプローチしているのか、また、文化芸術の経済効果がどのように捉えられているのかを含めて、シンガポールの文化芸術活動に対する支援のあり方を提示することは、日本のアーツカウンシルにも示唆をもたらすと期待される。

本調査ではデスクトップ調査、オンラインヒアリング調査、現地でのヒアリング調査を実施した。デスクトップ調査では、文化コミュニティ青年省、ナショナルアーツカウンシル、国家遺産局の他、文化芸術団体が公表している戦略文書などから方針の概要や目指す方向性を把握した。また、在日シンガポール大使館をはじめとする関係諸機関の協力を得て、公的機関に加え、民間の文化芸術団体を含めた10団体15名以上に対して、ヒアリング調査を行った。2023年11月から2024年4月にかけてのオンラインヒアリング調査では、各関係機関の職員を中心に聞き取りを、また2024年2月のシンガポール現地でのヒアリング調査では、関係者と対面での意見交換と情報共有を行い、文化芸術への支援の実態を捉えた。対面で把握しきれなかった内容は、書面でのコミュニケーションを通じて共有いただいた。

本報告書では、第1部でシンガポールの文化芸術に対する支援を主体ごとに整理し、第2部で文化芸術に関連する政策や組織、周辺分野との関係を明らかにした。

第1部は4つの章からなる。第1章では、文化コミュニティ青年省を取り上げた。文化芸術行政の中枢を担う組織としての計画や戦略、それらを実現するための体制の他、政策決定に加えて実施している助成事業や調査研究についてまとめた。第2章では、ナショナルアーツカウンシルについて、助成事業の実態を中心として、組織としての戦略や、公的機関や文化芸術団体との関係のあり方を提示した。第3章では、国家遺産局について、第1章、第2章と同様に記述した。第4章では、アンブレラ組織や芸術活動を行う団体、シンガポールを代表する芸術施設について扱った。

第2部は2つの章からなる。第1章では、シンガポール人のアイデンティティ形成の背景となる民族融和政策について、教育に焦点を当てて紐解いた。第2章では、文化芸術をとりまく公共福祉サービスや地域コミュニティに着目し、海外の文化芸術組織を含めた民間企業などとの連携について記述した。また、シンガポールの文化政策を知るうえで特に重要と考えられる「シンガポールアーツプラン2023-2027」と「ナショナルアーツカウンシル(NAC)TAKING SHAPE年次報告書 2022/2023会計年度」については翻訳資料として別冊に収録してある。併せてご参照頂きたい。

今回の調査では、文化芸術を軸にシンガポールの政府・民間など幅広い関連組織について、これまで明らかになっていなかった相互関係や活動の詳細を掘り下げた。シンガポールの文化芸術活動やその支援のあり方に対する理解を通じ、今後の日本の文化振興に資する政策形成や活動支援の企図の一助となることを願っている。

注：本報告書の内容は、特に断りのない限り、2024年3月31日時点の情報とする。

凡例・略語・用語・ヒアリング調査実施先一覧

凡例

本報告書で「年度」はシンガポール共和国の会計年度である4月1日から3月31日を指す。
 本報告書では1シンガポールドル(S\$) = 112円(2024年4月1日時点)で換算している。
 各項目の金額は単位未滿を四捨五入しており内訳の計と合計が一致しない場合がある。

略語

ACM	Asian Civilisations Museum	アジア文明博物館
AGAS	Art Galleries Association Singapore	シンガポール美術館協会
AHL	Arts House Ltd.	アーツハウス
AISS	Artist-In-School Scheme	アーティストインスクールスキーム
BAA	Bhaskar's Arts Academy	バスカーズアーツアカデミー
Cap.	Chapter	(法律などにおける)章
CDC	Community Development Council	社会開発協議会
CIF	Community Integration Fund	コミュニティ統合ファンド
CLG	Company Limited by Guarantee	保証付有限責任会社
CMF	Cultural Matching Fund	文化マッチングファンド
COS	Committee of Supply	文化コミュニティ青年省の戦略計画
EP	Extended Play	EP(音楽出版の形態の1つ)
HDB	Housing and Development Board	住宅開発庁/住宅開発庁によって建てられた集合住宅地
IPC	Institution of Public Character	公共性の高い機関
KKH	KK Woman and Children Hospital	ケーケー婦人と子供のための病院
LLP	Limited Liability Partnership	有限責任事業組合
MBS	Marina Bay Sands	マリーナベイサンズ
MCCY	Ministry of Culture, Community and Youth	文化コミュニティ青年省
MoU	Memorandum of Understanding	基本合意書
MUIS	Majlis Ugama Islam Singapura	イスラム教評議会
NAC	National Arts Council	ナショナルアーツカウンシル
NAC-AEP	National Arts Council-Arts Education Programme	ナショナルアーツカウンシル芸術教育プログラム
NHB	National Heritage Board	国家遺産局
NTFGH	Ng Teng Fong General Hospital	ンテンフォン総合病院
OJT	On the Job Training	オンザジョブトレーニング
OSG portal	Our SG Grants portal	シンガポール補助金ポータルサイト
PA	People's Association	人民協会
PABL	Performing Arts-Based Learning	舞台芸術に基づいた学習
PPP	Public-Private Partnerships	官民パートナーシップ
PR	Permanent Residence / Permanent Resident	永住権/永住権保持者
SCO	Singapore Chinese Orchestra	シンガポール華楽団
SCMF	Singapore Chinese Music Federation	シンガポール中国音楽連盟
SDA	Singapore Dance Alliance	シンガポールダンス連盟
SDEA	Singapore Drama Educators Association	シンガポール演劇教育者協会
SEP	Self-Employed Persons	個人事業主
SGH	Singapore General Hospital	シンガポール総合病院
SLA	Singapore Land Authority	シンガポール土地管理庁

SHS	Singapore Heritage Society	シンガポール遺産協会
SIFA	Singapore International Festival of Arts	シンガポール芸術祭
SportSG	Sport Singapore	スポーツシンガポール
SSO	Singapore Symphony Orchestra	シンガポール交響楽団
stART Fund	Sustain the Arts Fund	芸術の持続基金
STC	Singapore Theatre Company	シンガポールシアターカンパニー
SWF	Singapore Writers Festival	シンガポール作家祭
TECL	The Esplanade Company Limited	エスプラネード
URA	Urban Redevelopment Authority	シンガポール都市再開発庁

用語

アンブレラ組織	分野や立地など何らかの共通点を有する文化芸術団体を取りまとめる組織
インスタレーション	展示空間を含めて作品とみなす現代美術手法の1つ
カンパニー	芸術活動を行う団体
慈善団体	慈善事業法(Charity Act)で定義される、慈善目的のために設立された組織。条件を満たす場合、慈善事業庁長官に登録申請を行う
ピア	助成組織から独立した立場で助成申請の審査などを行う芸術家や専門家など
プラナカン	15世紀以降、マレーシアやシンガポールに世界各地から移住して来た男性が、現地に住んでいた女性と結婚し、生まれた混血の子孫、またその文化

ヒアリング調査実施先

団体	担当者名・役職
文化コミュニティ青年省	Deputy Director, Culture Academy、他
ナショナルアーツカウンシル	Senior Manager, Strategic Partnerships & Engagement (People & Public)、他
国家遺産局	Senior Manager, Strategic Communications、他
シンガポールマレー伝統音楽連盟	Mohamed Yaziz Bin Mohamed Hassan Co-founder/ Executive Director of Nadi Singapura Ltd
シンガポール中国音楽連盟	Vice President, Executive Director of SCO
Singapore Symphony Orchestra	Kenneth Kwok Chief Executive Officer, Singapore Symphony Group
Singapore Chinese Orchestra	Executive Director、他
Nadi Singapura	Mohamed Yaziz Bin Mohamed Hassan Co-founder/Executive Director
CHOWK Productions	Founder/Artistic Director
Esplanade - Theatres on the Bay	ご担当者様



第1部

シンガポールの文化芸術活動 に対する支援

第1部ではシンガポールが実施している文化芸術活動について記述する。まず第1章で政府、特に文化コミュニティ青年省 (Ministry of Culture, Community and Youth: 以下、MCCY) の文化芸術行政の体制や政策、またMCCYが実施する助成について記載する。第2章ではナショナルアーツカウンシル (National Arts Council: 以下、NAC)、第3章では国家遺産局 (National Heritage Board: 以下、NHB) について、戦略や体制、助成制度、各組織同士の関係などを記載する。最後に第4章でアンブレラ組織や、芸術活動を行う団体 (以下、カンパニー) について記載する。

The background of the page features a photograph of the Victoria Theatre and Concert Hall in Melbourne, Australia. The building is a grand, classical-style structure with a prominent clock tower on the right side. The tower has two clock faces and a decorative top. The main building has a portico with columns and a pediment. The text 'VICTORIA THEATRE' is visible on the facade. The image is partially obscured by large, diagonal, semi-transparent blue and white geometric shapes that create a modern, layered effect.

第1部
第1章

政府の文化芸術政策

この章はシンガポールの基本情報や、シンガポール政府、特にMCCYの文化芸術行政の目的や体制に触れた上で、実際の政策や支出について記述する。加えて、MCCYが直接実施する助成システムとそれに伴う被助成団体との関係や、MCCYが実施する調査研究について記載する。次章以降で記載する各機関が影響を受ける、文化芸術助成の全体像や方向性を整理する。

1-1. シンガポールの概要

シンガポールは、マレー半島の南端に位置しており、人口約564万人(2022年)、面積約720平方キロメートルほどの国である(図表1-1-1)。東京23区よりやや大きい程度の小さな都市国家には、中国系(全人口の74%)、マレー系(同14%)、インド系(同9%)をはじめとするさまざまな民族が生活しており、公用語は英語、中国語、マレー語、タミール語である¹。

シンガポールの歴史は、1819年1月29日、当時スマトラ島のベンクーレン副知事だったスタンフォード・ラッフルズ(Stamford Raffles)卿の上陸に始まる。沼沢に覆われたこの島に大きな可能性を見出したラッフルズ卿は、現地の支配者との条約交渉を行い、シンガポールを貿易拠点として整備した。シンガポールは立地特性もあり貿易拠点として急速に発展し、中国、インド、マレー諸島、そして世界各地からの移住を促した。1959年にはナショナリズムの高まりから自治が始まりシンガポール初の総選挙が実施され、人民行動党が過半数の43議席を獲得した。シンガポール初代首相に就任したリー・クアンユー(Lee Kuan Yew)の指導のもと、1963年にはマラヤ連邦、シンガポール、サラワク、北ボルネオからなるマレーシアが成立したものの、シンガポールは1965年8月9日にマレーシアから独立し、主権を持つ民主国家となった。2024年には世界で最も競争力のある経済大国の第1位にランクインし、高い生活水準を誇っている²。

本調査報告書では、土地が小さいながら多様な文化が混じったシンガポールが、どのように文化を守り、発展させているのかをまとめる。

図表1-1-1 シンガポールの地図



出典:シンガポール政府OneMap³より

¹ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>

² https://www.imd.org/centers/wcc/world-competitiveness-center/rankings/world-competitivenessranking/rankings/wcr-rankings/#_tab_Rank

³ <https://www.onemap.gov.sg/>

シンガポールにおける省 (Ministry) は、首相により統括される。各分野の政策を主につかさどる省は図表 1-1-2の通り1府15省ある (2023年度)⁴。文化芸術関係の政策を主に担当するのはMCCYである。加えて、教育省は文化芸術関係の人材の育成プログラムや小中学校への文化芸術の波及などで、財務省は多くの資金援助を行うシンガポールのトータルイザーター委員会 (Singapore Totalisator Board: 以下、Tote Board) の管轄省として、それぞれ文化芸術と関わりの深い省である。

図表1-1-2 シンガポールの省・府と支出

※1シンガポールドル=112円

省・府		2024年度支出推計値 (S\$10億)	割合 (%)
Ministry of Defence (MINDEF)	国防省	20.2	18.2
Ministry of Health (MOH)	保健省	18.8	16.9
Ministry of Education (MOE)	教育省	14.8	13.3
Ministry of Transport (MOT)	交通省	14.2	12.8
Ministry of National Development (MND)	国家開発省	9.0	8.1
Ministry of Home Affairs (MHA)	内務省	8.3	7.5
Ministry of Trade and Industry (MTI)	貿易産業省	6.0	5.4
Ministry of Social and Family Development (MSF)	社会・家族開発省	4.7	4.2
Ministry of Sustainability and the Environment (MSE)	持続可能性・環境省	3.4	3.1
Ministry of Manpower (MOM)	労働省	3.2	2.9
Ministry of Communications and Information (MCI)	情報通信省	2.7	2.4
Ministry of Culture, Community and Youth (MCCY)	文化コミュニティ青年省	2.4	2.2
Ministry of Finance (MOF)	財務省	1.3	1.2
Prime Minister's Office (PMO)	首相府	0.7	0.6
Ministry of Law (MINLAW)	法務省	0.7	0.6
Ministry of Foreign Affairs (MFA)	外務省	0.6	0.5

出典: Singapore Government Directory⁵、Analysis of Revenue and Expenditure⁶よりNRI作成

1-2. 政府の文化芸術行政の目的・体制

1959年、政府は文化の育成と国民のアイデンティティの確立を目指し、文化省 (Ministry of Culture) を新設した。文化の育成に加えて、政府の目標などを国民にアウトリーチすることも目的の1つとされ、映画や出版物、新聞などの一般公開の許認可機関であった。1985年には地域開発省 (Ministry of Community Development) が設立され、旧文化省の機能の大半を引き継いだ。1990年には情報芸術省 (Ministry of Information and the Arts)、2001年には情報通信芸術省 (Ministry of Information, Communications and the Arts) と名前を変えた。2012年に通信情報省 (Ministry of Communications and Information) とMCCYが設立され、通信情報と文化育成の機能が分けられた。

現在、政府による文化政策の目的は「多文化社会において芸術の存在感を高め、調和のとれた社会を創造すること」であり、MCCYがその中心を担っている⁷。MCCYは、文化芸術分野に政策的方向性と戦略的監督を提供する一方で、文化芸術を担う法定機関 (Statutory Board) としてNACやNHBなどを所管し、NACとNHBがそれぞれの使命を達成できるよう、資金援助や支援も行っている。

⁴ <https://www.sgdi.gov.sg/ministries>

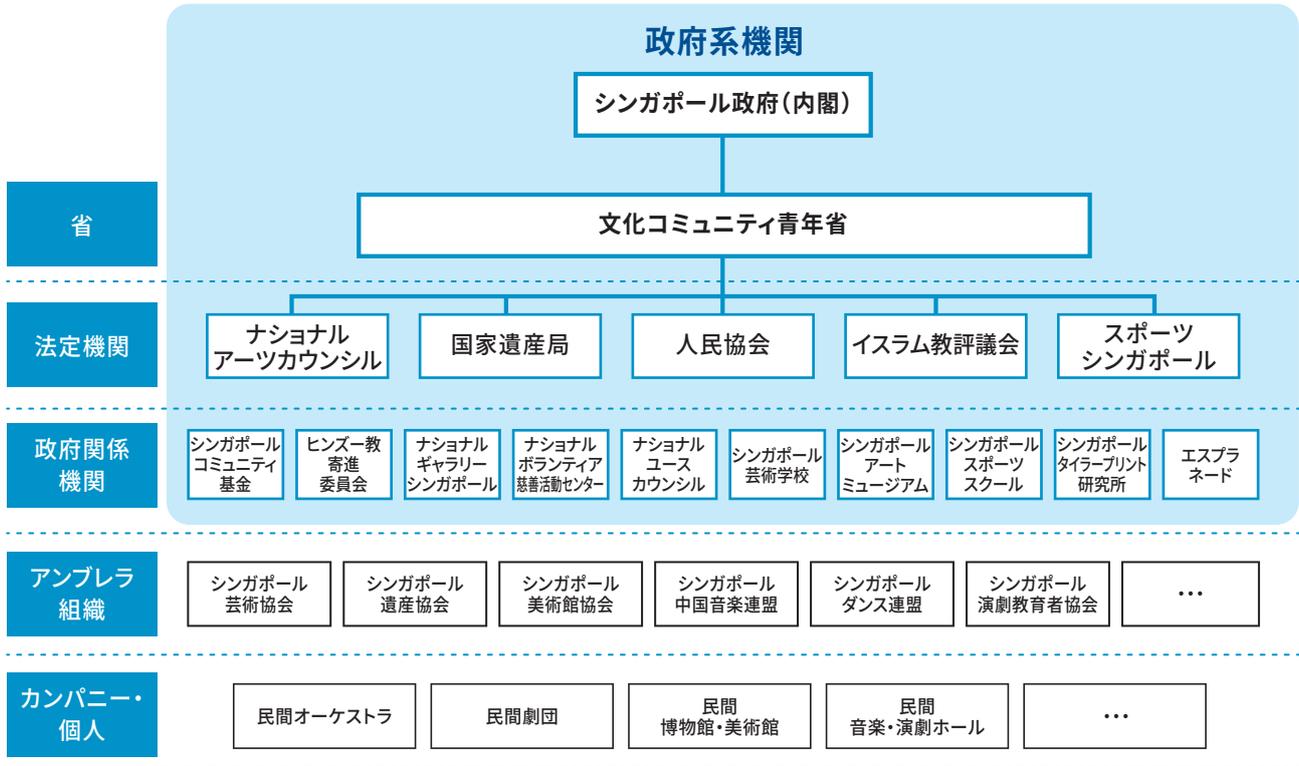
⁵ <https://www.sgdi.gov.sg/ministries>

⁶ https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/fy2024_analysis_of_revenue_and_expenditure.pdf (P17)

⁷ https://www.mccy.gov.sg/-/media/MCCY-corp/Sectors/ACCA_Executive_Summary.pdf

MCCYを中心に、文化芸術行政を担う各組織の全体像は図表1-1-3のように整理できる。

図表1-1-3 文化芸術行政を担う各機関の関係



出典: 各種公開資料、各団体へのヒアリングよりNRI作成

MCCYの傘下には5の法定機関と10の政府関係機関が置かれている。法定機関は、シンガポール国民の生活を守るため、必要不可欠なサービスを提供し重要な産業を監督するという役割を担っている。法定機関の各種活動は、シンガポールの繁栄と近代国家としての台頭につながっている。法律によって明確な分野・役割を与えられている法定機関に対して、政府関係機関の職掌は比較的自由度が高いという特徴がある。

MCCYが監督する法定機関は、図表1-1-4の通りである。

図表1-1-4 MCCYが監督する法定機関

法定機関	概要
ナショナルアーツカウンシル (NAC)	シンガポールの芸術を支援し、シンガポール人の生活を豊かにする活気に満ちた持続可能な文化芸術の醸成に尽力しており、主に芸術家や芸術関連のプロジェクトに携わる人々を助成している ⁸ 。詳細は第2章「2-1. ナショナルアーツカウンシルの概要」にて後述する。
国家遺産局 (NHB)	シンガポールの物語を伝え、シンガポール人の経験を共有し、シンガポール精神を伝える役割を担っている。その使命は、教育・国家建設・文化理解を目的として、多様なコミュニティが共有する遺産を保存し、称えることである。遺産保存に重点を置いており、遺産関連の取り組みに携わる人々を助成している。詳細は第3章「3-1. 国家遺産局の概要」にて後述する。
人民協会 (People's Association: 以下、PA)	シンガポールの民族的調和と社会的結束を促進する。その使命は、国民を1つに、シンガポールを1つにするために、コミュニティを構築し橋渡しをすることである ⁹ 。第2部第1章「1-2. 地域行政サービス・コミュニティ組織」にて後述する。
イスラム教評議会 (Majlis Ugama Islam Singapura : 以下、MUIS)	1968年にイスラム管理法 (Administration of Muslim Law Act) が施行された際に法定機関として設立された。MUISはシンガポールのイスラム教についてのあらゆる事柄について大統領に助言することになっている。MUISの使命は、宗教生活と宗教に関する制度をよりよくすることであり、その戦略的優先事項は、シンガポールのイスラム教徒への指針を設定し、イスラム教徒としてのアイデンティティを形成することである ¹⁰ 。
スポーツシンガポール (Sport Singapore: 以下、SportSG)	革新的で楽しく、意義のあるスポーツ体験を通じて地域社会に貢献することを使命とし、あらゆるシンガポールの人々のために、スポーツライフスタイルを発展させる取り組みを進めている ¹¹ 。

出典: MCCYウェブサイト¹²よりNRI作成

文化芸術全般における金銭的・非金銭的な支援を担っているNACとNHB、文化芸術と関連の深い民族融和政策に関係するPAについては、本報告書の後段で詳しく記述する。

⁸ <https://www.nac.gov.sg/about-us>.

⁹ <https://www.pa.gov.sg/about-us/about-pa/>

¹⁰ <https://www.muis.gov.sg/About-MUIS/Vision-Mission>

¹¹ <https://www.sportsingapore.gov.sg/our-work/overview/>

¹² <https://www.mccy.gov.sg/about-us/our-statutory-boards-and-agencies>

また、MCCYが監督する政府関係機関は、図表1-1-5の通りである。

図表1-1-5 MCCYが監督する政府関係機関

政府関係機関	概要
シンガポールコミュニティ基金 (Community Foundation of Singapore)	シンガポールの慈善活動を支援する非営利団体である。寄付者の関心と慈善活動をマッチングさせ、寄付者が慈善資金を通じてより大きなインパクトを与えられるような方法を提供している。
ヒンズー教寄進委員会 (Hindu Endowments Board)	1968年にヒンズー教寄進法(Hindu Endowments Act)に基づき設立された機関であり、その役割は同法に定められている通り、寄付金を管理することである。ここでの「寄進」とは、ヒンズー教寺院やその他のヒンズー教の目的のために、土地・建物・金銭を寄付することを意味する。
ナショナルギャラリーシンガポール (National Gallery Singapore)	シンガポール、さらには東南アジアで最大の現代美術のナショナルコレクションを管理するビジュアルアートの施設である。シビック地区の中心に位置し、市庁舎と旧最高裁判所という2つの国定史跡の中にある。
ナショナルボランティア慈善活動センター (National Volunteer & Philanthropy Centre)	「善の都市(City of Good)」を構築するため、ボランティア活動や慈善活動の発展を促すことを通じて、シンガポールの寄付文化を促進する非営利団体である。
ナショナルユースカウンシル (National Youth Council)	官民のパートナーと共に、青少年が深く関心を寄せる問題について政府と関わり、地域社会に貢献し、地域内の同世代の人々をつなげる機会を創出している。
シンガポール芸術学校 (School of the Arts)	シンガポールで唯一の高等教育前の国立芸術専門学校で、6年間の芸術と学問の統合カリキュラムを持つ。国際バカロレア取得が可能な他、プロの芸術家になるためのキャリア関連プログラムも持つ。
シンガポールアートミュージアム (Singapore Art Museum)	シンガポールと東南アジアに特化し、国際的なコンテンポラリーアートに重点を置く美術館である。
シンガポールスポーツスクール (Singapore Sports School)	スポーツに集中して取り組む意欲のある青少年を選抜し、世界トップクラスの環境で学業とスポーツの統合プログラムを提供する唯一の専門独立学校である。
シンガポールタイラープリント研究所 (Singapore Tyler Print Institute)	版画と紙をテーマにした「ダイナミックな工房」かつコンテンポラリーアートギャラリーである。2002年に設立され、版画や製紙の手法を用いた革新的な手法や技術開発に取り組む非営利団体として、アジアにおける現代アートの最先端発信地の1つとなっている。
エスプラネード (The Esplanade Company Limited :以下、TECL)	コラボレーションパートナーやホール使用者とともに年間約3,000のパフォーマンスを上演している。詳細は、第4章「4-4. 芸術施設の概要」にて後述する。

出典:MCCYウェブサイト¹³よりNRI作成

¹³ <https://www.mccy.gov.sg/about-us/our-statutory-boards-and-agencies>

1-3.文化コミュニティ青年省の概要

MCCYは、シンガポール政府の省庁の1つで、文化やスポーツを通して自己を形成し国家帰属意識を高め、また、若者のボランティアや社会奉仕活動への参加を促し、親切で思いやりのある社会をつくることを設置目的としている。従って、シンガポールの文化芸術の振興と発展、コミュニティの絆の強化による結束力のある社会の育成、寄付の促進、青少年の活力発揮の促進などを担当している。

- ミッション：信頼・絆などの社会の連帯感の構築、シンガポール精神の喚起、故郷の構築
- ビジョン：シンガポールを、結束し思いやりのある社会、自信に満ちた強靱な国家、そして故郷と呼べるような場所にすること
- 重点分野：シンガポールの文化遺産の促進と保存、芸術とクリエイティブ産業の支援、社会的結束とコミュニティへの参加の促進、青少年の育成とリーダーシップの育成など

1-3-1.文化コミュニティ青年省の戦略

MCCYは戦略計画として、「Committee of Supply (COS) 2023」を発表した。この計画はMCCYの広範な担当分野全体について目指すべき方向性を記載したもので、多様性がありながらも団結力のあるシンガポールを希求している。本計画において、芸術や遺産に関しては下記の7つの要素で構成されている¹⁴。

①シンガポールアーツプラン(Our SG Arts Plan(2023-2027年))

文化芸術についての戦略計画であり、5年間のシンガポールのアートシーンのロードマップを示すものである。本計画の策定に際し、MCCYはNACと協働している。なお、本計画の発行主体はNACとなっているため、詳細は、第2章「2-1-2. ナショナルアーツカウンシルの戦略」にて後述する。

②シンガポールヘリテージプラン2.0(Our SG Heritage Plan 2.0)

文化遺産についての戦略計画であり、5年間の優先検討事項を挙げるものである。この計画はシンガポールの遺産を新たに発見し称える取り組みに国民を参加させることを目的としており、いわゆる歴史的遺産のみならず、将来的に遺産になっていくと考えられる生活文化も対象とし、それらを継続的に生み出すような活気ある遺産エコシステムを発展させることを目指している。NHBが発行主体であり、新たなデジタル戦略とテクノロジーを通じて、シンガポールの豊かな文化遺産の振興と保存を目指している。詳細は、第3章「3-1-2. 国家遺産局の戦略」にて後述する。

③多様な芸術活動スペースの提供

芸術活動スペースを利用する機会を、全ての人に平等に提供することを目指している。

④デジタル化

デジタルトランスフォーメーションの重要性が強調されている。詳細は、【芸術文化デジタルロードマップ】にて後述する。

⑤人材育成

文化芸術産業における専門家のスキルを開発することの重要性が強調されている。文化芸術教育と専門職のレベルを向上させるために、個人が専門性を開発し、文化芸術分野の成長とプロフェッショナリズムにつながる体系的な道筋を、2つのコンピテンシーフレームワークとして提供している。

⑥個人事業主の芸術家の保護

2019年11月に「アーツリソースハブ(Arts Resource Hub)」を立ち上げ、場所や資金面などを個人事業主(Self-Employed Persons: SEP)の芸術家に提供している。ハブには計画発行時点で2,500人の登録者がおり、彼らの持続可能な活動を支援している。

⑦遺産の保存

シンガポールの建築遺産を保存するための継続的な取り組みを強調している。シンガポール国立博物館、旧イスタナカンポングラム(マレーヘリテージセンター)、孫文南洋記念堂などの重要な国家的建造物の修復プロジェクトが計画されており、これらの象徴的なランドマークを保存することで、シンガポールは自国の歴史や文化遺産との具体的なつながりを保とうとしている。

¹⁴ <https://www.mccy.gov.sg/kaya/cos2023>

また、MCCYは、文化芸術分野の発展と成長を導くための包括的な方針を策定しており、文化芸術への関与の強化、卓越性の促進、デジタルトランスフォーメーションの支援を目的とした取り組みやプログラムの枠組みを提供している。ここでは、2つの重要な政策である、芸術文化戦略レビュー(The Arts and Culture Strategic Review)と芸術文化デジタルロードマップ(Arts and Culture Digital Roadmap)について記述する。

【芸術文化戦略レビュー】

シンガポールの芸術文化政策は、芸術コミュニティ、観客、政府との広範な協議を通じて形成されてきた。2010年3月に開始されたこのレビューは、政策の見直しと改良において重要な役割を果たしている。図表1-1-6の2つの方向性と、それぞれに付随する3つの観点によって支えられている。

図表1-1-6 芸術文化戦略レビューの方向性と観点

方向性	観点
芸術と文化を、毎日、どこでも、全ての人に届ける	<ul style="list-style-type: none"> •新しい観客の獲得 •生涯にわたる芸術への関与 •国民運動の喚起
卓越性を達成するための能力構築	<ul style="list-style-type: none"> •文化施設の拡充 •人材への投資 •第三者機関との協力

出典:MCCYウェブサイト¹⁵よりNRI作成

上記の観点で戦略をレビューし、新たな取り組みの開発につなげている。

【芸術文化デジタルロードマップ】

MCCYは、芸術文化セクターにおけるデジタルトランスフォーメーションの重要性を認識し、芸術文化デジタルロードマップを策定した。デジタル化は、芸術のエコシステムを強化し、業務の生産性を向上させ、より大きな効果をもたらすための重要なインフラ基盤として機能する。このロードマップは、組織や実務者がデジタルソリューションを効果的に採用できるよう支援することを目的としている¹⁶。

芸術文化デジタルロードマップは以下を含む。

- 組織のデジタル対応レベルを測定し、改善点を特定するのに役立つ自己評価チェックリスト
- 業務の効率化と視聴者のエンゲージメントを支援する、クリエイティブプロセスのさまざまな段階で導入可能なデジタルソリューション
- デジタル化を進めるにあたり組織を支援するために利用可能な資金調達機会やその他のリソースに関わるデジタルロードマップは、芸術文化分野のデジタル化についての調査や芸術文化組織・実務を担当する人々への20回以上のインタビューを通じて策定された。また、進化する技術トレンドやニーズに合わせて定期的に更新される。

上記のように、MCCYが発行する芸術文化デジタルロードマップなどの計画は、参加型で作成され随時見直しも行われている。今後、各組織のニーズや技術の進化に合わせて定期的に更新するとされており、実際、作成・公開後の現在もオンラインフォームから常時フィードバックを募集している¹⁷。

¹⁵ <https://www.mccy.gov.sg/kaya/cos2023>

¹⁶ <https://www.mccy.gov.sg/sector/policies/arts-and-culture-digital-roadmap>

¹⁷ <https://form.gov.sg/61f221335719fe00124b4541>

1-3-2.文化コミュニティ青年省の体制と職員

MCCYは図表1-1-7の10の部門から構成される。

図表1-1-7 MCCYの部門

部門	概要
文化と遺産	シンガポール人が共有する文化的遺産を讃え、活気に満ちた未来を創造することを目的とする。カルチャーアカデミー (Culture Academy Singapore) や「文化マッチングファンド (Cultural Matching Fund)」、調査研究などを行う。
慈善活動	さまざまなパートナーと協力して、慈善団体の能力とガバナンスの強化を支援する。誰もが思いやりのある社会づくりの一翼を担うことができる、安全な寄付環境を実現することを目指す。
コミュニティ	民族や宗教に関係なく共通の価値観や経験を共有することで、絆が生まれ、共通点を持つ人々としての結びつきを育む。「ハーモニーファンド (Harmony Fund)」を提供する。
生活協同組合	積極的な市民活動の促進を通じて社会資本を構築し、シンガポールを故郷にするというMCCYの使命を推進する。生協の仕組みに信頼を寄せ、生協運動に参加し続けてもらうことを目指す。
互助組織	互助組織は会員同士が互いに助け合う会員制の組織で、シンガポールには65団体存在している。この部門は各互助組織の資金の使用について説明を求め、会員の利益保護を目指す。
レジリエンスとエンゲージメント	政府機関における市民参画とパートナーシップ能力を向上させるプログラムを開発し、日常的な配慮や気遣い、積極的なボランティア活動や地道な努力を通じて、より思いやりのある包括的な家庭を築くことを目指す「SGケア運動」を推進する。また、「私たちのシンガポールファンド (Our Singapore Fund)」を提供する。
スポーツ	パートナーであるSportSG、シンガポールスポーツスクール、国立青少年スポーツ研究所 (National Youth Sports Institute)、シンガポール国立オリンピック評議会 (Singapore National Olympic Council)、シンガポール国立パラリンピック評議会 (Singapore National Paralympic Council) と共に、シンガポール国民のスポーツへの関わりを支援する政策やプログラムを開発・実施する。「ワンチームシンガポールファンド (One Team Singapore Fund)」を提供する。
フォワード・シンガポール	2022年6月に設立された新しい部門。シンガポールが一体となってCOVID-19やより大きな危機を乗り越えるために、よりよいシンガポールを目指すべくさまざまな取り組みを行う。(2024年5月時点では閉鎖されている)
青年	国の未来を形作るために極めて重要な役割を果たす15歳から35歳の青年を支援する。ナショナルユースカウンシルとともに青年の声を聞き、力を与え、変化を起こす機会を提供する。
ユネスコ国内委員会	ユネスコの政策や活動を関係する国内の政府機関や組織に伝え、ユネスコのプログラムへの参加を促す役割を果たす。

出典：MCCYウェブサイト¹⁸よりNRI作成

¹⁸ <https://www.mccy.gov.sg/sector/arts-and-heritage>

組織の規模としては、「文化と遺産」部門にはフルタイム職員が20名程度、パートタイムや臨時職員などが10名強所属している¹⁹。部門ごとに差はあるが、10部門合わせると全体で200～300名程度の組織と推定される。

MCCYの担当大臣・国務大臣・副大臣・事務次官のバックグラウンドは多様である。例えばMCCY担当大臣は以前、法務省と保健省の上級国務大臣を務めていた。また国務大臣は、金融機関やスタートアップの出身で、金融経済分野での経験が豊富である。

MCCYでは、新入職員に公務員の価値観やMCCYの職場風土を知ってもらうために、TLC (Team-Learn-Care) と呼ばれる導入プログラムを提供している。このプログラムは、チームビルディング、学習、企業の社会的責任 (CSR) の推進に重点を置いている。

キャリア開発のため、職員はOJTに加えて、研修・公務員専門学校のコース・外部の会議やセミナーに参加することができる。また、MCCYやその関連機関において、さまざまな能力開発の機会を通じて専門分野の知識を深め活躍の場を広げることができる。さらに、自己研鑽に励む職員に対して研修スポンサーシップを提供している。強いリーダーシップを発揮できる優秀な職員には、能力開発の一環としてMCCY内での昇進を視野に入れた大学院奨学金を提供することもある。

1-3-3.文化コミュニティ青年省の支出

MCCYの2024年度の支出推計値はS\$24億4,849万(約2,742億円)であり、支出の詳細は図表1-1-8の通りである。シンガポール全体ではS\$1,118億(約12.5兆円)であり、MCCYの支出は2.2%を占めている²⁰。

¹⁹ <https://www.mccy.gov.sg/sector/arts-and-heritage>

²⁰ https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/fy2024_analysis_of_revenue_and_expenditure.pdf (P14, 17)

図表1-1-8 MCCYの支出(2022年度～2024年度)

※1シンガポールドル=112円

単位=白背景：S\$、青背景：日本円

コード	分類	2022年度 (実績値)	2023年度 (修正値)	2024年度 (推計値)	2023年度における変更
	総支出	3,843,634,396	2,386,207,400	2,448,489,100	62,281,600 2.6%
		430,487,052,352	267,255,228,800	274,230,768,000	6,975,539,200
	主な試算				
	支出	2,272,368,470	1,950,535,600	2,098,737,600	148,202,000 7.6%
		254,505,268,640	218,459,987,200	235,058,611,200	16,598,624,000
	維持費	2,184,192,160	1,862,542,900	2,003,570,500	141,027,600 7.6%
		244,629,521,920	208,604,804,800	224,399,896,000	15,795,091,200
	人件費	103,233,911	104,315,400	111,321,400	7,006,000 6.7%
1200	政治任用	1,950,675	2,038,000	2,169,000	131,000 6.4
		218,475,600	228,256,000	242,928,000	14,672,000
1500	常勤職員	101,237,476	102,144,500	108,998,400	6,853,900 6.7
		11,338,597,312	11,440,184,000	12,207,820,800	767,636,800
1600	臨時、日雇いその他職員	45,760	132,900	154,000	21,100 15.9
		5,125,120	14,884,800	17,248,000	2,363,200
	その他運営費	112,836,555	121,792,800	151,091,600	29,298,800 24.1%
		12,637,694,160	13,640,793,600	16,922,259,200	3,281,465,600
2100	製品、サービス消費	89,072,099	108,027,700	131,930,800	23,903,100 22.1
		9,976,075,088	12,099,102,400	14,776,249,600	2,677,147,200
2300	人材開発	2,530,268	1,451,400	1,776,900	325,500 22.4
		283,390,016	162,556,800	199,012,800	36,456,000
2400	国際、公共広報	20,731,782	12,255,000	17,244,700	4,989,700 40.7
		2,321,959,584	1,372,560,000	1,931,406,400	558,846,400
2700	資産取得	500,364	46,800	127,800	81,000 173.1
		56,040,768	5,241,600	14,313,600	9,072,000
2800	その他	2,041	11,900	11,400	-500 -4.2
		228,592	1,332,800	1,276,800	-56,000
	機関への助成金、 補助金、資本注入	1,968,121,694	1,636,434,700	1,741,157,500	104,722,800 6.4%
		220,429,629,728	183,280,686,400	195,009,640,000	11,728,953,600
3100	法定機関への助成金、 補助金、資本注入	1,729,082,052	1,363,878,900	1,472,619,500	108,740,600 8
		193,657,189,824	152,754,436,800	164,933,384,000	12,178,947,200
3200	教育機関への助成金、 補助金、資本注入	56,444,982	56,263,500	58,353,400	2,089,900 3.7
		6,321,837,984	6,301,512,000	6,535,580,800	234,068,800
3400	その他機関への助成金、 補助金、資本注入	182,594,661	216,292,300	210,184,600	-6,107,700 -2.8
		20,450,602,032	24,224,737,600	23,540,675,200	-684,062,400
	移転	88,176,310	87,992,700	95,167,100	7,174,400 8.2%
		9,875,746,720	9,855,182,400	10,658,715,200	803,532,800
3500	個人への移転	31,533	0	0	0 NA
		3,531,696	0	0	0
3600	組織への移転	88,011,354	87,806,000	94,980,100	7,174,100 8.2
		9,857,271,648	9,834,272,000	10,637,771,200	803,499,200
3800	海外移転	133,423	186,700	187,000	300 0.2
		14,943,376	20,910,400	20,944,000	33,600
	開発費	1,571,265,926	435,671,800	349,751,400	-85,920,400 -19.7%
		175,981,783,712	48,795,241,600	39,172,156,800	-9,623,084,800
5100	政府開発	70,569,359	86,949,900	68,598,700	-18,351,200 -21.1
		7,903,768,208	9,738,388,800	7,683,054,400	-2,055,334,400
5200	団体への助成金、資本注入	1,500,696,567	348,721,900	281,152,700	-67,569,200 -19.4
		168,078,015,504	39,056,852,800	31,489,102,400	-7,567,750,400

出典：Ministry of Financeウェブサイト²¹よりNRI作成

²¹ <https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/53-mccy-2024.pdf>

シンガポール全体の予算は財務省によって作成されており、国家予算策定の際には広く市民から意見を募集している。政府が運営する「Reaching everyone for active citizenry @ home(以下、REACH)」というフィードバックのプラットフォームがあり、さまざまな計画に対して市民の声を集める場となっている。REACHは1985年に始まり、2009年にオンラインとオフラインを併せ持つ形式となった。

2024年度予算に関しては、REACH・Facebook・Instagram・WhatsAppで意見を募っているだけでなく、市民の声を直接聞く機会としたオフラインのイベントが開かれている。商業ビル内に専用のコーナーが設けられ、各地点3時間ほど開催されている。さらに、ラジオでコーナーを設ける、各個人にメールで意見を聞くなど、さまざまな手法で意見を募集している。

各省の計画に加えて国家予算についても市民の意見を募集し、国家へのエンゲージメントを高めているのはシンガポールの1つの特徴と言える。

1-3-4.文化コミュニティ青年省のKPI

MCCYは2024年度にシンガポールが達成すべき3つの成果として、①充実し熱意ある国民、②結束し思いやりのある社会、③自信に満ちた強靱な国家を挙げ、それぞれについて図表1-1-9のようにKPIを設定している。

第1の成果である「①充実し熱意ある国民」として、MCCYは人々の芸術・遺産・スポーツシーンへの積極的な参加を奨励している。国民の79%が文化芸術イベントに少なくとも年に1回参加すること、そして人口の75%が定期的に(少なくとも週に1回)スポーツをすることをKPIとして定めている。スポーツへの参加率はSportSGが「Vision 2030」を発表し、その中で調査している²²。

第2の成果である「②結束し思いやりのある社会」では、民族間・宗教間のつながりを通じて96%の宗教団体と関わり、宗教間の強い理解と絆を作ること、地域社会と積極的に関わるための草の根活動や講座に1,350万人が参加することがKPIとして設定されている。

第3の成果である「③自信に満ちた強靱な国家」について、MCCYは93%の人々がシンガポール人であることを強く認識することで、国民としての強いアイデンティティを作ることがKPIとしている。

芸術への参加に関する指標は、毎年NACが実施する「芸術に関する人口調査」(第2章「2-5. ナショナルアーツカウンシルによる調査研究とデータ」にて後述)を元に数値を設定している。KPIの設定に当たっては、他国の同指標の数値も参考にするが国によって前提が大きく異なるので、基本的には芸術に関する人口調査の結果と前年度の数値を基準にしている²³。

²³ MCCY へのヒアリングより

図表1-1-9 MCCYのKPI(2021~2024年度)

達成すべき成果	評価指標	2021年度 (実績値)	2022年度 (実績値)	2023年度 (修正値)	2024年度 (推計値)
①充実し熱意ある国民					
芸術への積極的な参加	芸術・文化イベントに参加したシンガポール住民（年に1回以上）（%）*1	79.0	83.0	79.0	79.0
	チケット制のアートへの参加人数（百万）*2	0.31	1.00	1.25	1.50
文化遺産への積極的な参加	美術館の鑑賞者数（百万）*2	2.25	3.50	4.30	3.80
スポーツへの積極的な参加	定期的にスポーツに参加している人口（週に1回以上）（%）*2	72	74	74	75
	スポーツシンガポール、兼用施設の年間利用者数（百万）*2	11.1	17.0	20.5	21.0
②結束し思いやりのある社会					
ボランティアを通じた積極的な貢献	全国のボランティア活動率（%）*3	22.0	NA	NA	NA
慈善活動による積極的な貢献	公共性のある団体への税控除の対象となる寄付（百万）*2	1,033.4	1,084.4	NA	NA
社会への貢献意欲	社会貢献を重要な人生の目標と捉える青少年の率*4	NA	84.0	NA	NA
宗教間の強い理解と絆	人種間・宗教間の信頼サークルを通じて関わる宗教団体（%）*2	95.0	95.0	95.0	96.0
地域社会との積極的な関与	草の根活動や講座への参加人数（百万）	7.0	12.5	13.0	13.5
③自信に満ち強靱な国家					
国民としての強いアイデンティティ	シンガポール人であること強く認識する人の率	NA	91.0	93.0	93.0

*1 数値は暦年ベースであり、データは隔年で入手可能。

*2 数値は暦年ベース。

*3 数値は暦年ベースであり、2年に1回調査される。

*4 数値は暦年ベースであり、3年に1回調査される。

出典:MCCY KPI Metrics²⁴よりNRI翻訳

²⁴ <https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/53-mccy-2024.pdf> (P216)

1-4.文化コミュニティ青年省による助成制度

MCCYは、NACやNHBなどの法定機関を管轄するだけでなく、被助成団体に対して直接助成も行っている。

1-4-1.助成制度の分類

MCCYは、統合、調和、ナショナルアイデンティティを促進する活動を支援するため、主に以下の3つの助成を提供している。これらはシンガポールの社会基盤に積極的に貢献する団体や個人を奨励することを目的としている。

- ①「コミュニティ統合ファンド(Community Integration Fund:以下、CIF)」
- ②「ハーモニーファンド(Harmony Fund)」
- ③「私たちのシンガポールファンド(Our Singapore Fund)」

いずれも対象は文化芸術活動に限定されておらず、コミュニティの統合や民族の融和などそれぞれの助成の目的に資する活動を対象としている。文化芸術活動に対して助成を行うこともあるが、文化芸術分野に助成すること自体が目的ではない。

また、「所得関連政府グラント(Income-related government grants)」という助成制度もある。予算は、年間S\$1,120万(約12.5億円)(2022年:S\$1,100万(約12.3億円))を上限とする運営費の助成である。この助成は、Tote Boardからの収入とMCCYからの助成金の合計が各組織の営業費用の65%以上にならないよう支払われる。Singapore Symphony Orchestra(以下、SSO)など、比較的大きな組織にのみ適用されるグラントである。

コラム Column

「文化マッチングファンド」

MCCYが関与する助成枠組みの中で文化芸術分野に特化したものとして「文化マッチングファンド(Cultural Matching Fund:以下、CMF)」が挙げられる。これは芸術・遺産分野の慈善団体に対し、同団体が集めた寄付額と同額を助成するもので、MCCYが設立し、NACが運営事務局に任命されている。助成財団や企業などが非営利組織に助成金や寄付を出した際に、政府などがその金額に対して一定比率で助成金を追加で提供するこの仕組みは、文化芸術領域以外でも存在している。非営利組織が資金を自己調達する能力を向上させ、将来的に自立した運営ができるようになることを狙いとしている。2021年にはS\$1,940万(約21.7億円)がCMFとして政府から助成された²⁵。

民間から集めた寄付の分だけ政府より助成を受けられるスキームであるため、他の助成に比べて不正が起りやすいと考えられ、MCCYはウェブサイト上で不正は犯罪に値する行為であることを強く警告している²⁶。ある文化芸術団体の元理事長は、文化芸術団体から自らが設立した会社に送金し、そのまま文化芸術団体に返金した。その返金分を、寄付を受けたと偽って申請し助成を受けようとしたために、逮捕されたという例が挙げられている²⁷。

²⁵ <https://www.mccy.gov.sg/sector/policies/cultural-matching-fund>

²⁶ <https://www.mccy.gov.sg/sector/policies/cultural-matching-fund>

²⁷ <https://www.straitstimes.com/singapore/courts-crime/attempted-cheating-ex-head-of-chinese-culturalgroup-jailed>

1-4-2.助成対象・助成内容

①コミュニティ統合ファンド(CIF)

CIFは、2009年9月に国家統合評議会(National Integration Council)によって立ち上げられた助成であり、シンガポールの地域コミュニティと外国人の関わりを促進する草の根の活動を実施する団体を支援している。

CIFが支援したプロジェクト例として、テトラパック社による「グローバル情報管理エナジャイザー2013」が挙げられる。このプロジェクトでは、テトラパックの従業員が多文化チームを複数結成し、リサイクル素材を使用して図表1-1-10のようなシンガポールの多文化遺産を象徴するカートを作った。各チームは、手作りのカートとともにシンガポールの歴史について学ぶべく歴史スポットに立ち寄りながら、フォートカニング公園を1周するレースを行った。この取り組みによりローカルの従業員と外国出身の従業員の関係が強化され、融合が促進された²⁸。

図表1-1-10 「グローバル情報管理エナジャイザー2013」のカート



出典：国家統合評議会パンフレット²⁹より

申請資格

CIFの対象となるためには、申請者は以下の目的のうち少なくとも1つを満たす必要がある³⁰。

- シンガポールの歴史や文化・社会規範に対する認識を高めるなど、シンガポールに関する情報や資料を提供すること
- 移民に対してボランティア活動の機会やより広いシンガポール社会とつながる方法を紹介するなど、シンガポールへの愛着や関与を促すこと
- ローカルの住民・移民・外国人の間の社会的交流を促進する。例えば、人々が交流し、共通の関心事を中心に関係を築くための仕組みを提供すること
- 相互理解を深めるなど、コミュニティの統合に対する考え方を促進すること

また、助成金の申請は、企業や労働組合などシンガポール政府の内務省が運営する活動団体登録システム(Registry of Societies)に登録された組織が対象となる³¹。個人の場合は、登録団体・企業・労働組合を通じて申請する。CIFはフェスティバルや祝典、関心に基づく活動(スポーツ、ボランティア活動、文化芸術)、学びの旅、フォーラム、ワークショップや会議、映像や書籍の出版など、さまざまなプロジェクトを支援している。

²⁸ https://snef.org.sg/wp-content/uploads/2016/10/cif_e_booklet.pdf (P6)

²⁹ https://snef.org.sg/wp-content/uploads/2016/10/cif_e_booklet.pdf (P6)

³⁰ <https://www.mccy.gov.sg/sector/initiatives/community-integration-fund>

³¹ <https://www.ros.mha.gov.sg/cc>

助成金額

助成金額は各プロジェクトがCIFの目的にどれだけ合致しているかによって異なる。したがって、コミュニティの統合が二次的な目的であるプロジェクトは、強力な資金援助を受けにくい。CIFは、対象経費（以下の支援対象外の例に記載した以外の経費）または承認されたプロジェクトの正味対象経費（対象経費から収入または正味赤字を差し引いたもの）のいずれか低い方の合計額の80%まで資金を提供する。プロジェクトに対する資金の上限はS\$10万（約1,120万円）までである³²。

CIFが支援対象外とするプロジェクトの種類と経費の例を以下に挙げる。

支援対象外プロジェクト：

- 一般社会が好ましくないと考える内容のプロジェクトやシンガポールの社会的結束に悪影響を及ぼしうるプロジェクト
- 宗教や政党を擁護するプロジェクト
- 申請者が直接利益を得るプロジェクト

支援対象外経費：

- 人件費や資産購入費などの立ち上げ・運営経費
- 謝礼
- 賞金

②ハーモニーファンド

2013年4月、MCCYは民族や宗教の融和を促進する取り組みを支援するため、ハーモニーファンドを立ち上げた。シンガポールの異なる民族や宗教のコミュニティ間の絆を強め、架け橋となるための政府の取り組みを補完するものであり、結束力のある社会の発展に貢献する人々の取り組みを促進することを目的としている。

ハーモニーファンドは、TECLが主催する年次イベント「聖なる音楽のタペストリー」を支援している。このイベントは、一般市民がさまざまなコミュニティの多様な宗教音楽や文化的慣習を体験できるユニークな機会を提供しており、人間性を共有し理解を促進することで、宗教間の調和とシンガポールの宗教的・文化的多様性に対する理解を促進している。ハーモニーファンドは、このようなシンガポールの民族的・宗教的調和を促進するプロジェクトやイベントを支援する上で重要な役割を果たしていると言える。

申請資格

活動団体登録システムに登録された全ての個人、営利、非営利団体が助成金の対象となる。非営利組織の申請者は会社法(Cap. 50)または社会法(Cap. 311)のいずれかに基づき登録された会社に該当する必要がある。ハーモニーファンドは、全ての小学校、中学校、短期大学、技能教育研修所(ITE)、ポリテクニク、大学も対象となっている³³。

申請プロジェクトは以下の目的の少なくとも1つを満たす必要がある。

- 異なるコミュニティの文化や慣習についての理解を促進する
- 異民族間、異宗教間の寛容や理解の重要性に対する認識を高める
- 参加者間の積極的な交流を深め、異なるコミュニティ間の親しみや友情を育む
- 別のコミュニティに対する否定的な固定観念を崩し、誤解を解く

また、支援可能なプロジェクトの例は以下の通りである。

支援対象プロジェクト：

- 異なる地域社会の文化・慣習・共通の価値観についての理解を促進する教育資料の作成
- 異なるコミュニティに対する認識や理解、民族間・宗教間の理解の重要性を促進する研修コース・教材の作成
- 異なるコミュニティの人々が積極的に交流できる環境を提供するイベント・活動
- 民族や宗教についての対話セッション・パネルディスカッション

³² <https://www.mccy.gov.sg/sector/initiatives/community-integration-fund>

³³ <https://www.mccy.gov.sg/sector/initiatives/harmony-fund>

審査基準

申請に際しては、民族や宗教の調和についての影響と効果が審査される。プロジェクトが革新的であること、有意義な方法で青少年を巻き込むこと、広く大衆に効果的であること、持続可能なものとなりうること(単なる一過性のプロジェクトではないこと)、異なるコミュニティ組織間の新たなパートナーシップを促進するものであることなどが重要視される。

助成金額

採択された場合、アイデアを実現するために最大S\$10万(約1,120万円)の助成金を受け取ることができる。助成金の対象となる経費には、イベント運営費、制作費、宣伝費、マーケティング費などが含まれる³⁴。

一方で支援対象外となるプロジェクトの種類と経費の例は以下である。

支援対象外プロジェクト:

- 祈りや儀式などの宗教的活動
- 資金集めのイベント
- 特定の信条を喧伝するイベント
- 一過性のプロジェクト

支援対象外経費:

- 人件費や資産購入費などの立ち上げ・運営経費
- 資産の購入、賞金やバウチャー、海外で発生した経費、資金調達に関連して発生した経費

③ 私たちのシンガポールファンド

「私たちのシンガポールファンド」は、国民のアイデンティティの確立に貢献し、社会的・地域的ニーズに応えるプロジェクトを支援するために設立された。個人やグループがアイデアを実現し、社会に良い影響を与えるための手段を提供している。「私たちのシンガポールファンド」が支援するプロジェクトは、シンガポールの遺産を称える文化的な取り組みから、社会的課題に取り組みシンガポール人の福利を向上させる地域主導のプロジェクトまで、多岐にわたる。

例えば、コミュニティケアを学ぶ学生であったラヒマ・ビンテ・アブドゥル・ラヒム(Rahimah Binte Abdul Rahim)によって行われた「ゲット・ウェル・カード」プロジェクトは、COVID-19の流行時にコミュニティの回復を促進することを目的とするものであった。当時、特定民族を差別するような噂や風潮が一部で広まり、大家によって追い出されるテナントが発生したと言われている。共感や互いを気遣うことの重要性を認識してもらうためラヒマは若い視聴者をターゲットにした1分間のアニメ動画を制作しSNSに投稿した。その動画を見た小中高生が医療機関に向けてお見舞いのカードや折り鶴を作成し、ケアと共感のメッセージを広めた。このプロジェクトは、社会的調和を促進し、地域社会の幸福に貢献する取り組みを支援するという「私たちのシンガポールファンド」の目的に即したものだ³⁵。

³⁴ <https://www.mccy.gov.sg/sector/initiatives/harmony-fund>

³⁵ <https://www.sg.oursingaporefund/project-showcase/the-get-well-card-project---covid>

申請資格

個人、団体でそれぞれ以下の通りである³⁶。

- 個人の場合：18歳以上でシンガポールに居住するシンガポール市民・永住権保持者（申請書を提出するためのポータルサイトであるOur SG Grants portalにログインするにはSingPass（シンガポール国籍・永住権を保持する人が全員保有しているデジタル国民ID）が必要である）
- 団体の場合：シンガポールで登記されている団体または企業（申請書を提出するためのポータルサイトであるOur SG Grants portalにログインするにはCorppass（団体としてのアカウント）が必要である³⁷）

助成金額

採択された場合、被助成団体は1プロジェクトにつき最高S\$2万（約224万円）を上限として、経費の80%までの助成金を受け取ることができる。承認された助成金は助成決定の通知書を被助成団体が受理した日から有効となり、プロジェクトは12ヶ月以内に完了しなければならない。平均して、プロジェクトには経費の約50%が助成される³⁸。

「私たちのシンガポールファンド」では、以下の経費は支援対象とならない。なお、支援対象外プロジェクトは特に明示されていない。

支援対象外経費：

- 助成決定の通知書の発行日以前に支出を約束したもの
- 立ち上げ経費または資本支出（登録料、ライセンス料、不動産賃貸料、事務機器、コンピューターインフラ、輸送車両に関する支出など）
- 賞金または謝礼
- 現地や海外での宿泊費
- 海外渡航費（シンガポールへ・シンガポールからの渡航費を含む）
- 経費のうち、別の組織から助成を受けているもの
- 被助成団体や関係者に生じるあらゆる性質の経済的利益
- 減価償却費、潜在的な収入損失などの想定外の経費
- 役務契約に基づく職員の雇用に関連する経費

また、被助成団体に書面で通知することにより、MCCYは随時、特定の経費を対象外とすることができる。

³⁶ <https://www.sg/oursingaporefund/getting-started>

³⁷ https://www.corppass.gov.sg/cpauth/login/homepage?TAM_OP=login&URL=%2F

³⁸ <https://www.sg/oursingaporefund/getting-started>

1-4-3.助成申請と支払いの手続き

助成申請

申請者はプロジェクト開始日の8週間前までにOur SG Grants portalからMCCYに申請書を提出する必要がある。申請書を提出すると確認ページが表示され、申請者は内部参照用に記入済みフォームのコピーをダウンロードすることができる。また、申請者には、申請が正常に提出されたことを確認するメールが送られる。なお、申請者はプロジェクトに割り当てられた申請番号を控えておく必要がある。特にCIFの新規または大規模プロジェクトについては、事務局との十分な協議時間を確保するため、早めに提出することが奨励される³⁹。

審査結果はメールで送付され、Our SG Grants portalからも審査状況を確認することができる。提出から審査結果が出るまで平均8週間かかる⁴⁰。

助成金の支払い

「私たちのシンガポールファンド」では、2回に分けて支払いが行われる。承認された額の40%は助成決定の通知書が受理された時点で支払われ、残りはプロジェクトが完了し経費が確定した後に支払われる。2回目の支払いは、立替払いとなるため、内容の明確化のための全ての必要書類が提出された後、1ヶ月以内に支払われる。

例えば総経費S\$2万(約224万円)のプロジェクトは80%のS\$1.6万(約179万円)が助成額となる。最初の支払いはS\$6,400(約72万円)(助成額の40%)であり、助成決定の通知書が受理された時点で行われ、補助書類は必要ない。プロジェクト完了時に総経費に変更がなければ差額が支払われるが、プロジェクト完了後、支出の確認が完了し最終的な適格経費がS\$1.5万(約168万円)に減ったとすると助成の総額は80%のS\$1.2万(約134万円)となる。その場合、プロジェクト開始時に既にS\$6,400(約72万円)を支払っているため、最終的な支払いは残りのS\$5,600(約63万円)となる。

CIFと「ハーモニーファンド」の支払いは事後の立替払いを基本とする。CIFの被助成団体は立替払いに必要な全ての書類を以下の期間内に提出しなければならない。

- S\$10万(約1,120万円)未満の支援を受けるプロジェクトの場合、プロジェクト終了後3ヶ月以内
 - S\$10万(約1,120万円)以上の支援を受けるプロジェクトの場合、プロジェクト終了後6ヶ月以内(監査報告書が必要)
- 立替払いに必要な書類は以下の通りである。
- プロジェクト会計明細書
 - 収支の証明となる領収書または請求書の原本
 - CIFフォーマットのプロジェクト評価報告書
 - 少なくとも2名のシンガポール出身参加者と2名のシンガポール以外の出身者が記入したCIFフォーマットのフィードバック用紙
 - 少なくとも5枚のイベント写真
 - その他要求された書類

立替払いのため、助成額は実際の収入と対象となる支出に基づいて計算される。最終的な助成額は、実際の適格経費の承認額か実際の適格経費から総収入を差し引いた額(すなわちプロジェクトの純赤字額)のいずれか低い額となる。当初の承認額を超えることはない。

³⁹ <https://www.mccy.gov.sg/sector/initiatives/community-integration-fund>

⁴⁰ MCCY へのヒアリングより

1-5.文化コミュニティ青年省と文化芸術団体の関係

MCCYの法定機関であるNAC、NHBはそれぞれNational Arts Council Act 1991、National Heritage Board Act 1993に規定された機能を果たす必要がある⁴¹。それぞれとの関係は、第2章「2-2. ナショナルアーツカウンシルとその他公的機関の関係」、第3章「3-2. 国家遺産局とその他公的機関の関係」にて後述する。

第4章にて後述するが、シンガポールの芸術の担い手である組織は、民間の芸術プロダクション事業を行う企業や団体(以下、カンパニー)と、各カンパニーを束ねるアンブレラ組織に分けられる。

1-5-1.助成を通じた被助成団体との相互関係

助成側のMCCYと被助成団体は、通常、助成金について共通の目標や目的を共有している。例えば、民族や宗教の融和を推進し、地域社会のニーズを満たすために率先して行動し、地域社会の精神を強化し、国家建設に貢献することを望む積極的な市民を育成することなどである。また、被助成団体は、合意された目標を達成するために責任を持って資金を使用し、助成金に付随する規定事項や報告要件を順守する責任がある。前述の通り、被助成団体は、プロジェクトに関して適切な財務記録を保持し、CIFの場合、プロジェクト完了後3ヶ月以内にプロジェクト評価報告書を提出することが義務付けられている(S\$10万(約1,120万円)以上の支援を受けるプロジェクトは、プロジェクト終了後6ヶ月以内)。

MCCYは被助成団体との協力関係を継続できることを願っている。長期的なプロジェクトはより大きな影響をもたらす可能性があるため、特に「私たちのシンガポールファンド」では、長期的に持続するあるいは規模を拡大する可能性のあるプロジェクトを重視している⁴³。

1-5-2.被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係

法定機関であるNACが文化芸術団体の支援を主に行っており、MCCYと文化芸術団体の間に強い直接の結びつきはない。

一方で、慈善団体を管轄する統括組織(Office of the Commissioner of Charities)がMCCYの傘下にあるため、文化芸術に関する慈善団体はMCCYに対して、年1回活動報告をする必要がある。なお、MCCYの担当分野と同様にこちらも文化芸術に限ったものではなく、動物福祉や環境保護、宗教など、あらゆる分野の慈善団体が報告の義務を負っている⁴⁴。

⁴¹ <https://sso.agc.gov.sg/Act/NACA1991>

⁴² <https://sso.agc.gov.sg/Act/NHBA1993>

⁴³ <https://www.sg/oursingaporefund/getting-started>

⁴⁴ <https://www.charities.gov.sg/>

1-6.文化コミュニティ青年省による調査研究とデータ

2008年から毎年発行されている「シンガポール文化統計」は、シンガポールの文化芸術の状況に関する最新情報を提供するものである。この統計には、文化芸術活動やエンゲージメント、遺産イベント、美術館の展示などについてのデータなどが含まれている。新たなトレンド、嗜好、パターンを特定するのに役立ち、MCCYが新たな展開に積極的に対応することを可能にしている⁴⁵。

カルチャーアカデミー (Culture Academy) は、シンガポールの官民両セクターにおける次世代の文化リーダーの育成を目指すMCCYの1部門で、能力開発プログラムと奨学金、調査研究、国際パートナーシップの3つの活動を実施している。カルチャーアカデミーは、政策やプログラムに対して情報を提供するための活動を実施しており、以下の3つの特徴を有する。

- 能力開発プログラムと奨学金：参加者が政府やMCCYの優先事項について理解を深め、専門家として成長することを狙いとしている。MCCY内部にとどまらず、関連省庁や関連分野にもまたがるような学習・研究を奨励している。
- 調査研究：戦略的研究重点分野を特定することで、幅広い関連性を持つ文化分野の研究をリードすることを目指している。大学とその他の文化機関や政府機関と、共同研究パートナーシップを結び、協力して調査研究を進めている。研究結果はさまざまな手法(研究シンポジウム、ウェブサイト掲載、その他出版物など)を通じて、政策決定者や一般の人々に発信している。
- 国際パートナーシップ：カルチャーアカデミーは海外の関係機関との関係の中で、シンガポールの文化面での地位向上を目指している。

調査研究の結果や出版物は、カルチャーアカデミーのウェブサイト上でResource Libraryとして随時公開されている⁴⁶。

⁴⁵ <https://www.nac.gov.sg/resources/research/others/singapore-cultural-statistics>

⁴⁶ <https://www.mccy.gov.sg/cultureacademy/resources>



THE ARTS HOUSE AT THE O

第1部
第2章

ナショナルアーツカウンシルの
文化芸術助成

本章では、文化芸術分野における助成団体であるナショナルアーツカウンシル(NAC)について記述する。

まず、NACの戦略や体制、予算を含む概要について整理した上で、他の公的機関との関係性について記載する。さらに業務の中心である助成制度について説明し、被助成団体を含む文化芸術団体との関係性について記述後、NACが実施する調査研究について紹介する。

2-1. ナショナルアーツカウンシルの概要

NACは、MCCYの傘下にあるシンガポールの文化芸術を担当する公的機関である。文化芸術分野の成長を支援し、同分野をシンガポールの人々の生活に欠かせないものとするを目的としており、シンガポールを芸術における世界的都市として発展させ、全ての人々が芸術にアクセスできる状態にすることを目指している。NACはMCCYが定めた政策や戦略を実施し、芸術家の支援と育成、芸術教育の促進、芸術産業の成長を目的としたさまざまなプログラム、助成制度の実施と管理などを担当している。また、NACは法定機関として独自の組織と職務権限を持っており、ブランディングや助成金の交付といった活動の遂行にある程度の自律性が認められている。しかし、この自律性は、公的資金の使用に関する政府のガイドラインによって制限されており、MCCYの指令を含む、シンガポールの全ての政府機関や省庁の包括的な方針への準拠が義務付けられている⁴⁷。また、NACは政府の一員として、芸術政策の計画や策定において政府機関と緊密に協力している。各部署レベルでも詳細なコミュニケーションが取られており、完全な自律というよりは政府組織の一部として協働しているという意識がより強い。NACとMCCYは日常的に部署ごとに連携を取る関係であり、その頻度や形式は時と場合による。一方でシンガポールアーツプランなどの中期計画や年次報告書については、公表前の段階から特定の頻度でNACよりMCCYに報告を行い協議することになっている。

2-1-1. ナショナルアーツカウンシルの沿革

NACは1991年、文化芸術を担当する4つの政府機関であるシンガポール文化財団(Singapore Cultural Foundation)、地域開発省文化局(Cultural Division of the Ministry of Community Development)、芸術祭事務局(Festival of Arts Secretariat)、国立劇場トラスト(National Theatre Trust)が合併して、ナショナルアーツカウンシル法(National Arts Council Act)のもとで設立された。この統合により、NACは文化芸術の振興と発展を推進する統一された組織となった。これはシンガポールにおける文化芸術の発展において極めて重要な出来事であった。

1991年から2010年にかけて、シンガポールの文化は大きな発展を遂げた。さまざまな芸術奨学金やコンペティションの創設、芸術教育プログラムやアジア舞台芸術祭(Festival of Asian Performing Arts)といった活動の発足などが例として挙げられる。さらに、シンガポール芸術祭が創設され、後にシンガポール国際芸術祭(Singapore International Festival of Arts: 以下、SIFA)と改名された⁴⁸。

2008年にはNACによる最初の中期戦略計画である文化発展計画(Arts Development Plan)が発表された⁴⁹。この時期から、国内の芸術コミュニティの意見はもちろん、国際的な文化芸術分野の動向も踏まえた戦略計画が作られるようになった。2011年以降には、国際的な協力関係も結ばれるようになった。ブリティッシュカウンシル(British Council)やシンガポール国際財団(Singapore International Foundation)とのMoU締結(詳細は第2部第2章「2-3. 文化芸術における海外との連携」にて後述)を始め、中国、オーストラリア、韓国、ニュージーランドのアーツカウンシルやその類似組織とのパートナーシップは、芸術を通じた相互理解を促した⁵⁰。また、2011年から2020年にかけて、NACは各芸術領域において、国内の芸術家を支援する取り組みも主導した。ダンスの多様性を称えるGot to Move、シンガポール人の音楽家を支援するHear65がその例である⁵²。

さらに、設立30周年を迎えた2021年には、小規模な文化芸術団体に支援と研修の機会を提供し、その持続可能性と発展を強化するためのクラウドファンディングである「芸術の持続(Sustain the Arts: 以下、stART)基金」が導入された。

⁴⁷ <https://www.mof.gov.sg/news-publications/press-releases/statement-by-the-ministry-of-finance-on-the-auditor-general's-report-fy2019-2020>

⁴⁸ <https://www.nac.gov.sg/about-us/milestones>

⁴⁹ [https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/resources-files/arts-masterplan/arts-and-culture-strategic-review-\(2012\)/arts-development-plan.pdf](https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/resources-files/arts-masterplan/arts-and-culture-strategic-review-(2012)/arts-development-plan.pdf)

⁵⁰ <https://www.britishcouncil.sg/programmes/arts/cultural-skills/british-council-national-arts-council-mou>

⁵¹ <https://www.sifa.org.sg/>

⁵² <https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/press-releases/got-to-move-2018>

⁵³ <https://hear65.bandwagon.asia/>

2022年、NACは、芸術企業の変革努力の支援を通じて、芸術セクターの成長と持続可能性を高めることを目的とし、芸術セクター変革基金(Sector Transformation Fund)を立ち上げた。その詳細は「2-4-1. 助成を通じた被助成団体との相互関係」にて後述する。また、同年には、路上演奏者(バスカー)を支援する目的で、利便性を考慮したポータルサイトが導入された。このポータルは、路上ライブの実施が可能な場所や時間帯などの情報の他、シンガポール全土において開催される路上ライブについての情報を、効率的に提供している⁵⁴。官民パートナーシップの観点からは、大手銀行であるユナイテッドオーバーシーズ銀行(United Overseas Bank Limited:以下、UOB)と、芸術のエコシステムを強化し、シンガポールを東南アジア有数の芸術ハブとして位置づけるための3年間のMoUに調印した。また、国際協力の観点からは、在シンガポールフランス大使館と5年間のMoUを締結し、シンガポールとフランス双方の芸術家や芸術関係者のコラボレーションと交流を促進することを目的とした、2国間のアーティスト・イン・レジデンス(Artist-In-Residency)プログラムを創設した⁵⁵。

また、最新の中期戦略計画であるシンガポールアーツプラン(2023-2027年)は、2021年から検討が始まり、文化芸術分野を中心としたさまざまなステークホルダーの意見を取り入れながら策定された。2023年9月に発行されたこの計画の詳細は「2-1-2. ナショナルアーツカウンシルの戦略」にて後述する。

コラム Column

シンガポールの舞台芸術施設

1965年の独立当時、シンガポールにおける舞台芸術の発表の場となるような舞台芸術施設は著しく不足しており、National Theatre、Victoria Theatre、Victoria Concert Hallの3つのみしか存在していなかった。同年にSingapore Conference Hallが建設されたものの、当時1,024席しかなく、国際的なオーケストラなどを招待するのに十分な客席数を持つ大規模な施設はシンガポールに存在していなかった⁵⁶。1970年代にも状況の改善は見られなかったため、オン・テン・チョン(Ong Teng Cheong)副首相(当時)が率いる文化芸術諮問委員会(Advisory Council on Culture and the Arts)は、シンガポールにおける文化政策のブループリントを作成する目的で、1989年にシンガポールの芸術状況を包括的に評価し「文化芸術諮問委員会報告書(Report of the Advisory Council on Culture and the Arts)」を発行した。この報告書はシンガポールの文化政策の基礎となり、NACとNHBの設立につながり、両機関は、国内の芸術と遺産の発展を推進する使命を担った⁵⁷。

なお、National Theatreは、1959年にシンガポールが自治を達成したことを記念して建設された劇場であったが、中央高速道路の建設に伴い1986年に解体された⁵⁸。NACは設立当初、National Theatreを運営する「National Theatre Trust」を包含する形で設立されたが、National Theatreの解体に伴い、現在、NACが直接運営している劇場やホールは存在していない。

現在、シンガポールで最も大規模な舞台芸術施設は、2002年にMCCYによって建設されたEsplanade - Theatres on the Bay(以下、Esplanade)である。Esplanade以前にシンガポール政府によって作られた劇場やコンサートホールは、既存の政府ビルを改修する形で建設されたものであったため、Esplanadeは、構想や設計段階から劇場・コンサートホールとして計画・建設された施設としてはシンガポール初となり、シンガポールの文化発展における重要なマイルストーンとなった。同施設には、Esplanade Concert Hall(1,628席)とEsplanade Theatre(1,948席)の2つの大規模なホールに加えて小規模なスタジオ(最小220席)が3つある他、2022年には中規模な劇場(最大600席)も建設された。また同施設では、文化芸術施設の運営だけでなく、シンガポールにおける文化芸術の発展を支援するさまざまなプログラムを実施している。

⁵⁴ <https://eservices.nac.gov.sg/Busking/home/index>

⁵⁵ <https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/press-releases/embassy-of-france-nac-memorandum-of-understanding-to-develop-a-bilateral-artist-in-residency-programme>

⁵⁶ <https://www.sch.org.sg/>

⁵⁷ Arts, Culture and the Making of Global Cities: Creating New Urban Landscapes in Asia (Lily Kong, Ching Chia-ho, Chou Tsu-Lung 著) (P89~)

⁵⁸ <https://www.nlb.gov.sg/main/article-detail?cmsuuiid=5ec6738a-7536-448c-b43a-570dc081ee18>

2-1-2. ナショナルアーツカウンシルの戦略

NACは、中期計画として、5年間のシンガポールの文化芸術の方向性と優先順位を策定するシンガポールアーツプラン(2023-2027年)を発表した。一般市民からの意見を取り入れて策定されたこの計画では、以下の3つの戦略的なテーマに焦点を当てている⁵⁹。

①つながりのある社会(A Connected Society)

このテーマは、教育や福祉、レジャーなどの主要な生活分野に芸術体験を組み込むことによって、地域社会と芸術との関わりを促進し、結びつきの強いシンガポールコミュニティを築くことを目的としている。例えば、学校や医療における芸術へのアクセス強化、市民活動における芸術活動のパートナーシップの推進、芸術の社会的影響に対する理解の強化、多様なパトロンからの芸術への貢献の促進などを目指している。

②特色ある都市(A Distinctive City)

このテーマは、芸術に触発された活気ある空間をシンガポール全土に創造することを目的としている。政府機関とのコラボレーションを通じて芸術活動スペースを多様化し、パートナーシップを通じて活気ある場所や地区を成長させ、公共スペースやプライベートスペースのいたるところに芸術を浸透させることに重点を置いている。

③クリエイティブエコノミー(A Creative Economy)

このテーマは、文化芸術分野における新たなビジネスモデルを創出・促進し、卓越した芸術性を育成し、ライフスタイルやエンターテインメント産業など、文化芸術分野と隣接する産業との連携を促進することを目的としている。そのため、新しいテクノロジーやデータを活用したビジネスモデル、他部門とのパートナーシップ、国内の芸術家の国際進出の機会などを模索している。また、芸術は、隣接するクリエイティブ分野のみならず、ヘルスケア、環境などの分野へ応用できる可能性もある。産業間におけるアイデアや才能の流れが、クリエイティブエコノミー全体に利益をもたらすことにつながる。

ここで、3つの戦略的なテーマの中から、クリエイティブエコノミーについて取り上げる。シンガポールアーツプラン(2023-2027年)における「クリエイティブエコノミー」が目指す方向性は、文化芸術分野の経済的な繁栄やサステナブルなキャリアの提供である⁶⁰。文化芸術分野の経済的な繁栄を促進する代表的な方法としては、隣接する産業と連携することによって、芸術家という職業の範疇を広げることが挙げられている⁶¹。その具体例は第2部第2章「2-1. シンガポールの文化芸術における周辺分野連携」にて後述する。

また、サステナブルなキャリアの提供に関しては、職の提供に加え、芸術家への教育が挙げられている⁶²。芸術における専門性を高める教育はもちろんのこと、特に芸術に従事する個人事業主や中小の文化芸術団体に対しては、助成金のみで頼るのではなく、どのように自分自身で収入を得るのか、芸術をどのようにビジネスとして成り立たせるのか、といった問いかけがされており、NACは各文化芸術団体にマネタイズの手法についての教育も行っている。「2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係」にて後述する「アーツリソースハブ」はその一例である。このような傾向は、COVID-19の流行で芸術家の収入が減ったことにより、再び重要視されてきている⁶³。

一方で、経済全体への貢献度の観点では、文化芸術分野の貢献度は他分野に比べて相対的に小さい。このことにより、2010年頃より、NACの考え方は経済以上に地域社会の発展への貢献といった役割への期待にシフトするようになった。シンガポールの建国当時、政府は経済発展や政治的安定を重視し、シンガポール社会の基礎を固め、その発展を続けるためのインフラ作りを優先してきた⁶⁴。文化芸術政策に関しても同様で、当初は経済成長の意味合いが強い政策となっていた。2000年に発表された5カ年計画「ルネッサンスシティ計画(Renaissance City Plan)」では、経済成長のための文化芸術政策が前提となっているが、2012年に発表された長期計画「文化芸術戦略レビュー(Arts and Culture Strategic Review 2012)」では、芸術を通じた心豊かな人間形成とシンガポールの伝統を大切に、シンガポール人としてのアイデンティティを育成することが目的とされている。また、経済戦略に関する記述はルネッサンスシティ計画と比較して減少している⁶⁵⁶⁶。現在、NACはシンガポールの文化的景観の重要な構成要素として、芸術の育成と振興に専心している⁶⁷。

⁵⁹ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartsplan> (フルレポートP45～) ⁶⁰ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartsplan> (フルレポートP75)

⁶¹ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartsplan> (フルレポートP78) ⁶² <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartsplan> (フルレポートP80)

⁶³ MCCY, NAC, 複数カンパニーへのヒアリングより ⁶⁴ https://www.clair.org.sg/j/wp-content/uploads/2021/02/3_13_Bunka.pdf (P1～6)

⁶⁵ [https://www.nac.gov.sg/resources/arts-masterplans/renaissance-city-reports-\(2000-2004-2008\)](https://www.nac.gov.sg/resources/arts-masterplans/renaissance-city-reports-(2000-2004-2008))

⁶⁶ [https://www.nac.gov.sg/resources/arts-masterplans/arts-and-culture-strategic-review-\(2012\)](https://www.nac.gov.sg/resources/arts-masterplans/arts-and-culture-strategic-review-(2012)) ⁶⁷ MCCY, NAC へのヒアリングより

また、芸術の育成と振興に関しては、芸術家の支援に加え、「つながりのある社会」のテーマにおいて、観客の育成と芸術の認知に重点が置かれている⁶⁸。芸術を、芸術家や一部の芸術ファンの人たちだけのものではなく、一般市民が親しみやすいものとする事で、社会の活性化や国民の帰属意識向上に繋げている。シンガポールにおける芸術教育は、必ずしも芸術家を育成するためだけのものではなく、芸術を鑑賞する観客を育成するという目的も併せ持っている。

さらに、NACはアートエコシステムを、芸術の創作・制作過程だけではなく、芸術を鑑賞する観客・寄付者・パトロンや、芸術を消費者に届ける中間的な役割を全て含めて捉えている。特に、観客の育成に関しては、有料で芸術を鑑賞する層や、さらにファンとして寄付を行う層を増やすことでマネタイズに繋げるという意図もある。このように、観客の育成もクリエイティブエコノミーの一環となっている⁶⁹。

NACのKPIは、第1章で前述したMCCYのKPIとつながるものが多い。例として、観客動員数や芸術イベントへの参加率などが挙げられる。これらの大部分は人口調査や各イベント後のアンケート調査から導き出される。その他、各戦略に対する成果の指標として内部向けのKPIを持つ。

NACがこのようなKPIをMCCYに報告にするにあたり、各被助成団体は、その情報源として各自のKPIを毎年NACに報告する必要がある。報告書には、定量的なデータ、定性的な情報、自由形式の報告が含まれており、観客動員数の他、観客からのアンケート回答率とそのスコア、国内の芸術家や音楽家とのコラボレーション数、デジタルコンテンツを配信する場合はそのアクセス数、慈善団体の場合は寄付金額などが含まれる。

KPI達成に対する実態として、NACは毎年少しずつスコアが良くなるように目標値を設定するが、不測の事態によってKPIを達成できない、あるいは目標値をはるかに超えてしまう、といったケースが発生する点が課題として挙げられる。例えば観客数に関しては、シンガポールでは多くの野外コンサートが行われるが、野外コンサートの予定日に雨が降った場合はコンサートが中止になるため、想定していた観客数がゼロになってしまう。また別の例としては、寄付金額に関して、宝くじの当選や遺贈などの1回限りの特別な理由により、一般個人から巨額の寄付を受けることがある。このようなケースは毎年起こるものではなく、翌年に「なぜ前年度より低いのか」を説明する際に煩雑になる場合もある。NACや政府の視点では、毎年前年より少しずつ数値が向上することが期待されるが、実際には計画や目標値に沿わない形での増減が生じるケースも多々発生する。

NACは、COVID-19の流行の影響を始めとしたシンガポールの芸術へのニーズの変化に対応すべく、文化芸術政策を見直している。NACは2024年3月現在、中期計画であるシンガポールアーツプラン(2023-2027年)の目標に沿うよう、包括的な資金援助の見直しを行っている。

以下では、シンガポールアーツプラン(2023-2027年)作成に当たったのマイルストーンについて記述する。2023年9月に発行されたこの計画は、2021年7月より準備され、計4つのフェーズに分けて計16,500名のさまざまなステークホルダーからの意見を取り入れて作成された。図表1-2-1は4つのフェーズの流れと概要をまとめたものである。

図表1-2-1 シンガポールアーツプラン(2023-2027年)作成に当たったのマイルストーン



出典：シンガポールアーツプラン(2023-2027年)⁷⁰よりNRI作成

⁶⁸ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartsplan> (フルレポートP56)

⁶⁹ MCCY、NAC へのヒアリングより

⁷⁰ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartsplan> (フルレポートP29~)

• フェーズ 1「Blue Skies(青空)」(2021年7月～12月)

このフェーズでは、経済、環境、政治、社会、テクノロジーの各分野にまたがる見識を得ることを目的としており、200名の思想的リーダーへの個別インタビューやグループディスカッションを経て、理想とする文化芸術分野のビジョンがどのようなものであるかについて議論した。ここで扱うテーマは、主に芸術活動スペース、観客、エコシステムと資金調達、労働力とクリエイティブエコノミー、運営モデル、社会における役割、芸術を支援するインフラに関するものであった。

• フェーズ 2「Deep Dives(深堀)」(2022年1月～7月)

このフェーズでは、3つの戦略的なテーマとそれに対応する9つの優先事項の作成が目的とされ、民間の芸術関係者、非芸術関係者、政府関係者を含む約800名の参加者と意見交換の機会が設けられた。グループディスカッションは約30回に分けられ、1回あたり30～50名規模のセッションが行われた。この交流の機会を通じて、芸術を生活のより中心に位置づけるための新たなアイデアやパートナーシップの可能性が指摘された。

• フェーズ 3「New Experiences(新体験)」(2022年7月～8月)

このフェーズでは、約300名の芸術コミュニティを対象とした2時間のショーケースという、体験的要素を含む斬新な形で意見交換を行った。このショーケースは「It Begins with TAP(The Arts Plan)」と題され、フェーズ1、2のフィードバックを受けて芸術コミュニティと共にNACが企画をし、ビジュアルアート、文学、舞台芸術にまたがる作品や逸話が紹介された。会場にはWaterloo Arts Belt(ウォータールーストリート周辺には芸術関係の大学や施設が集まっており、その一帯のことを指す⁷¹)が選ばれ、シンガポールの文化芸術分野の未来像が、対話形式の音声ガイドウォーキングツアーを通じて紹介された。このショーケースを通じて、シンガポールの文化芸術分野が今後5年間でいかにして「つながりのある社会」を築き、「特色ある都市」をつくり、「クリエイティブエコノミー」を牽引していくことができるかが探求された。

• フェーズ 4「Public Engagement(一般市民の参加)」(2022年12月～2023年2月)

このフェーズでは、ドラフトのThe Arts Planが発表され、一般市民の意見を取り入れることが目的とされた。そのため、専用のウェブページが開設され、ドラフトに対する自由なフィードバックを受け付けた。

また、同時に「Growing Home: A Showcase about The Arts Plan and You」と題された対話形式のショーケースが2カ所で開催された⁷²。このショーケースでは、3つの戦略的なテーマに沿った芸術作品が展示され、観客はその作品を通じて3つの戦略的なテーマに関するフィードバックを提供することができた。このショーケースには主催側として100名近い芸術家が参加し、観客として約14,850名の一般市民が参加した。

このような4つのフェーズにわたる意見交換を経て、最新の中期計画であるシンガポールアーツプラン(2023-2027年)が2023年9月5日に立ち上げられた。

中期計画の発表を受けて、NAC内部ではさまざまな見直しが行われている。例えば、NACの組織編成はこの新しい中期計画を反映する形で変更された。イノベーション&プランニンググループ(詳細は「2-1-3. ナショナルアーツカウンシルの体制と職員」にて後述)内のテクノロジー&イノベーションチームは、この中期計画において芸術とテクノロジーの組み合わせなど、技術の進歩を芸術に取り入れることの重要性が示されたことを受けて編成された⁷³。また、助成金制度の見直しも行われている。カンパニーの組織運営を支援する枠組みである「主要カンパニースキーム」(詳細は「2-3-1. 助成制度の分類」にて後述)はその代表例で、2024年3月現在、この中期計画の目標や優先事項により合致したスキームを開発するため、総合的な資金援助の見直しがされている。これを受け、2023年度の募集は2024年3月現在、保留とされている。

このように、中期計画は5年ごとに更新されるPDCAサイクルとなっている。すなわち、計画の策定(P:Plan)がされた後、それに沿った形での組織編成や助成金制度の見直しと実行(D:Do)がされ、その成果は毎年MCCYに提出されるKPI報告の形で確認(C:Check)が行われる。また、次の5年サイクル開始の2年程前より、次の中期計画の準備(A:Act→P:Plan)が開始される。

⁷¹ <https://remembersingapore.org/2021/01/20/selegie-arts-centre-building/>

⁷² [https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/press-releases/growing-home-an-interactive-showcase-on-highlights-of-our-sg-arts-plan-\(2023-2027\)](https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/press-releases/growing-home-an-interactive-showcase-on-highlights-of-our-sg-arts-plan-(2023-2027))

⁷³ NACへのヒアリングより

2-1-3. ナショナルアーツカウンシルの体制と職員

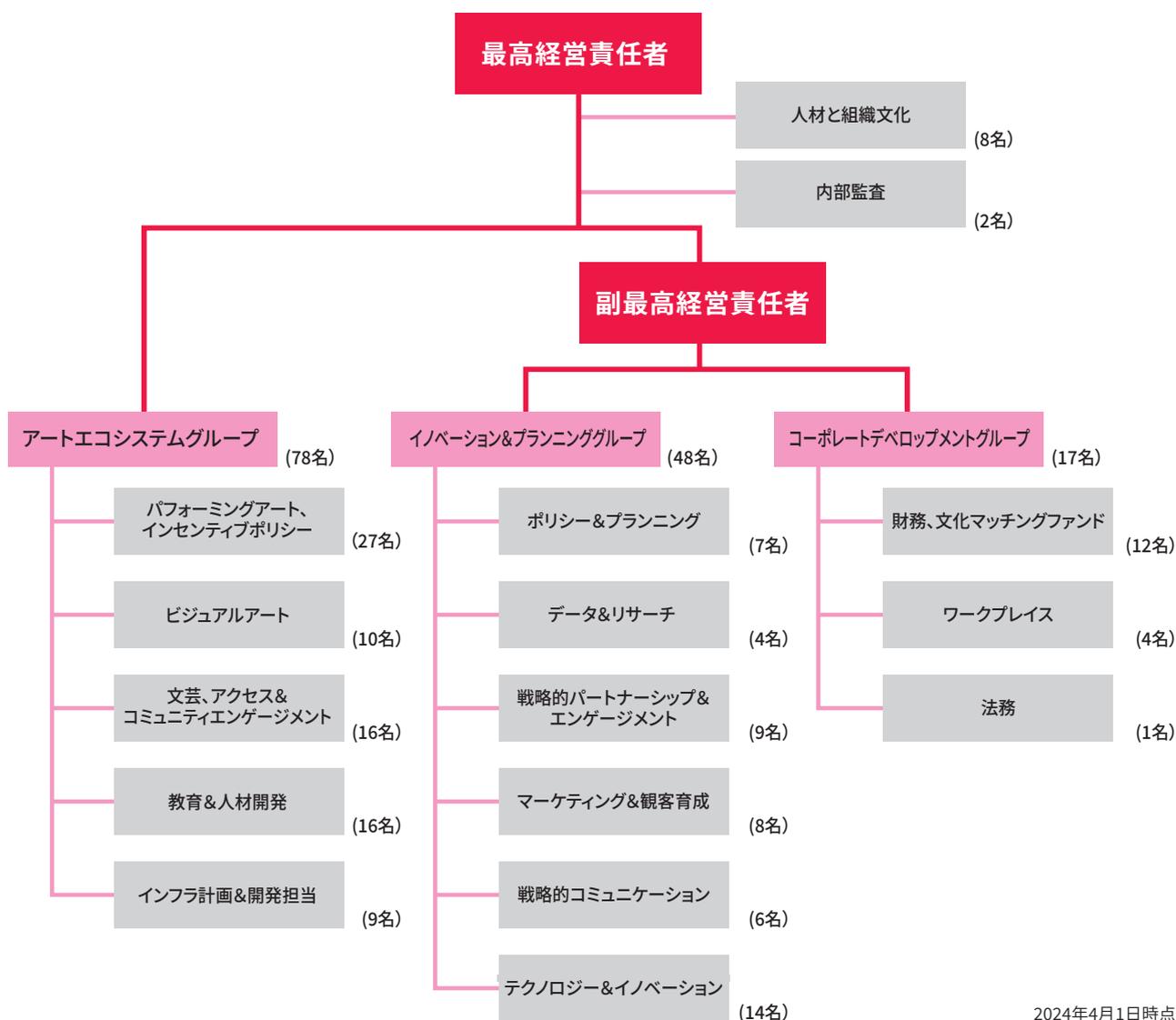
NACの職員は、約150～200名程度である。一部パートタイム職員も含まれているが、大多数はフルタイムの職員である。

NACの組織は、大きく以下の3つに分かれている。

- アートエコシステムグループ：助成金やプログラムの企画・運営を担当している
- イノベーション&プランニンググループ：NACの政策決定や調査、マーケティングなどを担当している
- コーポレートデベロップメントグループ：経理や法務を担当している

図表1-2-2は、各グループとその下に配属されているチームの関係を示した組織図である。なお、各チーム枠外かつこ内の数字は各チームの配属人数である。

図表1-2-2 NACの組織図(2024年4月1日時点)



出典：NACウェブサイト⁷⁴、Singapore Government Directory⁷⁵よりNRI作成

⁷⁴ <https://www.nac.gov.sg/about-us/management>

⁷⁵ <https://www.sgdi.gov.sg/ministries/mccy/statutory-boards/nac>

組織の規模としては、アートエコシステムグループが最も大きく、全職員の約半数が配属されている。同グループはさらに芸術領域ごとのチームに分けられており、パフォーマンスアート、インセンティブポリシーチーム、ビジュアルアートチーム、文芸、アクセス&コミュニティエンゲージメントチームの各チームには各芸術領域の知見を持った人材が多く配属されている。また、各被助成団体に対しては、助成金の交付が決定した時点でアカウントマネージャーが任命されるが、このアカウントマネージャーも多くがアートエコシステムグループに配属されている。

アートエコシステムグループが芸術領域別のチーム編成であるのに対し、イノベーション&プランニンググループは芸術領域横断でトピックに応じたチーム編成になっている。イノベーション&プランニンググループは2番目に大きく、全職員の約3割が配属されている。

組織編成は、中期計画などの戦略や組織の方向性に従って変更されることがある。各組織の人数は、プログラムやプロジェクトの有無やその規模、その時々重点分野などによって流動的に調整される。また、新たなチームが設置されることもある。「2-1-2. ナショナルアーツカウンシルの戦略」にて前述した、テクノロジー&イノベーションチームの設置がその一例である。また、シンガポールのアートエコシステムを、芸術の創作・制作過程だけではなく、芸術を鑑賞する観客・寄付者・パトロンや、芸術を消費者に届ける中間的な役割を全て含めて捉えていることを受けて、マーケティングと観客育成を同じチームが行っているというのもユニークな点である⁷⁶。

NACの職員は必ずしも芸術を専門とした人材だけではなく、経済、ビジネス、財務などを含めたさまざまなバックグラウンドを持った職員で構成されている。

例えば、アカウントマネージャーが多く所属するパフォーマンスアートチームでは、担当する芸術領域に関する専門性に加え、社内外の複数のステークホルダーとの協業実績や、プロジェクト管理経験、高いコミュニケーションスキルを持っていることが望ましいとされている。一方で、芸術やビジネスに関する特定の学位に関する要件はない。

採用情報に関しては、シンガポールの公務員職共通の採用情報サイトであるCareers@Govに掲載されており、応募するポジションごとの要件を確認することが可能である。また、シンガポールの多くの企業と同様、大学生のインターンシップの受け入れも行われており、Careers@Govを通じて受け入れ状況を確認することが可能である⁷⁷。

採用や配属に際し、性別や民族などのダイバーシティに関する特別な配慮は行われていない。各職員の能力を加味し、チーム全体の能力が最大化されるように調整が行われる。

また、NACとMCCYの間では、双方向に職員の出向が行われている他、兼職体制を取る場合もある。兼職体制は、プロジェクトレベルにおいて、特定の経験や能力が必要となる際に、適任となる職員が一時的にもう一方の機関にも同時に在籍する形を取る。その場合、通常、兼職先の機関に週2日程度出勤することとなる⁷⁸。

2-1-4. ナショナルアーツカウンシルの収支

2024年度、NACにはMCCYの運営費としての総支出S\$20億9,874万(約2,351億円)の7.4%に相当するS\$1億5,487万(約173億円)の運営費が割り当てられている。そこにS\$583万(約6.5億円)の開発費を加えて、NACへの支出額の割り当てはS\$1億6,070万(約180億円)である⁷⁹。なお、運営費は、人件費や施設関連費用を含む組織の通常の運営にかかる費用が該当する他、既存のプログラムや助成制度にかかる費用も含まれる。開発費は、新しいプログラムの開発と運営にかかる費用や、施設の改修費・再開発費などが該当する。図表1-2-3はMCCYの支出を示しており、NACは赤枠内の通り割り振られている。

⁷⁶ NAC へのヒアリングより

⁷⁷ <https://www.careers.gov.sg/>

⁷⁸ MCCY へのヒアリングより

⁷⁹ <https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/revenue-and-expenditureestimates-or-fy2024-2025.pdf> (P214)

図表1-2-3 MCCYの支出(2024年度)

※1シンガポールドル=112円

プログラムごとの総支出額（単位：s\$, ピンク背景：日本円）

コード	プログラム	運営費	開発費	総支出額
X-A	コーポレートサービス	50,798,600	341,300	51,139,900
		5,689,443,200	38,225,600	5,727,668,800
X-B	アート&遺産	184,598,700	23,632,400	208,231,100
		20,675,054,400	2,646,828,800	23,321,883,200
X-C	寄付&協同組合	11,884,100	0	11,884,100
		1,331,019,200	0	1,331,019,200
X-D	レジリエンス&エンゲージメント	66,517,300	1,508,900	68,026,200
		7,449,937,600	168,996,800	7,618,934,400
X-E	コミュニティリレーションズ&エンゲージメント	111,203,500	2,282,000	113,485,500
		12,454,792,000	255,584,000	12,710,376,000
X-F	情報技術	39,090,800	0	39,090,800
		4,378,169,600	0	4,378,169,600
X-I	スポーツ	39,350,300	0	39,350,300
		4,407,233,600	0	4,407,233,600
X-J	ユース	11,137,200	6,075,200	17,212,400
		1,247,366,400	680,422,400	1,927,788,800
X-P	イスラム教評議会	27,700,600	674,100	28,374,700
		3,102,467,200	75,499,200	3,177,966,400
X-Q	ナショナルアーツカウンシル	154,871,400	5,830,200	160,701,600
		17,345,596,800	652,982,400	17,998,579,200
X-R	国家遺産局	192,876,200	9,630,000	202,506,200
		21,602,134,400	1,078,560,000	22,680,694,400
X-S	人民協会	589,493,300	138,773,000	728,266,300
		66,023,249,600	15,542,576,000	81,565,825,600
X-T	スポーツシンガポール	503,771,100	119,232,900	623,004,000
		56,422,363,200	13,354,084,800	69,776,448,000
X-U	ナショナルユースカウンシル	115,444,500	41,771,400	157,215,900
		12,929,784,000	4,678,396,800	17,608,180,800
	合計	\$2,098,737,600	\$349,751,400	\$2,448,489,000
		235,058,611,200	39,172,156,800	274,230,768,000

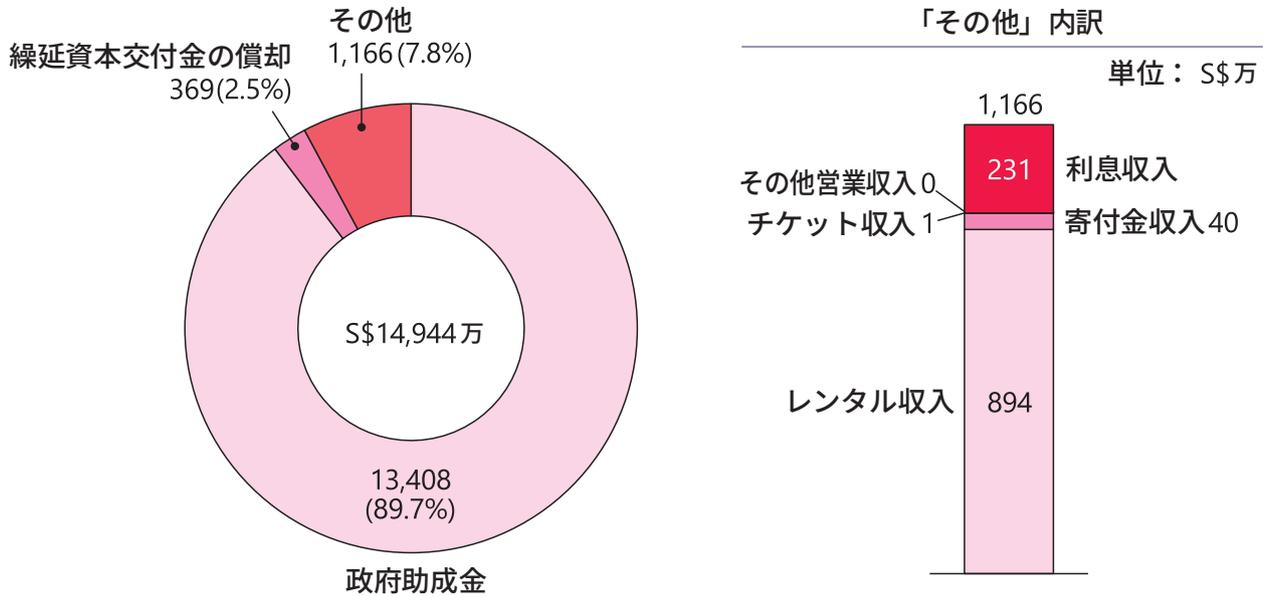
出典：Ministry of Finance「The Revenue and Expenditure Estimates for the Financial Year 2024/25」⁸⁰よりNRI作成

⁸⁰ <https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/revenue-and-expenditureestimates-for-fy2024-2025.pdf> (P214)

図表1-2-4は、2022年度のNAC収入内訳である。収入の9割以上はMCCY経由で政府より割り当てられた収入となっており、残りの7割以上がレンタル収入となっている。レンタル収入には、「2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係」にて後述する「アートハウジングスキーム」における芸術活動スペースなどの施設の賃貸収入が含まれる。

図表1-2-4 NACの収入内訳(2022年度)

※1シンガポールドル=112円

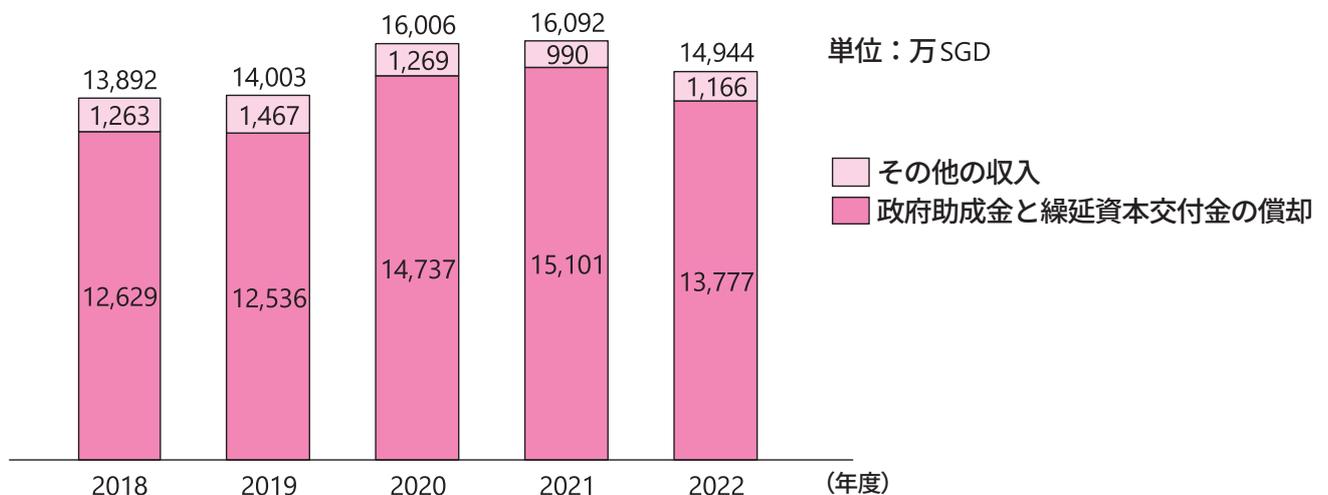


出典: NAC Annual Report 2022/2023⁸¹よりNRI作成

図表1-2-5に、NACの全体収入と政府助成金収入の経年変化を示す。2020年度から2021年度にかけて、COVID-19の流行の影響もあり政府助成金が増えているが、2022年度にはCOVID-19の流行以前の水準に戻りつつある。

図表1-2-5 NACの全体収入と政府助成金収入(2018年度~2022年度)

※1シンガポールドル=112円



出典: NAC Annual Report (各年度)⁸²よりNRI作成

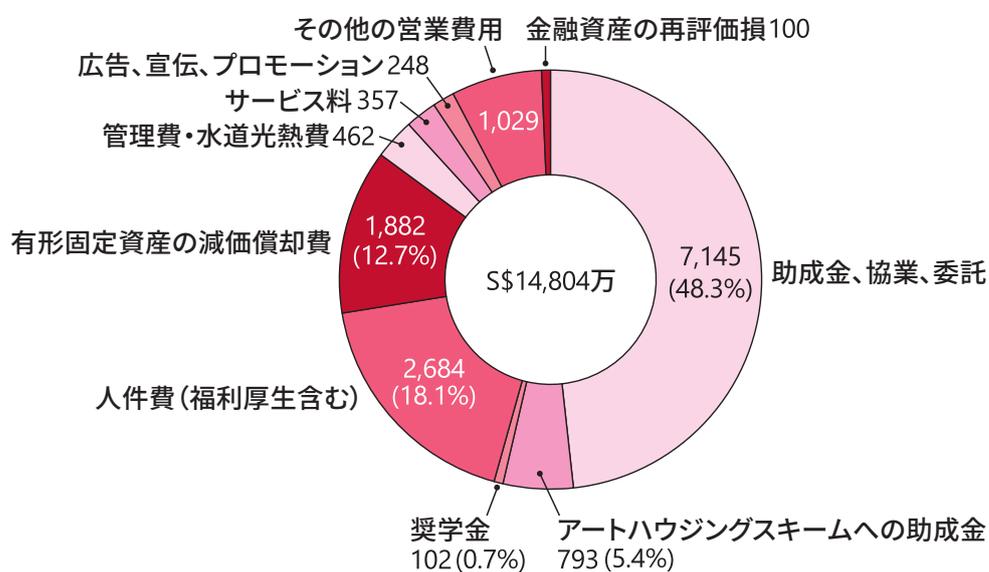
⁸¹ <https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/annual-reports> (Taking Shape 2022/23 レポート内PF5)

⁸² <https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/annual-reports>

また、図表1-2-6は2022年度のNAC支出内訳である。「2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係」にて後述する「アートハウジングスキーム」、奨学金を含む助成金が半分強を占めており、人件費、減価償却費が続く。

図表1-2-6 NACの支出内訳(2022年度)

※1シンガポールドル=112円



注) その他の営業費用には、交通費、郵便代、通信費、支払利息、事務用品・その他消耗品、土地・建物・その他賃料が含まれる
 出典: NAC Annual Report 2022/2023⁸³よりNRI作成

⁸³ <https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/annual-reports> (Taking Shape 2022/23 レポート内PF5)

2-2. ナショナルアーツカウンシルとその他公的機関の関係

NACは、MCCYの傘下にある法定機関である。法定機関としてのMCCYとの関係性は、「2-1. ナショナルアーツカウンシルの概要」にて前述した通りで、独自の組織と職務権限を持ち、活動の遂行にある程度の自主性と自由が認められているものの、公的資金の使用に関する政府のガイドラインを順守する必要があり、政府の一員として、芸術の計画や政策の策定においてMCCYをはじめとした政府機関と緊密に協力している。

同じくMCCYの傘下にある法定機関として、国家遺産局(NHB)、人民協会(PA)、イスラム教評議会(MUIS)、スポーツシンガポール(SportSG)がある。ここでは特に文化芸術に関連のあるNHBとPAとの関係を取り上げる。また、NACはMCCY以外の省庁やその傘下の機関との連携を行うこともある。その例として、教育省との関係と、シンガポルトータリゼーター委員会(Tote Board)との関係を取り上げる。

(a)NHBとの関係性

NACは主に芸術を扱うのに対して、NHBは主に遺産を扱う組織である。その管轄は棲み分けがされており、助成制度に関しては、NACの助成は芸術の創作や制作、観客育成などを対象としているのに対して、NHBの助成は遺産の展示や修復、研究を対象としている。また、管轄する建物の種類も、NACは芸術家が創作・制作、発表を行うためのスタジオやホールがメインであるのに対し、NHBはシンガポール国立博物館(National Museum of Singapore)を含む複数の博物館を管轄している。このように、業務内容は類似するが異なる分野を扱っていることから、NACとNHBの協力のもとに行われるプロジェクトはあまりない。一方で、同じMCCY傘下の法定機関であることから、各業務レベルにおいて、双方の職員が連携を行うケースは見られる。

(b)PAとの関係性

PAは、地域住民と政府との連携を強めることを目的とした法定機関である。コミュニティの構築や住民間の結びつきを強めるために、PAが管轄するコミュニティセンター、コミュニティクラブなどを通じて、地域住民を対象としたさまざまな文化や習慣に触れることのできるプログラムやスポーツ大会、子供・高齢者・家族が参加できる大規模なイベントなどの企画・実施・支援を行っている。芸術は、その手段の1つとして用いられることがある。NACとPAの協力関係の例としては、社会サービス機関を通じて恵まれない人々に芸術を提供する目的で、PAが実施する助成金制度である「ウィーケアアーツファンド(WeCare Arts Fund)」における協力や、PAの拠点の1つであるWisma Geylang Seraiにおいて芸術活動スペースを提供する際の協力などがみられる⁸⁴。なお、PAの概要やPAの芸術への関与の詳細に関しては第2部第1章「1-2. 地域行政サービス・コミュニティ組織」にて後述する。

(c)教育省との関係性

NACが最もよく協力関係を結ぶ省庁の1つとして、教育省が挙げられる。NACは将来の芸術家や観客の育成に当たって、学校教育との連携が重要であると考えており、教育省とのパートナーシップのもと、義務教育の一環としてワークショップや公演などを提供するさまざまなプログラムを実施している。なお、これらのプログラムの詳細や教育におけるNACの役割に関しては、第2部第2章「2-1. シンガポールの文化芸術における周辺分野連携」にて後述する。

(d)Tote Boardとの関係性

Tote Boardは、NACとの協力のもと文化芸術分野に対して多くの金銭的支援を行っている⁸⁵。Tote Boardは、宝くじ・スポーツくじを運営するシンガポールプール(Singapore Pools)や競馬を運営するシンガポールターフクラブ(Singapore Turf Club)の余剰金と、カジノ入場料による利益を、地域社会の価値ある活動を支援するために活用する機関で、文化芸術団体に対して「アーツファンド」と呼ばれるプロジェクト助成金を拠出している。「アーツファンド」の運営はNACに委託されており、NACは「アーツファンド委員会」を立ち上げてこの助成金の運営を行っている。「アーツファンド委員会」のメンバーは、NAC内外より任命される。また、Tote Boardは、「アーツファンド」の他、慈善団体への寄付に関する支援、国を代表するオーケストラへの運営費の助成なども行っている。さらに、学校における芸術教育プログラムの多くもTote Boardからの資金援助によって推進されている。その際、NACは、提案されたプログラムを評価し、Tote Boardと協議することで、これらのプログラムの質と適性を保証する重要な役割を果たしている^{86 87}。

⁸⁴ <https://www.pa.gov.sg/our-network/community-development-councils/common-flagship-programmes/>

⁸⁵ <https://www.toteboard.gov.sg/who-we-are>

⁸⁶ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/arts-fund/overview>

⁸⁷ NACへのヒアリングより

2-3. ナショナルアーツカウンシルによる助成制度

支出の内訳で見たように、NACの活動の中心は助成である。本節では助成制度の分類や予算、助成事業に関する手続きについて記述する。

NACは、シンガポールの多様で個性的な文化芸術分野を育成し、人々にインスピレーションを与えるだけでなく、地域社会とのつながりを育み、シンガポールの芸術を世界に向けて発信するというビジョンを掲げて活動している。NACは、助成金や「2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係」にて後述する「アートハウジングスキーム」などの支援を通じ、持続可能な資金基盤を提供することで、このビジョンを実現している。

NACが提供する助成金支援は、以下の主要分野から構成される⁸⁸。

- 組織開発：シンガポールの文化芸術状況の形成に極めて重要な役割を果たす、専門的かつ戦略的な文化芸術団体への投資
- 芸術の制作と発表：芸術の制作と発表に関わるプロジェクトや、シンガポール人の芸術への積極的な参加を促す取り組みへの投資
- 観客とサポーターの育成：国内外の芸術活動を評価し、支持する観客層、パトロン、サポーターを育成する取り組みへの投資
- 芸術家の育成：さまざまな分野の芸術家のトレーニングや研究などの、継続的な育成に対する投資

こうした助成金の背景には、多面的な動機がある。NACのような助成団体にとっては、シンガポールに文化的な豊かさや活気を与えるための戦略的な投資となる。NACは財政的な支援やリソースを提供することで、国の社会的、文化的、経済的基盤に貢献する活気ある芸術コミュニティを育成することを目指している。また、MCCYによって設定された、より広範な文化政策であるCommittee of Supplyなどの方向性にも合致している。

被助成団体にとって、この支援は彼らの芸術的ビジョンを実現するために不可欠なものである。助成金は、資金的な裏付けを与えるだけでなく、彼らの創造的な活動に対する信頼の証を意味する。NACを通じた政府からのお墨付きを得ることは、芸術コミュニティにおける信頼性と知名度を大きく高めることにつながる⁸⁹。

⁸⁸ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes>

⁸⁹ NAC、複数カンパニーへのヒアリングより

COVID-19の流行への対応

COVID-19の流行のような危機的状況においても、NACは、芸術界の特定のニーズに対応するとともに既存の助成金の強化を行い、適応力を示してきた。

COVID-19の流行は、文化芸術分野に大きな影響を与え、特に芸術従事者の47%を占める個人事業主の芸術家や芸術関連事業の従事者たちは、支援を強く求めている。そこでNACは、2020年3月に芸術文化レジリエンスパッケージ (Arts and Culture Resilience Package: 以下、ACRP) としてS\$5,500万(約62億円)の支援をMCCYより受け、2つの支援枠組みを設置した。「能力開発スキーム (Capability Development Scheme for the Arts: 以下、CDSA)」は、芸術家のスキルアップを奨励し、「デジタルプレゼンテーショングラント (Digital Presentation Grant)」は、芸術家がデジタルフォーマットで作品を発表することを支援した⁹⁰。2020年12月までに、CDSAは約900の研修機会と300名の個人事業主を援助し、550以上のプロジェクトが実施され、約7,000の就労機会が提供された。2021年度にはACRP予算にさらにS\$2,000万(約22億円)が加えられ、芸術家を支援する動きが加速した⁹¹。加えて、COVID-19の流行をきっかけに、環境や消費者行動の変化に伴う組織の変革の重要性が見直され、2021年6月には「芸術組織変革助成金」が立ち上げられた。これは、観客体験、組織の効率化、収益の多様化を推進する変革プロジェクトを支援することを目的に、2022年に「芸術セクター変革基金」に変更された。このように、個人事業主や芸術・遺産産業の組織に対する助成金や支援制度の充実が検討されてきた^{92 93}。

ACRPとCDSAは段階的に廃止されたが、「芸術セクター変革基金」を含むNACの主要な助成枠組みは、文化芸術団体のデジタル化と能力開発のニーズを維持するために引き続き強化されている。詳細については、NACの発行する「芸術に関する人口調査 ～パンデミックからの復活～」でも述べられている⁹⁴。

2-3-1. 助成制度の分類

NACは、持続可能な資金基盤と助成金を通じてシンガポールの芸術コミュニティを総合的に支援している。NACが提供する助成は、プロフェッショナルな文化芸術団体の組織開発支援、芸術作品の制作や上演、観客や支援者の育成、芸術家の育成など、さまざまな分野をカバーしている。以下はNACの主な助成枠組みである。助成対象となる活動ごとに、NACによる8つの枠組みと、Tote Board (詳細は「2-2. ナショナルアーツカウンシルとその他公的機関の関係」にて前述) による助成金であるアーツファンドの合計9つの枠組みが存在する(2024年3月時点)。各枠組みの目的、対象、期間と紐づく主要分野を図表1-2-7にまとめた。

⁹⁰ [https://www.mccy.gov.sg/about-us/news-and-resources/press-statements/2020/apr/\\$55-million-arts-culture-resilience-package](https://www.mccy.gov.sg/about-us/news-and-resources/press-statements/2020/apr/$55-million-arts-culture-resilience-package)

⁹¹ <https://www.nac.gov.sg/resources/engagements-with-the-sector/enhanced-arts-and-culture-resiliencepackage---new-grants>

⁹² <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/organisation-transformation-grant>

⁹³ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/sector-transformation-fund>

⁹⁴ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/resources-files/research/digital-engagement/emerging-fromthe-pandemic.pdf>

図表1-2-7 NACの助成枠組み(2024年3月時点)

番号	助成枠組み	目的	対象	期間	主要分野
①	主要カンパニースキーム	芸術制作とアウトリーチ、文化芸術分野への貢献など、卓越した活動を行う文化芸術団体の専門的・芸術的発展を支援	組織運営、展覧会、公演、広報活動、国際的な活動など	3年間	組織開発
②	発表・参加グラント	幅広い文化芸術団体や芸術家が芸術の多様性を表現し国を豊かにすること、またシンガポールにおける芸術鑑賞や芸術への参加を増やすことを支援	書籍出版、音楽出版、展覧会、公演、フェスティバルなど	指定なし	芸術の制作と発表、観客とサポーターの育成
③	制作グラント	幅広いジャンルのプロジェクトの制作、発表、マーケティング活動を支援	長期的な上演プログラムや展覧会、大規模なフェスティバルなど	指定なし	芸術の制作と発表
④	創造グラント	シンガポール独自の芸術作品の創作を支援	新しい作品の創作、翻訳・改作など	最大18ヶ月間	芸術の制作と発表
⑤	アーツファンド	シンガポール国民が楽しみ、豊かになるような質の高い公演や展覧会を制作する文化芸術団体や芸術家を支援	公演、展覧会、文芸イベント	指定なし	芸術の制作と発表
⑥	調査研究グラント	文化芸術分野の知識や情報を広げる調査研究を支援	文化芸術に関する調査研究、芸術実践の保存と記録	最大2年間	その他
⑦	能力開発グラント	シンガポールの文化芸術分野で働く人々の継続的な専門能力開発を奨励・支援	職業訓練、能力開発プログラム、OJT活動、メンターシップなど	最大12ヶ月間	芸術家の育成
⑧	芸術セクター変革基金	市場需要の創出、運営効率の向上、多様な収入源の開発などの成果の達成に向けて、文化芸術団体が変革するための取り組みを支援	目的に合致するあらゆる変革活動	12-18ヶ月間	組織開発の支援、観客とサポーターの育成
⑨	市場・観客育成グラント	国内外の芸術活動のため、観客、パトロン、サポーターを育成する活動を支援	市場調査、マーケティング、広報活動、国際的な活動など	指定なし	観客とサポーターの育成

出典:NACウェブサイト⁹⁵よりNRI作成

9つの枠組みは、さらにその特徴ごとに分類することができる。まず、大分類として、組織運営全般に対する助成と、プロジェクト・活動ごとの助成の2つに分けられる。後者のプロジェクト・活動ごとの助成に関しては、さらに、芸術の制作と発表を対象とする助成と、それ以外の文化芸術分野に対する助成に分けられる。図表1-2-8に分類と該当する助成枠組みを示す。

⁹⁵ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes>

図表1-2-8 助成枠組みの分類(2024年1月時点)

大分類	小分類	助成枠組み
組織運営全般に対する助成 (運営助成)		主要カンパニースキーム
プロジェクト・活動ごとの助成	芸術の制作と発表を対象とする助成 (プロジェクト助成金)	発表・参加グラント、制作グラント、創造 グラント、アーツファンド
	制作・発表以外の文化芸術分野に 対する助成	調査研究グラント、能力開発グラント、 芸術セクター変革基金、市場・観客育成 グラント

出典：NACウェブサイト⁹⁶よりNRI作成

以下では、図表1-2-8の分類ごとに助成枠組みについて記述する。なお、①～⑨は図表1-2-7の番号に対応する。

(a)組織運営全般に対する助成

文化芸術団体の活動全体を包括的に支援する運営助成は①の「主要カンパニースキーム」となっており、3年間の助成サイクルに基づき、毎年見直しが行われる。現行のスキームは、芸術制作とアウトリーチ、文化芸術分野への貢献など、卓越した活動を行う文化芸術団体を対象としており、芸術的観点やプログラムの質の観点、組織的観点において、文化芸術団体の各能力を強化することを目的としている。申請の際は、制作、プログラム企画、教育・研究・観客育成の3種類の区分から各団体に最も合致する1種類を選択して申請する。選択した区分によって、助成中のKPIが異なる。「主要カンパニースキーム」の対象となる経費は、運営費とプログラム費に分けられる。運営費には、職員の給料、会場費、マーケティング費、監査費用やユーティリティ費用などのその他運営費が含まれる。プログラム費には、制作費、観客育成費、チケット販売サイトなどを含むプラットフォーム利用費、海外活動費が含まれる。なお、2024年2月現在、「主要カンパニースキーム」は、中期計画であるシンガポールアーツプラン(2023-2027年)の目標や優先事項により合致したスキームを開発するため、総合的な資金援助の見直しがされている。新しいスキームでは、より広範な組織や個人、プロジェクトを支援するスキームとして設計される予定である。主な背景として、シンガポールにおける文化芸術分野の発展やCOVID-19の流行の影響で生じた変化が挙げられ、更なる文化芸術分野の発展に貢献するようなイノベーションの探求や変革への取り組みに関するプロジェクトや、新興のカンパニー、個人芸術家が対象となるような見直しがされている。これを受け、2023年度の募集は2024年3月時点で保留になっている⁹⁷。

(b)プロジェクト・活動ごとの助成のうち、芸術の制作と発表を対象とするもの

1つのプロジェクトや活動を短期的にサポートする助成枠組みのうち、②から④の「発表・参加グラント」、「制作グラント」、「創造グラント」は芸術の制作と発表を対象としている。それぞれの枠組みは、対象となる範囲や目的が異なる。④の「創造グラント」はシンガポール独自の作品が新たに創造されることに重きが置かれる。一方で、②の「発表・参加グラント」、③の「制作グラント」は、芸術におけるシンガポール人の参加が重要視されている。また、「発表・参加グラント」は大小さまざまな規模の団体やプログラムを支援するのにに対し、「制作グラント」はインパクトのより大きいものを対象としており、長期プログラムや大規模なフェスティバルを対象としている。申請において、プロジェクトの規模やインパクトの大きさに関する定量的な要件はないが、「発表・参加グラント」の助成額は出版以外の場合最大S\$5万(約560万円)であるのに対し、「制作グラント」は最大S\$15万(約1,680万円)である⁹⁸。また、「制作グラント」の方がより厳しい選考プロセスとなっている。このことを踏まえ、申請者はどちらに申請するかを選択することができる。⑤の「アーツファンド」も同様に芸術の制作と発表を対象とするものであるが、この助成金はTote Boardによるもので、NACによって、任命された「アーツファンド委員会」がその管理を任されている。以降、②から⑤の4つの枠組みをまとめて「プロジェクト助成金」と総称する。

⁹⁶ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes>

⁹⁷ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/major-company-scheme/overview>

⁹⁸ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/presentation-and-participation-grant/overview>

⁹⁹ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/production-grant/overview>

(c)プロジェクト・活動ごとの助成のうち、芸術の制作と発表以外の文化芸術分野を対象とするもの

「芸術の制作と発表」に関連するもの以外の助成金としては、文化芸術分野の知識や情報を広げる調査研究を支援する「調査研究グラント」(⑥)、文化芸術分野で働く人々の継続的な専門能力開発を奨励・支援する「能力開発グラント」(⑦)の他、「芸術セクター変革基金」(⑧)、「市場・観客育成グラント」(⑨)がある。⑧、⑨は特に各文化芸術団体の持続可能性や長期的な存続を支援するものとなり、政府の支援が無くとも運営が可能となるような仕組み作りや、個々の企業が直面する固有の課題に対処する目的のプロジェクトなどに対して一時的な助成金を提供するものとなっている。また、NACは、全ての被助成団体に対してアカウントマネージャーを通じて組織運営や資金調達の方法、寄付者の獲得方法などについてのアドバイスも提供している。なお、「芸術セクター変革基金」は1回限りの枠組みであり、2022年11月に募集を締め切っている¹⁰⁰。

上記、(a)、(b)、(c)で挙げた助成金以外の金銭的支援として、芸術活動スペースに関連する「芸術インフラスキーム」とNAC運営のクラウドファンディングである「Sustain the Arts(stART)基金」がある。「芸術インフラスキーム」は「2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係」にて、「stART基金」については第2部第2章「2-2-3. 文化芸術分野への寄付の動向と寄付金を増やす仕組み」にてそれぞれ後述する。

また、これらの公募制の助成金の他に、Singapore Symphony Orchestra(以下、SSO)、Singapore Chinese Orchestra(以下、SCO)、Arts House Ltd.(以下、AHL)(詳細は「第4章 アンプレラ組織・カンパニー・芸術施設」にて後述)の3団体は、審査無しでNACによる運営費助成金を受けている¹⁰¹。SSO、SCOは国を代表するオーケストラとして設立されており、AHLはシンガポール国内にて芸術活動スペースを提供するNACの保証有限責任会社であるため、このような特別措置を受けている¹⁰²。

2-3-2. 助成制度の予算・規模

「2-1-4. ナショナルアーツカウンシルの収支」の「図表1-2-6 NACの支出内訳(2022年度)」で前述した通り、NACの2022年度助成金支出は約S\$8,040万(約90億円)であった。そのうち約S\$7,145万(約80億円)が「助成金、協業、委託」に、S\$793万(約8.9億円)が「アートハウジングスキーム」に、S\$102万(約1.1億円)は「奨学金」に割り当てられた。「助成金・協業・委託」支出S\$7,145万(約80億円)のうち、SSO、SCO、AHLの3団体が合計S\$4,184万(約47億円)を運営費として受けており、残りの約S\$2,960万(約33億円)が公募による助成金となっている。各助成枠組みに対する明確な内訳や予算があるわけではないが、NACは設立以来の助成金運営の経験に基づき、年間の需要を見積もっており、この見積もりと配分は積極的に管理されている¹⁰³。

プロジェクト助成金に関しては、助成金額の上限と対象経費に対する割合の上限が定められている。その上限は枠組みによって異なるが、助成金額の上限は、年間S\$5万～10万(約560万～1,120万円)程度のもが多く、経費に対する割合の上限は、個人やNPO法人に対しては50～70%、営利組織に対しては30～50%が上限のものが多い。対象経費の100%を助成しない背景としては、NACの予算管理の目的の他に、被助成団体に助成金のみに頼らない運営を促す意図がある。シンガポール政府はさまざまな団体に自立と持続可能性を促しており、助成プロジェクトにおいても被助成団体自身が助成以外の収入源を得られるように支援している。しかし、このような意図に反して、現場からは厳しい声も上がっている。例えばある特定のプロジェクトに関して、助成金が50%充てられた際に、もし他の収入源により残りの経費をカバーできない場合はプロジェクト自体をキャンセルせざるを得ない状態となり、助成金の受領機会を喪失してしまうことになる。カンパニー代表者からは、各カンパニーが自身で資金を調達することの重要性は理解しながらも、場合によってはプロジェクト経費の100%を交付した方がNACとカンパニーの両方にとって意味のあるものとなるのではないかという意見も上がっている¹⁰⁴。

2022年度の被助成団体数は366団体で、「主要カンパニースキーム」が49団体、その他はプロジェクト助成金などの一時的な助成金であった。被助成団体数が圧倒的に多いのは「発表・参加グラント」で200団体程度であった。一方で、「創造グラント」の採択者は6団体のみで、「制作グラント」は採択者がいなかった。また、芸術領域の観点では、音楽が最も多く110団体程度、次いでダンス、ビジュアルアーツ、演劇と続き、それぞれ70～80団体程度であった¹⁰⁵。

¹⁰⁰ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/sector-transformation-fund>

¹⁰¹ 複数カンパニーへのヒアリングより

¹⁰² NAC、複数カンパニーへのヒアリングより

¹⁰³ NACへのヒアリングより

¹⁰⁴ 複数カンパニーへのヒアリングより

¹⁰⁵ <https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/annual-reports> (Taking Shape 2022/23 レポート内PA4～A10)

2-3-3.助成対象・助成内容

助成金の申請は、NACのウェブサイトで公開されているガイドラインに基づいて審査される。ガイドラインには、助成金の条件、資格基準、申請プロセス、採択基準の概要が示されている。審査の際には、芸術的な観点だけでなく、市民参加の有無や程度、プロジェクト遂行能力、プロジェクト実施におけるコミットメントなどの要素も考慮される。また、シンガポールアーツプランのような、NACの戦略的優先事項に沿ったプロジェクトも優先される¹⁰⁶。

以前は、成果物の未達成や資金上限の超過など、資金提供のガイドラインに従わないケースもあったが、そのようなケースは現在は減少している。コンプライアンス違反の事例を可能な限り未然に防ぎ影響を緩和するために、NACは被助成団体の活動を定期的にチェックしている¹⁰⁷。

申請資格

NACは、文化芸術発展のさまざまな側面に対応する多様な助成を提供している。公平で利用しやすい助成金を提供するために、NACは各助成金のページに申請資格を明記している。例として、プロジェクト助成金の枠組みの中から「発表・参加グラント」(図表1-2-7の②)と「創造グラント」(図表1-2-7の④)の申請資格を以下に挙げる。

①発表・参加グラント

- 個人：シンガポール国籍保持者とシンガポール永住権保持者(Permanent Resident：以下、PR)が対象となる。なお、シンガポール国内の文化芸術分野で活動する個人事業主が優先される。
- 登録されている団体：申請時に会計企業規制庁(Accounting and Corporate Regulatory Authority)に登録されている組織(非営利団体／非政府組織／地域密着型組織／個人事業主／有限責任事業組合／保証付有限責任会社／非公開有限責任会社を含む)、または社会登記簿に登録されている団体が対象となる。
- 登録されていない団体：メンバーの大半がシンガポール国籍またはPRである非公式グループまたは集団、または、シンガポール国内または海外でのプロモーションのために、シンガポール人が執筆した文学作品の出版または翻訳を希望する外国の出版社が対象となる¹⁰⁸。

②創造グラント

- 個人：シンガポール国籍保持者とPRが対象となる。芸術家、共同体代表者、役者・演奏家、作家、司会者、キュレーター、プロデューサー、興行主、ドラマトウルク、その他地域の文化芸術分野に積極的に貢献している個人が対象となる。
- 共同プロジェクト：主導する申請者はシンガポール国籍保持者またはPRでなければならない。管理面・法的・財政的な全責任を負わなければならない。また、主導する申請者は、コンセプト作りや創作プロセスにおいて重要な役割を果たす必要がある。共同申請者には十分な実績が求められ、外国人の芸術家とのコラボレーションも可能だが、芸術チームの50%以上がシンガポール人である団体またはシンガポール国籍の個人の芸術家である申請者が優先される。特に芸術的な業績や制作実績のある芸術家が対象となる¹⁰⁹。

¹⁰⁶ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes>

¹⁰⁷ NAC へのヒアリングより

¹⁰⁸ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/presentation-and-participation-grant/p-p-guidelines.pdf> (P5)

¹⁰⁹ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/cgpg/creation-grant-2024-guidelines.pdf> (P4)

被助成団体の例

NACの「主要カンパニースキーム」は、卓越した模範となる文化芸術団体の専門的・芸術的成長を促進することを目的としている¹¹⁰。インド古典舞踊を専門とする有名なカンパニーであるAprasas Dance Companyは、この枠組みで支援を受けており、魅惑的なパフォーマンスを通じて文化遺産の保護に尽力している¹¹¹。さらに、あらゆる年齢層の観客を魅了する質の高い多様な作品を上演することで知られるSingapore Theatre Companyや、魅力的なクラシック音楽コンサートを提供する音楽家で構成されるダイナミックなオーケストラであるOrchestra of the Music Makersなどの著名なカンパニーもこの枠組みの支援を受けている^{112 113}。

一方で、助成金支給決定後の返還事例もある。2017年に、シンガポールの才能あるコミック作家であるソニー・リュー (Sonny Liew) に対して「創造 Grant」(S\$1万9,000 (約213万円)) の助成が決定したが、その後、この助成金は返還されることとなった。リューに関しては、2015年にも、グラフィックノベル「The Art Of Charlie Chan Hock Chye」の出版後に、同小説の内容が政府や公的機関の権威を損なう可能性があるとして、NACが助成を取り下げた経緯がある¹¹⁴。このことをきっかけに、リューは、助成金を受けることで芸術家としての表現に制限がかかることを懸念するようになり、2017年の返金に踏み切ったと語っている。

¹¹⁰ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/major-company-scheme/overview>

¹¹¹ <https://www.apsarasarts.com/about-us/>

¹¹² <https://www.singaporetheatrecompany.sg/about>

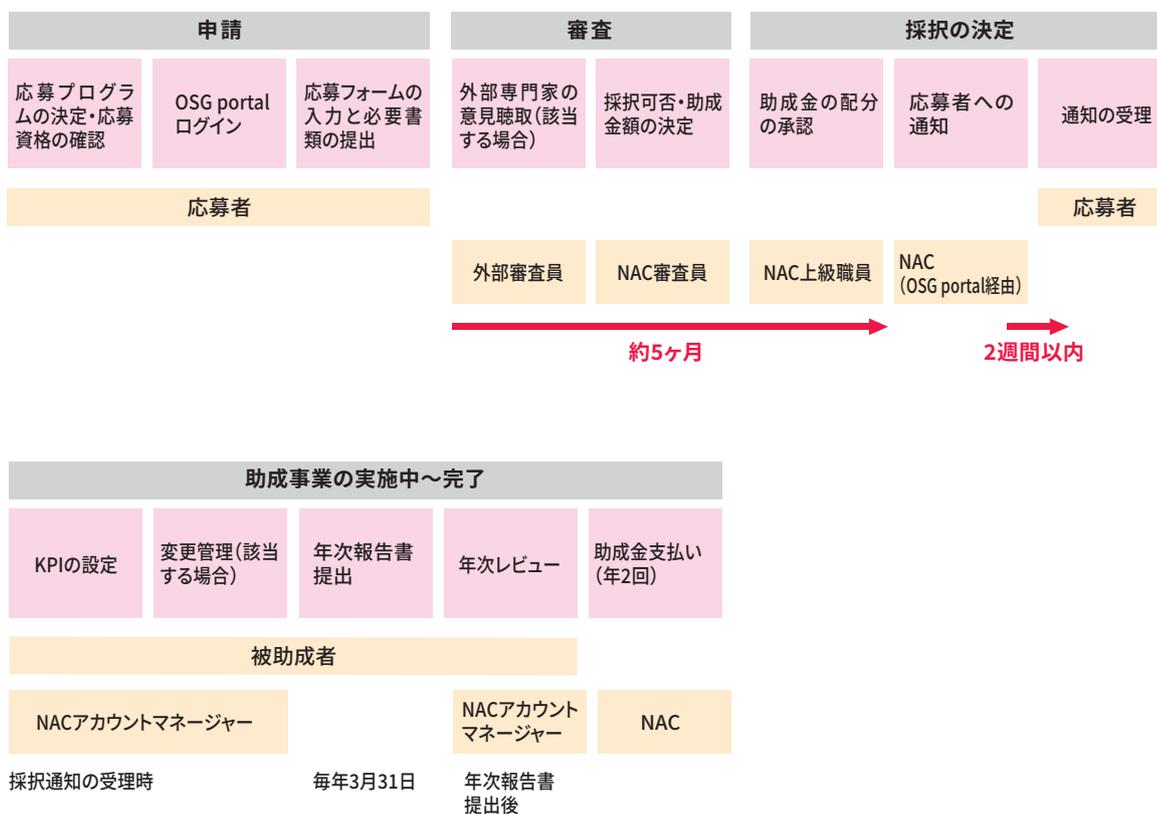
¹¹³ <https://www.orchestra.sg/>

¹¹⁴ <https://www.straitstimes.com/lifestyle/arts/comic-artist-sonny-liew-to-return-state-funding-for-his-newwork>

2-3-4. 助成事業に関する手続き

一般的に、助成への申請から採択後の手続きが終了するまでのフローは、申請、審査、採択の決定、助成事業の実施、助成事業の完了手続きの5つの段階に分けられる。本調査で取り上げる「主要カンパニースキーム」(図表1-2-7の①)、「発表・参加グラント」(図表1-2-7の②)、「創造グラント」(図表1-2-7の④)助成に関する各フローを示したものが図表1-2-9から図表1-2-11である。

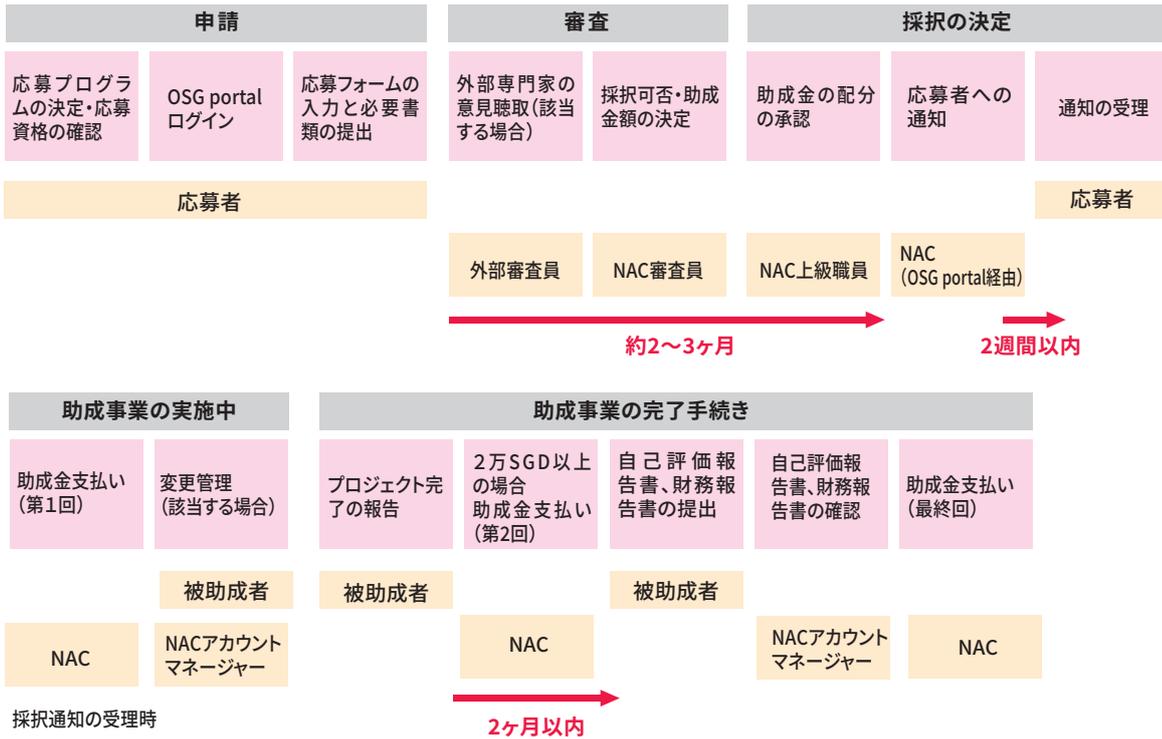
図表1-2-9 「主要カンパニースキーム」の助成に関するフロー(2023年度以前)



出典: FY2023 Major Company Scheme¹¹⁵、NACへのヒアリングよりNRI作成

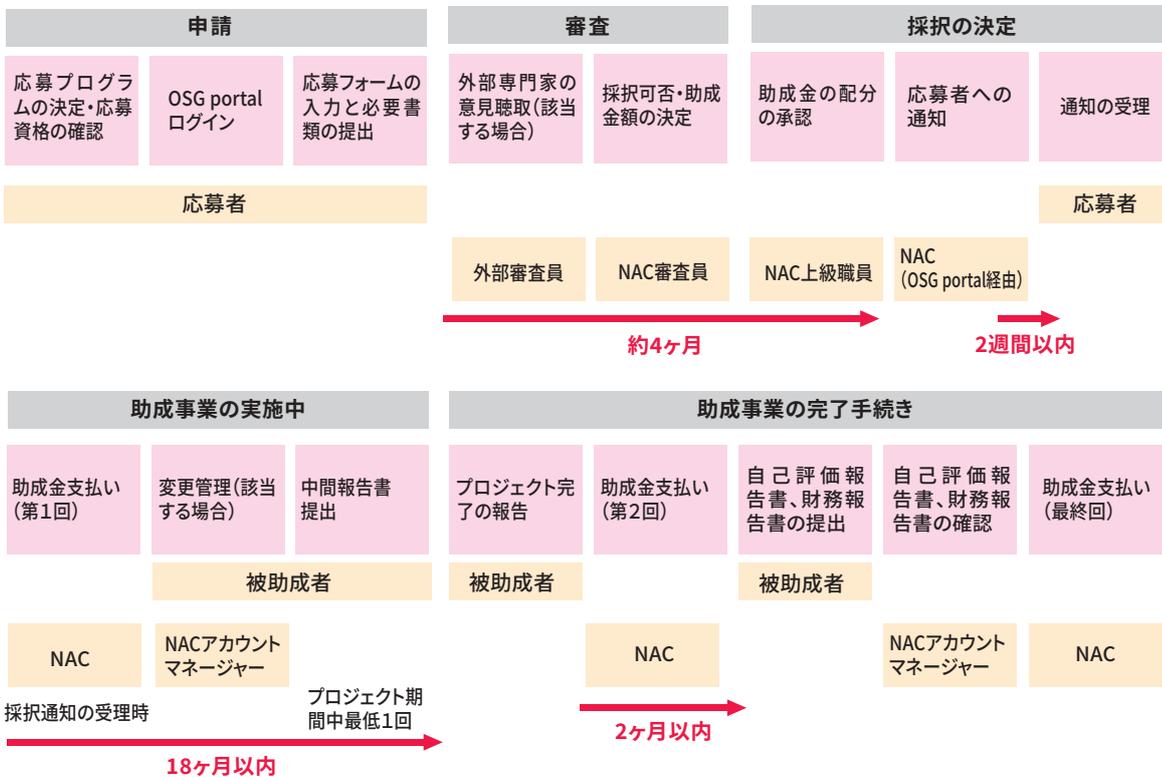
¹¹⁵ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/major-company-scheme/overview> ウェブページ内 (なお、当ガイドラインは調査開始時の2023年に入手したもの。2024年3月31日時点では公開されていない。)

図表1-2-10 「発表・参加グラント」の助成に関するフロー



出典：NAC「P&P Grant Guidelines」¹¹⁶、NACへのヒアリングよりNRI作成

図表1-2-11 「創造グラント」の助成に関するフロー



出典：NAC「Creation Grant 2023 Guidelines」¹¹⁷、NACへのヒアリングよりNRI作成

¹¹⁶ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/presentation-and-participation-grant/p-p-guidelines.pdf> (P8~9)

¹¹⁷ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/cgpgg/creation-grant-2023-guidelines.pdf> (P7)

「申請」の段階において、申請者が助成金への申請を検討し、必要書類を提出した後、「審査」の段階において、審査員は採択の可否を決定する。「採択の決定」の段階では、審査結果のNAC内における最終承認と申請者への通知が行われ、申請者は通知を受け取った旨をNACに連絡する必要がある。ここまでの手続きの詳細を「2-3-5. 助成申請と採択後の手続き」にて記載する。続いて、「2-3-6. 助成事業実施中の手続き」において助成事業の実施期間中における手続き、「2-3-7. 助成事業終了後の手続き」において助成事業が終了した際の完了手続きについて、順に記載する。

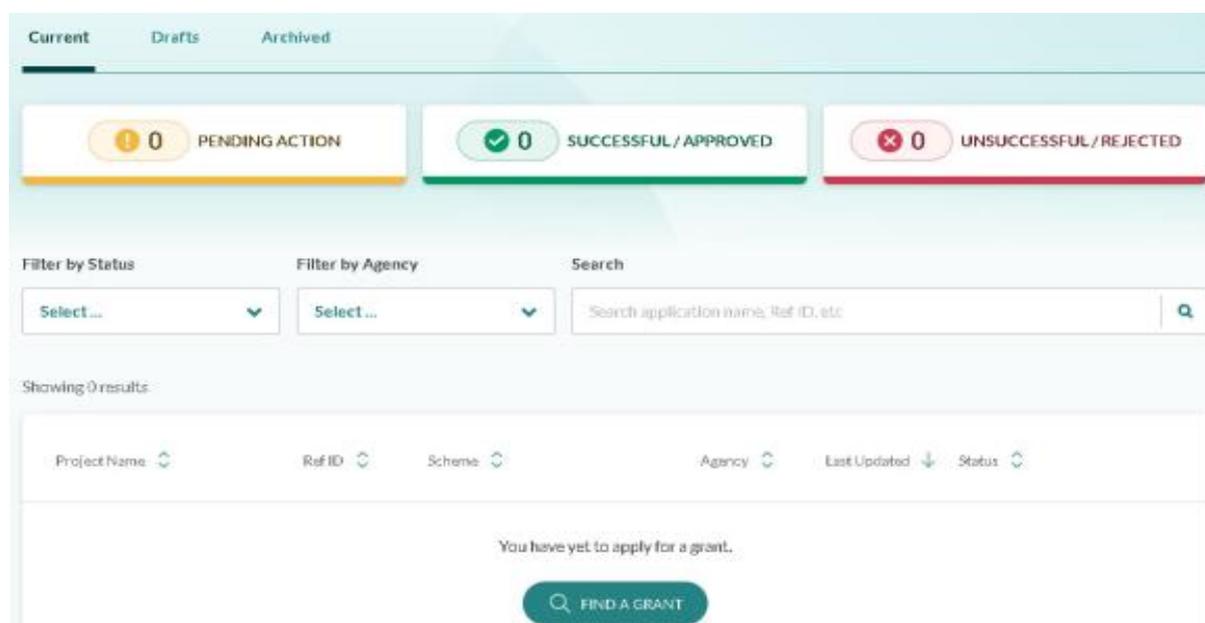
2-3-5. 助成申請と採択後の手続き

助成の申請

助成金の申請を希望する文化芸術団体は、NACのウェブサイトや、NACを含むさまざまな政府機関と連携したオンラインプラットフォームであるOur SG Grants portal (以下、OSG portal) を通じて募集要項を入手する¹¹⁸。助成枠組みは、例外を除いて全てOSG portalを通じてオンラインで申請をする。なお、OSG portalへのログインは、シンガポール国籍または永住権を保持する人であればSingpassと呼ばれるデジタル国民IDを利用して容易に行うことができるが、組織としてアカウントを作成する場合には企業向けの認証システムであるCorppassに登録する必要がある¹¹⁹。図表1-2-12は、OSG portalのログイン後のダッシュボード画面である。助成金申請についての質問や詳細については、メール (NAC_Feedback@nac.gov.sg) でNACに問い合わせることが可能で、NACの職員は申請者が申請プロセスを十分に理解できるよう支援や説明を行う。

なお、体系的かつ効率的な申請プロセスを確保するため、NACは助成サイクルの期日を定めている。「発表・参加 Grant (EP/アルバム以外)」、「アーツファンド」、「市場・観客育成 Grant」、「能力開発 Grant」は年3回、「発表・参加 Grant (EP/アルバムの場合)」、「創造 Grant」、「制作 Grant」、「調査研究 Grant」は年1回申請を受け付けている。

図表1-2-12 OSG portalダッシュボード画面



出典: Our SG Grants portal ¹²⁰より

¹¹⁸ <https://oursgrants.gov.sg/>

¹¹⁹ https://www.corppass.gov.sg/cpauth/login/homepage?TAM_OP=login&URL=%2F

¹²⁰ <https://oursgrants.gov.sg/dashboard> (OSG portal 内ログイン後画面)

「発表・参加 Grant」や「創造 Grant」の場合、申請者は、OSG portal内の申請フォームを通じて以下の情報と資料を提供する必要がある。図表1-2-13に「発表・参加 Grant」の申請フォーム画面を示す。

- 提案書テンプレート：OSG portal内でダウンロード可能で、申請者はプロジェクトのコンセプト、目的、実施計画、期待される成果などを入力する。図表1-2-14に「発表・参加 Grant」の、図表1-2-15に「創造 Grant」の提案書テンプレートを示す。
- 予算テンプレート：OSG portal内でダウンロード可能で、申請者はプロジェクトの必要資金の詳細な内訳を提示する。責任ある資金計画を示すためには、明確で現実的な予算を示すことが極めて重要である。図表1-2-16に「発表・参加 Grant」の、図表1-2-17に「創造 Grant」の予算テンプレートを示す。
- 主要関係者の履歴書：申請者は、主体申請者・共同研究者・チームメンバーなど、プロジェクトに関わる全ての主要関係者の履歴書を提出する必要がある。履歴書では申請者の資格と能力を証明するために、関連する芸術的業績と経験を強調することが求められる。
- 過去の作品サンプル：過去の芸術作品のサンプルを最低2点添付する必要がある。審査委員会にとって、申請者の芸術的スタイル・スキル・過去の業績についての情報源となる。
- 提案作品の作品サンプル：台本・録音・映像など、提案されたプロジェクトの作業サンプルを提出する必要がある。EP/アルバムの場合はデモ音源3つの提出が求められる。これらの作品サンプルは、審査委員会に対してプロジェクトの可能性と助成金の目的との整合性を示すものである。
- 「発表・参加 Grant」において、自営業である場合、その証拠となる書類を提出する必要がある。

図表1-2-13 OSG portal内の「発表・参加グラント」申請フォーム

NATIONAL ARTS COUNCIL

PRESENTATION & PARTICIPATION

INSTRUCTIONS

About this grant

The Presentation and Participation Grant aims to enable a wide range of arts practitioners and organisations to express and enrich our artistic diversity, as well as increase arts appreciation and participation in Singapore.

To ensure this is the right grant for your project, download the grant guidelines from this [page](#).

How to apply?

Completing the grant application should take about 30 mins with all the information on hand. All fields are mandatory unless otherwise stated.

↓ DOCUMENTS REQUIRED FOR APPLICATION

- [PnP_Project_Proposal_V3 \(PDF 2.01 MB\)](#)
- [\(28102021\) PnP_Budget_Proposal \(XLSX 208 KB\)](#)
- [NAC_Collective_Profile_V1 \(PDF 243 KB\)](#) (if you are applying on behalf of a collective)

Additional documents you may need to submit:

- CV of key parties involved (e.g. producer, cast members, designers, stage manager etc)
- Samples of work (for first time applicants, or if requested by NAC)
- For Theatre and Literary Arts projects, including Festivals, the submission of complete scripts/manuscripts is required upon application
- For conferences, the detailed programme (i.e. list of speakers and topics of discussion) is required as part of the application
- For SEP applicants, proof of Self-Employed status (copy of latest CPF Statement or latest Consolidated Statement of Income submitted to IRAS, reflecting self-contributions from yourself)

All files attached to the application must not exceed 25MB in total.

APPLY NOW

NATIONAL ARTS COUNCIL
PRESENTATION & PARTICIPATION

CHECK YOUR ELIGIBILITY

1. Are you:

- an individual who is a Singapore Citizen or Permanent Resident, or
- a representative of an informal group or collective with a majority of members who are Singapore Citizens or Permanent Residents?

Yes No

2. Are you applying on behalf of a collective that is constituted for religious purposes? 

Yes No

3. Are you proposing a project that:

• has already started 

SUBMIT YOUR PROPOSAL

PROJECT DETAILS

Project Category

Select category... 

Project Name/Title

Project Summary/Description

Briefly describe your project

2000 characters left

Start Date 

 eg. 01 Feb 2024

End Date 

 eg. 01 Feb 2024

Venue (if Any)

Project Team Size [?]

Partners/Collaborators (If Any)

250 characters left

Are you a Self-Employed Person (SEP)? Yes No

No. of SEPs involved [?]

OBJECTIVES

What are the project's objectives?

Describe how your project contributes to the local arts scene and/or engages your target audience. (e.g. generate greater awareness and appreciation of your practice/art form, involve the public in the creation process)

4000 characters left

How do you plan to achieve your objectives?

Describe how you intend to publicise the work and attract your target audience, including:
 (a) The profile of your target audience and how you intend to reach them
 (b) Marketing and publicity plans

4000 characters left

How will you measure the outcomes of your project?

SUPPORTING DOCUMENTS

Upload the following documents

- Completed [PnP_Project_Proposal_V3 \(PDF 2.01 MB\)](#)
- Completed [NAC_Collective_Profile_V1 \(PDF 243 KB\)](#)
- CV of key parties involved (e.g. producer, cast members, designers, stage manager etc)
- Samples of work (for first time applicants, or if requested by NAC)
- For Theatre and Literary Arts projects, including Festivals, the submission of complete scripts/manuscripts is required upon application
- For conferences, the detailed programme (i.e. list of speakers and topics of discussion) is required as part of the application
- For SEP applicants, proof of Self-Employed status (copy of latest CPF Statement or latest Consolidated Statement of Income submitted to IRAS, reflecting self-contributions from yourself)



Drag and drop files here
or



Only jpg, jpeg, png, gif, zip, doc, docx, ppt, pptx, pdf, xls, xlsx files supported.
Each file cannot exceed 10 MB. Any special characters in your file name will be removed.
All files attached to the application must not exceed 25MB in total.

Additional Comments (If Any)

Include additional comments or links to supporting documents, if any

250 characters left

出典: Our SG Grants portal ¹²¹より

設問により、図表1-2-13に示したようなOSG portal内の申請フォームに直接書き込む項目と、別途ファイルを作成の上、OSG portal内でアップロードする必要のある項目がある。アップロードファイルの代表的なものは、図表1-2-14から図表1-2-17に示すような提案書テンプレートや予算テンプレートである。本報告書では、提出される全ての情報や資料をまとめて「申請書」とする。

¹²¹ <https://oursggrants.gov.sg/grants/pnp/instruction> (OSG portal 内ログイン後画面)

図表1-2-14 「発表・参加グラント」提案書テンプレート(プロジェクト詳細とガイドライン)

PRESENTATION AND PARTICIPATION
PROJECT PROPOSAL

NATIONAL ARTS COUNCIL
SINGAPORE

Type in:

PROJECT DETAILS

For publishing grant, apply for P&P (Publishing). For EP(album), apply for P&P (EP).

1. Select your project type and provide the relevant project details
You may select as many project types as required.

Performance / Presentation

No. of live performances:

No. of livestreamed performances:

No. of digital presentations (excluding livestreaming):

Performance / Presentation dates: (DD/MM/YY)

Performance / Presentation timings: e.g. 8:30 pm – 10:00 pm

Ticket price(s):

Venue seating capacity (if relevant):

Exhibition

No. of exhibition days:

Ticket price(s):

Venue capacity (if relevant):

Other

No. of physical / live activities:
E.g. no. of workshops

No. of activities Conducted digitally:
E.g. no. of workshops

Ticket price(s):

Venue capacity (if relevant):

2. No. of new works created through this project

3. For projects with digital presentation components, how do you ensure that you do not infringe the Intellectual Property (IP) rights of others in the creation and dissemination of this work?

- What IP rights are involved in your project (e.g. copyrighted music to accompany an original dance choreography; performer rights to the video recording of a music performance)?
- Who owns the various IP rights?
- How do you intend to obtain the IP rights for the creation and dissemination of this work?

Last Updated 28 Aug 2023
It's best to use Adobe Acrobat Reader to fill in this form. Other PDF readers might not support all the functionalities required.

PRESENTATION AND PARTICIPATION
PROJECT PROPOSAL

NATIONAL ARTS COUNCIL
SINGAPORE

KEY TEAM MEMBER DETAILS

Who are the key personnel involved?

- Who are the artists and other main people involved in your project?
- Who are the partners and platforms you plan to collaborate with?
- What will they contribute to the execution of your project?

Name	Role	Remarks

Last Updated 28 Aug 2023
It's best to use Adobe Acrobat Reader to fill in this form. Other PDF readers might not support all the functionalities required.

出典: Our SG Grants portal¹²²より

¹²² <https://oursggrants.gov.sg/grants/pnp/instruction> (OSG portal 内ログイン後画面)

図表1-2-15 「創造 Grant」提案書テンプレート(プロジェクト詳細とガイドライン)

The form is titled 'CREATION GRANT PROJECT DETAILS AND GUIDELINES'. It is divided into two main sections: 'PROJECT DETAILS' and 'KEY TEAM MEMBER DETAILS'.
 The 'PROJECT DETAILS' section includes:
 1. Select your project type and provide the relevant project details. You may select as many project types as required.
 - Performance: No. of performances, Performance dates (DD/MM/YY), Performance times (e.g. 8:30 am – 10:00 am), Ticket price(s), Venue seating capacity.
 - Exhibition: No. of exhibition days, Venue capacity.
 - Other: No. of activities (e.g. no. of workshops), Venue capacity.
 2. No. of new works created through this project.
 The 'KEY TEAM MEMBER DETAILS' section asks 'Who are the key personnel involved?' and lists three bullet points: 'Who are the artists and other main people involved in your project?', 'Who are the partners and platforms you plan to collaborate with?', and 'What will they contribute to the execution of your project?'. Below this is a table with columns for Name, Role, and Remarks, and an 'Add Members' button at the bottom right.

出典: NACウェブサイト¹²³より

図表1-2-16 「発表・参加 Grant」予算テンプレート

The form is titled 'BUDGET'. It is divided into two main sections: 'PRESENTATION AND PARTICIPATION' and 'BUDGET'.
 The 'PRESENTATION AND PARTICIPATION' section includes:
 1. Budget presentation has been prepared to allow greater flexibility in managing the budget you will need to undertake during your project life to budget. To complete the summary of key cost and income items, you are encouraged to provide details on every number also projected figure in the 'budget' column.
 2. To help you in writing and your budget, we have provided a 'budget' column supporting the common expenditure items as listed for the estimate your performance estimate if you have your budget items not address in the budget sheet. You may also use this column to indicate the budget items you will use in the budget.
 3. Upload the completed budget proposal for the Supporting Documents section of the Budget Details page.
 4. When your programme committee you will no longer to update the spreadsheet by clicking the 'Submit (NAC)' button with your usual spreadsheet. The 'Submit (NAC)' button will be disabled and will indicate the budget proposal has been submitted. Please indicate under the 'Remarks' column the reason for the change. [Learn more about our budget proposal submission process at the end of the page.](#)
 The 'BUDGET' section includes:
 - SUPPORT DOCUMENTS: Upload the following documents: Completed budget proposal, Other relevant documents (if any).
 - BUDGET TABLE: A table with columns for Organisation, Project PDB, Total (NAC), and Balance (NAC). Rows include Project Personnel, Administrative Personnel, Technical, Production and Design Personnel, Other Project Costs, and Materials. A 'TOTAL EXPENDITURE' row is at the bottom.
 - BUDGET Reference Sheet: A button to download the reference sheet.

出典: NACウェブサイト¹²⁴より

¹²³ https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/creationgrant/cg_project_details_and_guidelines_v1.pdf
¹²⁴ [https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/creationgrant/\(28102021\)-cg_budget_proposal_wef-28-oct-2021.xlsx](https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/creationgrant/(28102021)-cg_budget_proposal_wef-28-oct-2021.xlsx)

図表1-2-17 「創造 Grant」予算テンプレート

CREATION GRANT		2. PROJECTED EXPENDITURE			
BUDGET		Proposed (2021)	Actual (2021)	Variance (21)	Remarks
3. BUDGET DETAILS		Expenditure			
Total Project		0	- 0	-	NSD(1)
		0	- 0	-	NSD(2)
		0	- 0	-	NSD(3)
		0	- 0	-	NSD(4)
		0	- 0	-	NSD(5)
		0	- 0	-	NSD(6)
		0	- 0	-	NSD(7)
		0	- 0	-	NSD(8)
		0	- 0	-	NSD(9)
		0	- 0	-	NSD(10)
		0	- 0	-	NSD(11)
		0	- 0	-	NSD(12)
		0	- 0	-	NSD(13)
		0	- 0	-	NSD(14)
		0	- 0	-	NSD(15)
		0	- 0	-	NSD(16)
		0	- 0	-	NSD(17)
		0	- 0	-	NSD(18)
		0	- 0	-	NSD(19)
		0	- 0	-	NSD(20)
		0	- 0	-	NSD(21)
		0	- 0	-	NSD(22)
		0	- 0	-	NSD(23)
		0	- 0	-	NSD(24)
		0	- 0	-	NSD(25)
		0	- 0	-	NSD(26)
		0	- 0	-	NSD(27)
		0	- 0	-	NSD(28)
		0	- 0	-	NSD(29)
		0	- 0	-	NSD(30)
		0	- 0	-	NSD(31)
		0	- 0	-	NSD(32)
		0	- 0	-	NSD(33)
		0	- 0	-	NSD(34)
		0	- 0	-	NSD(35)
		0	- 0	-	NSD(36)
		0	- 0	-	NSD(37)
		0	- 0	-	NSD(38)
		0	- 0	-	NSD(39)
		0	- 0	-	NSD(40)
		0	- 0	-	NSD(41)
		0	- 0	-	NSD(42)
		0	- 0	-	NSD(43)
		0	- 0	-	NSD(44)
		0	- 0	-	NSD(45)
		0	- 0	-	NSD(46)
		0	- 0	-	NSD(47)
		0	- 0	-	NSD(48)
		0	- 0	-	NSD(49)
		0	- 0	-	NSD(50)
		0	- 0	-	NSD(51)
		0	- 0	-	NSD(52)
		0	- 0	-	NSD(53)
		0	- 0	-	NSD(54)
		0	- 0	-	NSD(55)
		0	- 0	-	NSD(56)
		0	- 0	-	NSD(57)
		0	- 0	-	NSD(58)
		0	- 0	-	NSD(59)
		0	- 0	-	NSD(60)
		0	- 0	-	NSD(61)
		0	- 0	-	NSD(62)
		0	- 0	-	NSD(63)
		0	- 0	-	NSD(64)
		0	- 0	-	NSD(65)
		0	- 0	-	NSD(66)
		0	- 0	-	NSD(67)
		0	- 0	-	NSD(68)
		0	- 0	-	NSD(69)
		0	- 0	-	NSD(70)
		0	- 0	-	NSD(71)
		0	- 0	-	NSD(72)
		0	- 0	-	NSD(73)
		0	- 0	-	NSD(74)
		0	- 0	-	NSD(75)
		0	- 0	-	NSD(76)
		0	- 0	-	NSD(77)
		0	- 0	-	NSD(78)
		0	- 0	-	NSD(79)
		0	- 0	-	NSD(80)
		0	- 0	-	NSD(81)
		0	- 0	-	NSD(82)
		0	- 0	-	NSD(83)
		0	- 0	-	NSD(84)
		0	- 0	-	NSD(85)
		0	- 0	-	NSD(86)
		0	- 0	-	NSD(87)
		0	- 0	-	NSD(88)
		0	- 0	-	NSD(89)
		0	- 0	-	NSD(90)
		0	- 0	-	NSD(91)
		0	- 0	-	NSD(92)
		0	- 0	-	NSD(93)
		0	- 0	-	NSD(94)
		0	- 0	-	NSD(95)
		0	- 0	-	NSD(96)
		0	- 0	-	NSD(97)
		0	- 0	-	NSD(98)
		0	- 0	-	NSD(99)
		0	- 0	-	NSD(100)

出典: NACウェブサイト¹²⁵より

¹²⁵ [https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/creationgrant/\(28102021\)-cg_budget_proposal_wef-28-oct-2021.xlsx](https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/creationgrant/(28102021)-cg_budget_proposal_wef-28-oct-2021.xlsx)
¹²⁶ NAC へのヒアリングより

審査と採択の決定

申請書は、多くの場合、NACの内部チームによって審査されるが、プロジェクトの特性によっては外部の審査員の意見を取り入れる場合がある。外部の審査員は、さまざまな芸術領域または言語などの専門家で構成される。

審査は提出された申請書に基づいて、定性的な審査と定量的な審査が行われる。「発表・参加グラント」、「創造グラント」の採択基準と各項目の配分は図表1-2-18、図表1-2-19の通りである。

図表1-2-18 「発表・参加グラント」の採択基準

採 択 基 準	配 分 (%)
<u>プロジェクトの芸術的な強み</u> <ul style="list-style-type: none">•コンセプトがよく練られ、計画されているか•独創的、革新的、創造的なプロジェクトか•シンガポールでの新しい活動を奨励、促進しているか	40
<u>一般市民の参加</u> <ul style="list-style-type: none">•申請者のターゲットとする観客／コミュニティの関与を促しているか•普段芸術に関わらない人々を含む、新たな観客へのリーチを可能にしているか•実践や芸術形態に対する認識や評価を高めているか•一般の人々を芸術創造プロセスに巻き込んでいるか(該当する場合)	40
<u>申請者のプロジェクト遂行能力とコミットメント</u> <ul style="list-style-type: none">•プロジェクトを実施するための明確かつ健全な計画を有しているか(例:リソース、パートナー)•プロジェクトを実施するために必要な経験を持っているか(例:芸術的専門知識、制作、プロジェクト管理、マーケティング)•プロジェクトの財政や管理運営について十分な知識と技能を有しているか	20

出典: NAC「P&P Grant Guidelines」¹²⁷よりNRI翻訳

¹²⁷ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/presentation-andparticipation-grant/p-p-guidelines.pdf> (P8~9)

図表1-2-19 「創造グラント」の採択基準

採 択 基 準	配 分 (%)
<p><u>提案の芸術的メリット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> •斬新なアイデアを取り入れた革新性なプロジェクトか •アイデアが社会的文脈において妥当であるか •芸術の限界を突破し、観客に豊かな体験をもたらす可能性を持つか •プロジェクトが芸術家の活動や観客など文化芸術分野の仕組みに大きな影響を与えるか •芸術形態や文化芸術分野の発展に大きく貢献するか、芸術的または能力的なギャップに取り組んでいるか 	60
<p><u>プロジェクトを実行し、世に送り出す能力</u></p> <ul style="list-style-type: none"> •国内外の文化芸術分野における過去の実績や高い評価など、申請者が芸術的実績を持つか •予算内・期限内に作品を完成させるために必要なリソースを考慮した計画、マネジメント能力を持つか •プロジェクトの創作から一般公開までの専門知識・能力を持つか •制作した作品の一般公開についての明確な計画(ターゲットとする観客を巻き込み、シンガポールにおける芸術形態の認知度を高めるための綿密なマーケティング戦略など)があるか 	25
<p><u>申請者の芸術的成長と芸術への将来的な貢献の観点での提案の可能性</u></p> <ul style="list-style-type: none"> •国際的な舞台でシンガポールや芸術家を紹介する、他の方法では不可能であったコラボレーションを可能にするなど、プロジェクトが申請者の可能性を発展させるかどうか •シンガポールの文化芸術分野の将来的な発展に貢献できそうか 	15

出典：NAC「Creation Grant 2023 Guidelines」¹²⁸よりNRI翻訳

NACは、申請者に対して特定の提案についてさらなる情報や説明を求めることもある。このような場合、申請者は、OSG portalを通じてメールで通知を受け取る。

なお、Tote Boardの助成金である「アーツファンド」に関しては、「アーツファンド委員会」が採択審査を行っている。アーツファンド委員会は、NACの代表者1名を除き、全てNAC外部の専門家によって構成されており、2023年度は10名が任命されている。任期は2年間である。外部の専門家は、文化芸術分野における専門家や芸術関連事務の経験が豊富な専門家で構成され、業界からの意見を取り入れながらNACが任命する¹²⁹。

助成金の採択が決定すると、OSG portalを通じて補助金の条件と合意した成果内容を含む採択通知書が届く。申請者は2週間以内に、この通知を受領した旨と決定した助成金を受け取る旨をNACに連絡する必要がある。

申請が採択された団体には、NAC職員の中から各被助成団体との連絡を担当するアカウントマネージャーが任命される。アカウントマネージャーの役割のひとつは、被助成団体の進捗状況を把握し、可能な限り作品のプロモーションを支援するために、被助成団体と継続的にコミュニケーションをとることである¹³⁰。

¹²⁸ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/cgpg/creation-grant-2023-guidelines.pdf> (P7)

¹²⁹ NAC へのヒアリングより

¹³⁰ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/presentation-andparticipation-grant/p-p-guidelines.pdf> (P9)

2-3-6.助成事業実施中の手続き

助成金の支払い

助成金は、助成金額の合計に応じてマイルストーンの完了が確認された後に分割で支給される。「発表・参加 Grant」の場合、助成金額がS\$2万（約224万円）未満の場合は2分割、S\$2万（約224万円）以上の場合は3分割となる¹³¹。支払いは、交付決定者が指定した銀行口座に振り込まれる。図表1-2-20は、支払いスケジュールをまとめたものである。

図表1-2-20 「発表・参加 Grant」支払いスケジュール

※1シンガポールドル=112円

助成金額	第1回支払い	第2回支払い	第3回支払い
S\$2万（約224万円）未満	助成金の交付決定と同時に、補助金総額の80%	プロジェクト完了時（自己評価報告書・財務報告書提出後）に20%	
S\$2万（約224万円）以上	助成金の交付決定と同時に、補助金総額の50%	プロジェクト完了時（申請者の申告による）に30%	自己評価報告書・認証済み決算報告書提出後に20%

出典：NAC「P&P Grant Guidelines」¹³²よりNRI作成

変更管理を含む助成期間中のコミュニケーション

被助成団体とアカウントマネージャーのコミュニケーションは主にメールを通じて行われる。後述する中間報告書の提出以外には特定の頻度が設定されているわけではなく、プロジェクトによってその頻度は大きく異なる。また、被助成団体によっては、担当のアカウントマネージャーの理解を得ることを目的として、プロジェクトの初期や、新しいアカウントマネージャーが任命された際に、対面にて会話する機会を積極的に設ける場合もあり、NACはそれに応じている¹³³。

助成期間中にプロジェクトに変更が生じた場合は、アカウントマネージャーと相談の上、必要に応じてOSG portal上の情報を変更する。通常は、被助成団体にはOSG portal上の情報の変更権限はなく、アカウントマネージャーによって権限が付与される。被助成団体によるOSG portal上の変更が完了した後、変更はアカウントマネージャーによって承認される必要がある。この承認をもって、正式に変更が受理されたとみなされる¹³⁴。

¹³¹「創造 Grant」は具体的な金額の基準や分割回数が公開されていないため、「発表・参加 Grant」のみ記載している

¹³² <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/presentation-and-participation-grant/p-p-guidelines.pdf> (P9)

¹³³ 複数カンパニーへのヒアリングより

¹³⁴ https://oursggrants.gov.sg/faq/Post-Application/Project_Changes/

中間報告書の提出

「創造グラント」の場合、被助成団体は、モニタリングと評価のためOSG portalを通じて、最低1回の中間報告書を提出する必要がある¹³⁵。また、各被助成団体はアカウントマネージャーを通じて助成事業や戦略の問題点や課題をフィードバックする機会があり、それらはNACを通じてMCCYへ、そして最終的には財務省へと伝えられ、将来の予算案へと反映される。このようなコミュニケーションは随時行われる¹³⁶。

中間報告書では、プロジェクトの進捗状況と今後の計画を示す必要がある。進捗状況としては、完了したタスクや活動、マイルストーン、直面した課題について記載する。また、今後の計画の欄には、特に変更が見込まれる場合に、その詳細やタイムラインを記載する。また、該当する場合は海外における活動の詳細についても記載する。例として、図表1-2-21に「創造グラント」の中間報告書のテンプレートを示す。

図表1-2-21 「創造グラント」中間報告書

CREATION GRANT MID-TERM STATUS REPORT

Date of Submission Click or tap to enter a date. **Report Type: Status Report** Select Status Report Number

Applicant Name **Name of Collaborators (if any)**

Project Title **Conclusions****
 Project progressing according to plan.
 Some manageable issues; delay expected.
 Discussions with the Council required for serious issues.

*Delete where inapplicable
 ** Please indicate

DESCRIPTION OF PROJECT PROGRESS TO-DATE
 Based on the project progress, please update the following sections:

Creation Process	Status	Start & End Date
Briefly update on the development of your project. This includes key activities and milestones. Do also share any challenges you have encountered.	For each milestone, indicate if development is: (i) According to plan or (ii) Ahead plan (iii) Behind plan	

Travel Research (if applicable) **Expected Outcomes** **Start & End Date**

Page 2 of 3

In this section, please update on your travel itinerary; the reasons for undertaking the travel and the outcomes (if any).

For the next Status Report (if applicable) Work Plan Schedule	Expected Outcomes	Proposed Start & End Date
In this section, briefly update on the further development of your project in the coming months. Please indicate and explain changes to your proposed work, timeline, time-allocation etc.		

For official use:
 Account Manager's Name & Date: _____
 Comments: _____

出典：NACウェブサイト¹³⁷より

¹³⁵ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/cgpg/creation-grant-2024-guidelines.pdf> (P8)

¹³⁶ NAC へのヒアリングより

¹³⁷ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/creation-grant/creationgrant-mid-term-status-report.docx>

2-3-7. 助成事業終了後の手続き

プロジェクトの完了、自己評価報告書と財務報告書の提出

プロジェクト完了後、被助成団体は2ヶ月以内に最終的な「自己評価報告書」と「財務報告書」を提出しなければならない。被助成団体はOSG portalにアクセスし、これらの書類を提出する。

自己評価報告書は、完了したプロジェクトに対する評価と反省を共有するためのものであり、プロジェクトの性質に合わせて成果に関連する具体的な情報を提供することが求められる。例えば、公演や展覧会の場合は、実際の開催回数、総入場者数、チケット販売数、収容人数、新作の制作数、ボランティアの動員数などを報告しなければならない。デジタル要素を含むプロジェクトについては、ウェブサイトやモバイルアプリでのリーチ数、ソーシャルメディアやオーディオビデオプラットフォームでのリーチ数、ソーシャルメディアプラットフォームでのエンゲージメント、投稿されたコンテンツ総数など、主要なデジタル指標を追跡・報告することが求められる。加えて、芸術的な目標の達成度、プロセス、外部との協議、市民参加、創作後の計画、助成金へのフィードバックなどに関する質問が並んでいる¹³⁸。自己評価報告書を通じた被助成団体からのフィードバックは、NAC内部で管理され、今後の戦略策定や助成枠組みの見直しなどに利用される¹³⁹。

図表1-2-22、図表1-2-23に、「発表・参加 Grant」、「創造 Grant」の自己評価報告書のテンプレートを示している。

図表1-2-22 「発表・参加 Grant」自己評価報告書

Annex A:



Presentation & Participation Grant Self-Evaluation Report

Date of Submission	
Applicant Name	Project Title
Venue(s)	Project Dates: Start / End

When your project is completed, we would like you to share your evaluation and reflections on your project with us. Please attach any

- Photos / recordings
- Any publicity material used
- Media clippings / press reviews, if available on your project with us.

For Performances / Exhibitions	Actual
Number of Performances / Exhibition Days	
Total Attendance	
Number of Tickets Sold (if applicable)	
Percentage House (if applicable)	
Number of New Works created (if applicable)	
Number of SEPs involved	
Number of volunteers engaged (if applicable)	
For EPs / Publication projects, including catalogues for exhibitions	Actual
Number of Copies produced	
Number of Copies sold	
Number of New Works created (if applicable)	
Number of SEPs involved	
Number of volunteers engaged (if applicable)	
For Other Types of Projects including Community Participation Projects	Actual
Number of Activities ¹	
Total Attendance	
Total number of Participants	
Number of Tickets Sold (if applicable)	
Number of New Works created (if applicable)	
Number of SEPs involved	
Number of volunteers engaged (if applicable)	

¹ If you are organising a 5-day conference, it is considered 1 activity. If you are organising a Festival, please break it up into the different performances/exhibitions and report them under the Presentations/ Exhibitions.

Page 11 of 22

Digital indicators for projects involving digital elements

Please see **Annex A1** for guidance on the following digital indicators. Please report the figures that are relevant for your project.

Key Digital Indicators	Actual
A. Reach on Websites/Mobile Application	
B. Reach on Social Media & Audio-Video Platforms	
i. Social Media (including video conferencing platforms, e.g. Zoom attendees)	
ii. Video Platforms	
iii. Audio Platforms	
C. Engagement on Social Media Platforms	
i. Total sum of reactions (including likes), shares, comments	
ii. Engagement Rate (i.e. divide by B-iii)	
D. Total no. of pieces of content published/posted	
i. Unique number of content	
ii. E-publications (Published)	
iii. E-publications (Self-learn/low-coded)	
iv. Number of pieces of content by language (if applicable)	<input type="checkbox"/> English () <input type="checkbox"/> Chinese / Dialects () <input type="checkbox"/> Malay () <input type="checkbox"/> Tamil / Non-Tamil Indian Languages () <input type="checkbox"/> Multi-lingual () <input type="checkbox"/> N.A.
Total Digital Reach (A + B)	
Total Digital Consumption (A + Bii + Dii + Diii)	

We would like to hear your reflections on your overall project experience. You may use the following questions as a guide.

Reflections

Please share with us your experiences in putting together this project:

- Did your project go as planned? Highlight key changes to your project (if any).
- How do you think your project has contributed to your development as an artist, and to the larger arts scene?
- What was your audience / participant profile like and how was their response to your work?
- What challenges did you meet along the way, and how did you overcome them?
- What would you have done differently with this project on hindsight?

Feedback on the Grant

- Are there any areas in which NAC can do better to support your project?

Page 12 of 22

出典: NAC「P&P Grant Guidelines」¹⁴⁰より

¹³⁸ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/cgpg/creation-grant-2023-guidelines.pdf> (P11)

¹³⁹ NAC へのヒアリングより

¹⁴⁰ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/presentation-andparticipation-grant/p-p-guidelines.pdf> (P9)

図表1-2-23 「創造 Grant」自己評価報告書

The image shows a detailed self-evaluation report form for a 'Creation Grant'. It includes sections for:

- Applicant Information:** Name, Project Title, Start/End dates.
- Performance/Exhibitions:** Tables for total audience, tickets sold, and new works created.
- Block Publishing:** Tables for copies sold, new works created, and audience engagement.
- Other Activities (e.g., Conferences):** Tables for participants, tickets sold, and audience engagement.
- International Activities:** Tables for cities visited, tickets sold, and audience engagement.
- Digital Indicators:** A table for social media, video, audio, and engagement metrics.
- Artistic Process:** Qualitative questions about achieving goals, challenges, and feedback.

出典: NACウェブサイト¹⁴¹より

財務報告書には、申請時に提出した予算と比較した実際の収支を反映させる。なお、S\$1万(約112万円)以上の助成の場合、シンガポール勅許会計士協会 (Institute of Singapore Chartered Accountants) または同等の国際機関に登録された会計士によって証明された財務諸表を提出する必要がある。この際、会計士がシンガポール勅許会計士協会または同様の国際機関に登録していることを証明する書類も添付する。

NACから被助成団体に対する最終報告時のフィードバックは、被助成団体よりリクエストがあった場合またはプロジェクトの質に問題があった場合に行われる。さらに、被助成団体に対しては、プロジェクト完了時または芸術作品の発表時・公演時に、芸術界で著名な人物による、成果物の評価やプロジェクトの質に関する洞察が提供される。これは、助成金が適切かつ効果的に使用されているかどうかを判断することを主な目的としている¹⁴²。

NACや被助成団体とは独立した各芸術領域の専門家から意見を収集するという観点では、カナダやオーストラリアにおける「ピア評価」にも似ているが、採択審査時ではなく発表・公演などの最終成果物をもってその評価を行っている点が、シンガポールの特徴とも言える。

¹⁴¹ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/cgpg/creation-grant-2023-evaluation-report.docx>

¹⁴² NAC、複数カンパニーへのヒアリングより

2-4. ナショナルアーツカウンシルと文化芸術団体の関係

2-4-1. 助成を通じた被助成団体との相互関係

被助成団体とコンタクトを取るのは「アカウントマネージャー」の役割である。被助成団体に提供される助成金を監督・管理するために任命されており、助成金の管理とガバナンスの観点からアドバイスを行うことで、プロセスの円滑化に向けたサポートを行い、管理上の要件を確実に遵守する。なお、芸術的な方向性などに関するアドバイスは通常行われない。芸術的な方向性に関しては、被助成団体は通常、それぞれの芸術領域における外部の指導者やアドバイザーに頼ることになる。アカウントマネージャーは1つの被助成団体につき1名が任命され、各被助成団体は、あらゆる内容について同じ担当者に連絡をすることが可能である¹⁴³。

多くの被助成団体は、NACが自身の活動に対する重要性を理解しており、協力的な姿勢での対応を受けることができているという印象を持っている。アカウントマネージャーを通じたワーキングレベルでのコミュニケーションに加え、特に大きな被助成団体はNAC職員とさまざまなレベルでの公式的な関係と非公式的な関係を持っており、情報交換が盛んにおこなわれている。非公式な会話の多くは、各カンパニーの公演の時に最もよく見られる。NAC職員の他、カンパニーの職員も観客としてまたは審査員として各公演を鑑賞のために訪れる機会が多く、公演後などに対話する機会が生まれやすい¹⁴⁴。

2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係

NACは、助成金を提供・管理する役割と同時に、文化芸術団体の持続可能性や長期的な存続を支援する役割も持っている。被助成団体は、担当のアカウントマネージャーから、政府からの助成金なしで運営していくための方法、例えば他の資金調達の方法や寄付者の獲得方法などについて、アドバイスを受けることがある。これは、文化芸術分野に限らず、あらゆる団体に対して自立を促すシンガポール政府の方針とも合致している。

また、NACは、非金銭的な支援策として、芸術活動スペースやキャリア開発プログラムを提供している。ここでは、2つの非金銭的な支援プログラムについて記述する。

① 芸術インフラスキーム

シンガポールは人口に比して国土が狭いことから、芸術に使用できるスペースの確保が重要な課題となっている。スペースの制約に対処するためのさまざまなアプローチや機会の提供は総称として「芸術インフラスキーム」と呼ばれている。2010年には、盛んな文化芸術分野のニーズと芸術活動スペースに対する需要の高まりを支援するため、「芸術活動スペースのフレームワーク」が発表された。このフレームワークは、下記を目的とする¹⁴⁵。

- 成長し、多様化する文化芸術分野のニーズをよりよく支援する
- 文化芸術団体や芸術家が互いに協力し合える場所や仕組みを提供する
- 周辺コミュニティに芸術をもたらす

「芸術インフラスキーム」のうちの1つである「アートハウジングスキーム」は、政府の空きビルを活用して文化芸術団体に芸術活動スペースを提供するものである。NACは、シンガポール土地管理庁 (Singapore Land Authority: 以下、SLA) より空きビルや空きスペースを市場価格で賃貸する。それに対し、NACは財務省より同額を運営費の一部として受ける。これは、指定された42物件、総床面積23,775平方メートルのスペースに対するものとなっており、NACが物件を追加すると判断した場合も新たな助成金は提供されない。このようにしてNACが確保したスペースは、文化芸術団体に市場価格の10~20%ほどの賃貸料で貸し出されている¹⁴⁶。

なお、「芸術インフラスキーム」で提供されるスペースの実際の運営管理は、第4章「4-4. 芸術施設の概要」にて後述するArts House Ltd.を始めとする運営団体に任されている。

¹⁴³ NAC、複数カンパニーへのヒアリングより

¹⁴⁴ 複数カンパニーへのヒアリングより

¹⁴⁵ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/arts-infrastructure-schemes>

¹⁴⁶ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/support-files/funding-and-schemes/arts-infrastructure-sch2emes/review-of-nac-arts-housing-scheme.pdf> (P4)

② アーツリソースハブ(Arts Resource Hub)

「アーツリソースハブ」は、芸術に従事する個人事業主(SEP)が新たなチャンスをつかみ、有意義なキャリアを築けるよう支援するものとなっており、2017年から2018年にかけて、分野や慣習を超えた芸術コミュニティに所属する370名以上の個人と広範な協議を行った後、2019年に設立された。「アーツリソースハブ」は、コワーキングスペースを提供する他、資金計画やトレーニングプラットフォーム、レジデンス、キャリア開発に関わる情報、ネットワーキングイベントなどを提供する¹⁴⁷。

その他、NACは教育省との協力のもと、初等教育・中等教育を対象とした芸術プログラムを持っている。詳細については第2部第2章「2-1. シンガポールの文化芸術における周辺分野連携」にて後述する。

¹⁴⁷ <https://www.nac.gov.sg/support/arts-resource-hub/about-arts-resource-hub>

2-5. ナショナルアーツカウンシルによる調査研究とデータ

NACは、自身による調査研究を「芸術領域別の研究」、「コミュニティの関与」、「デジタルエンゲージメント」に分けて行っている他、毎年シンガポール文化統計を発行している¹⁴⁸。これらの調査研究は、外部に委託されることもある。これらの研究の多くは、芸術を生み出す側の芸術家ではなく、芸術を受容する側である一般市民の意識調査となっていることが特徴的である。

また、「2-4-1. 助成を通じた被助成団体との相互関係」で記述した通り、NACは助成金の1つとして「調査研究 Grant」を提供している。「調査研究 Grant」は、文化芸術分野における理解を深め、課題に取り組む上で重要な役割を担っている。この助成金は、学者、研究者、芸術家、非営利文化芸術団体が、最長2年間にわたる綿密な研究プロジェクトを実施するためのものである。この調査研究は、知識の収集だけでなく、伝統的なものからコミュニティベースのものまで、シンガポールのさまざまな芸術活動の保存と記録にも重点を置いている。個人、組織、団体からの申請を歓迎し、芸術活動の歴史や発展、芸術の社会的・経済的影響、芸術資金に影響を与える政策や慣行、教育など、幅広い分野での研究や記録を支援する。なお、NACは「調査研究 Grant」のもとで行われる調査研究を「芸術領域別の研究」、「コミュニティの関与」、「教育」に分けている¹⁴⁹。

2-5-1. 助成事業の改善に資するための調査研究と政策提言の実態

NACは、業界パートナー、文化芸術機関・団体、実務家、大学と協力し、芸術形態や観客層ごとにセグメント化した調査を実施している。調査研究は、政策やプログラムの開発を通じたシンガポールの文化芸術の形成状況を把握する上で重要な役割を果たしている。NACは、過去の積み重ねによる知見の活用を重視しており、定期的に業界データを集計し、「芸術に関する人口調査」や「文化芸術雇用調査」などを委託調査している。このような研究は、芸術がシンガポール国民に与える影響を明らかにし、文化芸術分野の現状について洞察するものである。また、カルチャーアカデミー (Culture Academy) のライブラリーでは、文化芸術分野に関する豊富な研究資料を提供している¹⁵⁰。図表1-2-24に、カルチャーアカデミー掲載資料の代表例とその概要を記述する。

図表1-2-24 カルチャーアカデミー掲載資料の例

資料名	概要
芸術に関する人口調査 (Population Survey On The Arts)	シンガポールの芸術状況をモニターする継続的な取り組みの一環として2009年から隔年で実施されている人口調査。シンガポール人が芸術をどのように捉えているか、また、文化芸術活動にどの程度関与しているかを追跡・把握することを目的としている。
文化的なつながり (Cultural Connections)	2016年より毎年発行されている刊行物。最新版は2022年に70ページほどにわたるVolume 7が発行されており、COVID-19の流行の影響からの脱出を背景にクリエイティブエコノミーと結束力のある住みやすい社会の構築という2つのテーマを通して、未来に向けて学び直すというテーマを探求している。
シンガポール文化統計 (Singapore Cultural Statistics)	2008年から毎年発行されている文化統計。文化芸術公演、遺産イベント、博物館展示、政府による文化セクターへの助成金についてのデータが含まれている。

出典：カルチャーアカデミーウェブサイト¹⁵¹よりNRI作成

¹⁴⁸ <https://www.nac.gov.sg/resources/research>

¹⁴⁹ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/research-grant/overview>

¹⁵⁰ <https://www.mccy.gov.sg/cultureacademy/resources>

¹⁵¹ <https://www.mccy.gov.sg/cultureacademy/researchandpublications>

2-5-2.国内における文化芸術活動や文化芸術団体などの実態に関する情報の収集・研究・評価方法

NACは、政策やプログラム開発のために、シンガポールの文化芸術の状況について実証的な証拠を集める調査研究を行っている。シンガポール人に対する芸術の影響や文化芸術分野の状況を理解するために、「芸術に関する人口調査」や「文化芸術雇用調査」などの業界データや委託調査を活用している。NACは、文化芸術機関・団体、実務家、大学と緊密に協力し、芸術形態や観客の属性ごとに区分した調査を実施している。

例えば「芸術に関する人口調査」は、2009年から隔年で実施されている。2021年の調査は民間調査会社のKantar Public社(現Verian社)に委託されており、約2,000名のシンガポール国籍または永住権保持者を対象に、訓練を受けたインタビュアーによって1件ずつインタビューが行われた¹⁵² ¹⁵³。

2-5-3.文化芸術活動に対する助成の波及効果の具体的な検証方法

「2-5-1. 助成事業の改善に資するための調査研究と政策提言の実態」でも前述した通り、NACは、調査研究を実施することで、新たな戦略策定の際に参考となる情報やデータの提供をしており、文化芸術分野の支援や発展に尽力している。具体的には、文化芸術分野の次期戦略計画の策定に取り組むとともに、「芸術に関する人口調査」の実施を継続している。この調査では、文化芸術の価値に対する国民の認識の変化や、エンゲージメントの程度、その動機や障壁を観察している。NACは、この調査を通じて、助成制度やその他の文化芸術活動の波及効果を把握することを目指している¹⁵⁴。

例えば、COVID-19の流行の際、NACは2019年の「芸術に関する人口調査」報告書を「パンデミックからの脱出(Emerging from The Pandemic)」と題して発表した。この報告書では、スタンフォード・ラッフルズ卿の来航200周年を記念したシンガポール200年祭がもたらした大きな波及効果をハイライトしている。このイベントはシンガポール人の芸術活動に大きな影響を与え、帰属意識やアイデンティティの向上につながった。調査対象者の82%が、芸術がこのつながりを育んだと認めており、これは2017年の78%と比べて4%上昇している。さらに、2019年の文化遺産関連イベントへの参加率は2017年の32%から40%に上昇し、芸術と遺産活動への関与が高まったことを示している¹⁵⁵。

この200周年記念イベントは、一生に1度しか経験できないようなユニークな機会ではあるが、一方で、この報告書では、このような歴史的な瞬間が、当面の祝賀期間以降もシンガポール人の芸術活動に永続的な影響を与えることができるのかという疑問についても投げかけている。NACは、引き続き文化芸術分野のニーズを理解し支援するために、調査とデータ分析を続けている。

¹⁵² <https://www.veriangroup.com/press-release/kantar-public-rebrands-globally-to-become-verian>

¹⁵³ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/resources-files/research/population-survey-on-thearts/population-survey-on-the-arts-2021.pdf> (P10)

¹⁵⁴ <https://www.nac.gov.sg/resources/research/population-survey--on-the-arts/overview-of-populationsurvey-on-the-arts>

¹⁵⁵ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/resources-files/research/digital-engagement/emerging-fromthe-pandemic.pdf> (P5)



第1部
第3章

国家遺産局の文化芸術助成

本章では国家遺産局(NHB)の概要・助成・調査研究について、加えてMCCYやNACとの関係、文化芸術団体との関係も記述する。NACと異なり、対象が文化芸術ではなく遺産であるため、本調査報告書では、中でも無形文化遺産など、文化芸術に関係する部分に注目して記載している。なお、シンガポールにおける「遺産」の考え方は広い意味を持っており、いわゆる歴史的遺産のみならず、将来的に遺産になっていくと考えられる生活文化も含まれることが多い。

3-1. 国家遺産局の概要

NHBは、教育・国家建設・文化理解を目的として、多様なコミュニティが共有する遺産を保存し扱っている。NHBは、国立の博物館やその他遺産機関を管理し、遺産・国定記念物・国のコレクションについての政策を策定している。また、国のコレクションを通じた遺産プログラムや展覧会のキュレーションを企画し、現在と将来の世代のためにシンガポールの豊かな文化遺産を積極的に保護・促進している。

NHBのビジョンは「過去に誇りを、未来に遺産を(Pride in our Past, Legacy for our Future)」であり、シンガポールの人々がシンガポールの歴史を知り、理解し、共有する未来に向けて遺産を保存することを大切にしている。

NHBの主な活動は以下の4つである。

- 遺産の探索と展示:先祖代々の文化や東南アジア・アジア・国際社会とのつながりを踏まえて、シンガポールの遺産と国民性を紹介する。シンガポールの豊かな文化の歴史を反映する記録や物品の収集・保存・展示を行う。
- 国民の意識向上と鑑賞機会の提供:文化・芸術・遺産に対する一般の人々の認識と理解を深め、鑑賞の機会を積極的に促進する。コレクションのキュレーションや展覧会、その他さまざまな手段を通じて、一般の人々の関心を引き刺激する。
- 遺産関係団体の支援:国家遺産を専門とする組織を設立し、その発展を支援する。
- アドバイザー:諮問機関として、NHBはシンガポールの国家遺産に関連する事柄について政府に見識と専門知識を提供する。その提言や政策は、国内の文化保護や遺産振興の強化に貢献している。

3-1-1. 国家遺産局の沿革

NHBは1993年、国立公文書館(National Archives)と国立博物館などが統合され、MCCYの下に設立された。1996年、NHBは国内の博物館の地位向上を目指す博物館ラウンドテーブルを設置した。また、シンガポールアートミュージアムがオープンし、翌1997年にはアジア文明博物館がオープンした。2000年には東南アジアで初となる遺産保存センターを設立し、ナショナルコレクションの管理組織と位置付けた。2004年に第1回が開催されたシンガポール遺産祭(Singapore Heritage Fest)は、年1回、国内の豊富な遺産を称えるイベントであり、2024年も開催されている¹⁵⁶。その後も、2008年のプラナカンミュージアムなど、新たな博物館がオープンし、記念物保存委員会(Preservation of Monuments Board)やマレー遺産センター(Malay Heritage Centre)やインド遺産センター(Indian Heritage Centre)など、既存の遺産に関する組織・博物館がNHBの傘下に入った。

博物館のリニューアルやイベントを続ける中で、2018年には初のマスタープランとなるシンガポールヘリテージプランを発表した。2023年にはシンガポールヘリテージプラン2.0を発表し、今後5年の取り組みの方向性を示している¹⁵⁷。

¹⁵⁶ <https://www.sgheritagefest.gov.sg/>

¹⁵⁷ <https://www.nhb.gov.sg/who-we-are/about-us/history-and-milestones>

3-1-2. 国家遺産局の戦略

シンガポールヘリテージプランは、シンガポールの遺産セクターの保存、発展の指針として策定された、NHBが開発・実施する戦略的ロードマップである。シンガポールヘリテージプラン2.0は2023年5月に開始され、2023年から2027年までのシンガポールの遺産・博物館部門の発展を導くものである。図表1-3-1に示す4つの重点分野（アイデンティティ、コミュニティ、産業、イノベーション）を掲げており、多様性を称え、コミュニティをつなぎ、潜在的な経済性を引き出し、創造性と革新性を育み、公的機関と社会とのパートナーシップを強化する、遺産セクターのダイナミックな未来を描いている。

図表1-3-1 NHBのシンガポールヘリテージプラン2.0の重点分野

重点分野	詳細
アイデンティティ	多文化の遺産と多様性から国家の力を引き出すことを目指す。常にNHBの活動の中核をなしてきた。
コミュニティ	遺産を共有することで、コミュニティとしての物語も共有し、結びつきを強めることを目指す。常にNHBの活動の中核をなしてきた。
産業	遺産が持つ経済的な可能性を最大化するために、産業と結びつけ、シンガポールの遺産に触れる機会を創出することを目指す。新たな重点分野である。
イノベーション	デジタル化とテクノロジーにより、遺産へのアクセスや遺産での体験を向上させることを目指す。新たな重点分野である。

出典：NHBウェブサイト¹⁵⁸よりNRI作成

シンガポールヘリテージプラン2.0は、シンガポールヘリテージプランを振り返る形で作成された。シンガポールヘリテージプランは「Our Places (私たちの場所)」「Our Cultures (私たちの文化)」「Our Treasures (私たちの宝物)」「Our Communities (私たちのコミュニティ)」の4つの柱で構成されており、それぞれについて2018年から2022年にかけての5年間の成果がシンガポールヘリテージプラン2.0に記されている。加えて、2018年、2022年に行われた遺産意識調査の結果を比較することにより計画の進捗と効果が定量的に表されている。

シンガポールヘリテージプラン2.0の策定に当たって、NHBは第1段階として博物館の専門家、学識者、クリエイター、伝統技術の実務家、若者などの650人以上のステークホルダーと、博物館や無形文化遺産の未来、サステナビリティなどについて意見交換を行った。これらと調査結果を踏まえ、上記の4つの重点分野が掲げられている。

第2段階ではさらに広く意見を募集した。COVID-19の流行中であったため、ソーシャルディスタンスに配慮して、オンラインサイトと7カ所のオフラインブースを設置し、選択式の質問への回答や自由回答、投票などによる意見収集を行った。結果として2022年の8月から11月にかけて、計72,000以上のアイデアや提案が収集された。

NHBはシンガポールヘリテージプラン2.0の施行と評価に際しても引き続き広く意見を募集し、その進捗の調査を実施している。また、日々の取り組みに対してKPIを設定し追跡することで、取り組みの影響と成果を定量的に評価している。KPIは定量的なものだが、こちらについても幅広いステークホルダーや一般市民からのフィードバックを積極的に募り、定性的なレビューも同時に実施している。これらの定量・定性評価によって、それぞれの取り組みがそれ自体の達成だけでなく、シンガポールの遺産に対するつながりや帰属意識、関心を育むことに繋がっている。

また、NHBはMCCY傘下の法定機関として、MCCYや他の政府機関と緊密に協力し計画や戦略を策定しており、計画が国の政策や目標に沿ったものとなるようにしている。計画策定時には両方で打ち合わせが頻繁に行われる。

¹⁵⁸ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/files/resources/our-sg-heritage-plan-2/nhb-hp2-publication.pdf> (P9,13)

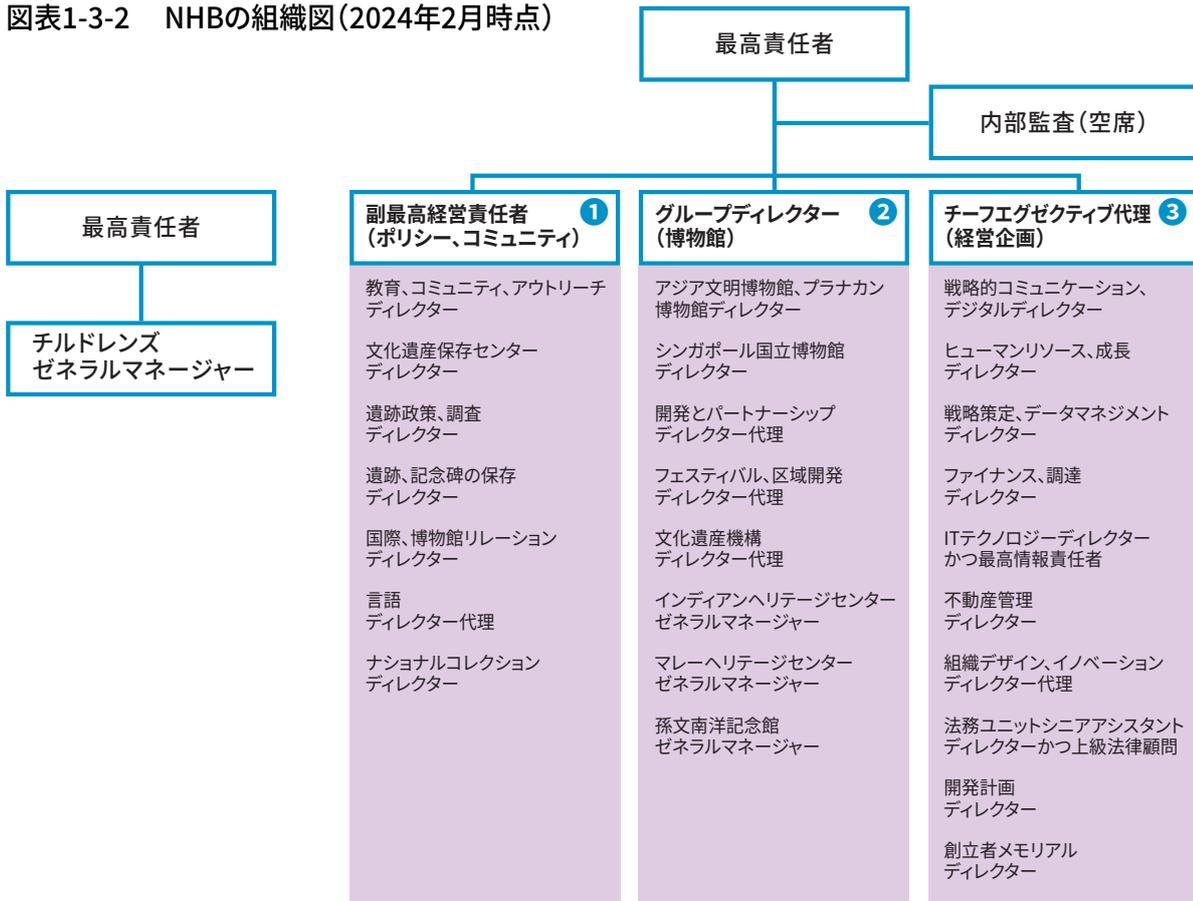
3-1-3. 国家遺産局の体制と職員

NHBの2024年2月時点の組織図は図表1-3-2の通りである。

組織として、①ポリシーやコミュニティを担当するユニット、②博物館等を担当するユニット、③NHBの経営企画を担当するユニットの大きく3つに分かれている。ユニット①に属する、「教育、コミュニティアウトリーチ」は、「3-3-1. 助成制度の分類」にて後述する、「遺産グラント(小規模・大規模プロジェクトグラント)」「遺産ユース・キックスター・ファンド」を管理している。残りの「組織変革グラント」「遺産研究グラント」「国家記念物ファンド」は、同じくユニット①に属する「遺産政策、調査」と「遺産、記念碑の保存」が管理している。

NHB全体の戦略達成のためには博物館の管理、イベントの開催、グラントの運営などさまざまな機能が必要であり、各組織の大きさは戦略的目標によって異なる。戦略上重視される組織には多くの職員が配置される¹⁵⁹。

図表1-3-2 NHBの組織図(2024年2月時点)



出典：NHBウェブサイト¹⁶⁰よりNRI翻訳

NHBの主要役員の大半はNHB内でキャリアアップしている。また、NHBは国内の遺産保護に注力してきただけでなく、国際的にも大きな貢献をしており、CEOはユネスコ傘下のアジア太平洋無形文化遺産国際情報ネットワークセンターの運営委員に任命された。

また、NHBは職員の潜在能力を最大限に伸ばすことの重要性を認識し、職員の継続的な学習と能力開発に重点を置いている。学習プログラムの援助制度、学習・試験休暇、社内コースから、全額援助の大学院プログラム、OJTに至るまで、幅広い研修プログラムと活動を提供している。これらの機会により、職員は個人の成長に必要な経験を得ることができる。

NHBの能力開発の取り組みは公的に評価されている。2001年、NHBは国際的な認証機関であるSpring Singaporeが人材育成に関して与える認証である「ピープル・デベロッパー・スタンダード」を達成し、職員への投資と育成の努力を評価された。さらに2017年にはさらに高度な「Singapore Quality Class with People Niche」認証を取得した¹⁶¹。

¹⁵⁹ NHB へのヒアリングより

¹⁶⁰ <https://www.nhb.gov.sg/who-we-are/about-us/management>

¹⁶¹ <https://www.nhb.gov.sg/who-we-are/join-us>

3-1-4. 国家遺産局の収支

2024年度、NHBにはMCCYから運営費として、全体のS\$20億9,874万(約2,351億円)の9.2%に相当するS\$1億9,288万(約216億円)が割り当てられている。S\$963万(約11億円)の開発費(新しいプログラムや再開発などに用途が限定される費用)を加えて、NHBへの割り当てはS\$2億251万(約227億円)である。図表1-3-3はMCCYの支出を示しており、国家遺産局は赤枠内の通り割り振られている。

図表1-3-3 MCCYの支出(2024年度)

プログラムごとの総支出額(単位: \$、青背景: 日本円)

コード	プログラム	運営費	開発費	総支出額
X-A	コーポレートサービス	50,798,600	341,300	51,139,900
		5,689,443,200	38,225,600	5,727,668,800
X-B	アート&遺産	184,598,700	23,632,400	208,231,100
		20,675,054,400	2,646,828,800	23,321,883,200
X-C	寄付&協同組合	11,884,100	0	11,884,100
		1,331,019,200	0	1,331,019,200
X-D	レジリエンス&エンゲージメント	66,517,300	1,508,900	68,026,200
		7,449,937,600	168,996,800	7,618,934,400
X-E	コミュニティリレーションズ&エンゲージメント	111,203,500	2,282,000	113,485,500
		12,454,792,000	255,584,000	12,710,376,000
X-F	情報技術	39,090,800	0	39,090,800
		4,378,169,600	0	4,378,169,600
X-I	スポーツ	39,350,300	0	39,350,300
		4,407,233,600	0	4,407,233,600
X-J	ユース	11,137,200	6,075,200	17,212,400
		1,247,366,400	680,422,400	1,927,788,800
X-P	イスラム教評議会	27,700,600	674,100	28,374,700
		3,102,467,200	75,499,200	3,177,966,400
X-Q	ナショナルアーツカウンシル	154,871,400	5,830,200	160,701,600
		17,345,596,800	652,982,400	17,998,579,200
X-R	国家遺産局	192,876,200	9,630,000	202,506,200
		21,602,134,400	1,078,560,000	22,680,694,400
X-S	人民協会	589,493,300	138,773,000	728,266,300
		66,023,249,600	15,542,576,000	81,565,825,600
X-T	スポーツシンガポール	503,771,100	119,232,900	623,004,000
		56,422,363,200	13,354,084,800	69,776,448,000
X-U	ナショナルユースカウンシル	115,444,500	41,771,400	157,215,900
		12,929,784,000	4,678,396,800	17,608,180,800
	合計	\$2,098,737,600	\$349,751,400	\$2,448,489,000
		235,058,611,200	39,172,156,800	274,230,768,000

出典: Ministry of Finance「The Revenue and Expenditure Estimates for the Financial Year 2024/25」¹⁶²よりNRI作成

2021~2022年度のNHB自体の活動による収支は図表1-3-4の通りである。NHB自体の活動による収入はS\$1,547万(約17.3億円)であり、その3分の2程度が寄付金となっている。総営業費用を踏まえると収入は支出の1割程度で、残りの9割は政府からの助成で賄っている。

¹⁶² <https://www.mof.gov.sg/docs/librariesprovider3/budget2024/download/pdf/revenue-and-expenditureestimates-for-fy2024-2025.pdf> (P214)

図表1-3-4 NHBの収支実績(2021年度～2022年度)

	一般資金		拘束資金		合計	
	2022 S\$	2021 S\$	2022 S\$	2021 S\$	2022 S\$	2021 S\$
収益						
寄付金	305,826	784,251	9,669,099	3,365,121	9,974,925	4,149,372
寄贈された文化財	1,081,160	1,622,857	-	-	1,081,160	1,622,857
有形固定資産/遺産への寄付金	9,953	97,323	-	-	9,953	97,323
現物寄付/スポンサーシップ	576,919	1,269,743	-	-	576,919	1,269,743
入場料	558,520	210,472	35,013	22,286	593,533	232,758
ワークショップ/セミナー	132,880	48,328	15,076	10,159	147,956	58,487
コンサルティング/プロジェクト管理	47,694	63,324	-	-	47,694	63,324
コミッション/ロイヤルティ/委託料	42,678	39,340	26,044	16,710	68,722	56,050
その他	664,872	553,023	11,858	-	676,730	553,023
金利収入	467,779	3,396,911	1,262,646	2,965,745	1,730,425	6,362,656
賃料収入	543,114	310,286	17,486	840	560,600	311,126
	4,431,395	8,395,858	11,037,222	6,380,861	15,468,617	14,776,719
その他の利益/(損失)	15,695	-	-1,652,092	-	-1,636,397	-
営業費用						
福利厚生費	-43,578,134	-38,085,125	-4,554,519	-4,138,783	-48,132,653	-42,223,908
役員手当	-370,955	-345,221	-	-	-370,955	-345,221
財務コスト	-479,257	-396,278	-	-	-479,257	-396,278
使用权資産の減価償却費	-10,218,756	-10,227,741	-	-	-10,218,756	-10,227,741
有形固定資産の減価償却費	-9,697,101	-8,415,349	-4,887,168	-5,403,468	-14,584,269	-13,818,817
有形固定資産の償却	-107,053	-53,335	-	-	-107,053	-53,335
遺産の償却	-250	-4,000	-	-	-250	-4,000
施設・設備のレンタル	-106,947	-413,417	-252,125	-243,752	-359,072	-657,169
メンテナンス、その他の不動産費用	-15,916,362	-12,884,152	-11,849,942	-5,040,899	-27,766,304	-17,925,051
出展費	-5,693,096	-4,563,128	-874,980	-1,363,725	-6,568,076	-5,926,853
その他サービスと費用	-19,193,780	-14,960,913	-1,210,908	-1,184,077	-20,404,688	-16,144,990
アウトリーチ、宣伝、広報活動	-14,184,222	-14,382,925	-1,695,679	-1,776,757	-15,879,901	-16,159,682
スタッフの福利厚生と能力開発	-1,711,134	-1,226,786	-64,790	-74,036	-1,775,924	-1,300,822
一般管理費	-5,020,936	-5,008,281	-466,418	-686,844	-5,487,354	-5,695,125
グラント経費	-7,020,895	-3,149,710	-	-	-7,020,895	-3,149,710
総営業費用	-133,298,878	-114,116,361	-25,856,529	-19,912,341	-159,155,407	-134,028,702
グラント前赤字	-128,851,788	-105,720,503	-16,471,399	-13,531,480	-145,323,187	-119,251,983
グラント						
受領グラント	120,579,215	96,524,088	14,153,299	14,261,936	134,732,514	110,786,024
繰延資本助成金の償却	4,811,009	4,331,605	1,939,097	2,235,289	6,750,106	6,566,894
	125,390,224	100,855,693	16,092,396	16,497,225	141,482,620	117,352,918
(赤字)/税引前黒字	-3,461,564	-4,864,810	-379,003	2,965,745	-3,840,567	-1,899,065
所得税費用	-	-	-	-	-	-
純(赤字)/黒字	-3,461,564	-4,864,810	-379,003	2,965,745	-3,840,567	-1,899,065
その他の包括利益						
その後損益に再分類されない項目:						
遺産の移転	10,377	-	-	-	10,377	-
遺産への助成金	7,331	1,512	-	-	7,331	1,512
遺産の償却	-	5,309	-	-	-	5,309
包括利益合計	-3,443,856	-4,857,989	-379,003	2,965,745	-3,822,859	-1,892,244
調整後純(赤字)/黒字	-3,269,009	-5,295,492	-379,003	2,965,745	-3,648,012	-2,329,747

出典:NHB ANNUAL REPORT 2022¹⁶³よりNRI翻訳

¹⁶³ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/files/media/annual-reports/2022-financial-statement.pdf> (P15)

3-2. 国家遺産局とその他公的機関の関係

NHBは、MCCY傘下の法定機関として運営されており、MCCYはNHBがシンガポールの国家遺産を保存・管理する際に、監督・指導・戦略的な指示を行う。NHBとMCCYは密に連携しており、NHBのプログラムはMCCYの目標に沿ったものとなっている。NHBにとってMCCYは親組織であり、戦略的な方針を示してくれる存在である。NHBに大きな自律性があるというよりも、MCCYの方針に沿って業務を実施しているという方が近い。特に、MCCYから多額の資金が提供されるプログラムやイベントについては、実施に先立ちMCCYと調整・共有を行い、承認を得る必要がある。NHBが内部で使用しているKPIの一部はNHBの企画部門がMCCYに報告している。MCCYとのコミュニケーションはNHBの部門によって異なる。例えば、「戦略的コミュニケーション部門」は戦略面の調整などについて連絡をとり協働している。NHBには多くの部門があるため、それぞれがMCCYの担当部門とコミュニケーションをとっており、全体を一元的に管理してはいない¹⁶⁴。

NHBとNACの関係性に関しては、第2章「2-2. ナショナルアーツカウンシルとその他公的機関の関係」にて前述した通り、両者の対象分野や管轄する建物の種類が異なることから直接的な協力関係は少ない。一方で同じMCCY傘下の法定機関であるため、両者のコミュニケーションは、メディアからの問い合わせや組織横断的な取り組みが発生した場合など、必要に応じて行われる。頻度はその時々によって異なり、例えばMCCYがCOSなどの年間の戦略計画を作る際には、MCCYのもとで頻繁に一堂に会することになる。また、芸術と無形文化遺産の両方に関係する被助成団体が各組織より同時にグラントを受けるケースはある。NACとNHBの両者より同時にグラントを受けることに関しては基本的に制限されておらず、各グラントの基準を満たせば上記の状況は実現する。また、両者は同じプラットフォームを利用していることもあり、審査とフィードバックのためにNHBとNACの間で情報共有することが可能となっている。申請者が他の機関から助成金を受けているかどうかをNHBが確認できるような調整がMCCYにより行われている¹⁶⁵。

他にも、NHBはさまざまな部門が各省や政府機関と連携している。例えば、博物館を活用した学習プログラムでは教育省と共同開発し、建造物遺産に関する取り組みや政策活動では都市再開発局などと協力している。

¹⁶⁴ NHB へのヒアリングより

¹⁶⁵ NHB へのヒアリングより

3-3. 国家遺産局による助成制度

本節では助成制度の分類や予算、対象、さらに助成プロセスについて記述する。

NHBはシンガポールが共有する歴史と遺産をコミュニティ全体に身近なものとしてもらうために助成を行っている。出版物・ドキュメンタリー・展示会・イベントなどさまざまなプロジェクトを支援し、シンガポール国民に多様な遺産との接点を提供している。

無形文化遺産は、有形文化遺産と並んでNHBの支援対象として主要なものとして認識されており、組織面でも一定数のチームが担当に充てられている。ただし両者は管理や保存の性質が異なるため、必要な予算やリソースは異なる。助成対象としても両者はどちらも重要なものと捉えられている。

3-3-1. 助成制度の分類

NHBの助成制度には、図表1-3-5の通り、「組織変革 grant」、「遺産 grant (小規模・大規模プロジェクト grant)」、「遺産研究 grant」、「国家記念物ファンド」、「遺産ユース・キックスターター・ファンド」の5つの枠組みが存在する。

図表1-3-5 NHBの助成制度

助成	詳細
組織変革 grant	<p>長期的な持続可能性に貢献する革新的な遺産事業や組織を支援する。以下の3つのカテゴリーに分類されるプロジェクトに対し、最高S\$4万(約448万円)まで助成される¹⁶⁶。</p> <ul style="list-style-type: none"> •製品・サービス: 新たな市場機会と収益源の開発を支援する。新しい製品ラインの導入やブランドの変更、製品提供やサービスの変革、新しく改善されたビジネス戦略の展開などが含まれる。 •人材: 職務の再設計や新たな機会に向けた人材のスキルアップ、人材の生産性と効率の向上、遺産に関連するスキルの伝達などの取り組みを通じて、ビジネスや組織のパフォーマンスを向上させる活動を支援する。 •プロセスとシステム: 生産性向上と革新的な手法による育成を支援する。製品やサービスの効率を向上させるためのテクノロジーの導入、マンパワーの効率を高めるための手作業プロセスの自動化、ビジネスチャンスやビジター体験を向上させるためのデジタルツールやプラットフォームの導入などが含まれる。
遺産 grant (小規模・大規模プロジェクト grant)	<p>小規模プロジェクト grantは、プログラム、イベント、展示など、幅広いコミュニティ遺産プロジェクトを支援する。助成金の上限はS\$5万(約560万円)または対象となるプロジェクトの総経費の50%までで、いずれか低い方が適用される。遺産プロジェクトに初めて参加する人や、経験の浅い人に適している。</p> <p>大規模プロジェクト grantは、シンガポールの遺産分野に大きく貢献できるプロジェクトに対して、より大きな支援を提供することを目的としている。S\$15万(約1,680万円)または対象となるプロジェクト総経費の50%までのいずれか低い方が上限である。遺産プロジェクトの実施経験があり、被助成実績が豊富な申請者に適している。研究不足の解消や、あまり知られていない遺産テーマ・民族共同体・伝統・取引などの探求などの、インパクトのあるプロジェクトが主な活用例である¹⁶⁷。</p>

¹⁶⁶ <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/community-engagement/grants/grants/organisationtransformation-grant>

¹⁶⁷ <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/community-engagement/grants/grants/minor-and-majorproject-grants>

助成	詳細
遺産研究グラント	<p>高等教育機関、シンクタンク、遺産NGO、学者、研究者がシンガポールの遺産や地域とのつながりに関する研究を実施することを奨励するものである。研究を通じてシンガポールの遺産を記録し、保存することを目的としている。</p> <p>シンガポール先史・歴史、無形文化遺産、有形遺産、民族遺産、シンガポールと東南アジアの比較研究を含む5つのコアリサーチエリアに焦点を当てており、応募資格としてこれらのエリアの少なくとも1つに合致する必要がある。</p> <p>研究分野として、シンガポールヘリテージプラン2.0をサポートする7つの優先研究テーマがある（海洋遺産、遺産と福祉、建造物遺産における持続可能性、教育学・博物館ベースの学習、遺産ビジネス、遺産における多様性・公平性・包括性、遺産における革新的技術）¹⁶⁸。</p>
国家記念物ファンド	<p>国が指定する建造物の維持・修復を支援する。適切な保存を確保するための重要な工事、特に構造修復に重点を置いている。以下の2つのカテゴリーに分かれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> •修復：2008年設立。対象となる修復工事、特に緊急に必要な修復の経費を支援する。 •メンテナンス：2015年設立。記念物を維持するために不可欠なメンテナンス工事の経費を支援する。
遺産ユース・キックスターター・ファンド	<p>ナショナルユースカウンシルのヤング・チェンジメーカー・グラントによって運営されており、ナショナルユースカウンシルと協働し遺産の保護に貢献する若者に資金を提供している。2023年10月に設立された。Our SG Heritage Plan 2.0で宣言された取り組みである。</p>

出典：NHBウェブサイトよりNRI作成

3-3-2. 助成制度の予算・規模

表1-3-4の通り、2022年度のNHBの助成金の総支出はS\$702万895（約7.9億円）であった。総営業費用がS\$1.59億（約178億円）なので、助成は4.4%ほどを占め、活動の全体から見るとNHBにとって助成は大きなものではないことが分かる。

各グラントの規模は非公開だが、助成上限額などを鑑みると「遺産グラント」と「遺産研究グラント」の規模が比較的大きい。

¹⁶⁸ <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/community-engagement/grants/grants/heritage-researchgrant>

¹⁶⁹ <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/preserve-our-stories-treasures-and-places/nationalmonuments-and-marked-historic-sites/preservation-of-sites-and-monuments/upkeep/national-monumentsfund>

¹⁷⁰ <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/community-engagement/grants/grants/youngchangemakers-youth-heritage-kickstarter-fund>

3-3-3.助成対象・助成内容

助成対象は遺産に関係する団体や活動で、NACが対象とする一般的な舞台芸術などは基本的には対象外である。一方で、文化芸術系の中でも無形文化遺産に類するものは、NHBの助成の対象となりうる。文化芸術に関係し助成の対象となるプロジェクトとして以下の例が挙げられる。

- シンガポールにおける京劇の現代的価値とイノベーション
- シンガポールのマレーコミュニティの個人の手稿コレクションを発見し手稿朗読劇を再現することで、文化遺産としてのマレー系の手稿を再興する取り組み
- シンガポールでのマレー系武術グループの歴史・文化・記録の保存(無形文化の保存)

申請資格

NHBのウェブサイトにも明記されており、資格要件、申請手続き、スケジュールも確認することが出来る¹⁷¹。

例えば、「組織変革 grant」では、会計企業規制庁または社団登記所に登録された遺産組織や企業(営利・非営利を問わない)が対象となる。遺産ビジネスや組織は以下のカテゴリーに1つ以上関わるものとされている。

- 伝統工芸品の制作、生産、小売、関連サービスの提供
- 伝統食品の創作、生産、小売、関連サービスの提供
- シンガポールの無形文化遺産目録に掲載されている文化遺産に関連する製品、体験、サービスの創造、生産、小売
- 立地する地域や文化地区の文化的アイデンティティへの貢献において実績のある企業・団体
- 近隣地域や文化地区に歴史的に存在した遺産製品・サービスの復活や再導入を目指す企業・団体
- 民間の博物館

被助成団体の例

Say Tian Hng Buddha Shopは、100年以上の伝統を持ち、世界中の寺院や仏壇、家庭で使われる道教や仏教の神々の木像を専門に製作している。4代目のオーナーで職人見習いでもあるツェー・ヨン(Tze Yong)は、事業を未来へつなぐために変革の必要性を感じていた。「組織変革 grant」の試験運用の対象者として、ツェー・ヨンは2つの変革プロジェクトに取り組んだ。1つ目のプロジェクト「中国文化製品のデジタル化」では、従来の手作業ベースに代わり、3Dスキャン技術を使ってスケッチ、テキスト、写真のデジタルデータベースを作成した。この取り組みは、業務を合理化し、貴重な文化的知識をデジタル保存することを目的としていた。2つ目のプロジェクト「子供文化教育プログラム」は、猿の神などの神々の神話や寓話に着想を得た教育的・体験的プログラムである。子供たちが文化伝説を学びながら、忍耐力、誠実さ、忠誠心、勇気、思いやりといった人生の重要な価値観を身につけることを目的としていた¹⁷²。

また、3代目オーナーのケン・コー(Ken Koh)が取り組んだ南洋ソース(Nanyang Sauce)の変革と革新を支援する上でも、「組織変革 grant」は重要な役割を果たした。1959年創業の南洋ソースは、伝統的な手作り製法で醤油や関連製品を製造する、シンガポールに残る数少ない醸造所の1つである。ケン・コーは10年以上事業開発の経験を積んだ後、2017年に参画した。参画後、彼は9ヶ月に及ぶ入念な発酵工程などの醤油の中核となる伝統と品質を守りながら、事業の近代化と強化に尽力してきた。grantを活用し、南洋ソースは「秘伝の旨味」と呼ばれる若い世代向けの新製品を発表した。このソースは、「空気」、「土」、「水」、「火」の要素を表すスパイス、アロマ、その他の食材をブレンドした醤油を使うことで、火鍋、バーベキュー、ムーカタなど、さまざまな料理を引き立てるものである。grantは、研究開発の実施、魅力的なパッケージの制作、効果的なマーケティング戦略に活用された。ケン・コーは助成が事業の成長と発展に大きな影響を与えたことを強調している¹⁷³。

¹⁷¹<https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/community-engagement/grants/grants/organisationtransformation-grant>

¹⁷²<https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/images/nhb-2021/organisation-transformation-grant/8-may-2023---new-pdf/case-studies---organisation-transformation-grant.pdf> (P5-8)

¹⁷³<https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/images/nhb-2021/organisation-transformation-grant/8-may-2023---new-pdf/case-studies---organisation-transformation-grant.pdf> (P2-4)

3-3-4. 審査の概要

申請書は、NHBの内部チームと外部審査パネルとの協議によって審査される。外部審査パネルは業界のアドバイザー・専門家・実務家から構成され、NHBが任命する。さまざまなプロジェクトに対応するため、審査パネルにバランスの取れた代表が参加するようにしている¹⁷⁴。

審査基準はグラントごとに決まっており、「組織変革グラント」の場合、提案されたプロジェクトにおいて変革やイノベーションを遂行する能力、プロジェクト実現に向けた申請者の能力とコミットメントが考慮されるため、成果物と実施スケジュールを提出し、プロジェクトを管理・実施するための詳細な戦略を提示する必要がある。プロジェクトの予算見積もりも審査の対象となる。図表1-3-6にそれぞれの項目の詳細を示している。

図表1-3-6 「組織変革グラント」評価項目

評価項目	詳細
変革とイノベーション	<ul style="list-style-type: none">•変革の目標と計画とともに、問題提起も明確に示している•プロジェクトがよく練られており、申請者や業界の課題をよく理解している•事業の長期的な持続可能性を支える成果が明確である•伝統技能の伝承や革新に重点を置いている
プロジェクト実現に向けた能力、コミットメント	<ul style="list-style-type: none">•成果物の明確な定義と現実的な実施スケジュールにより、プロジェクトが包括的に説明されている•指定した成果物を実現するために、プロジェクトがどのように管理され、実施されるかについての詳細な戦略が立てられている
予算見積もり	<ul style="list-style-type: none">•予測される人件費、運営費、その他雑費の内訳が明確かつ詳細に記載されている•見積もられた経費が現実的で、一般的な価格とほぼ一致している

出典：NHBウェブサイト¹⁷⁵よりNRI作成

¹⁷⁴ NHB へのヒアリングより

¹⁷⁵ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/images/nhb-2021/organisation-transformation-grant/8-may-2023---new-pdf/guidelines-for-organisation-transformation-grant.pdf>

3-3-5.助成申請と採択後の手続き

NHBが提供する各助成の申請手続きはさまざまである。「組織変革 Grant」に申請する場合、申請者はそのガイドラインとスケジュールに従う必要がある。

「組織変革 Grant」は年2回募集され、募集期間が定められている。全ての申請書は、ウェブサイトに記載されている締切日時までに提出しなければならず、期限を過ぎての申請は受理されない。

申請者は、指定された申請期間内にFormSGを通じて図表1-3-7のようなオンライン申請書を提出する。また、予算書、主要関係者の履歴書、その他の添付書類なども必要となる¹⁷⁶。

図表1-3-7 「組織変革 Grant」オンライン申請書の例

出典: FormSG¹⁷⁷より

申請書の項目は以下の通りである。

- 申請者の詳細(会計企業規制庁への登録有無、登録名、登録番号、名前、電話番号、メールアドレス、住所、ウェブサイト)
- 組織の活動(組織の概要、提供する製品やサービスの説明)
- プロジェクトの詳細(申請歴、タイトル、フォーカスエリア、完了予定日、詳細書類、経歴など)
- 予算(必要経費、NHBの他のGrantへの応募状況、予算書類)

採択された申請者には、助成金の交付条件が記載された内定通知書が送付される。内定通知書の日付から2週間以内に内定承諾書をNHBに提出することが求められる。不採択となった申請者には、NHBによる評価プロセスが完了した時点でメールにて通知が送られる¹⁷⁸。

採択されると被助成団体はプロジェクト完了の姿を示す書類など(概念実証、プロトタイプ、実用最小限の製品、作業途中のアウトプット、アンケート結果、ユーザー受け入れテスト文書、業界ベンチマーク案など)を提出する必要がある。これらはプロジェクトの進捗状況や成果を継続評価するために不可欠なものである。

¹⁷⁶ <https://go.gov.sg/otg-application-form>

¹⁷⁷ <https://go.gov.sg/otg-application-form>

¹⁷⁸ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/images/nhb-2021/organisation-transformation-grant/8-may-2023---new-pdf/guidelines-for-organisation-transformation-grant.pdf>

3-3-6. 助成事業実施中の手続き

被助成団体は助成期間中に合意したマイルストーンごとに、以下のプロジェクト中間チェックインの書類を提出する必要がある。これらはプロジェクトの進捗状況や成果を継続評価するために不可欠なものである。

- 中間報告書: プロジェクトの進捗状況を報告し、成果と直面した課題を整理する
- マイルストーンのスケジュール: その時点までに完了したマイルストーンと今後予定されているマイルストーンや活動リスト
- 中間成果物: プロトタイプ的设计や市場テストの結果など、プロジェクトのタイプに関連した具体的な成果物

「組織変革グラント」では、被助成団体は内定通知書に記載された当初の承認額以上の追加資金を要求することができる。その場合、予算修正申請書に正当な理由を入力し提出することになる。NHBは提出書類を評価し、14日以内に評価結果を通知する。申請を承認するかどうか、承認する場合、全額か一部かの決定は最終的なものであり、NHBはその決定の理由を開示しない権利を有している。

ガイドラインには、特定の状況における助成金の見直し、撤回、一時停止、または終了の概要が記載されている。助成の条件が満たされているかどうか、あるいはプロジェクトが満足のいくものであるかどうかの判断はNHBのみが行い、その判断は最終的かつ絶対的なものとみなされる。

また、事前の承認なしにプロジェクトが大幅に変更された場合や、被助成団体がプロジェクトを遂行できない場合、申請書に誤った情報や誤解を招くような情報を記載した場合、NHBの評判や関連組織に影響を与えるような違法行為や過失に関与した場合や法的手続きなど特定の状況が発生した場合には、NHBは助成金を打ち切り、それ以降の支払いを中止する¹⁷⁹。

「組織変革グラント」の場合、支払は助成額ごとに分かれており、図表1-3-8のように行われる。

図表1-3-8 「組織変革グラント」助成金支払いスケジュール

※1シンガポールドル=112円

助成額	1回目	2回目	3回目
S\$2万(約224万円)未満	採択とその受け入れ時に80%	プロジェクトの完了と終了後報告書の提出時に残りの20%	
S\$2万(約224万円)以上	採択とその受け入れ時に50%	プロジェクトの完了時に30%	終了後報告書と勅許会計士協会または同等の国際機関に登録された会計士によって証明された財務諸表の提出時に残りの20%

出典: NHBウェブサイト¹⁸⁰よりNRI翻訳

¹⁷⁹ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/images/nhb-2021/organisation-transformation-grant/8-may-2023---new-pdf/guidelines-for-organisation-transformation-grant.pdf>

¹⁸⁰ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/images/nhb-2021/organisation-transformation-grant/8-may-2023---new-pdf/guidelines-for-organisation-transformation-grant.pdf>

3-3-7.助成事業終了後の手続き

「組織変革 Grant」の場合、被助成団体は以下の3つの書類をプロジェクト完了後2ヶ月以内に提出する必要がある。

- プロジェクト終了後報告書:プロジェクト全体に関する詳細情報、達成された測定可能な成果、マイルストーンの概要、プロジェクトの効果に関する評価を記載する
- 財務報告書:プロジェクト期間中に発生した経費と、資金がどのように活用されたかを記述する(支給可能な経費の領収書含む)
- 監査報告書

プロジェクト完了後、NHBは変革の取り組みから得た教訓や洞察をより広い業界と共有するよう被助成団体に要請する場合がある。この共有セッションはNHBが主催し、ベストプラクティスと知識を広める役割を果たす。

3-4. 国家遺産局と文化芸術団体の関係

国家遺産局が文化芸術団体と関わるのは前述の通り、無形文化遺産に助成する場面に限られる。

Grantごとに設置されている Grant オフィサーが被助成団体とのコミュニケーションを担っている。Grant オフィサーは、各 Grant の開始日前に集中して寄せられる傾向にある Grant に関する問い合わせに対応するだけでなく、Grant クリニックを開催し、枠組み自体の説明や申請書の作成の良い例やヒントを提供している。Grant オフィサーによる被助成団体とのコミュニケーション頻度はプロジェクトにより異なる。関係者が多く登場する大規模なものや長く続くものはより多くのコミュニケーションを必要とする傾向がある。コミュニケーションは基本的にメールか電話で行われる¹⁸¹。

NHB は、メールで Grant に関するフィードバックを常時受け入れている。また、被助成団体は、Grant ポータルにも直接フィードバックを書き込めるようになっている。

¹⁸¹ NHB へのヒアリングより

3-5. 国家遺産局による調査研究とデータ

NHBによる調査研究の全体像を把握するため、2010年以降に実施し公表した調査を整理すると、以下のようになる。遺産意識調査は継続的に行われているが、それ以外は不定期に行われている。

- 遺産意識調査(2011、2014、2018、2022¹⁸²):シンガポール国民の遺産に対する感情や考え方に関する定期調査
- 無形文化遺産に関する調査(2016):シンガポールの無形文化遺産の全体像を把握するための包括的な調査¹⁸³
- 有形文化遺産に関する調査(2015):シンガポールの有形文化遺産の全体像を把握するための包括的な調査¹⁸⁴
- ボランティアの効果に関する調査(2024):ボランティア活動の動機やボランティア活動が幸福度合いに与える効果などを明らかにする調査¹⁸⁵

遺産意識調査を除き、各調査はMCCYの指示で取り組むものである。

遺産意識調査はシンガポール国民の意識を掘り下げ、遺産に対する感情や考え方を測定するものである。この調査は、関心・認識・参加・スタンスという4つの観点を評価するために実施され、文化遺産に対する人々の関わりを包括的に示すものである。人々が自分たちの文化遺産に抱いている関心の度合い、遺産の取り組みやプロジェクトに関する認識の程度、遺産関連活動への積極的な参加、遺産を保存し大事にすることに対するスタンスを明らかにしようとしている。NHBは、遺産と個人や地域社会が結び付く方法を多面的に検討しており、この調査は、NHBがその戦略を確認し、求められていることに応えるためのツールと捉えられる。

NHBは、自ら実施する調査に加えて遺産に関する調査に対して助成を行い、調査を促進している。

「遺産研究グラント」は、シンガポールの豊かな文化遺産の探求・保護に取り組む高等教育機関、シンクタンク、遺産NGO、学者、研究者を支援することを目的としており、文化遺産を将来世代のために保護することをゴールとしている。5つの研究分野(①シンガポール前史と歴史、②無形文化遺産、③有形文化遺産、④民族遺産、⑤シンガポールと東南アジアの比較研究)で構成されており、応募資格を得るためには、研究提案がこれらの研究分野の少なくとも1つに合致していなければならない。

さらに「遺産研究グラント」では、2023年2月期の発表時点で図表1-3-9の7つの優先研究テーマを強調しており、これらのテーマはNHBのシンガポールヘリテージプラン2.0での目標と合致している。

¹⁸² <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/sector-development/heritage-awareness-survey-2022>

¹⁸³ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/files/media/releases/new-releases/media-release---nhb-launchedsurvey-on-intangible-cultural-heritage.pdf>

¹⁸⁴ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/files/media/releases/new-releases/2015-9.pdf>

¹⁸⁵ <https://www.nhb.gov.sg/-/media/nhb/files/media/releases/2024/media-release---nhb-impact-ofvolunteering-survey.pdf>

図表1-3-9 「組織研究グラント」優先研究テーマ

優先研究テーマ	詳細
海洋遺産	シンガポールの歴史と発展において極めて重要な役割を果たしてきた海洋遺産を調査・保存する
遺産と幸福	遺産との関わりと個人やコミュニティの幸福度との関係を探り、遺産が生活の質全体にプラスの影響を与えることを証明する
建築遺産における持続可能性	建築遺産の保存と維持に関する持続可能な実践とアプローチを取り上げ、保存と現代の環境への配慮のバランスをとる
博物館・教育機関ベースの学習	博物館や教育機関における遺産学習のための教育戦略や方法論を強化し、遺産に対するより深い理解と認識を促進する
遺産ビジネス	遺産と経済事業の接点を検証し、遺産分野における持続可能なビジネスモデルと機会を探る
遺産における多様性・公平性・包摂性	遺産に関する取り組みにおける包摂性と公平性を促進し、全てのコミュニティの多様な物語と経験を反映できるようにする
遺産における革新的技術	遺産分野における研究と保存活動を推進するために、最先端技術を活用し、新たなアプローチと方法論を育成する

出典：NHBウェブサイト¹⁸⁶よりNRI作成

「遺産研究グラント」は、このように対象を絞ることで、シンガポールの遺産の理解と保存に貢献するだけでなく、この分野の現代的な課題にも取り組む研究活動の促進を目指している¹⁸⁷。

¹⁸⁶ <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/community-engagement/grants/grants/heritage-researchgrant>

¹⁸⁷ <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/community-engagement/grants/grants/heritage-researchgrant>



第1部
第4章

アンブレラ組織・カンパニー・芸術施設

第4章では、シンガポールのアートエコシステムにおいて重要なプレイヤーである、アンブレラ組織とカンパニー、芸術施設について記述する。

MCCYやNACは、シンガポールのアートエコシステムを、「創作・制作」、「発表・配信」、「鑑賞・支援」の3つに分類しており、その全てを活性化させることをその使命としている。本章では、「創作・制作」を担う主なプレイヤーであるアンブレラ組織やカンパニーについて記述した後、各団体と政府関連機関との関係について記載する。その後、「発表・配信」を担う主なプレイヤーである劇場やホールなどの芸術施設の代表的な例について記述する。

4-1. アンブレラ組織の概要

シンガポールの舞台芸術分野ではアンブレラ組織は、一部のカンパニーが主にコラボレーションを目的として集結した形のものが多い。そのため、必ずしも各芸術領域における主要なカンパニー全般をメンバーとしているわけではない。また、各芸術領域を代表するようなアンブレラ組織が存在しない場合もある。例えば、音楽全体を統括するようなアンブレラ組織は存在しない。シンガポールの音楽領域におけるアンブレラ組織の例としては、マレー伝統音楽に関連する団体の代表が集まる「シンガポールマレー伝統音楽連盟(Persatuan Pemuzik Tradisional Melayu Singapura)」や、中国音楽のアンブレラ組織である「シンガポール中国音楽連盟(Singapore Chinese Music Federation)」などが挙げられる。

また、複数カンパニーの声を集め1つの意見として政府に伝えるアドボカシー活動が活発に行われているとは言えない。その背景の1つとして、規模にかかわらず、カンパニーはMCCYやNACなどと密にコミュニケーションを取ることが挙げられる。ただし、国際ドラマ・演劇教育協会(International Drama/Theatre Education Association)のメンバーであるシンガポール演劇教育者協会(Singapore Drama Educators Association)のように、アドボカシー活動に対して積極的なアンブレラ組織もある。図表1-4-1は、シンガポールにおけるアンブレラ組織に該当する組織の一例である。

図表1-4-1 シンガポールにおける代表的なアンブレラ組織

芸術領域	アンブレラ組織名	概要
芸術全般	シンガポール芸術協会 (Arts Association of Singapore:AAS)	AASは、芸術の警鐘を促進し、優れた芸術家を育成することを目的に設立された非営利団体である。シンガポールの若手芸術家の育成と教育を支援するイベントやプログラムの開催や、国内外での芸術的コラボレーションや文化交流の促進を行っている ¹⁸⁸ 。
遺産	シンガポール遺産協会 (Singapore Heritage Society:SHS)	SHSは、1987年に非営利非政府組織として設立された、シンガポールの遺産保護に向けた独立組織である ¹⁸⁹ 。
美術	シンガポール美術館協会 (Art Galleries Association Singapore:AGAS)	AGASは、国内外のさまざまな政府機関、文化芸術団体、メディア、そして一般市民に対して、ギャラリーの所有者と経営者が共同で意見を表明するための組織である。シンガポールにおけるプロフェッショナルで倫理的なギャラリーのあり方を規定し、アートディーラーの役割と責任について一般の人々の認識を高める役割を担っている ¹⁹⁰ 。
音楽	シンガポールマレー伝統音楽連盟 (Persatuan Pemuzik Tradisional Melayu Singapura)	シンガポールマレー伝統音楽連盟は、マレー文化コミュニティのリーダーで構成される組織である。2年に1度の共同制作を主な活動内容としている。
	シンガポール中国音楽連盟 (Singapore Chinese Music Federation:SCMF)	SCMFは、シンガポール全土の中国音楽グループ、アンサンブル、中国系オーケストラの団結、シンガポール独自の作品や作曲家の宣伝、普及、知名度の向上、シンガポール内外の中国文化関係の確立と強化を目的とした組織である。コンサートやコンクールの開催、出版物の発行などの事業を通じて、シンガポールにおいて中国音楽を広く普及させている ¹⁹¹ 。
ダンス	シンガポールダンス連盟 (Singapore Dance Alliance:SDA)	SDAは、シンガポールのダンスシーンに長年の経験を活かして貢献したいという同じ情熱、志、夢を持つ、シンガポールのダンス界におけるリーダーによって結成された非営利団体である。SDAは、シンガポールの人々のダンスに対する認識と理解を深め、さまざまなイベントや活動を通してシンガポールのダンスシーンの「エコシステム」をサポートしている ¹⁹² 。
演劇	シンガポール演劇教育者協会 (Singapore Drama Educators Association:SDEA)	SDEAは、舞台芸術者と演劇教育者のグループによって2002年に設立された非営利団体である。SDEAの使命は、演劇・舞台教育者の専門性を高め、パフォーマンス、教育、コミュニティにおける演劇と舞台の実践と価値を提唱することである ¹⁹³ 。
映画	シンガポール映画専門家協会 (Singapore Association of Motion Picture Professionals:SAMPP)	SAMPPは、Infocomm Media Development Authority(IMDA)内のシンガポール・フィルム・コミッションやその他の機関に対して、映画・テレビ・ブロードキャスト・メディア業界のコミュニティの立場として関わるために2009年に設立された組織である。法律や政策、補助金制度などに関するコンサルティング、法的権利、保険、キャリア管理に関する入門セッションの実施、ベストプラクティスの成文化などを行う ¹⁹⁴ 。

出典：各組織ウェブサイト¹⁹⁵よりNRI作成

¹⁸⁸ <https://www.aa.org.sg/>

¹⁸⁹ Facebook (<https://www.facebook.com/sgheritage/>) Facebook ログイン後ページより

¹⁹⁰ <https://agas.org.sg/>

¹⁹¹ <https://www.scmf.org.sg/>

¹⁹² <https://www.singaporedancealliance.com/>

¹⁹³ <https://www.sdea.org.sg/>

¹⁹⁴ <https://www.sampp.org.sg/>

¹⁹⁵ 図表内概要欄にURLを記載している

以降では、各芸術領域より代表的なアンブレラ組織を5団体列挙し、各組織の概要や、収入における助成金の位置づけなどについて記述する。

①シンガポール遺産協会(SHS)

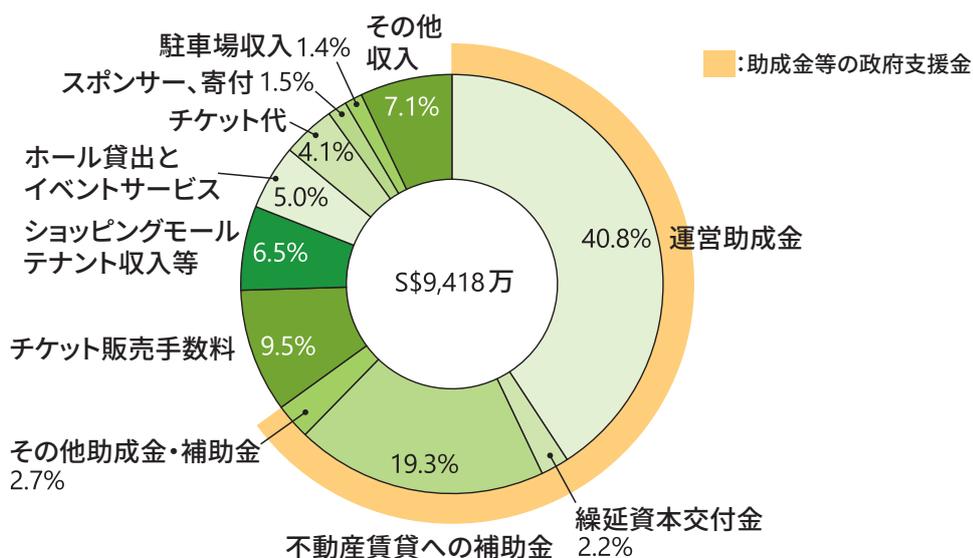
SHSは、1987年に非営利の非政府組織として設立された、シンガポールの遺産保護を目的とする独立したアドボカシー組織である。同協会の活動は、遺産を「今に生きる過去(the living presence of the past)」と定義することに基づいている¹⁹⁶。

SHSの収入源は、主に寄付とNHBからの助成金である。SHSは、NHBの「デジタルプロジェクト Grant (Digital Project Grants、現在は廃止)」により、2つのデジタル化プロジェクトを完了している。1つは、センウォンベオ寺院が所有する貴重な典礼写本の目録作成とデジタル化で、もう1つは、ブキットブラウン墓地の墓から出土したさまざまな遺物の3次元スキャンとドキュメンタリーの制作である。さらに、NHBとMCCYによる「コミュニティ統合ファンド」を受けて、遺跡のウォーキングコースとディスカッションワークショップを組み合わせた「ウォーキングワークショップ」(2019年9～12月)が開催された。また、2021年2月、SHSはNHBからの「遺産研究 Grant」の支援を受けて、1年間の歴史研究プロジェクト「シンガポール、エンゼルビーク報告書と帝国の『寄贈』、1812-1825年(Singapore, the Angelbeek Report and the “Donation” of Empire, 1812-1825)」を実施した。このプロジェクトは、1824年の英蘭条約の履行に関するオランダの文書集を編纂、翻訳、編集することを目的としたものであった¹⁹⁷。

また、SHSは政府による寄付金に関する2つの制度を活用している。これらは助成金以外の支援策として、SHSに大きな利益をもたらしている。

- SHSは慈善事業委員会(Commission of Charities)により、公共性の高い機関(Institution of Public Character: 以下、IPC)として承認されている。これは、SHSへの寄付者が寄付金に対して250%の税額控除を申請できることを意味する。
- SHSは、MCCYの「文化マッチングファンド」に申請する資格がある。

図表1-4-2 SHSの収入内訳(2020年度)



出典: SHS Annual Report 31 March 2021¹⁹⁸よりNRI作成

¹⁹⁶ https://www.singaporeheritage.org/?page_id=1363

¹⁹⁷ <https://www.singaporeheritage.org/wp-content/uploads/2021/09/3-SHS-Presidents-Report-for-2021.pdf> (P6)

¹⁹⁸ <https://www.singaporeheritage.org/wp-content/uploads/2021/09/4-SHS-Financial-Statement-Year-End-March-2021.pdf> (P6)

②シンガポール美術館協会(AGAS)

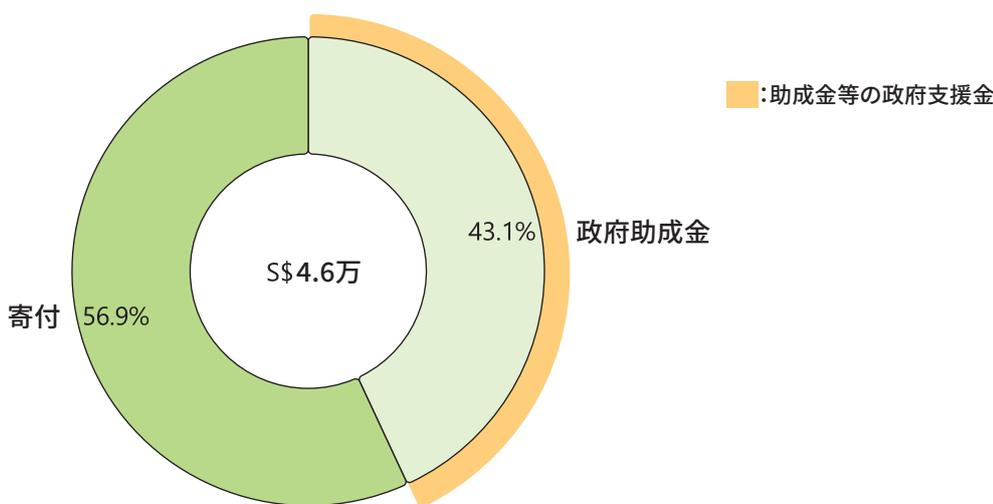
AGASは、シンガポールのギャラリーの所有者と経営者の利益を代表する主要な機関であり、国内外のさまざまな政府機関、文化芸術団体、メディア、そして一般市民に対するアドボカシー組織として存在している。AGASは、シンガポールにおけるプロフェッショナルで倫理的なギャラリーのあり方を規定し、アートディーラーの役割と責任について一般の人々の認識を高める役割を担っている。AGASとその会員は、地域社会における美術鑑賞を促進し、シンガポールの芸術と文化の価値と理解を高めることを責務としている¹⁹⁹。

AGASは、NACの「組織変革基金」(現在は「芸術セクター変革基金」)を活用したアンブレラ組織の1つである。AGASやそのメンバーは、ビジュアルアート業界において、シンガポールのコンテンポラリーアートに関心を持つ顧客をターゲットとした信頼性の高いマーケットプレースを欠いているという課題や、ビジュアルアートの専門家のための求人やサービス機会を宣伝するオンラインスペースを欠いているという課題に直面していた。特に、芸術作品やイベントチケットをオンラインで購入するなど、急速に進化する消費者のオンライン購買習慣に対して適応していく必要があった。そこでAGASは、NACの「組織変革基金」を活用し、ウェブサイトを更新することでオンライン上のプレゼンスを強化し、ビジュアルアーツ業界の進化するニーズに対応した。刷新されたウェブサイトは、芸術家やギャラリー、アートコレクターなどに統合されたプラットフォームを提供し、メンバーの知名度を向上させ、コミュニティ内のつながりを促進した²⁰⁰。

③シンガポール中国音楽連盟(SCMF)

SCMFは、2013年12月27日に設立された中国音楽のアンブレラ組織である。中国音楽に関連する団体が団結し、シンガポール独自の作品や作曲家の宣伝、普及、知名度の向上を図り、シンガポール内外の中国文化関係の確立と強化を目指している。主な活動としては、コンサートやコンクールの開催、出版物の発行などの事業であり、これらの活動を通じて、当連盟はシンガポールで中国音楽を広く普及させている。会長にCity Chinese Orchestraの音楽監督を、副会長にSingapore Chinese Orchestraの常務取締役を置いている(2024年1月現在)。活動の中心となるイベントの1つとして、2年に1度行われるシンガポール中国音楽祭(Singapore Chinese Music Festival)を企画している。2023年のフェスティバルでは、60のコンサートを開催した他、2冊の書籍出版やオンライントーク、中国音楽キャンプなどを行った。SCMFは、このフェスティバルを主催するにあたって、NACから「発表・参加グラント」を受けている²⁰¹。

図表1-4-3 SCMFの収入内訳(2021年度)



出典: SCMF Financial Statements Financial Year Ended 31 October 2023²⁰²よりNRI作成

¹⁹⁹ <https://agas.org.sg/about/>

²⁰⁰ <https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/organisation-transformation-grant/agas---optimising-the-website>

²⁰¹ <https://www.scmf.org.sg/>

²⁰² MCCY Charity Portal (<https://www.charities.gov.sg/>) ウェブサイト内ログイン後画面より

④シンガポールダンス連盟(SDA)

SDAは、シンガポールのダンスシーンに長年の経験を活かして貢献したいという同じ情熱、志、夢を持つ、シンガポールのダンス界に影響力のあるリーダーたちによって結成された非営利団体である。SDAは、シンガポールの人々のダンスに対する認識と理解を深め、さまざまなイベントや活動を通してシンガポールのダンスシーンの「エコシステム」をサポートすることを目的に設立された²⁰³。

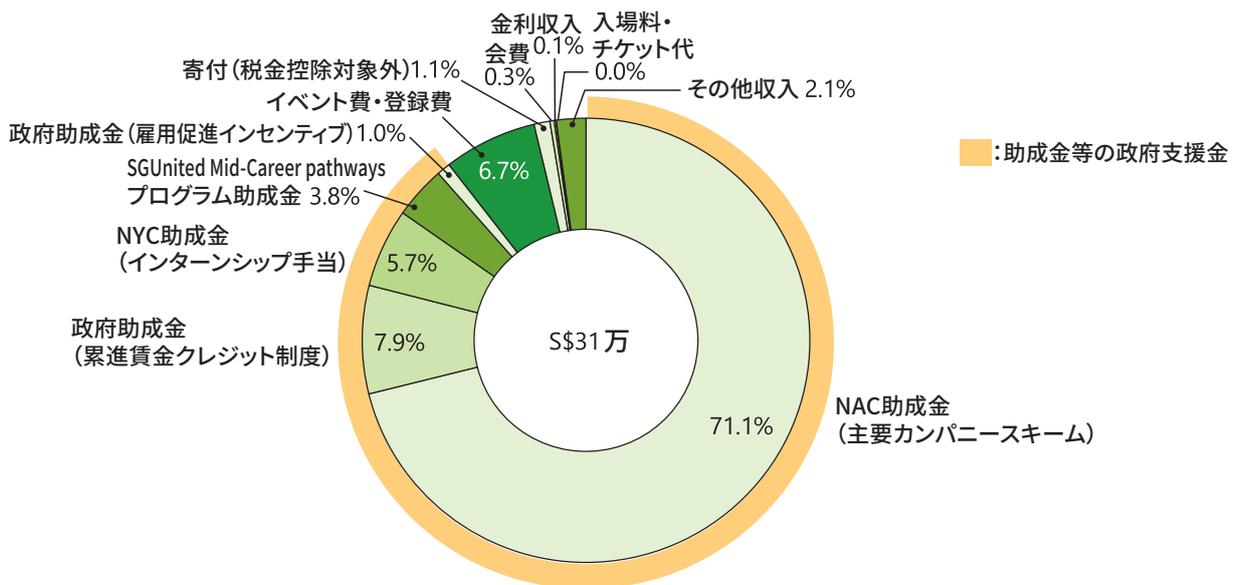
SDAは、2022年度、「発表・参加グラント」をNACより受けている。助成金を受ける団体として、SDAは財務状況などに関して前年度と比較する報告書をNACに提出しているが、一般公開はされていない。

⑤シンガポール演劇教育者協会(SDEA)

SDEAは、芸術家と演劇教育者のグループによって2002年に設立された非営利団体である。SDEAの使命は、ドラマ・演劇教育者の専門性を高め、公演、教育、コミュニティにおけるドラマ・演劇の実践と価値を提唱することである。また、SDEAは国際ドラマ・演劇教育協会(International Drama/Theatre Education Association: 以下、IDEA)のメンバーであり、あらゆる場所において、子供たちや若者の生活の中でドラマ・演劇と教育を身近で意義深く、存在感のあるものにするに尽力している。SDEAのアドボカシー活動と専門家育成団体としての活動は、ユネスコの第2回芸術教育世界会議(World Conference on Arts Education Agenda)で示された芸術教育発展の目標を満たしているとの評価を得ている²⁰⁴。

以下にSDEAの2022年度の収入内訳を示している。SDEAは、NACの「主要カンパニースキーム」の助成を受けしており、更新・再申請を行っている。現在の助成期間は2022年4月1日から2025年3月31日までである。2011年、SDEAは初めて「NACシードグラント／コンサルティング&スタートアップグラント(NAC Seed Grant／Consultancy and Start Up Grant、現在は廃止)」とNACの「アートハウジングスキーム」に採択された。また、2013年、SDEAは初めて「主要カンパニースキーム」に採択された²⁰⁵。

図表1-4-4 SDEAの助成金による収入内訳(2022年度)



出典: SDEA 2022-2023 Annual Report ²⁰⁶よりNRI作成

²⁰³ <https://www.singaporedancealliance.com/>

²⁰⁴ <https://www.sdea.org.sg/about/who-we-are/>

²⁰⁵ <https://sdea.wildapricot.org/resources/Documents/2023/FY2022%20Annual%20and%20Financial%20Statement/SDEA%20Annual%20Report%20FY2022.pdf> (P13、46、裏表紙など)

²⁰⁶ <https://sdea.wildapricot.org/resources/Documents/2023/FY2022%20Annual%20and%20Financial%20Statement/SDEA%20Annual%20Report%20FY2022.pdf> (P46)

4-2.カンパニーの概要

シンガポールには、いわゆる西洋的な芸術を活動の中心とするカンパニーの他に、中国系・マレー系・インド系の文化芸術を活動の中心とするカンパニーが多数存在する。図表1-4-5は、シンガポールにおけるカンパニーの一例である。各民族文化を対象とするカンパニーには、複数の芸術領域を対象としているものもみられる。例として、音楽に合わせて舞踊を踊り、その舞踊の背景として民話などのストーリーがある場合などが挙げられる。この場合、1つの団体の中に音楽を担当する部門、舞踊を担当する部門、演劇的な側面を担当する部門が存在する場合がある。その場合、以下の図表1-4-5における「芸術領域」の欄には、各団体がNACに助成金を申請する際に記したものを記載している。

図表1-4-5 シンガポールにおける代表的なカンパニー

芸術領域	カンパニー名	概要
音楽	Singapore Symphony Orchestra (SSO)	SSOは、1979年に創立されたシンガポールを代表するオーケストラである。クラシック音楽を通じて人々に感動を与え、年間44週間に及ぶシーズンを通して、文化シーンの鼓動を伝えている ²⁰⁷ 。
	Singapore Chinese Orchestra (SCO)	SCOは、1997年に発足したシンガポールで唯一のプロの中国系オーケストラである。SCOは、伝統芸術と文化の保存という2つの役割を担い、音楽に東南アジアの文化要素を取り入れることで、独自のアイデンティティを確立している ²⁰⁸ 。
	Nadi Singapura	Nadi Singapuraは、2011年11月に結成されたマレーの太鼓やパーカッションを演奏する団体である。伝統的な楽器を用いて現代的な演奏を行い、ユニークで独特な表現で、マラヤ群島の文化を紹介している ²⁰⁹ 。
	Singapore Indian Orchestra & Choir (SIOC)	SIOCは、37年の歴史を持つインド系の舞台芸術集団である。伝統的なものから現代的なものまで、幅広いレパートリーのインド音楽の豊かさを紹介している ²¹⁰ 。
	Singapore Lyric Opera (SLO)	SLOは、シンガポールで最も長い歴史を持つ西洋オペラのフラッグシップカンパニーである。アジア太平洋地域で上演の機会が少ない、国内外の著名な演奏家による西洋オペラやコンサートを上演している ²¹¹ 。
ダンス	CHOWK Productions	CHOWK Productionsは、インド東部の古典舞踊であるオディッシーを取り入れたオリジナル作品を創作・発表するダンスカンパニーである。伝統と現代性の二項対立を解消する、ユニークなアジアのコンテンポラリーダンスのパイオニアとして、国際的に認められている ²¹² 。
	Bhaskar's Arts Academy	Bhaskar's Arts Academyは、シンガポールを拠点とするインド古典舞踊、音楽、演劇のカンパニーである。同アカデミーは、シンガポールの活気ある文化芸術分野に貢献することを目指し、毎年3～4シーズン公演を実施している ²¹³ 。

²⁰⁷ <https://www.sso.org.sg/>

²⁰⁸ <https://www.sco.com.sg/en/>

²⁰⁹ <https://nadisingsapura.com/>

²¹⁰ <https://www.sioc.com.sg/>

²¹¹ <https://www.singaporeopera.com.sg/>

²¹² <https://www.chowk.sg/>

²¹³ <https://www.bhaskarsartsacademy.com/>

芸術領域	カンパニー名	概要
ダンス	Singapore Ballet	Singapore Balletは、1988年に創立されたシンガポールを代表するダンスカンパニーである。クラシックからコンテンポラリーまで幅広いレパートリーを持つ ²¹⁴ 。
	Singapore Chinese Dance Theatre (SCDT)	SCDTは、2014年に設立された、芸術性と創造性に優れた中国舞踊を推進するプロのダンスカンパニーである。中国舞踊におけるシンガポールのアイデンティティの発展と探求に重要な役割を果たしており、国内外における中国舞踊の中心地となることを目指している ²¹⁵ 。
	T.H.E. Dance Company	The Human Expression (T.H.E) Dance Companyは、アーティストックディレクターのクイック・スウィープン(Kuik Swee Boon)によって2008年に設立された。シンガポールに根ざしながらも普遍的な視点を持つT.H.Eのコンテンポラリーダンス作品は、身体の動きを通じてより深い本能や衝動を表現している ²¹⁶ 。
演劇	Singapore Theatre Company(STC)	STCは、1993年に設立された、アジアを代表する英語劇の制作・上演団体である。シンガポールをはじめ世界中の優れた芸術家とのコラボレーションを通じて、観客を魅了し、楽しませることを使命としている ²¹⁷ 。
	Pangdemonium	Pangdemoniumは、2010年に設立された劇団である。挑戦的かつ刺激的で、親しみやすく、そして何よりも最高の芸術性やエンターテインメント性を備えた物語を舞台上で伝えることを使命としている ²¹⁸ 。
	Wild Rice	Wild Riceは2000年に設立された劇団である。多様性を称え、現代の問題と可能性を考察し、インスピレーションを与え、挑戦し、楽しませる作品を上演している ²¹⁹ 。
	Chinese Theatre Circle(CTC)	CTCは、1981年に設立された京劇団である。シンガポールをはじめ世界各地で京劇、舞踊、音楽の芸術を広めており、これまでにシンガポールの他にも23の国と地域で2,000回以上の公演を実施している ²²⁰ 。

出典：各カンパニーウェブサイト²²¹ よりNRI作成

²¹⁴ <https://singaporeballet.org/>

²¹⁵ <https://www.scdt.com.sg/>

²¹⁶ <https://www.the-dancecompany.com/>

²¹⁷ <https://www.singaporetheatrecompany.sg/>

²¹⁸ <https://pangdemonium.com/>

²¹⁹ <https://www.wildrice.com.sg/>

²²⁰ <https://www.ctcoper.com/>

²²¹ 図表内概要欄にURLを記載している

以降では、各芸術領域より代表的なカンパニーを6団体列挙し、各団体の概要や、収入における助成金の位置づけなどについて記述する。

①Singapore Symphony Orchestra (SSO)

SSOは、1979年に創立されたシンガポールを代表するオーケストラで、クラシック音楽を主軸に、最先端の初演曲や、アジアの作曲家による近代的な曲など、多様なオーケストラ曲を演奏する。年間44週間を活動期間として定期シリーズコンサートを公演する他、野外コンサートやコミュニティコンサート、そして学校プログラムを通じてシンガポールの若者を教育するという重要な役割も担っている。その公演数は年間60公演を超える。オーケストラは80～90名の奏者からなっており、ゲスト奏者を除き全員がSSOの職員である(2022年度の職員奏者数は81名)²²²。

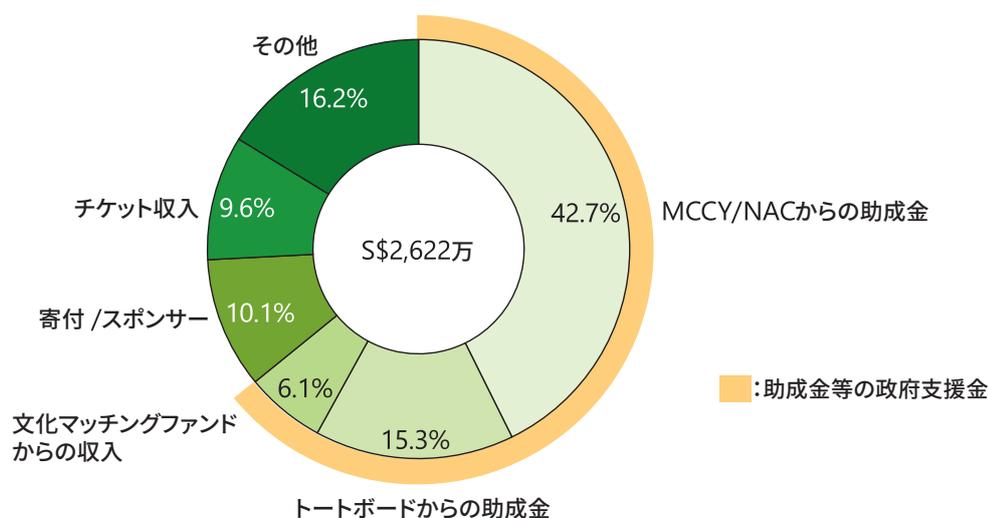
SSOは海外ツアーや多くのレコーディングで高い評価を得ている。2021年、SSOはグラモフォン誌のオーケストラ・オブ・ザ・イヤーで第3位にランクインした。また、2022年には、BBCミュージックマガジンによる世界のベストオーケストラ21の1つに選ばれた。

SSOを所有している企業はSingapore Symphony Groupであり、SSOの他にSingapore Symphony Chorus、the Singapore National Youth Orchestra、the VCHpresents Chamber Music series、シンガポール国際ピアノフェスティバル、2年に1度の国際ピアノ&バイオリンコンクールなどを運営している²²³。

SSOは設立時に政府からVictoria Concert Hall(「4-4. 芸術施設の概要」にて後述)を譲り受け、形式的な使用料として年間S\$1(約112円)を支払い借りていた。Victoria Concert Hallは2010年にリノベーションされたが、その際の費用をSSOが捻出することは難しかったことから、政府の費用によってリノベーションが行われた。これを受けて、SSOはVictoria Concert Hallを政府に返還したが、年間S\$1(約112円)のリース料金は維持されており、敷地内に小さな事務所を維持している。現在、SSOは直接コンサートホールを所有・運営せず、Victoria Concert HallとEsplanade Concert Hallを2大拠点として使用している²²⁴。

以下にSingapore Symphony Groupの2022年度の収入内訳を示している。2022年度は、運営収入の約64%がMCCY/NACやTote Boardからの助成金によるものである。

図表1-4-6 Singapore Symphony Groupの収入内訳(2022年度)



出典: Singapore Symphony Group Annual Report 22/23²²⁵よりNRI作成

²²² <https://web-assets.sso.org.sg/documents/Singapore-Symphony-Group-22-23-Annual-Report.pdf> (P54)

²²³ <https://www.sso.org.sg/about/singapore-symphony-orchestra/our-story>

²²⁴ SSOへのヒアリングより

²²⁵ <https://web-assets.sso.org.sg/documents/Singapore-Symphony-Group-22-23-Annual-Report.pdf> (P58)

Singapore Symphony Groupは、主に図表1-4-7に示す4つの政府補助金の助成を受けている。

図表1-4-7 Singapore Symphony Groupが受けている政府補助金 ※1シンガポールドル=112円

補助金名	補助金金額(2022年度)	
	シンガポールドル	日本円換算
MCCY/NACによる運営費助成金	S\$11,200,000	約12.5億円
Tote Boardからの助成金	S\$4,000,000	約4.5億円
MCCY/NACによる雇用支援スキーム(Job Support Scheme)	S\$1,613,436	約1.8億円
MCCYによる「文化マッチングファンド」	S\$1,605,336	約1.8億円

出典: Singapore Symphony Group Annual Report 22/23²²⁶よりNRI作成

なお、Tote Boardからの助成金に関して、SSOは、Tote Boardより年間S\$400万(約4.5億円)の助成金と年間S\$200万(約2.2億円)を上限とする寄付に関する支援(2022年度)を運営費の助成として受けている。支払いについては、主要業績評価指標、キャッシュフローの詳細、資金使途に関するガイドラインが作成され、合意された後に行われる²²⁷。

②Singapore Chinese Orchestra(SCO)

1996年に発足したSCOは、シンガポールで唯一のプロフェッショナルな中国系ナショナルオーケストラである。80名以上の音楽家で構成されるSCOは、国の建造物遺産であるSingapore Conference Hall(詳細は「4-4. 芸術施設の概要」にて後述)をホームとして使用し、年間100~120程度の公演を実施している。SCOの後援者(Patron of SCO)はリー・シェンロン(Lee Hsien Loong)国務資政である。中国における伝統芸術の保護とシンガポール文化の促進という2つの役割を担い、音楽に東南アジアの文化要素を取り入れることで独自のアイデンティティを確立している²²⁸。

SCOはこれまで、北京、上海、アモイ、南京、蘇州、マカオ、ハンガリー、イギリスなど、さまざまな国や都市においてツアーを行ってきた。世界的に有名な「人民のためのオーケストラ」になるというビジョンのもと、SCOはさまざまな国立公園、コミュニティ、学校、病院などで定期的に演奏し、アウトリーチを広げている。特に、教育に関しては教育省と密に連携し、才能の発掘と育成を行っている他、シンガポール人の若手作曲家に作曲を委嘱するなどの活動を通じて、若い音楽家の育成にも貢献している。また、シンガポールのコミュニティホスピタルと総合病院において、無料コンサートを開催した経験がある^{229 230}。

SCOの前身は人民協会(PA、第2部第1章「1-2. 地域行政サービス・コミュニティ組織」にて後述)によって設立されたPA Chinese Orchestraである。PA Chinese Orchestraはコミュニティのイベントにて演奏することを主な役割としており、SCOのコミュニティにおける活動は、PA Chinese Orchestraの当時の役割を引き継ぐ形で現在も行われている²³¹。

SCOの所有企業はSingapore Chinese Orchestra Company Limited(以下、SCO Co Ltd)であり、SCOのオーケストラの運営の他、Singapore National Youth Chinese Orchestra、Singapore Conference Hallの運営なども行う。

以下にSCO Co Ltdの2022年度の収入内訳を示している。2022年度のSCO Co Ltdの収入の大部分(約76%)は政府からの助成金によるもので、その総額は約S\$1,341万(約15億円)である。主だった助成金は、NACからの運営費助成金が合計S\$750万(約8.4億円)、Tote Boardからの運営費助成金が合計S\$320万(約3.6億円)、NACからのレンタル費助成金が合計約S\$119万(約1.3億円)、「文化マッチングファンド」が約S\$100万(約1.1億円)であった²³²。

²²⁶ <https://web-assets.sso.org.sg/documents/Singapore-Symphony-Group-22-23-Annual-Report.pdf> (P64)

²²⁷ <https://web-assets.sso.org.sg/documents/Singapore-Symphony-Group-22-23-Annual-Report.pdf> (P58)

²²⁸ <https://www.sco.com.sg/en/about-the-orchestra.html>

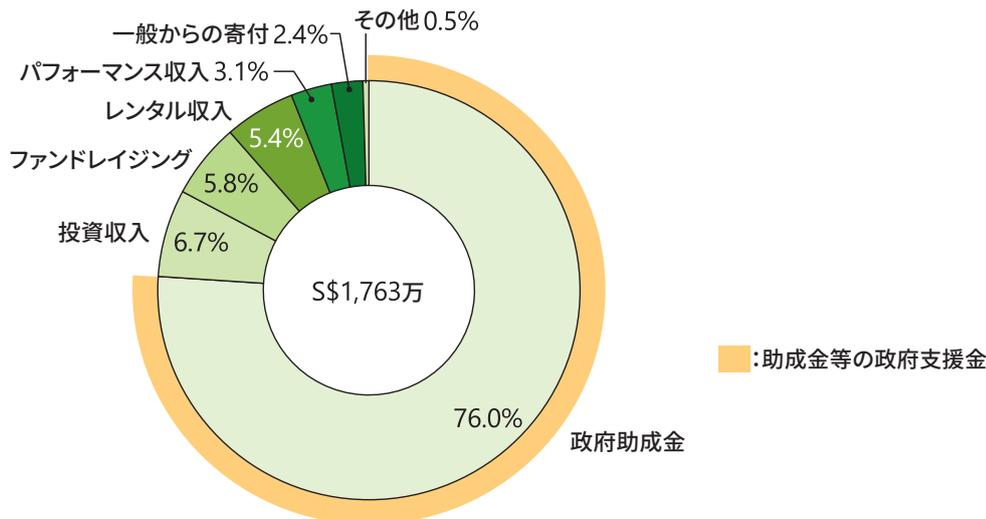
²²⁹ <https://www.sco.com.sg/en/about-the-orchestra.html>

²³⁰ SCOへのヒアリングより

²³¹ <https://archives.sco.com.sg/historyofSCO/>

²³² https://sco.com.sg/images/PDFs/SCO_Annual_Report_FY22-23.pdf (P58)

図表1-4-8 SCO Co Ltdの収入内訳(2022年度)



出典:SCO Annual Report 2022/2023²³³よりNRI作成

なお、ここでいうレンタル費助成金は主にSingapore Conference Hallの運営に関する助成金である。この助成金は「補助金(Subvention)モデル」となっており、公共施設を所有している政府が会場の賃貸料の一部を補助し、SCOは残りの賃貸料と維持費を負担するという仕組みになっている。

③Nadi Singapura

Nadi Singapuraは、2011年11月にNACからの「シードグラント」(現在は廃止)を受けて結成されたマレー系の音楽団体で、伝統的な太鼓やパーカッションによる演奏を高みに持っていくことを信条とする、意欲的な若手音楽家で構成されている。結成の目的は、獅子の都(=シンガポール)から生まれるユニークで独特な表現を用いてマラヤ群島の音を広めることである。「Nadi」はマレー語で「鼓動」や「意識の流れ」を意味している。Nadi Singapuraは、シンガポールで最も一般的なマラヤ太鼓、すなわちコンパン、リバナ、ジドゥル、ゲンダンを無形文化遺産の一部として演奏に取り入れており、このような伝統的な太鼓を使った演奏芸術のレベルを高めると共に、シンガポール独自のユニークな表現を広めることを目指している²³⁴。

Nadi Singapuraは年間約3つの公演プログラムを発表しており、1プログラムあたり1～2回公演を行う。ホームとなる劇場は持たず、「4-4. 芸術施設の概要」にて後述するようなVictoria TheatreやEsplanade Theatre、Drama Centre Theatreなどにて公演を開催している。2019年、彼らはEsplanadeでS\$50万(約5,600万円)の制作費となる大劇場作品に、たった1日の公演で出演する機会を得た。準備期間は5年に及び、歌や演技、その他の演劇技術に関する大規模なワークショップが行われた。この試みには多額の資金が投入され、多くの人が関わった²³⁵。

Nadi Singapuraは、NACの「アートハウジングスキーム」(詳細は第2章「2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係」にて前述)の補助のもと、AHLが管理しているAliwal Arts Centreに拠点を置いている。

以下に、Nadi Singapuraの2022年度の収入内訳を示している。Nadi Singapuraは、NACの「主要カンパニースキーム」の受給者であり、2022年4月1日から2025年3月31日までの3年間の受給が決まっている²³⁶。また、慈善法に基づき慈善団体として登録されている。NACとの関係に関しては、NACから助成金を受けるだけでなく、NACの年次審査の一環として、財務状況などに関して前年度と比較する報告書を提出している。また、慈善団体であることから、MCCYにも年次報告書を提出している。

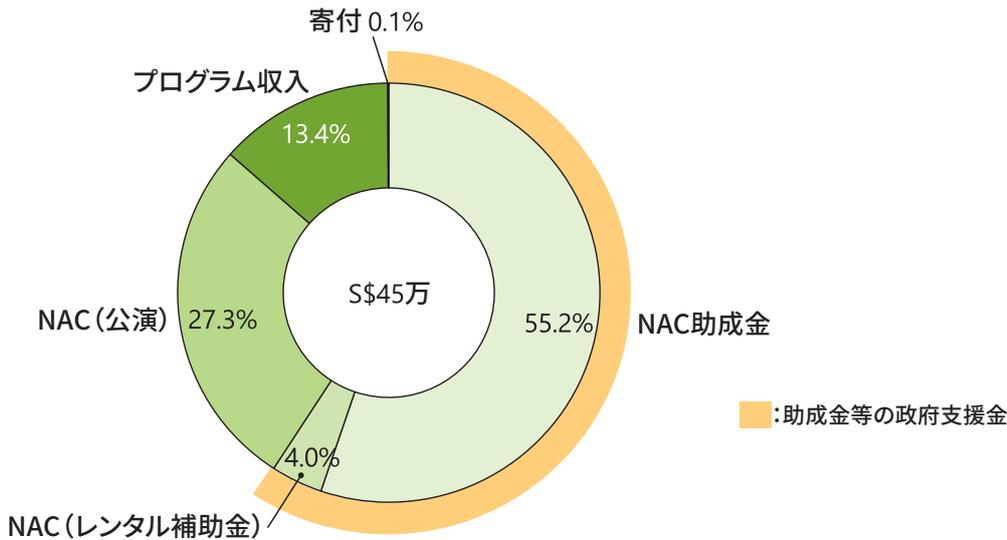
²³³ https://sco.com.sg/images/PDFs/SCO_Annual_Report_FY22-23.pdf (P58)

²³⁴ <https://nadisingapura.com/about/>

²³⁵ Nadi Singapuraへのヒアリングより

²³⁶ <https://nadisingapura.com/wp-content/uploads/2023/09/Nadi-Singapura-Ltd-AFS-FY2023.pdf> (P6)

図表1-4-9 Nadi Singapuraの収入内訳(2022年度)

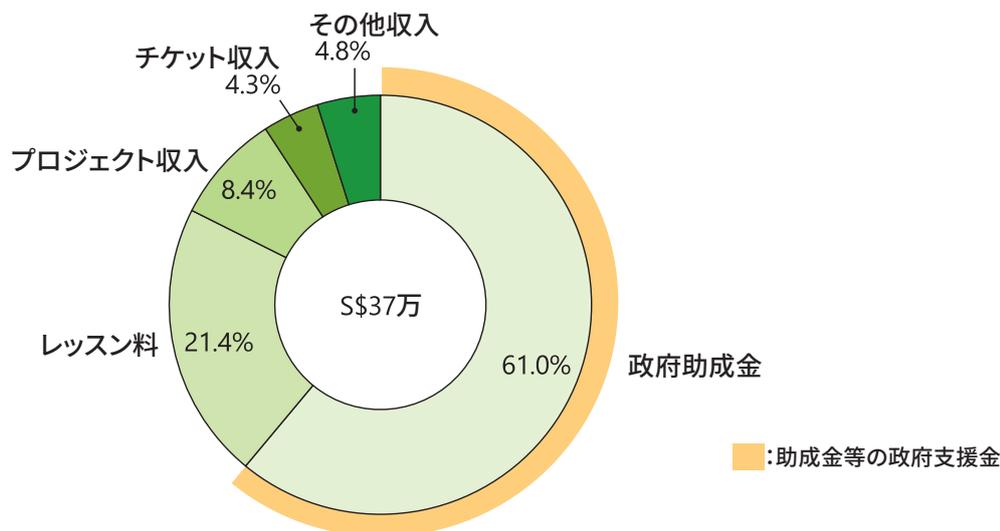


出典: 2022年度Nadi Singapura Ltd Financial Statements For the financial year ended 31 March 2023²³⁷よりNRI作成

④CHOWK Productions

CHOWK Productionsは、インド東部の古典舞踊であるオディッシーを取り入れたオリジナル作品を創作・発表するダンスカンパニーである。2007年、設立者がオディッシーを教え始めたことから始まり、2014年にNACの「シードgrant」(現在は廃止)を受けて企業として設立された。伝統と現代性の二項対立を解消するユニークなアジアのコンテンポラリーダンスのパイオニアとして、国際的に認められている。2021年より、NACの「主要カンパニースキーム」にて助成金を受けている²³⁸。

図表1-4-10 CHOWK Productionsの収入内訳(2022年度)



出典: CHOWK Productions Annual Report 2022-2023²³⁹よりNRI作成

²³⁷<https://nadisingapura.com/wp-content/uploads/2023/09/Nadi-Singapura-Ltd-AFS-FY2023.pdf> (P6)

²³⁸ <https://www.chowk.sg/>

²³⁹ MCCY Charity Portal (<https://www.charities.gov.sg/>) ウェブサイト内ログイン後画面より

⑤ Bhaskar's Arts Academy (BAA)

BAAは、シンガポールを拠点とするインド古典舞踊、音楽、演劇のカンパニーである。シンガポールの活気ある文化芸術分野に貢献することをミッションとし、毎年3～4シーズン公演を開催している。伝統的なテクニックと哲学の洗練を追求する一方で、異文化の探求という革新的な精神も大切にしている。同アカデミーは、1952年にインド古典舞踊の教室としてはじまり、1980年代後半に音楽、舞踊、芸術を広く教えるようになった。現在、教育部門は傘下の文化芸術団体であるNriyalaya Aesthetics Societyが担っており、選抜されたダンサーはBAAのコアダンサープログラムに参加することができる。

BAAは、NACの「主要カンパニースキーム」助成金受給者の1つである。このことは、同アカデミーが芸術的に常に上を目指そうという一貫したコミットメントを表すだけでなく、地域社会における文化の多様性を豊かにする上で極めて重要な役割を担っていることを強調するものでもある²⁴⁰。

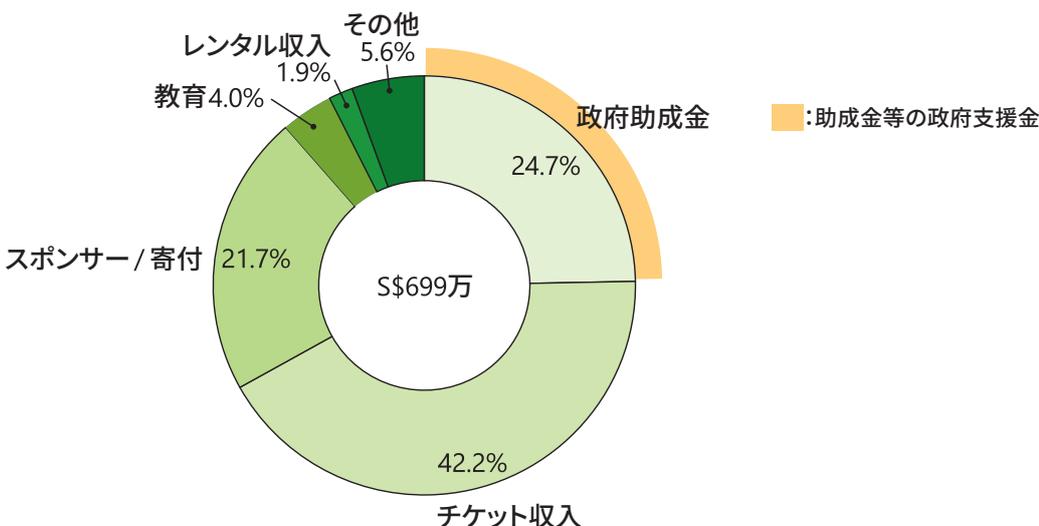
⑥ Singapore Theatre Company (STC)

1993年に設立されたSTCは、アジアを代表する英語劇の制作・上演団体である。STCオリジナルのミュージカル「Forbidden City: Portrait of an Empress」の他、「ART」、「The Pillowman」、「God of Carnage」などの作品を数多く上演している。STCの国際的な活動については、第2部第2章「2-3. 文化芸術における海外との連携」にて後述する。STCのミッションは、世界最高の人材と協力し、最高レベルの演劇作品や学習プログラムを上演することで、観客を豊かにし、魅了し、楽しませることである。

STCは年に3～5演目程度の公演を開催している。演目あたりの公演期間は短いもので2日、長いもので2ヶ月のものがあるが、3～4週間のものが一般的である。公演期間中は週6日間公演があり、平日は1日1公演、土日は1日1～2公演が主なスケジュールとなる²⁴¹。

以下に、STCの2022年度の収入内訳を示している。STCは、NACの「主要カンパニースキーム」助成対象団体の1つである。2022年度は、NACからの助成金総額が年間運営予算の7%を占めている。また、今年度調達した全ての資金に対して「文化マッチングファンド」を申請している²⁴²。さらに、STCの子供向け部門であるリトルカンパニーもNACから資金援助を受けている²⁴³。

図表1-4-11 STCの収入内訳(2022年度)



出典: STC Annual Report 2022-2023²⁴⁴よりNRI作成

²⁴⁰ <https://www.bhaskarsartsacademy.com/about.cfm>

²⁴¹ <https://www.singaporetheatrecompany.sg/new>

²⁴² https://www.srt.com.sg/resources/ck/files/PDF/Annual%20Report/Website_Annual%20Report_2023.pdf (P13)

²⁴³ <https://www.mccy.gov.sg/about-us/news-and-resources/speeches/2023/mar/Shaping-the-Future-of-Our-Arts-and-Heritage-Together>

²⁴⁴ https://www.srt.com.sg/resources/ck/files/PDF/Annual%20Report/Website_Annual%20Report_2023.pdf (P16)

4-3. アンブレラ組織・カンパニーと文化コミュニティ青年省・ナショナルアーツカウンシルの関係性

アンブレラ組織やカンパニーとNACなどの助成団体の関係は、助成金の支給、目標の共有、定期的な報告や確認など、多面的なものである。ここでは、上記で例に挙げたアンブレラ組織・カンパニーを中心に、アンブレラ組織・カンパニーとMCCY・NACの関係性について記述する。

「4-1. アンブレラ組織の概要」でも前述した通り、シンガポールのアンブレラ組織の多くは、アドボカシー活動を行っていない。各カンパニー、特に被助成団体は、NACのアカウントマネージャーを通じてNACに意見を伝える機会が与えられており、そのフィードバックがMCCYに伝わる仕組みになっている。

NACからの助成金を受けているようなアンブレラ組織の特徴の1つとして、音楽・ダンス・演劇などの芸術領域という大きな括りではなく、小さな括りでのアンブレラ組織が多く見られるという点がある。一例として、ダンスの中でも中国系に特化したChinese Dance Artistes' Associationや、音楽の中でも中国系に特化したSingapore Chinese Music Federationなどがある。また、別の例としては、音楽の中でも作曲家に絞られたAssociation Of Composersや、ハープ奏者に絞られたThe Harp Associationなど、一定のジャンルに特化したアンブレラ組織も見られる。また、運営費助成である「主要カンパニースキーム」を受けているアンブレラ組織は少なく、プロジェクトごとである「発表・参加 grant」を受けているアンブレラ組織の方が圧倒的に多く見られる。これは、アンブレラ組織が主に各団体間のネットワーキングや複数団体によるイベント・フェスティバルなどの開催を主な目的としていることに起因していると考えられる。

4-4. 芸術施設の概要

国土の小さいシンガポールにおいて、芸術活動スペースの確保は重要な課題の1つとなっている。そのため、NACはアートエコシステムの1つとして発表・配信の場を重要視している。また、シンガポールでは、劇場・ホールの一部はランドマークや観光名所ともなっている。ここでは、代表的な劇場・ホールについて、芸術施設の運営会社としてNACが設立したArts House Ltd. (AHL)によって運営管理されている施設と、個別に運営管理されている施設に大別して記述する。

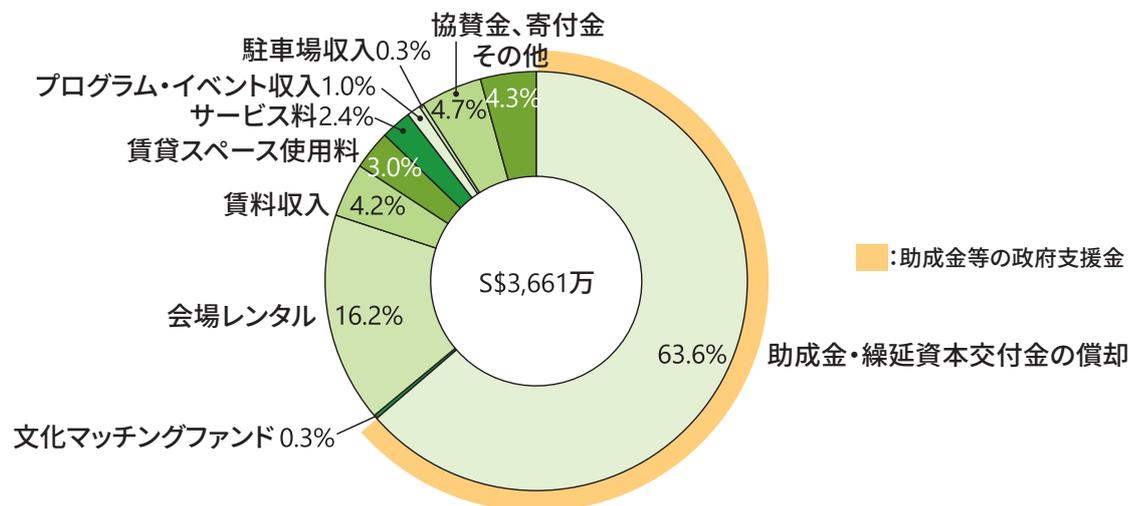
(a)AHLによって運営管理されている施設

AHLは、芸術を通して人生を豊かにすることを目的として2002年に設立されたNAC傘下の公益法人である。政府所有の建物が芸術活動スペースでの使用を目的にNAC管轄となった場合、その管理運営をAHLが担うことになっている。第2章「2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係」にて前述した「芸術インフラスキーム」にて提供される芸術施設の一部がそれにあたる。現在は大型の劇場・ホールであるVictoria Theatre & Concert Hallをはじめ、小規模ホールや芸術活動スペースを複数持つThe Arts House、小規模劇場を持つDrama Centre、リハーサル室やスタジオを始めとしたさまざまな芸術活動スペースを提供する3つのアートセンター（Goodman Arts Centre、Aliwal Arts Centre、Stamford Arts Centre）の6つの芸術活動スペースを運営する。これらの概要については後述する。

また、AHLは、シンガポールを代表する芸術フェスティバルであるシンガポール芸術祭（SIFA、第2部第2章「2-1. シンガポールの文化芸術における周辺分野連携」にて後述）とSingapore Writers Festival（以下、SWF）を運営している。

AHLの収入は、NACからの助成金が6割強となっており、会場レンタル・賃料・スペース使用料がそれに続く。

図表1-4-12 AHLの収入構成（2022年度）

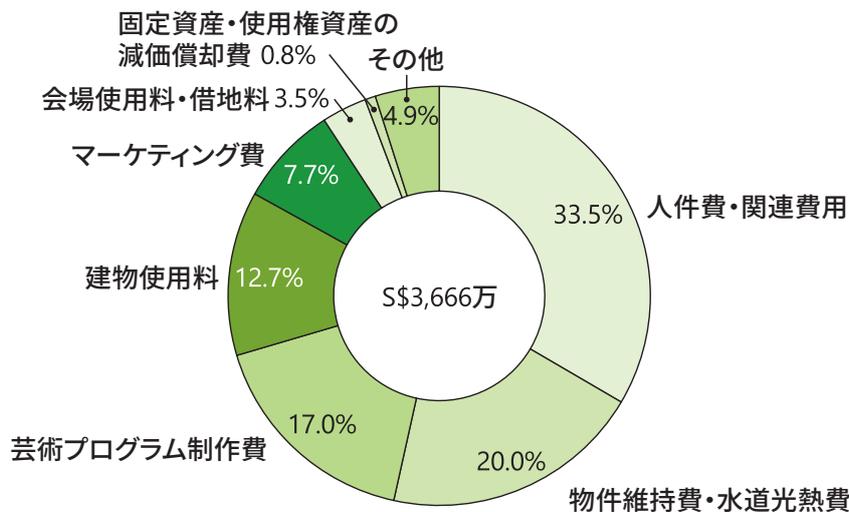


出典: Arts House Limited Annual Report For the year ended 31 March 2023²⁴⁵よりNRI作成

²⁴⁵ <https://issuu.com/artshouselimited/docs/arts-house-ltd-2023>

AHLの支出は、人件費関連と物件維持費・水道光熱費が半分以上を占める。

図表1-4-13 AHLの支出構成(2022年度)



出典: Arts House Limited Annual Report For the year ended 31 March 2023²⁴⁶よりNRI作成

ここでは、6つの芸術活動スペースについて概要を記述する。

①Victoria Theatre(劇場) & Concert Hall(コンサートホール)

運営開始日:

劇場:1908年

コンサートホール:1970年

ホール数:劇場×1、コンサートホール×1、ダンススタジオ×1、音楽スタジオ×1

座席数:劇場614席、コンサートホール673席

Victoria Theatre & Concert Hallは、2つの建物から構成される国定史跡で、2010年に改修されたネオクラシック様式のファサードによって接続されている²⁴⁷。Victoria Theatreは2つのうち古い方の建物で、市庁(Town Hall)として1855年から1862年の間に建設された²⁴⁸。もう一方の建物であるVictoria Concert Hallは、ヴィクトリア女王に敬意を表して1902年から1905年の間にかけて建設された。同ホールはシンガポールの歴史において重要な役割を果たし、第2次世界大戦中は一時的な病院として、1954年には人民行動党の結党集会の会場として使用された。現在は、Singapore Symphony Orchestra (SSO、詳細は「4-2. カンパニーの概要」にて前述)のホームとなっており、SSOは定期的に公演を開催している²⁴⁹。

②The Arts House

運営開始日:2004年

ホール数:ホール×1、演劇スペース(ブラックボックス:Black Box)×1、スクリーンルーム×1、オープンスペース×4

座席数:ホール200席、Black Box 120席、スクリーンルーム75席

The Arts Houseは、かつてシンガポール初の国会議事堂があった200年近く前の建物を利用して2004年にオープンした芸術センターである。文芸を中心とした学際的なプログラムやフェスティバルを推進・開催し、文化芸術分野を支援し、芸術を通じてコミュニティを結びつける上で重要な役割を果たす²⁵⁰。

²⁴⁶ <https://issuu.com/artshouselimited/docs/arts-house-ltd-2023>

²⁴⁷ <https://artshouselimited.sg/vtch-about-us>

²⁴⁸ <https://artshouselimited.sg/vtch-venue-details/vtch-victoria-theatre>

²⁴⁹ <https://artshouselimited.sg/vtch-venue-details/vtch-victoria-concert-hall>

²⁵⁰ <https://artshouselimited.sg/tah-about>

③Drama Centre

運営開始日：1980年代前半

ホール数：劇場×1、演劇スペース(Black Box)×1

座席数：劇場615席、Black Box 120席

Drama Centreは、シンガポール国立図書館ビル内に位置しており、1980年代にはシンガポールにおける演劇の発展を支えてきた。Drama Centreが所有する「Black Box」は、演劇やダンスを始めとしたさまざまな小規模公演を可能とするスペースで、照明やサウンドシステムなどが整っている²⁵¹。同様の「Black Box」は、後述するGoodman Arts Centre、Aliwal Arts Centre、Stamford Arts Centreにも設置されている。

④Goodman Arts Centre

運営開始日：2011年

ホール数：演劇スペース(Black Box)×1、その他スタジオ多数

座席数：Black Box 128席

⑤Aliwal Arts Centre

運営開始日：2013年

ホール数：演劇スペース(多目的ホール)×1、その他スタジオ多数

座席数：多目的ホール140席

⑥Stamford Arts Centre

運営開始日：2010年

ホール数：演劇スペース(Black Box)×1、その他スタジオ多数

座席数：Black Box 162席

④から⑥の3つのアートセンターは、いずれも文化芸術団体や芸術家に芸術活動スペースを提供している。一般市民が時間単位でレンタルできるリハーサル室やスタジオの他に、Drama Centreと同様のBlack Boxや多目的ホールを持つ。また、文化芸術団体や芸術家の拠点として使用できるテナントスペースも提供している。これは、NACの「芸術インフラスキーム」(詳細は第2章「2-4-2. 被助成団体を含む文化芸術団体との助成以外の相互関係」にて前述)によるものである^{252 253 254}。「4-2. カンパニーの概要」にて前述したNadi Singapuraは、このスキームのもと、Aliwal Arts Centreに拠点を置いている。

(b)個別に運営管理されているシンガポールを代表する施設

①Singapore Conference Hall(以下、SCH)

運営開始日：1965年

所有企業：Singapore Chinese Orchestra Company Limited(SCO Co Ltd、非営利団体)

ホール数：コンサートホール×1、展示スペース×3、練習ホール×3

座席数：コンサートホール831席

SCHは、国家遺産局により国定史跡となっている。またSCHは、Singapore Chinese Orchestra(SCO、詳細は「4-2. カンパニーの概要」にて前述)のホームである²⁵⁵。なお、SCO Co Ltdの収入内訳は、Singapore Chinese Orchestra概要にて前述の通りである。

²⁵¹ <https://artshouselimited.sg/dc-about-us>

²⁵² <https://artshouselimited.sg/gac-about>

²⁵³ <https://artshouselimited.sg/aac-about>

²⁵⁴ <https://artshouselimited.sg/sac-about>

²⁵⁵ <https://www.sch.org.sg/>

②Esplanade – Theatres on the Bay

運営開始日：2002年

所有企業：The Esplanade Company Limited (TECL、非営利団体)

ホール数：劇場×2、コンサートホール×1、スタジオ×3、野外音楽堂×1、リハーサル室×1

座席数：大型劇場1,948席、中型劇場最大600席、コンサートホール1,628席、野外音楽堂450席

Esplanadeは、2002年に開館した、劇場やコンサートホールを含む複合文化芸術施設である。シンガポールで初めて劇場・コンサートホールとして設計・建築された建物であり、これはシンガポールの文化発展における重要なマイルストーンとなった²⁵⁶。所有企業であるTECLは、有限会社として運営されながら、慈善団体であり、非営利のステータスを維持し、公共的性格を持つ機関であり、保証有限責任会社 (company limited by guarantee) として登録されている²⁵⁷。そのため、規制要件を遵守しながらも、プログラムの自由度と運営の柔軟性を享受しており、持続可能なプログラムを効果的に追求することが可能な他、文化芸術分野の育成に資する環境を強化している。

世界的によく見られる国立の劇場・ホールとは異なり、カンパニーのレジデンスは行わず、観客に訴えかけ、観客層を増やすような独自のプログラムを開発することに重点を置いている²⁵⁸。なお、Singapore Symphony Orchestra (SSO、詳細は「4-2. カンパニーの概要」にて前述) はEsplanadeを「演奏会場としてのホーム (Performing Home)」と呼んでいるが、Singapore Symphony GroupとTECLの間に所有関係は存在しない。SSOはEsplanadeの予約優先権を有しており、Esplanade独自のプログラムの次に優先される。一方で、会場費用は、一般のNPO法人と同様の金額を支払っている²⁵⁹。

プログラムは音楽、ダンス、カルチャー、子供&青少年、ビジュアルアート、演劇の6つ芸術領域に分類される。2023年度にはデジタルプログラムを含めて4,000を超えるプログラムを実施しており、その9割程度はEsplanadeが直接主催している。観客の育成に重きを置いていることから、芸術プログラムの約70%を無料で提供している²⁶⁰。

Esplanadeは、建設の際に、政府閣僚が監督する大規模な設計コンペによって決定された重要な事業であった。優勝したデザインは、英国のマイケル・ウィルフォード&パートナーズ (Michael Wilford & Partners) とシンガポール企業であるDPアーキテクト (DP Architects) の共同作業によるもので、国際的な専門知識とシンガポール特有の感性が融合したものとなった。建築家は密に連携し、内部構造から設計することで、ホールが美観的に美しいだけでなく、劇場・ホールとしての本来の目的を果たすために機能的にも洗練されていることが保証された^{261 262}。

また、Esplanadeは複合施設の中に戦略的に位置しており、アートセンターだけでなく、音楽学校や楽器店、飲食施設なども併設されている。周辺のショッピングモールとの一体化により、収益創出につながるダイナミックな環境を作り出している²⁶³。

Esplanadeは、劇場とコンサートホールの2種類の大きなホールを有しており、座席数はそれぞれ1,948席と1,628席である。その他、Singtel Waterfront Theatreと呼ばれるユニークな中型劇場がある。この劇場は、座席数が最大600席で、一般的な劇場型の他に、座席を360度円形に並べた形などに変形することができる。スタジオは、Annexe Studio、Recital Studio、Theatre Studioの3種類があり、それぞれ収容人数は450名、245名、220名である。Recital Studioは室内音楽などの音楽パフォーマンス向け、Theatre Studioは演劇やダンス向けの観客席を持つスタジオであるが、Annexe Studioは座席を持たないスペースとなっている。その他に、DBS Foundation Outdoor Theatreと呼ばれる座席数450席の野外音楽堂がある²⁶⁴。

Esplanadeの収入は、MCCY やTote Boardからの運営助成金や不動産賃貸への補助金などを含む政府からの助成金・補助金が約6割を占める。残りのEsplanadeの運営収入では、チケットの販売手数料、ショッピングモールのテナント収入、ホール貸出とイベントサービスが比較的大きなものである。

²⁵⁶ <https://www.esplanade.com/-/media/Esplanade/Download-Component/S-191-Who-We-Are/about-esplanade.ashx?rev=8417ae5e5ee94132b7cba5f5f62d82cf&hash=AFF2548F042B8101D48A86A64D481902> (P6~)

²⁵⁷ <https://www.esplanade.com/the-esplanade-co-ltd>

²⁵⁸ ECLへのヒアリングより ²⁵⁹ SSOへのヒアリングより

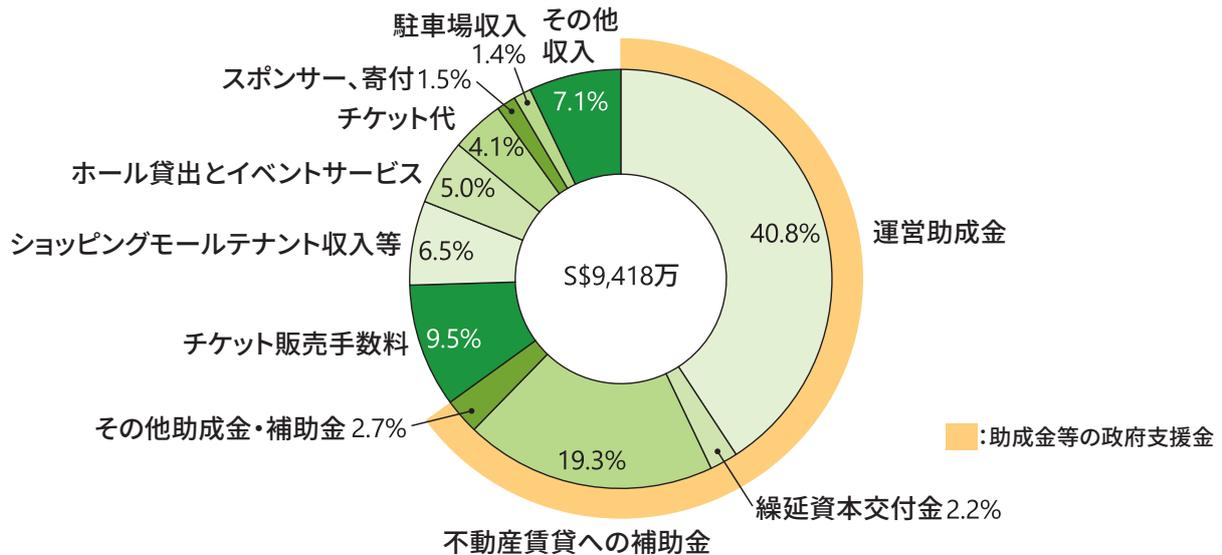
²⁶⁰ <https://www.esplanade.com/-/media/Esplanade/Files/annual-report/esplanade-annual-report-2023.ashx?rev=0b0fc6ffa2bb414bbaafd505d7fd082d&hash=BCAD39BD509A5A152BB3CA6B9F74869D> (P20~)

²⁶¹ <https://www.esplanade.com/architecture>

²⁶² TECLへのヒアリングより ²⁶³ TECLへのヒアリングより

²⁶⁴ <https://www.esplanade.com/visit-esplanade/venues-and-spaces/venues>

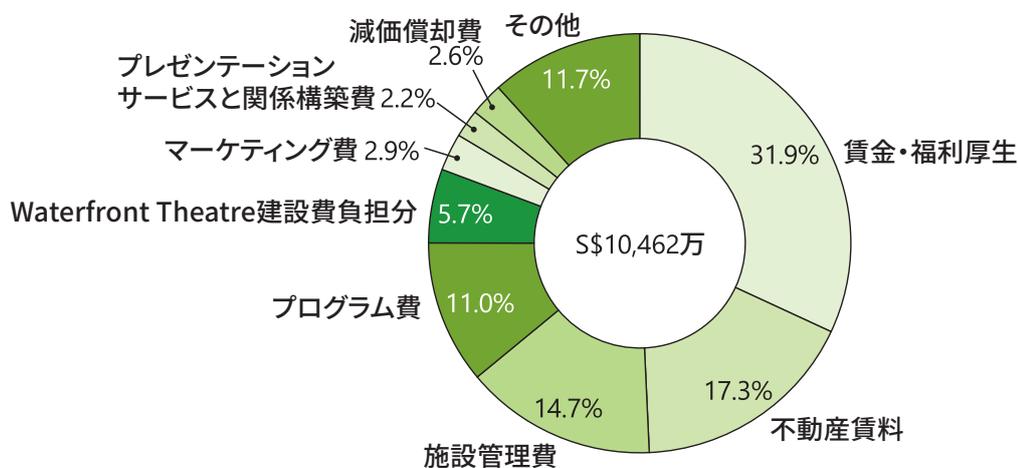
図表1-4-14 Esplanadeの収入構成(2022年度)



出典: The Esplanade Co Ltd Annual Report FY2022/2023²⁶⁵よりNRI作成

Esplanadeの支出は、職員の賃金・福利厚生費、不動産賃料、施設管理費が約6割を占める。

図表1-4-15 Esplanadeの支出構成(2022年度)



出典: The Esplanade Co Ltd Annual Report FY2022/2023²⁶⁶よりNRI作成

²⁶⁵ <https://www.esplanade.com/-/media/Esplanade/Files/annual-report/esplanade-annual-report-2023> (P149、163、166)

²⁶⁶ <https://www.esplanade.com/-/media/Esplanade/Files/annual-report/esplanade-annual-report-2023> (P149、167)



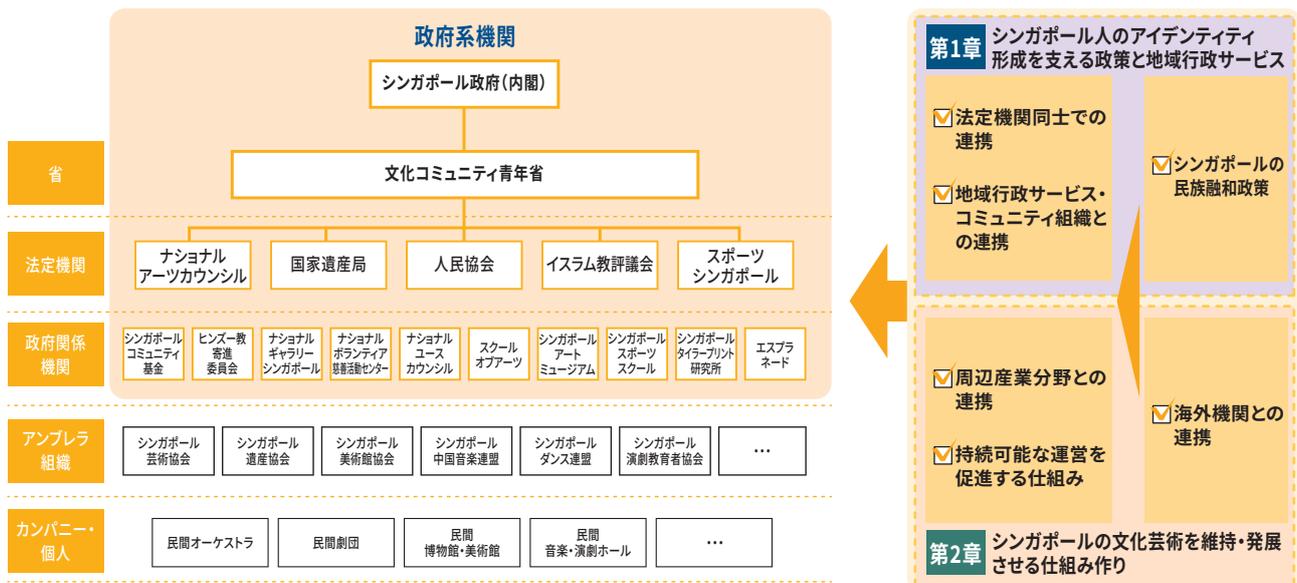
第2部

シンガポールの文化芸術を 取り巻く周辺政策

第2部では、第1章にてシンガポールの文化芸術の前提となっている「シンガポール人のアイデンティティ形成を支える地域行政サービスと政策」について記述した後、第2章にて「シンガポールの文化芸術を維持・発展させる仕組み作り」について記載する。

第1部では、文化芸術分野の発展をミッションとしているMCCY、NAC、NHBや、文化芸術分野における活動を主としているアンブレラ組織、カンパニー、芸術施設に焦点を当てた。第2部では、第1部で取り上げたような組織とその他の組織との連携や、海外機関との連携について記述している他、シンガポールの文化芸術分野を特徴づける歴史的背景や、今後の持続可能性を推進する仕組みについても記述する。図表2-1-1は、各章にて取り扱うテーマと関連性のある組織を示したものである。第1章では、シンガポール人のアイデンティティ形成の大前提ともなる民族融和政策について記述した後、地域社会を構築する地域行政サービスやコミュニティ組織について、その役割や活動内容について説明する。第2章では、周辺産業分野との連携について記述した後、持続可能な運営を促進する仕組みについて説明し、最後に海外機関との連携についていくつかの例を紹介する。

図表2-1-1 MCCY・NAC・NHBと関連組織および文化芸術活動



出典:各種公開資料よりNRI作成

シンガポールは多民族・多宗教国家であり、民族が地域社会を作り上げていくためには、地域行政サービスのあり方が重要である。また、国としても、各民族の文化的背景・アイデンティティを尊重し配慮しながらも、シンガポール人としての国民の一体性を高めていく必要がある。文化芸術は、国民の一体感や地域住民の連携を促進する役割を担っており、地域住民の生活を支える組織によって積極的に取り入れられている。

また、文化芸術の維持・発展に関しては、文化芸術がビジネスとしても成立するよう、文化芸術政策をはじめさまざまな周辺分野との連携、文化芸術のマネタイズ、また海外との連携を通じ、持続可能な形で活動・運営・発展できるような仕組み作りが行われている。



第2部
第1章

シンガポール人の
アイデンティティ形成を支える
政策と地域行政サービス

シンガポールは1819年に英国東インド会社のスタンフォード・ラッフルズ卿が上陸して以来、国際貿易港として発展してきた。その過程で多くの移民が流入した同国は、多種多様な民族・言語・宗教を抱える国家として1965年に独立する。そのような歴史的背景を持つシンガポールにとって民族間の調和を図ることは重要な課題の1つである。

また、人口約564万人(2022年時点)の都市国家シンガポールには、日本や多くの国々にみられるような地方自治体は存在しない。州や都道府県、市町村による地方行政システムではなく、国の各省庁やその関係機関である法定機関が、直接地域住民に対する行政サービスを提供している。また、シンガポールでは、住民の日常生活に関わる身近な問題を取り扱う組織が存在する。このような地域行政サービスやコミュニティ組織は、民族・言語・宗教の壁を越えたコミュニティのつながりを形成するために重要な役割を担っている²⁶⁷。

本章では、まず、シンガポール人のアイデンティティ形成の大前提ともなる民族融和政策について教育の観点から記述した後、地域社会を構築する地域行政サービスやコミュニティ組織について、その役割や活動内容について記載する。

1-1. 民族融和政策における教育

シンガポールは多民族国家であり、地域社会を構築している国民のほとんどが移民の子孫である。建国時より、憲法において国民は民族・宗教・出自などにかかわらず平等であることや、思想・信仰の自由、差別の禁止が規定されており、各民族の文化・アイデンティティが尊重されている。しかし、このような差異を尊重する一方で、各民族内でもそれぞれ違ったグループが存在し、国への帰属意識や国民の一体感も希薄な状態であったため、シンガポール人として統合するための民族融和政策が進められてきた。ここでは、その具体例として、学校教育における国民教育や、公用語と言語教育について説明する。

①国民教育

シンガポールでは、1997年以降、「国民教育(National Education)」が初等教育にて行われている。これは、シンガポールの歴史への認識不足を背景としており、シンガポールの歴史的・社会的な事実を学ぶだけでなく、愛国心を育み、国家への帰属意識を醸成することを目的とする。

国民教育は、単一の科目ではなく、毎日の国旗掲揚、国歌やシンガポール国民の誓いの斉唱もその一部となっている。シンガポール国民の誓いは、1960年代に発生した人種暴動を繰り返さないために1966年に公開されたものである。学校教育を通じて子供たちに対して教えられ、ナショナルデーなどの公式なイベントにおいて唱えられている。現在、公立校では毎朝斉唱されている²⁶⁸。

また、民族融和意識を高める日として「民族融和の日(Racial Harmony Day)」を設定し、子供の頃から国民に一体感を持たせ、民族の融和と宗教の調和を図り、一致団結してシンガポールの未来を確固たるものとすることを目指している²⁶⁹。民族融和の日は、1997年に教育省によって定められたもので、1964年7月21日に民族間抗争が発生した背景から、毎年7月21日が民族融和の日とされる。これは2度の民族対立を忘れないようにするためのもので、この日には各学校で民族融和の意識を高めるためのさまざまなイベントが開催される。また、民族融和週間を設定するなど、1日に限らず数日間に渡ってイベントを企画する学校もある。生徒たちは、各民族の民族衣装を着たり、伝統舞踊や民族楽器の鑑賞・体験をしたり、民族料理の調理試食などを行い、子供の頃から民族融和意識が高められるような教育が実践されている²⁷⁰。

²⁶⁷ <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/singapore/data.html>

²⁶⁸ <https://www.nhb.gov.sg/what-we-do/our-work/community-engagement/education/resources/national-symbols/national-pledge>

²⁶⁹ <https://www.moe.gov.sg/education-in-sg/our-programmes/national-education>

²⁷⁰ <https://www.moe.gov.sg/news/press-releases/20230721-racial-harmony-day-2023>

②公用語と言語教育

シンガポールでは独立前の自治政府時代から、中国系・マレー系・インド系という3大民族の間の調整を図るために、英語・中国語・マレー語・タミール語の4つの公用語が定められた。英語は、国際経済都市としての発展を目的としたビジネス的な側面と、国民の一体性を高めるための共通語という統合政策的な側面により設定されたものである。また、公用語とは別に、国語としてマレー語が制定されている。これは、1963年から1965年までマレーシア連邦の州の1つであったことや、独立後の経済発展にマレーシア、インドネシアなど近隣のマレー系諸国との調和が不可欠であったことなどの、歴史的・地理的立場を反映したものである²⁷¹。

建国直後の1966年からは、民族融和政策として2言語教育が実施されている。2言語教育とは、初等教育から英語を第1言語として通常の授業で使用する他、中国語・マレー語・タミール語のうちいずれかを「マザー・タン言語 (Mother Tongue Language²⁷²)」として選択必修とする教育制度である。この制度を受けて、公立校では、民族学校においても英語を学ぶこととなった。この2言語政策は、国際ビジネス活動において英語の習得が必要であることに加え、国民が社会や家族の調和を重視するアジア的価値観を学び、アジア人としてのアイデンティティを保つため、各民族母語の習得が必要であることから実施された²⁷³。

コラム Column

民族・宗教を尊重したシンガポールの祝日

多宗教国家であるシンガポールでは、特定の宗教が国教として指定されていることはなく、それぞれの宗教が尊重されており、信仰の自由は憲法で保障されている。仏教、道教、ヒンズー教それぞれの寺院、イスラム教のモスク、キリスト教の教会など、さまざまな宗教施設も各所に点在している。1990年には「宗教調和維持法 (Maintenance of Religious Harmony Act)」が制定された。これにより、宗教の調和を乱す行為や対立を生む行為が禁止され、言論や政治活動に制限が加えられるようになった²⁷⁴。

互いの宗教や生活観を尊重できるよう、国民に信徒の多い宗教の祭日は休日として制定されており、国民が各々の宗教の催事に参加できるよう配慮されている。図表2-1-2にシンガポールの祝日一覧を示す。さまざまな民族・宗教を尊重しつつ、国民としての一体感を醸成するシンガポールの取り組みが、1年の祝日にもよく表れている²⁷⁵。

図表2-1-2 シンガポールの祝日

月	祝日	民族・宗教
1月	ニューイヤーズデー(元旦)	
1~2月	チャイニーズニューイヤー(春節)	中華系
3~4月	グッド・フライデー(聖金曜日)	キリスト教
5月	レーバーズデー(労働者の日)	
5~6月	ベサクデー(釈迦誕生祭)	仏教
5~7月	ハリ・ラヤ・プアサ	イスラム教
8月	ナショナルデー	
7~9月	ハリ・ラヤ・ハジ	イスラム教
10~11月	ディーパバリ	ヒンズー教
12月	クリスマスデー	キリスト教

出典：人材開発省ウェブサイト²⁷⁶よりNRI作成

²⁷¹ <https://sso.agc.gov.sg/Act/CONS1963?Provlds=pr153A-&ViewType=Within&Phrase=Malay&WiAl=1>

²⁷² 一般的に、Mother Tongue Languageは母国語の意味であるが、シンガポールでは英語の他に習得する第2言語の意味を持つ。

²⁷³ <https://www.moe.gov.sg/primary/curriculum/mother-tongue-languages/learning-in-school>

²⁷⁴ <https://sso.agc.gov.sg/act/MRHA1990>

²⁷⁵ <https://www.mom.gov.sg/employment-practices/public-holidays>

²⁷⁶ <https://www.mom.gov.sg/employment-practices/public-holidays>

1-2. 地域行政サービス・コミュニティ組織

地方自治体の存在しないシンガポールでは、住民の日常生活に関わる身近な問題を取り扱う組織が存在する。地域行政サービスは、主にMCCYまたは国家開発省の傘下の政府関連機関が提供する。

MCCY傘下の機関では、人民協会 (PA) とその管下の組織が地域行政サービスを提供する。はじめに記述するPAは、MCCYの法定機関の1つで、民族の調和と社会的結束を促進する。PAは管下に社会開発協議会 (Community Development Council: 以下、CDC) を置き、社会基盤の強化、社会資本とレジリエンスの構築、恩返し文化の推進などを行う (脚注277)。CDCは、シンガポールを5つの区域に分け、それぞれの区域において地域により密着した事業を行う。また、PAやCDCは、PAによって任命されたボランティア組織である草の根団体 (Grassroots Organisation) を通じてコミュニティとのつながりを深めている (脚注278)。これらの機関が地域住民に密着した活動を実施するための施設として、草の根団体によって運営されるコミュニティセンター、コミュニティクラブが設けられている。

PAとその管下の組織の関係図を図表2-1-3に示す。PA、CDC、草の根団体、コミュニティセンター、コミュニティクラブの4団体については、本節の後半で概要を記述する。

図表2-1-3 PAの組織図



出典: PAウェブサイト^{279 280 281}、各種公開資料よりNRI作成

国家開発省の機関では、タウンカウンシル (Town Council) が地域行政サービスを提供する。タウンカウンシルの主な業務は、住宅開発庁 (Housing and Development Board: 以下、HDB) の住宅や商業施設などの管理である。

以下では、文化芸術分野に関連性の深い地域行政サービスとして、PAとその管下組織について記述する。

²⁷⁷ <https://www.pa.gov.sg/our-network/community-development-councils/community-development-councils/>

²⁷⁸ <https://www.pa.gov.sg/our-network/grassroots-organisations/grassroots-organisations/>

²⁷⁹ <https://www.pa.gov.sg/our-network/our-network/>

²⁸⁰ <https://www.pa.gov.sg/our-network/community-development-councils/community-development-councils/>

²⁸¹ <https://www.pa.gov.sg/our-network/grassroots-organisations/grassroots-organisations/>

1-2-1.人民協会(PA)

PAは、地方自治体に相当する組織が存在しないシンガポールにおいて、地域住民と政府との連帯を強め、民族の融和と社会的結束の促進を目指す法定機関として、1960年に人民協会法(People's Association Act)に基づいて設立された。「1つの国民、1つのシンガポール(One People, One Singapore)の実現に向けたコミュニティの構築と橋渡し」をミッションとし、国内のさまざまな民族間の利害を超えた「シンガポール人」としての国民意識を醸成する²⁸²。

事業・活動内容

PAは、住民が共通の趣味を中心にグループを作り友情を育むことを奨励しており、そのようなグループによるさまざまな活動を支援する。それだけでなく、異なる興味や背景(異なる民族、宗教、社会経済的背景など)を持つコミュニティやグループを結びつける役割も果たしており、民族、言語、宗教に関係なく団結する、弾力的で結束力のあるコミュニティ「1つの国民、1つのシンガポール」の構築を支援する。

具体的には、住民間の結びつきを強めるために、地域住民を対象としたさまざまな文化や習慣に触れることのできるプログラムやスポーツ大会、子供・高齢者・家族が参加できるさまざまな規模のイベントなどの企画・実施・支援を行っている。特に芸術に関連するものとしては、2012年にMCCYの支援を受けて設立されたパッションアーツ(PAssionArts)プログラムがあり、ボランティアによる地域芸術の振興やフェスティバルが開催される他、コミュニティスペースにおける絵画の設置や音楽の演奏などの企画が行われている²⁸³。また、大規模なイベントとしては、シンガポールの豊かな多文化遺産を紹介するプログラムとして、業界の著名人も参加する年に1度のコンサートであるサウンドウェーブ(Soundwaves)、さまざまな民族の音楽やダンスを紹介する他民族コンサートであるPAタレントセッション(PA Talents Season)、マレー芸能を披露する場であるゲンタラサ(Gentarasa)、年に1度行われるストリートパレードであるチンゲイ(Chingay)などが挙げられる²⁸⁴。PAの活動の特徴は、その多くが後述するコミュニティセンター、コミュニティクラブで行われ、各地域に密着したプログラムやイベントが企画されていることである。PAは、地方自治体の存在しないシンガポールにおいて、自治会・町内会のような役割を果たしているとも言える。

また、PAが所管する108カ所のコミュニティセンター、コミュニティクラブでは、生涯教育や青少年育成、民族融和などの活動や、さまざまな生涯学習講座を住民に提供している。各地域のニーズに合った語学教室や料理教室、カラオケ教室などの講座を開講している他、各民族の正月や祭りなど(中秋節、ラマダン明け、ディーパバリなど)のイベントを開催し、全ての年齢層の住民が参加しやすい環境の整備を図っている。

PAの収支(2022年度)

PAの収入は図表2-1-4の通りである。収入の8割が政府補助金で、残りの大部分が事業収入である。なお、事業収入の内訳としては、施設賃貸料:39%、講座受講料:23%、プログラム参加費:23%、寄付金:15%となっている²⁸⁵。

図表2-1-4 PA収入内訳(2022年度) ※1シンガポールドル=112円

区分	金額(S\$億)	金額(億円)
政府補助金	10.33	1,157
事業収入	1.94	217
その他収入	0.22	25
繰り越し資産	0.19	21
収入合計	12.68	1,420

出典:Arts House Limited Annual Report FY22/23²⁸⁶よりNRI作成

²⁸² <https://www.pa.gov.sg/> ²⁸³ <https://www.pa.gov.sg/our-programmes/community-arts/>

²⁸⁴ <https://www.pa.gov.sg/our-programmes/racial-harmony/> ²⁸⁵ <https://go.gov.sg/pa-annual-report-2223> (P30)

²⁸⁶ <https://go.gov.sg/pa-annual-report-2223> (P30)

PAの支出は図表2-1-5の通りである。支出の約5割がイベント・プロジェクト費、約4割が管理費となっている²⁸⁷。

図表2-1-5 PA支出内訳(2022年度) ※1シンガポールドル=112円

区分	金額(S\$億)	金額(億円)
イベント・プロジェクト費	5.58	625
管理費	4.63	519
減価償却費	1.49	167
その他支出	0.29	32
支出合計	11.99	1,343

出典: FY2022/23 PEOPLE'S ASSOCIATION ANNUAL REPORT²⁸⁸よりNRI作成

1-2-2. 社会開発協議会(CDC)

CDCは、1996年に行われた当時の首相によるナショナルデーにおける演説での提唱を受けて、人民協会法の下で1997年に設置された。住民参加による連帯意識の強化を目的としており、地域により密着した事業を行うことでPAの地域活動を支える機関である。現在は、南西部(South West)、北西部(North West)、中央部(Central Singapore)、北東部(North East)、南東部(South East)の5つの区域に分けられている(図表2-1-6)²⁸⁹。

図表2-1-6 CDC区域図



出典: CDCウェブサイト²⁹⁰より

CDCは、「資源とニーズを集める、パートナーと住民の能力を高める、ステークホルダーとコミュニティをつなぐ」をミッションとしている。また、社会開発協議会規則では、CDCの使命として、コミュニティにおける住民同士の絆を深め、社会の団結を強固なものにしていくことが謳われている。戦略としては、「思いやりのある地域社会(Caring Communities)」、「健康的な地域社会(Healthy Communities)」、「インクルーシブな地域社会(Inclusive Communities)」、「学習する地域社会(Learning Communities)」、「持続可能な地域社会(Sustainable Communities)」の5つのテーマを掲げている²⁹¹。

²⁸⁷ <https://go.gov.sg/pa-annual-report-2223> (P30)

²⁸⁸ <https://go.gov.sg/pa-annual-report-2223> (P30)

²⁸⁹ <https://www.cdc.gov.sg/who-we-are/history/>

²⁹⁰ <https://www.cdc.gov.sg/>

²⁹¹ <https://www.cdc.gov.sg/who-we-are/mission/>

事業・活動内容

5つの各区域におけるCDCは、それぞれが独自の活動プログラムを企画・運営しているが、それに加え、全てのCDCに共通のプログラムも行われている。その内容は、生活費を支援する目的の金券の配布や、キャリアアップのための支援プログラムの企画など多岐にわたっている。特に文化芸術分野に関連したものとしては、「WeCare Arts Fund@CDC」プログラムが挙げられる²⁹²。

「WeCare Arts Fund@CDC」プログラムは、NACと後述する草の根団体との協力による助成制度で、社会福祉機関や自助グループ、草の根団体が、舞台芸術や視覚芸術、文学、複合領域芸術を含む芸術活動を取り入れる際に支援を提供している。芸術を活動の一部として取り入れることで、社会福祉機関などがより多くの受益者にアクセスし、また受益者との関わりを深めることが主な目的である。なお、CDCは助成金の提供を主目的とした団体ではなく、主にイベントやワークショップの企画・運営を行っているが、活動の一部として「WeCare Arts Fund@CDC」などの助成金プログラムも運営している²⁹³。

1-2-3.草の根団体(Grassroots Organisation)

草の根団体は、PAの活動を支える地域の団体としてシンガポールのコミュニティ活動の一部を担っており、その数は2,000団体を超える。運営はPAに任命されたボランティアが行っており、ボランティアは、草の根団体への参加を通じて、PAの使命である「『1つの国民、1つのシンガポール』の実現に向けたコミュニティの構築と架け橋となること」を支援している。

事業・活動内容

草の根団体は14の委員会を設置してさまざまなテーマを扱っている。活動内容は、各委員会によって異なる。図表2-1-7にて、文化芸術に関連のある5つの委員会の活動内容を例として取り上げる。

図表2-1-7 草の根団体の委員会の例と活動内容

委員会名	活動内容
コミュニティクラブ運営委員会 (Community Club Management Committees)	コミュニティクラブ運営委員会は、地域での文化や生涯教育、青少年育成、民族融和などの活動を実施する施設であるコミュニティクラブを管理運営している。幅広い分野の講座や活動を提供するとともに、住民委員会や近隣委員会と同様、政府と住民との橋渡し役も担っている ²⁹⁴ 。
住民委員会 (Residents' Committees)	住民委員会は公営住宅の住民、近隣委員会は民間住宅の住民を対象とし、住民の隣人意識を高める各種講座や活動を主催している。住民に政府の政策を伝え、住民の声を政府に届けるなど、フィードバック組織としての役割も担っている ^{295 296} 。
近隣委員会 (Neighborhood Committees)	
マレー活動執行委員会評議会 (Malay Activity Executive Committees Council)	両評議会は、コミュニティクラブに設置されたマレー系またはインド系の活動執行委員会の調整機関である。各活動執行委員会が幅広いアウトリーチプログラムを通じて地域社会に参加できるよう指導する他、マレー系・インド系の草の根指導者を特定し、採用する活動を支援している。また、マレー活動執行委員会評議会はシンガポール最大のマレー文化ショーであるGentarasaを開催している ^{297 298} 。
インド活動執行委員会評議会 (Indian Activity Executive Committees Council)	

出典:草の根団体ウェブサイト²⁹⁹内の各委員会ページよりNRI作成

²⁹² <https://www.cdc.gov.sg/our-programmes/common-flagship-programmes/>

²⁹³ <https://www.cdc.gov.sg/our-programmes/wecare-arts-fund/>

²⁹⁴ <https://www.pa.gov.sg/our-network/grassroots-organisations/community-club-management-committees/>

²⁹⁵ <https://www.pa.gov.sg/our-network/grassroots-organisations/residents-committees/>

²⁹⁶ <https://www.pa.gov.sg/our-network/grassroots-organisations/neighbourhood-committees/>

²⁹⁷ <https://www.pa.gov.sg/our-network/grassroots-organisations/malay-activity-executive-committees-council/>

²⁹⁸ <https://www.pa.gov.sg/our-network/grassroots-organisations/narpani-pearavai/>

²⁹⁹ <https://www.pa.gov.sg/our-network/grassroots-organisations/grassroots-organisations/>

上述した委員会の他にも、青年、婦人、老人に関するものやスポーツに関するものを含むさまざまな草の根団体が存在し、コミュニティ活動の中核の役割を果たしている。実行委員は、各地区の住民の中から選ばれるボランティアである。PAは、草の根団体のボランティアが企画したさまざまなイベントやプログラムを通じて、民族の相違を超えた社会的結合を促進している。

1-2-4. コミュニティセンター、コミュニティクラブ

コミュニティセンター、コミュニティクラブは、あらゆる民族の人々が集い、友情を育み、社会的な結びつきを促進するための施設である。シンガポール全土には112カ所のコミュニティセンター、コミュニティクラブと呼ばれる施設があり、地域住民に密着した活動を実施している³⁰⁰。コミュニティセンター、コミュニティクラブは草の根団体の委員会の1つであるコミュニティクラブ運営委員会により運営されており、各種事業の企画、運営を行っている³⁰¹。なお、比較的古い施設がコミュニティセンター、最近建てられたものがコミュニティクラブと呼ばれているが、その施設の機能については特に差異はない。

事業・活動内容

センター、コミュニティクラブ内には、図書館をはじめ、ダンススタジオや多目的ホール、体育館、コンピュータールーム、調理室、塾などがあり、地区によってはプールや飲食店、保育園や学童クラブ、チャイルドケアセンターなどが併設されている。そこでは陶芸、語学、料理、スポーツなどさまざまな講座が開設されており、これらの講座にはシンガポール国民のみならず、そこで生活する外国人も参加できる。また青年、婦人、老人の各グループの活動拠点として、社会奉仕活動、退職者・高齢者向けのボランティア活動などが行われている他、政府が推進するさまざまなキャンペーンの推進機関、青少年に対する社会教育機関としての役割も担っている。このように、同施設は、地域の活動拠点として活用されるとともに、各地区の福祉センターとしての側面も持っている。

文化芸術に関連する活動を支援している例として、Bukit Batok Community ClubとPAの支援を受けて設立された吹奏楽団であるWest Windsや、同コミュニティクラブの支援を受けて設立された中国系オーケストラであるBukit Batok Community Club Chinese Orchestraがある^{302 303}。

³⁰⁰ <https://www.pa.gov.sg/>

³⁰¹ <https://www.pa.gov.sg/our-network/community-clubs/cc-information/>

³⁰² <https://www.westwinds.sg/about-us/>

³⁰³ <https://bukitbatokco.wixsite.com/bbco>



第2部
第2章

シンガポールの文化芸術を
維持・発展させる仕組み作り

シンガポールでは、文化芸術を経済発展の重要な要素と捉え、文化芸術政策をはじめ、さまざまな周辺分野との連携、文化芸術のマネタイズ、海外との連携を行うことで、文化芸術を持続可能な形で活動・運営・発展させる仕組み作りが行われている。また、シンガポールにおけるアート市場の活性化に向けた取り組みが世界でも注目されている。

本章では、まず、周辺分野との連携に関して、教育、都市再開発、観光、医療、地域コミュニティの5分野に焦点を当てて記述した後に、持続可能な文化芸術活動を促進する仕組みについて、特に民間企業の協力や一般からの寄付を中心に記載したのちシンガポールにおける文化芸術の国際的な連携について記載する。

2-1. シンガポールの文化芸術における周辺分野連携

シンガポールの文化芸術育成へのコミットメントは、厳選された所蔵品を収蔵する美術館、最先端のパフォーマンス会場、公共スペースにおけるイノベティブなアートインスタレーションによく表れている。これらは国のアイデンティティを定義し、経済的繁栄において極めて重要な役割を果たしている。シンガポールの文化芸術分野の発展は、観光、ホスピタリティ、教育など多くの産業において活気あるエコシステムを構築し、大きな波及効果を生み出している。こうした周辺分野との連携は、文化芸術分野のバリューチェーンを強化するだけでなく経済成長への刺激となっており、イノベーションを促進し、社会的結束を高める上で重要な役割を果たしている。

このような連携に関しては、シンガポールアーツプラン(2023-2027年)や年次報告書などの各所にその戦略が記載されている。ここでは、特に注力していると考えられる教育、都市再開発、観光、医療、地域コミュニティの5分野に焦点を当て、具体的な取り組みの例を挙げる。

2-1-1. 教育分野との連携

教育分野は、未来の芸術家や観客の育成として、NACが最も力を入れている分野の1つである。シンガポールアーツプラン(2023-2027年)における3つの戦略的なテーマの1つ、「つながりのある社会」でもその重要性について記述されている³⁰⁴。NACと教育分野との連携は、主に各教育機関と直接、または、教育省との連携で行われている。ここでは、幼児教育から中等教育における文化芸術プログラムと、高等教育以降における芸術教育機関について、それぞれ記述する。

(a) 幼児教育から中等教育における文化芸術プログラム

幼児教育から中等教育においては、NACが教育省や教育機関と連携し、幼児教育や義務教育の一環としてワークショップや公演などを提供している。ここでは、ナショナルアーツカウンシル芸術教育プログラム、幼児教育向けナショナルアーツカウンシル芸術教育プログラム、アーティストインスクールスキーム、舞台芸術に基づく学習プログラムの4つについて記述する。

³⁰⁴ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartspan> (フルレポートP58)

① ナショナルアーツカウンシル芸術教育プログラム(National Arts Council-Arts Education Programme: 以下、NAC-AEP)

NAC-AEPは、全ての生徒に質の高い芸術教育体験を提供するプログラムである。各教育機関は、300以上の芸術家や芸術グループによる1,400以上の芸術プログラムから利用するものを選択することができる。1993年の開始以来、NAC-AEPはシンガポールの学校において人気が高まっており、公立の学校の95%が生徒のための芸術教育プログラムを選択する際にこの制度を利用している。また、学校は長年にわたり一貫して、芸術教育計画を支援する上でのNAC-AEPスキームの重要性を認めている。プログラムは、あらかじめプログラム提供者により企画され、NACの教育担当チームによって審査されている³⁰⁵。

利用可能なプログラムは、NACが運営するNAC-AEPディレクトリー(NAC-AEP Directory)から検索することが可能である。プログラムは、ダンス、音楽、演劇、文芸、ビジュアルアート、デジタルメディアの6つの異なる芸術領域に分類されている。プログラムの内容は鑑賞に留まらず、実際に芸術を体験するワークショップ型のものが最も多い。中国系・マレー系・インド系のダンスや音楽の他、ブラジル音楽・ダンスに触れることができるもの、ストリートダンスの動きを学べるものなど、ジャンルは多岐にわたっており、多くのプログラムが30分～60分で完結するものとなっている³⁰⁶。

2023年度のNAC-AEPは、「NAC芸術教育フレームワーク」として定義された3つの重点領域と5つの重点項目に沿った質の高いプログラムを提供することに重きを置いている。3つの重点領域は、「芸術と文化の理解(Appreciate Arts & Culture)」、「技術と知識の習得(Acquire Skills & Knowledge)」、「思考とアイデアの明確化(Articulate Thoughts & Ideas)」である。5つの重点項目は、「シンガポールの文化的アイデンティティ」、「芸術とテクノロジー」、「芸術産業の探索」、「ライフスキル」、「芸術と社会」である³⁰⁷。

② 幼児教育向けナショナルアーツカウンシル芸術教育プログラム(以下、Pre-Schools NAC-AEP)

Pre-Schools NAC-AEPは、幼児教育分野のさまざまなパートナーと協力し、必修活動や課外活動、体験学習の一環として、幼児たちが芸術に触れる機会を広げることで、彼らに前向きな芸術学習を体験させることを目的としている。この取り組みには、幼児教育業界で働く芸術家や幼児教育者が、より効果的に芸術プログラムを提供できるようにするための専門家育成も含まれている。2016年より、NACは、特に就学前の子供たちを対象としたNAC-AEPのデータベースを構築しており、これらのプログラムは、ダンス、演劇、音楽などさまざまな芸術領域を中心に展開されている。2022年は217のプログラムが実施された。また、NACは2023年に、アンカーオペレーターと呼ばれる5つの幼児教育機関と提携し、これらの機関がPre-Schools NAC-AEPを取り入れる際に資金援助を行っている。2024年にはさらにその対象をパートナーオペレーターと呼ばれる4つの幼児教育機関にも広げている。なお、アンカーオペレーター・パートナーオペレーターとは、低所得世帯の子供などに、良質で安価な幼児保育・教育を提供する目的で政府より資金援助を受けている幼児教育機関である^{308 309}。

NACは、幼児向けのプログラムの他に、幼児教育者向けのプログラムも実施している。例として、2022年に幼児教育開発機構(Early Childhood Development Agency)との協力のもと、イノベーションガイダンスプロジェクトを実施した。このプロジェクトは、教育者にスキルや知識を提供することによって幼児教育プログラムを向上させることを目的としている。各幼児教育施設は同プロジェクトを通じて、子供たちの学習体験を向上させるとともに、地域社会や家庭との連携を促進した。さらに、プロジェクト実施初年度以降にも継続して改善を行うスキルを身につけた³¹⁰。

³⁰⁵ <https://www.nac.gov.sg/resources/e-services/arts-education-programmes>

³⁰⁶ <https://eservices.nac.gov.sg/AEP/AEPDirectory>

³⁰⁷ [https://www.nac.gov.sg/singapore-arts-scene/arts-education/national-arts-council-arts-education-programme-\(nac-aep\)/overview-of-nac-aep](https://www.nac.gov.sg/singapore-arts-scene/arts-education/national-arts-council-arts-education-programme-(nac-aep)/overview-of-nac-aep)

³⁰⁸ <https://www.ecda.gov.sg/parents/choosing-a-preschool/aop>

³⁰⁹ <https://www.ecda.gov.sg/parents/choosing-a-preschool/pop>

³¹⁰ <https://www.nac.gov.sg/singapore-arts-scene/arts-education/pre-school-initiatives>

③アーティストインスクールスキーム(The Artist-In-School Scheme:以下、AISS)

AISSは、シンガポールの芸術家と、主流教育校(一般的な学校)または特別支援教育校(Special education)の各校との持続的なパートナーシップをNACが支援することで、芸術家と学校が協同で芸術学習体験プログラムをデザインする制度である。各プログラムは、生徒が芸術への関わりを深め、芸術を通して学ぶことができるようカスタマイズされる。NAC-AEPが企画者によって計画されたものであるのに対して、AISSは申請する学校側が芸術家とともに独自の学習プログラムを作っていく点が異なる。AISSは芸術家と生徒が触れ合う時間を原則年間10時間以上とすることを推奨しており、必要に応じて教師向けの教育も行う。2022年には、9月～10月の間に59校の主流教育校を対象に67のプロジェクトを、また、13校の特別支援教育校に対して24のプロジェクトを実施した。NACは、AISSに関する助成金を管理しており、各校から提案された学習プログラムを審査する。

主流教育校の場合、AISSを通じて、さまざまな芸術形態について学ぶとともに、芸術の実演外の側面(振付、照明・音響デザイン、芸術批評など)に対する理解と認識を深めることができる。また、人格教育や市民教育など、芸術を通じたより幅広い教育を支援することができる。特別支援教育校の場合は、各生徒のニーズに沿った教育の提供を目的としていることに加えて、芸術をベースとした教育に対する教師の知識やスキルの向上も支援している³¹¹。

④舞台芸術に基づく学習(Performing Arts-Based Learning:以下、PABL)プログラム

PABLプログラムは、中学生を対象とした教育省による音楽学習プログラムで、各中学校は、音楽の授業の一環として取り入れることができる。このプログラムは、シンガポールのプロの音楽家の活動や仕事に対する理解を深め、音楽への愛情を持たせることを目的としており、プロの音楽演奏に触れる機会を提供している。例えば、第1部第4章「4-2. カンパニーの概要」でも前述したような、Esplanade、Singapore Chinese Orchestra(SCO)、Singapore Symphony Orchestra(SSO)、the Metropolitan Festival Orchestra(MFO)などの芸術施設・カンパニーとのパートナーシップの下で実施されている³¹²。

その1つであるSSOによるプログラムでは、生徒自身による活動とSSOによる指導に加え、デジタルコンサートを取り入れた、総合的な芸術体験学習を提供する。SSOによるプログラムの目的は以下の通りである。

- 聴くこと、創ること、演奏することを通して、音楽の要素やコンセプトを理解する
- シンガポール人作曲家による楽曲を通し、シンガポール独自の音楽文化を理解する
- ヴィヴァルディの「四季」などの西洋音楽を通して、世界の音楽文化を鑑賞する
- 社会における音楽の役割を理解する

シンガポールの作曲家たちが、西洋音楽の伝統だけでなく、国内やアジアの文化によって形成されたそれぞれの世界観からどのような影響を受け、インスピレーションを得てきたか、また、変化する自然景観や避けがたい都市化の進展を受けて、作曲家が音楽創作を通じてこれらをどのように表現するのか、そして、現代の環境をよりよく理解する上でどのように役立っているのかを学び、考えることを、同プログラムは目指している³¹³。

³¹¹ <https://www.nac.gov.sg/singapore-arts-scene/arts-education/artist-in-school-scheme>

³¹² <https://www.moe.gov.sg/-/media/files/primary/syllabus/2023-music-syllabus-primary-lower-secondary.pdf> (P17)

³¹³ <https://www.sso.org.sg/discover/schools/nac-moe-performing-arts-based-learning-digital>

(b)高等教育以降における芸術教育機関

シンガポール政府は一貫して教育を重視しており、創造性、批判的思考、文化的鑑賞を育むという芸術の価値を認識し、その教育体系に芸術を組み込んできた。シンガポールでは、幼少期から芸術面での発展を支援する包括的な枠組みが用意されており、それは高等教育やそれ以降の教育にも及んでいる。シンガポール芸術学校、ラサール芸術大学、南洋芸術学院は、文化芸術分野における才能の育成に取り組むシンガポールの3つの先駆的な教育機関である。また、ラサール芸術大学と南洋芸術学院は2024年に設立されたシンガポール芸術大学の傘下に入ることとなった。それぞれの教育機関は、独自のアイデンティティと使命を持ち、シンガポールの文化的背景を豊かにし、未来の世代の芸術家、デザイナー、パフォーマーの育成機関として貢献している。ここでは、シンガポール芸術大学を含む4つの教育機関について記述する。

①シンガポール芸術学校(School of the Arts Singapore)

シンガポール芸術学校は、13歳から18歳の青少年を対象に、国際バカロレアディプロマまたはキャリア関連プログラムにつながる6年間の総合芸術と学問のカリキュラムを持つ、シンガポール初の国立中等教育芸術専門学校である。MCCYの管轄のもと、シンガポール芸術学校は、芸術に興味を持ち早くから才能を発揮している青少年に専用の育成コースを提供し、芸術と学問の両方の可能性を最大限に発揮できる学習環境を提供している。そして、将来に向けて創造的な市民を育成するという理念のもと、芸術を軸とした活気ある学習環境を通じて、シンガポールと世界に前向きな影響を与える芸術的かつ創造的な学習者を発掘し、育成することを目指している³¹⁴。

②シンガポール芸術大学(University of the Arts Singapore)

シンガポール芸術大学は、先進的な芸術家、デザイナー、教育者、研究者、アートルーダー、チェンジメーカーの新世代を育成するシンガポール初の芸術大学である。シンガポール芸術大学は、ラサール芸術大学や南洋芸術学院との提携により設立され、この2校は新しく設立されるシンガポール芸術大学の傘下に入ることとなる。シンガポール芸術大学は、2024年に最初の学生を受け入れる。また、ラサール芸術大学と南洋芸術学院の学位はシンガポール芸術大学の名のもとに発行される。シンガポール芸術大学は3学部で構成され、フルタイムのディプロマプログラムと学位プログラムを提供する。3つの学部は、美術学科・3Dデザイン学科・デザイン&メディア学科・ファッション学科からなる芸術デザイン学部、ダンス学科・音楽学科・演劇学科からなる舞台芸術学部、アートマネジメント学科と学際芸術学科からなる学際実践学部である。ディプロマプログラムは、ロンドン芸術大学やロンドン王立音楽大学など、海外の芸術大学と提携して提供される学位プログラムに沿ったものとなっている³¹⁵。

③ラサール芸術大学(LASALLE College of the Arts)

ラサール芸術大学は、1984年に芸術家であり教育者でもあったジョセフ・マクナリー(Joseph McNally)によって設立された非営利の私立教育機関であり、シンガポール教育省から授業料の補助を受けている。美術、デザインコミュニケーション、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、映画、アニメーション、ファッション、ダンス、音楽、演劇、アートマネジメント、美術史、学芸実践、芸術教育学と実践、文化芸術リーダーシップ、アートセラピー、音楽療法、クリエイティブライティング、芸術とエコロジーなど35のディプロマ、芸術学士号(優等)、大学院プログラムを提供している。ラサール芸術大学は、前向きでグローバルに活躍する次世代の芸術家、デザイナー、クリエイティブ産業のリーダーを育成するために学際的な学習環境を提供しており、教授陣は、芸術家、デザイナー、教育者、研究者などで構成されている³¹⁶。

④南洋芸術学院(Nanyang Academy of Fine Arts)

南洋芸術学院は、1938年に設立されたシンガポールの先駆的な芸術教育機関である。同学院は、厳格で質の高いカリキュラム、革新的な実践家主導の教育法、多様な芸術作品、コミュニティへの支援活動で知られている。豊かな伝統と確立された実績、そして最高水準の芸術教育への揺るぎない信念を持つ南洋芸術学院は、「芸術を通じて学びと成長を促す」という使命の実現に努めている³¹⁷。

³¹⁴ <https://www.sota.edu.sg/about-us/about-sota>

³¹⁵ <https://uas.edu.sg/about-us>

³¹⁶ <https://www.lasalle.edu.sg/about>

³¹⁷ <https://www.nafa.edu.sg/about-us>

2-1-2.都市再開発分野との連携

都市再開発分野と文化芸術分野の連携は、シンガポールアーツプラン(2023-2027年)における3つの戦略的なテーマの1つ、「特色ある都市」と関連している。NACは、スペースの活気づけや、芸術活動スペースの拡大を目的とし、シンガポール都市再開発庁(Urban Redevelopment Authority:以下、URA)などと協力したプログラムを実施している³¹⁸。

ここでは、スペースの活気づけに関して、URAの「マスタープラン」における文化芸術の促進について記述した後、芸術活動スペースの拡大に関して、歴史的建造物の建て替え・貸出について記述する。

(a)「マスタープラン」での芸術と文化の地区開発

URAは、今後10年から15年の中期的なシンガポールの発展を導く法定土地利用計画である「マスタープラン」を5年ごとに作成している。土地面積の限られているシンガポールにおいて、「マスタープラン」は、シンガポールの開発において許容される土地利用と密度を示すものとなっている。2024年3月現在、2025年の「マスタープラン」はドラフトの段階であり、最新のものは2019年の「マスタープラン」である³¹⁹。

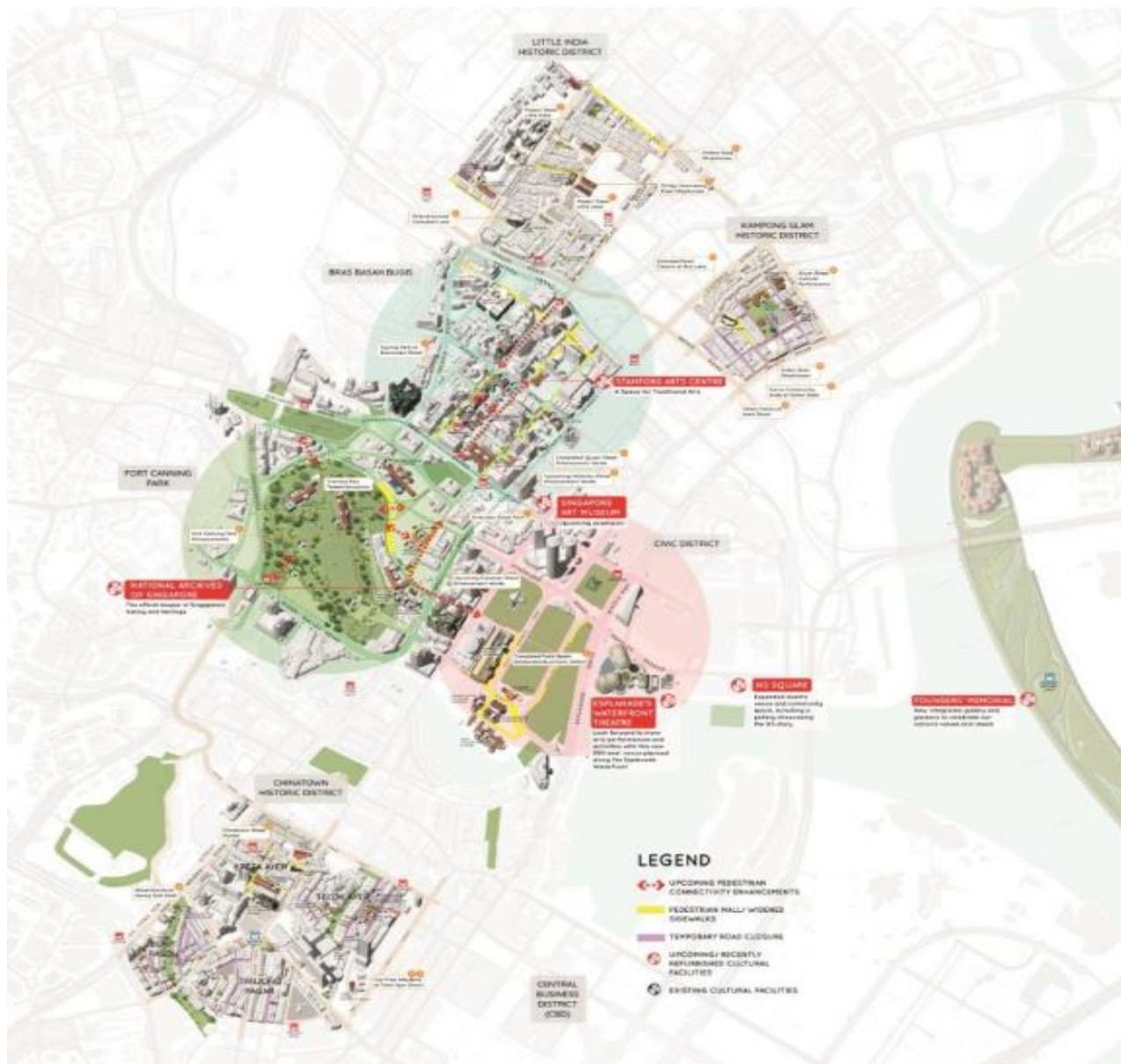
この2019年の「マスタープラン」の中では、中心部(Central Area)の重点領域の1つとして「Celebrating our Arts, Culture and Heritage(芸術、文化、遺産の資産を祝う)」が掲げられた。なお、中心部とは、URAによるシンガポールの地理区分の1つで、リトルインディア、チャイナタウン、オーチャードなどを含む。図表2-2-1は、「Celebrating our Arts, Culture and Heritage」に関連するエリアやプロジェクトを地図上に示したものである。エリアとしては、リトルインディア歴史地区、カンポングラム歴史地区、チャイナタウン歴史地区、ブラスバサ・ブギス、フォートカニング公園、シビック地区の6つが挙げられている³²⁰。

³¹⁸ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartspan> (フルレポートP71)

³¹⁹ <https://www.ura.gov.sg/Corporate/Planning/Master-Plan>

³²⁰ <https://www.ura.gov.sg/Corporate/Planning/Master-Plan/Master-Plan-2019/Regional-Highlights/Central-Area/Celebrate-Arts-Culture-Heritage>

図表2-2-1 2019年の「マスタープラン」



出典：シンガポール都市再開発庁(URA)ウェブサイト³²¹より

³²¹ <https://www.ura.gov.sg/Corporate/Planning/Master-Plan/Master-Plan-2019/Regional-Highlights/Central-Area/Celebrate-Arts-Culture-Heritage>

ここでは、プロジェクトの具体的な内容について3つのテーマを例として記述する。

①文化芸術の促進

ブラスバサ・ブギス、フォートカニング公園、シビック地区の3つのエリアには、無数の文化芸術施設や著名な建築物、歴史的建造物が存在することから、国民が文化芸術に触れやすい環境づくりの一環として、場所作りと公共領域の強化が行われている。この地区の中心には、ラサール芸術大学、南洋芸術学院、シンガポール芸術学校などの重要な芸術教育機関が配置され、コミュニティアートプロジェクトや公園スペースの設立を通じた街路景観の改善が行われている。

②国立公園局による歴史を通じた公園の活性化

フォートカニング公園は、シンガポールの歴史的な出来事の多くに古くから関わっていることから、歴史の重要性を強調するための地域として計画されている。特に、イギリスの植民地となる以前の14世紀、イギリスの植民地となった19世紀、独立を果たした20世紀の3つの時代に焦点が当てられ、それぞれの時代におけるシンガポールの歴史を辿る散策コースなどが設けられている。

③3つの歴史地区

リトルインディア歴史地区、カンポングラム歴史地区、チャイナタウン歴史地区の3つの歴史地区は、それぞれインド系、マレー系、中国系の文化を色濃く表した活気のあるエリアとなっている。地域社会や企業と連携した継続的な努力により、豊かな文化遺産を保持している。

- リトルインディア歴史地区：ラサール芸術大学とシンガポール政府観光局によるリトルインディア・アートウォークは、リトルインディアの豊かな歴史を称え、訪れる人々に向けて色彩豊かなアートインスタレーションの数々を企画している。国有地の空き地を利用してリトルインディア商店街・遺産協会主催のイベントなどを開催するための公共スペースとするプロジェクトや、歴史的建造物を改装・再利用することで公共スペースを活性化させるプロジェクトなどが実行されている。
- カンポングラム歴史地区：ユニークなアトラクションや新旧の産業が混在するエリアであり、その特別な魅力を守り広めるために関係者が協力している。道路を歩行者天国にして文化的パフォーマンスが行われる他、公園区域を魅力のあるイベントスペースとして再利用するなどの活動が行われており、コミュニティの中心地として強化されている。
- チャイナタウン歴史地区：伝統的な商店や、歴史を持つ中国系の一族などが多く残る、住むエリアである。道路を歩行者天国にして語り部を始めとする活動が行われる他、歴史的建造物や街並み、露天の改修を通じて、観光客や旅行者に対して文化的な体験を提供している。

(b)歴史的建造物の建て替え・貸出による芸術活動スペースの拡大

NHBやURAは、旧国会議事堂などシンガポールの歴史的建造物の外観を維持し、文化芸術としての再利用を促進している^{322 323}。この取り組みにより、歴史的建造物の保存に加え、人口に比して国土が狭いシンガポールにおける芸術活動スペースの確保という課題を解決している。このような取り組みが行われた例として、ここでは以下の3つを取り上げる。

①アジア文明博物館(Asian Civilisations Museum:以下、ACM)

ACMはアジアの古美術と装飾美術を展示するシンガポールの国立博物館である。ACMの建物は、1867年にエンプレスプレイスビル(Empress Place Building)として建てられたネオクラシック様式の建物で、2003年にACMは以前のアルメニアン通りの建物から現在の場所に移転した³²⁴。

³²² <https://www.mccy.gov.sg/about-us/news-and-resources/parliamentary-matters/2022/Nov/safeguarding-singapores-tangible-heritage>

³²³ <https://www.ura.gov.sg/Corporate/Guidelines/Conservation>

³²⁴ <https://www.nhb.gov.sg/acm/about-acm/who-we-are>

②Victoria Theatre & Concert Hall

第1部第4章「4-4. 芸術施設の概要」でも前述したこの施設は、2つの歴史的建造物から成っている。Victoria Theatreは、1855年から1862年の間に公会堂として建てられたものが、1908年に劇場に改修された³²⁵。Victoria Concert Hallは、1902年から1905年の間にヴィクトリア女王に敬意を表して記念ホールとして建設されたものが、1970年にコンサートホールとして改修された³²⁶。この2つの歴史的建造物は、2010年より4年にわたる改修工事を経て、ネオクラシック様式ファサードが復元されると同時に、最新の設備とアメニティが導入された³²⁷。

③National Gallery

National Galleryは、シンガポールと東南アジアの近代美術の世界最大の公共収集品を管理する、ビジュアルアートの代表的な機関である。National Galleryは2つの歴史的建造物から成り、一方は1929年に建てられた旧市庁舎と呼ばれる政府機関の施設が、もう一方は1939年に建てられた最高裁判所が改修されたもので、2015年にNational Galleryとして開館した³²⁸。

2-1-3. 観光分野との連携

観光分野を含む国際的な連携が多く見られるのが、芸術フェスティバルである。NAC、NHB、Arts House Ltd. (AHL)は、それぞれ大規模な芸術フェスティバルを主催している。中にはシンガポール観光局によって推進されるものもあり、シンガポール市民に対して国際的な芸術を紹介する場となるだけでなく、海外からの観光客の関心を集めることも目的の1つとなっている。ここでは、NAC、NHB、AHLにより主催される3つのフェスティバルを例として挙げる。

①NACが主催するフェスティバル：シンガポールビエンナーレ(Singapore Biennale)

シンガポールビエンナーレは、現代アートに関する国際的な対話を行うための場として、2006年にNACによって設立された。2011年以降、主催者であるNACは、運営をSingapore Art Museumに委託している。このビエンナーレは、グローバルな文化芸術分野におけるシンガポールと周辺地域の芸術活動の活力を紹介し、文化芸術団体や国際的な芸術コミュニティとの生産的なコラボレーションと深い関わりを育んでいる³²⁹。

アジアで最も魅力的な現代視覚芸術展の1つとなった、第5回シンガポールビエンナーレ2016は約4ヶ月間にわたって開催され、2017年2月26日に614,000人を超える記録的な来場者数で閉幕した。これは、多様な芸術的視点に対する、国内外(東南アジア、東アジア、南アジア全域)の観客の関心の高まりを示した³³⁰。これは、文化芸術の他の分野における成果を補完するものであり、生活し、働き、遊ぶ、活気のある都市としてのシンガポールの国際的な知名度を高めるものである³³¹。

②NHBが主催するフェスティバル：シンガポールナイトフェスティバル(Singapore Night Festival)

シンガポールナイトフェスティバルは、NHBが主催し、シンガポール観光局によって推進されている、1週間にわたるフェスティバルである。ストリートパフォーマンス、文化ショーケース、光り輝くインスタレーションが特徴で、人々を魅了し、感動させる。ナイトフェスティバルで披露される活気と多様な文化の融合は、文化観光の重要な一部を担い、旅行先としてのシンガポールの魅力を高めている。

シンガポールナイトフェスティバル2023のテーマは「偉大なる港湾都市シンガポール」であり、貿易と交流の豊かな歴史と現代の経験を結びつけ、港湾都市としての初期の役割を超えて、世界が出会うダイナミックな現代の大都市へと進化・成長したシンガポールについて表現した³³²。

³²⁵ <https://artshouselimited.sg/vtvch-venue-details/vtvch-victoria-theatre>

³²⁶ <https://artshouselimited.sg/vtvch-venue-details/vtvch-victoria-concert-hall>

³²⁷ <https://artshouselimited.sg/vtvch-about-us>

³²⁸ <https://www.nationalgallery.sg/about/building/history>

³²⁹ <https://www.singaporebiennale.org/about>

³³⁰ <https://www.straitstimes.com/lifestyle/singapore-biennale-2016-attracts-record-number-of-visitors>

³³¹ <https://www.singaporebiennale.org/about>

³³² <https://www.nightfestival.gov.sg/about>

③AHLが主催するフェスティバル：シンガポール芸術祭(SIFA)

SIFAは、AHL(詳細は第1部第4章「4-2. カンパニーの概要」にて前述)が主催しており、演劇、音楽、ダンス、映画、ビジュアルアートなど、魅力的で多様な作品を紹介している。1977年にシンガポールフェスティバル・オブ・アーツ(Singapore Festival of Arts)としてスタートしたこのフェスティバルは、幾度かの変遷を経て、何世代にもわたる芸術愛好家や実践者にインスピレーションを与えてきた。現在、フェスティバルは、シンガポールの文化・芸術イベントのハイライトとなっている。

SIFAは、シンガポール国内外の作品の創作と紹介を支援するというフェスティバルの使命を守り続けており、多様な文化芸術分野における国内外の才能ある人材による多彩なパフォーマンスを紹介する重要なイベントと位置付けられる。文化交流と芸術革新のための重要な場として機能することで、さまざまな芸術や文化を体験したい観光客を惹きつけている³³³。

2-1-4.医療分野との連携

芸術を用いた社会貢献として、病院でのアートセラピーを行うことで、患者の精神的な健康状態を改善するといった活動がある。芸術と医療を組み合わせることで、患者、来院者、職員にとって支えとなる前向きな環境を作ることができ、ストレスの軽減やメンタルヘルスの改善につながると言われている。壁に描かれた絵画の鑑賞から、体験型のアート活動やライブパフォーマンスまで、芸術と医療の協力にはさまざまな形があり、その全てが医療現場での全体的な体験を向上させることを目的としている。このような医療分野と芸術の連携は、患者を含む全ての市民に芸術に接する機会を与え、人々のつながりを生み出すという意味で、シンガポールアーツプラン(2023-2027年)における3つの戦略的なテーマの1つ、「つながりのある社会」と関連している³³⁴。また、芸術を通じた雇用機会の提供の文脈では「クリエイティブエコノミー」と関連している³³⁵。

以下では3つの総合病院における取り組みについて記述する。なお、これらヘルスケア領域における連携は、病院・医療機関が主体となっているものが多く、MCCYやNAC、NHBによる関与のないものが多い。

①ケーケー婦人と子供のための病院(KK Woman and Children Hospital:以下、KKH)

シンガポール最大の産婦人科・小児科病院であるKKHにおけるアートセラピーは、児童生活サービス・アートセラピー・音楽療法プログラム(Child Life Services, Art Therapy and Music Therapy Programmes:以下、CHAMPS)の一部である。CHAMPSは、各診療科の担当医からの紹介によって受けることが可能であり、患者ケアへの協力的なアプローチを促進し、患者のニーズに応じたサービスを提供することを目指している。CHAMPSを担当するチームのモットーは、患者それぞれに特有のニーズに対応するだけでなく、患者の心理的・感情的な健康のサポートを行うことで、患者が入院生活のCHAMPions(チャンピオン)となるよう支援することである。アートセラピーは、芸術という視覚的な媒体と、それに関わる創造的なプロセスを用いて、患者が自分の内面にある感情や情動を探求し、表現し、理解し、よりよく管理できるようにするものである。これは、病気や入院から生じる不安や心理的苦痛に対処し、対処能力や生活の質を向上させるのに有益である。なお、この活動におけるアートセラピストはアートセラピーの学位を持ったKKHの職員である³³⁶。

②シンガポール総合病院(Singapore General Hospital:以下、SGH)

SGHでは、視覚芸術や舞台芸術を患者により身近に感じてもらうことを目的とした月例イベントである「Arts for Health」を実施している。また、患者が治療環境における人間関係を築き、自信と自尊心を高め、後に地域社会によりよく溶け込めるよう支援する美術工芸プログラムも設けられている³³⁷。

さらに、SGHは年に1度「MUSICFEST」を開催している。音楽には五感を刺激し、癒し、精神を高揚させ、患者の回復を助ける力があるという信念のもとに考案され、毎年、病院や病棟で治療を受けている人々に生演奏を届けられている。ベッドから離れられない患者には、何人かの芸術家が病室を回って演奏する。過去の著名な参加芸術家としては、演劇やテレビで有名なホッサン・レオン(Hossan Leong)や、歌手で元シンガポールアイドルコンテストの出場者であり、自身もがんを克服したダフネ・クー(Daphne Khoo)が挙げられる³³⁸。

³³³ <https://sifa.sg/about/sifa>

³³⁴ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartsplan> (フルレポートP55)

³³⁵ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartsplan> (フルレポートP75)

³³⁶ <https://www.kkh.com.sg/patient-care/areas-of-care/allied-health-services/Pages/art-therapy.aspx#>

³³⁷ <https://www.sgh.com.sg/about-us/volunteer/arts-for-health>

³³⁸ <https://singtheatre.com/activity/musicfest-sgh/>

③ンテンフォン総合病院(Ng Teng Fong General Hospital:以下、NTFGH)

NTFGHにおける「Artworks Around the Hospitals」では、患者やその家族、職員のために、癒しと魅力のある環境づくりを目指している。同病院では、国内の芸術家による絵画、版画、写真、織物、彫刻、デジタル作品など、700点以上の芸術作品を3つの病棟に渡って展示している³³⁹。

また、NTFGHは「Arts & Health Festival」を開催している。地域のパートナーや国内の芸術家とクリエイティブなコラボレーションを行い、患者や来院者、職員のために、病院を癒しと安らぎの空間へと変貌させたことを祝う、毎年恒例のイベントである³⁴⁰。

さらに、NTFGHはKKHと同様にアートセラピスト・音楽セラピストを持ち、認知症患者とその家族に、ストレスや興奮を和らげ、社会性を向上させ、感情的・身体的な幸福を得るためのアートセラピーと音楽セラピーのプログラムを提供している。

なお、ここで記述したプログラムの一部は各病院の職員であるプロのアート・音楽セラピストによって行われるが、プログラムの多くはボランティアや市民団体の協力によって成り立っている。また、Singapore Chinese Orchestra (詳細は第1部第4章「4-2. カンパニーの概要」にて前述)のようなプロのオーケストラも、各病院にて無料コンサートを開催することがある。

2-1-5.地域行政サービス・コミュニティとの連携

地域行政サービス・コミュニティと芸術の連携は、シンガポールアーツプラン(2023-2027年)における3つの戦略的なテーマの1つ、「特色ある都市」と関連しており、新しい鑑賞者を増やすため、NACは他の政府機関と緊密に協力している³⁴¹。地域社会に向けて文化芸術活動を推進する空間として、コミュニティセンター、コミュニティクラブやHDBブロック(住宅開発庁による集合住宅地)の共有スペースなどがある。さらには、廃校跡地などを再生させ、芸術活動スペース、パブリックアート作品、展覧会会場として戦略的に活用することで、近隣地域を活性化し、そのユニークなアイデンティティに貢献することを目指す、「身近なアート(Arts In Your Neighbourhood)」などの取り組みもある。

NACによる取り組みである「Arts In Your Neighbourhood」は、国中のさまざまな地域のスペースにおいて、定評ある文化芸術団体や芸術家による魅力的で豊かな芸術体験を提供している。15回以上の開催を経て、NACは30カ所以上の町を訪れ、さまざまな近隣地域からインスピレーションを得た多様な芸術プログラムを提供してきた。NACは、地域社会が身近なところで芸術を体験し、鑑賞し、刺激を受ける機会を提供することで、さまざまな地域社会を結びつけ、活気づけてきた。2023年のテーマは、ジャクストン・スー(Jaxton Su)による「Garden of Joy」である。参加者は、コミュニティとの一連の共創ワークショップを通じて、ペットボトルやビニール袋など身近にあるリサイクル可能な素材を活用し、ブキキャンベラ周辺の緑からインスピレーションを得た想像上の動植物クラフト作品を制作した。各クラフト作品は、ブキキャンベラのサイケデリックな樹冠に似た魅力的なインスタレーションの一部となった³⁴²。

³³⁹ <https://www.ntfgh.com.sg/Giving-Back/Arts-and-Health/Pages/Artworks-Around-the-Hospitals.aspx>

³⁴⁰ <https://www.ntfgh.com.sg/Giving-Back/Arts-and-Health/Pages/Arts-Health-Festival.aspx>

³⁴¹ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartspan> (フルレポートP68)

³⁴² <https://www.nac.gov.sg/singapore-arts-scene/community-engagement-and-social-sector/arts-in-your-neighbourhood>

2-2. 持続可能な文化芸術活動・運営を促進する仕組み

シンガポールアーツプラン(2023-2027年)における3つの戦略的なテーマの1つ、「クリエイティブエコノミー」には、文化芸術活動を持続可能なものとするために、芸術家の教育と周辺産業との連携が重要であると記述されている³⁴³。

芸術家の教育に関しては、芸術的な側面の強化に加え、芸術を職業として成り立たせるために必要な能力の強化や、芸術を産業に取り入れる仕組みづくりが重要である。また、芸術が直接的に波及効果をもたらすような隣接産業との協業に関しては「2-1. シンガポールの文化芸術における周辺分野連携」にて前述した通りであるが、それとは異なる形の連携として、芸術産業と民間企業のパートナーシップや、民間企業からの文化芸術分野への寄付がある。

ここでは、まず芸術産業においてキャリアを目指す人々に対する支援について説明した後、民間企業とのパートナーシップについて紹介する。最後に、寄付の動向と寄付金を増やす仕組みについて記述する。

2-2-1. 芸術産業におけるキャリアパスの創出

芸術産業における持続可能なキャリアパスの確保は、シンガポールの文化芸術分野の継続的な成長とダイナミズムにとって不可欠であり、シンガポールアーツプラン(2023-2027年)における3つの戦略的なテーマの1つ、「クリエイティブエコノミー」でもその重要性が記述されている³⁴⁴。ここでは、芸術産業におけるキャリアを目指す人々に対する支援の例として4つの取り組みについて記述する。

① 芸術のためのスキルフレームワーク (Skills Framework for Arts)

スキルフレームワークは、シンガポールの労働者を対象に、スキルの習得と生涯学習を促進するために開発された、スキルフューチャーシンガポール (SkillsFuture Singapore) によるプロジェクトである。SkillsFuture Singaporeとは、生涯学習に関する政府系のプログラムで、職業訓練をはじめとする教育と学習のエコシステムの強化を使命としている³⁴⁵。NACとSkillsFuture Singaporeは、雇用主、文化芸術団体、労働組合、教育・訓練プロバイダー、個々の芸術関係者と共同で「芸術のためのスキルフレームワーク」を開発した。その内容は、文化芸術分野の概要、文化芸術分野における職種、就職にあたって必要なスキルを紹介するものである。また、さまざまな教育機関や文化芸術団体によるトレーニングのリストも掲載されている。「芸術のためのスキルフレームワーク」を活用することで、個人は十分な情報を得た上でキャリアの選択を決定し、スキルのアップグレードやキャリアプランニングに責任を持つことができる^{346 347}。

② エスプラネードアカデミー (Esplanade Academy)

Esplanade Academyは、舞台芸術の専門的・技術的スキルを学び、開発し、実践するために、意欲的な個人や業界専門家に適した環境を提供している。Esplanade Academyのトレーニングプログラムと職場体験は、テクニカルシアター、会場管理、運営、コミュニティ参加などの分野をカバーしており、就職前と就職後の両方の学習者を対象としてデザインされている。Esplanade AcademyのトレーニングプログラムはEsplanade社内の専門家によって実施され、芸術家やテクニカルプロフェッショナルなどの国内外の幅広いネットワークによって補完されている³⁴⁸。

③ バックステージアフェア (The Backstage Affair) による技能実習プログラム

The Backstage Affairによる技能実習プログラムは、プロダクションマネージャーやステージマネージャーを目指す人たちに、安全で構造化された空間を提供し、バックステージマネジメントのプロとしてのキャリアをスタートさせるための技術的能力やスキルの習得、専門的ネットワークの構築を支援する^{349 350}。

³⁴³ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartspan> (フルレポートP75)

³⁴⁴ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartspan> (フルレポートP76)

³⁴⁵ <https://www.skillsfuture.gov.sg/aboutssg>

³⁴⁶ <https://www.nac.gov.sg/support/capability-development/skills-framework-for-arts>

³⁴⁷ <https://www.skillsfuture.gov.sg/initiatives/students/skills-framework/arts>

³⁴⁸ <https://www.esplanade.com/get-involved/esplanade-academy>

³⁴⁹ <https://www.nac.gov.sg/support/capability-development/training-opportunities/technical-and-specialist-services---the-backstage-affair's-apprenticeship-programme>

³⁵⁰ <https://www.thebackstageaffair.com/training>

④シンガポールジャズ協会(Jazz Association Singapore)による音楽奨学金

慈善団体かつIPCであるJazz Association Singaporeによる音楽奨学金は、ジャズ研究の学士号／修士号を取得するための特別な給付型奨学金である。ジャズ音楽への情熱を持った才能ある若い音楽家を育成し、芸術としての卓越したジャズ演奏と作曲のスキルを持ったジャズ芸術界のリーダーを育成することを目的としており、ジャズ研究(演奏または作曲・編曲)の奨学金を年間2名まで給付することを目標としている³⁵¹。

2-2-2.民間企業とのパートナーシップ

シンガポールの文化芸術分野における多様性やダイナミックな文化の融合の中で、民間企業と文化芸術分野のパートナーシップは、同分野を活気づける極めて重要な要素である。こうした協力関係は、公的セクターの規制や財政的な後ろ盾と、民間セクターの革新的で機知に富んだ精神を巧みにかみ合わせ、シンガポールの文化芸術分野が世界的な脚光を浴びよう後押ししている。このような芸術産業と民間企業のパートナーシップの重要性はシンガポールアーツプラン(2023-2027年)における3つの戦略的なテーマの1つ、「クリエイティブエコノミー」でも強調されており、NACはこのようなパートナーシップをさらに促進する方針を示している³⁵²。また、このパートナーシップにより、多様な視点が生まれ、相乗効果により芸術本来の価値を超えた付加価値がつき、結果として文化芸術分野の更なる繁栄につなげることを目指している³⁵³。

下記にパートナーシップの4つの例を取り上げる。

①ユナイテッドオーバーシーズ銀行(UOB)とNAC

2022年、大手銀行のUOBとNACは、シンガポールの芸術コミュニティの財務とビジネス能力を開発し、シンガポールの活気ある文化芸術分野の発展を支援するための戦略的パートナーシップを結び、コミットするための覚書(MoU)を締結した。

このMoUの内容は多岐にわたり、これまでにUOB提携ホテルとの協業によるアート体験パッケージの企画や、UOBとNACの間でクロスマーケティングの機会の創出、アートトレイルの共同企画などが行われている。

共同企画のアートトレイルは、シビック地区におけるセルフガイド式のツアーとなっており、シンガポール市民や観光客にアートやウェルネス関連のアクティビティを無料で提供する。シンガポール川沿いのセルフガイドツアーでは、サルバドール・ダリ(Salvador Dali)作の「Homage to Newton」、フェルナンド・ボテロ(Fernando Botero)作の「Bird」、アンナ・C・スペリーニ(Anna Chiara Spellini)作の「Vitalita」の3つの芸術作品が展示されている³⁵⁴。

②SingtelとEsplanade Waterfront Theatre

2018年、大手通信会社のSingtelは、Esplanadeにおける、増大する観客と拡大する芸術的ニーズに対応する新しい中規模劇場の開発に向けて、S\$1,000万(約11億円)を寄付した。Singtelの寄付は、2002年の設立以来、Esplanadeが受けた単一の寄付としては最大規模である。この寄付を受けて建設された座席数550席であるEsplanade初の中型劇場によって、Esplanadeはより柔軟にプログラムを組み、地域の観客のために、一流の芸術家を招き、より多様な作品を上演することが可能となった³⁵⁵。

③DBS銀行(DBS Bank:以下DBS)とEsplanade

大手銀行であるDBSは、Esplanadeとの新しいパートナーシップの一環として、EsplanadeにS\$350万(約3.9億円)を寄付し、毎週金、土、日、祝日に野外劇場で上演される無料プログラムを全面的に支援している。この寄付を受け、約1,000人を収容できる屋外劇場は、2023年より5年間、Esplanadeの「DBS Foundation Outdoor Theatre(DBS財団屋外劇場)」と呼称されることになった³⁵⁶。

³⁵¹ <https://www.jazzassociation.sg/scholarship>

³⁵² <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartspan> (フルレポートP76)

³⁵³ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartspan> (フルレポートP87～)

³⁵⁴ <https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/press-releases/uob-and-nac-in-strategic-partnership-to-support-the-arts-ecosystem-to-position-singapore-as-an-arts-hub-for-southeast-asia>

³⁵⁵ <https://www.singtel.com/about-us/media-centre/news-releases/singtel-donates-s10-million-to-esplanades-new-waterfront-theatre>

³⁵⁶ https://www.dbs.com/newsroom/DBS_partners_Esplanade_to_bring_meaningful_experiences_to_the_community_and_foster_inclusivity

④DBSとNational Gallery

DBSは、National Galleryとのパートナーシップにより、National Gallery内にDBS Singapore Galleryを設けている。このDBS Singapore Galleryでは、シンガポール美術の歴史を理解するために、ナショナルコレクションから300点以上の作品が紹介されており、東南アジアの多くがヨーロッパの植民地支配下にあった19世紀以降、シンガポールの芸術家たちがどのようにして既存の信仰や社会構造と決別し、外部からの多様な価値観やシステムに対応し、新たな環境や状況を芸術に取り込んできたかを紹介している³⁵⁷。

2-2-3.文化芸術分野への寄付の動向と寄付金を増やす仕組み

シンガポールの文化芸術活動にとって、民間企業や一般市民からの寄付は重要な資金源の1つである。助成金や事業収入に加え、一定の寄付収入を得ることで、安定した財政基盤を築くことができる。これにより、より強靱な文化芸術組織を構築することができる他、コミュニティとの関わりを深めることにもつながる。NACは、より活気に満ちた持続可能な文化芸術分野を構築するための取り組みの1つとして、文化芸術団体に寄付を募る活動を推進している。NACは、その一環として、ラサール芸術大学と協同で「芸術のための資金調達ツールキット (Fundraising For The Arts Toolkit)」を作成した。このツールキットは、初めて寄付を募る活動を行う文化芸術団体に対してのガイドラインである³⁵⁸。

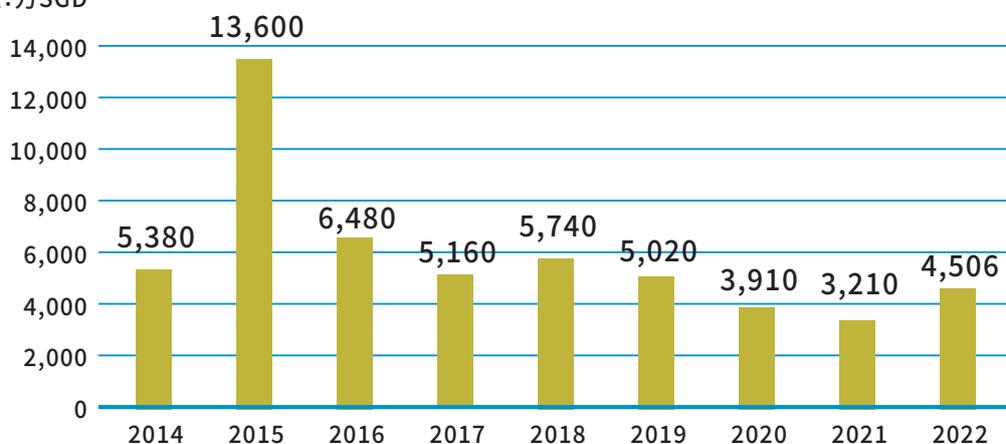
NACは、文化芸術分野への寄付を促進する目的で、寄付の動向を調査する「アートフィランソロピー調査」を2016年と2022年の2回に渡って実施した。この調査は、寄付者の業界や属性、動機や関心分野を把握することで、寄付を含む慈善活動の成長分野を特定し、戦略につなげることを目指している。2022年には企業寄付に焦点を当て、芸術への寄付を多く行う業界や、寄付の手法、動機などを調査している。この調査結果では、金融業からの寄付が多く見られる^{359 360}。

芸術への貢献に関する動向として、NACを通じた寄付金の総額に関する経年データと、MCCYによる「文化マッチングファンド」の対象となる寄付金額に関する経年データを以下に示す。

図表2-2-2は、NACによる芸術分野のパトロン賞 (Patron of the Arts Awards) のデータに基づいた寄付金総額である。なお、パトロンの種類は金額によって分類されており、企業・団体による寄付の場合、「芸術分野の特別パトロン (Distinguished Patron of the Arts)」はS\$150万 (約1.7億円) 以上、「芸術分野のパトロン (Patron of the Arts)」はS\$30万 (約3,360万円) からS\$149万 (約1.7億円)、「芸術分野の友人 (Friend of the Arts)」はS\$5万 (約560万円) からS\$29万 (約3,248万円) の寄付を対象としている³⁶¹。

図表2-2-2 NACを通じた文化芸術への寄付金総額の推移

単位:万SGD



出典: NACウェブサイト³⁶²よりNRI作成

³⁵⁷ <https://www.nationalgallery.sg/singapore-siapa-nama-kamu-art#programs>

³⁵⁸ <https://www.nac.gov.sg/resources/toolkits-and-guides/others/fundraising-for-the-arts-toolkit>

³⁵⁹ <https://www.nac.gov.sg/resources/research/others/arts-philanthropy-corporate-giving-research-2016>

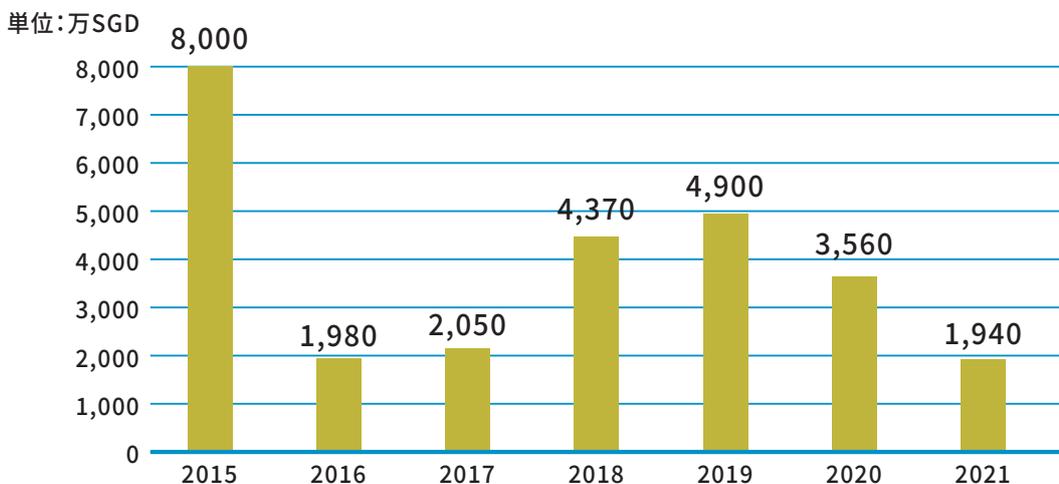
³⁶⁰ [https://www.nac.gov.sg/resources/research/others/arts-philanthropy-corporate-giving-research-\(2022\)](https://www.nac.gov.sg/resources/research/others/arts-philanthropy-corporate-giving-research-(2022))

³⁶¹ <https://www.nac.gov.sg/support/giving-to-the-arts/patron-of-the-arts-awards>

³⁶² <https://www.nac.gov.sg/about-us/media-centre/press-releases/40-years-of-giving-honouring-the-next-generation-of-arts-philanthropy-at-the-patron-of-the-arts-awards-2023> (ウェブページ内各年度詳細より)

図表2-2-3は、MCCYによる「文化マッチングファンド」の対象となる寄付金額の推移である。なお、「文化マッチングファンド」の詳細は、第1部第1章「1-4-1. 助成制度の分類」で前述した。

図表2-2-3 「文化マッチングファンド」の対象となる寄付金額の推移



出典: Ministry of Culture, Community and Youth, Ministry of Communications and Information³⁶³ウェブサイトよりNRI作成

「芸術分野のパトロン賞」や「文化マッチングファンド」において、2015年の寄付額が多かった背景としては、シンガポール建国50周年記念によりPatron of the Arts Awardsへの寄付が増加したことと、National Gallery Singaporeが設立されたことが挙げられる。全体として、シンガポールでは、現金、現物寄付、スポンサーシップによる文化芸術への貢献活動が行われている。

MCCYや、NACを含むMCCYの管轄下の政府関連組織は、文化芸術分野への寄付の促進を目的として、さまざまな寄付プラットフォームを立ち上げ、プログラムを実施している。ここでは、例として3つの寄付プラットフォームを挙げる。

①MCCYの支援を受けている寄付プラットフォーム(Giving.sg)

Giving.sgは、オンライン上での寄付を可能とする寄付プラットフォームである。シンガポールの600団体以上の非営利団体が寄付先として登録されている。また、寄付のみでなく、ボランティア活動の募集も同プラットフォーム上で行われている。Giving.sgのビジョンは、「善の都市(City of Good)」であり、個人、組織、リーダーが集まり、他者のために最善を尽くすシンガポールを築くことである。他者のために最善を尽くすとは、「自分第一」の考え方から脱却し、他者を中心に考えることである。City of Goodとは、まず人々を大切に、「思いやりのあるシンガポール」になることを意味する³⁶⁴。

寄付者やボランティア参加者にとってのメリットは、興味や関心のある団体や活動に対して、信頼できるプラットフォームを通じて、簡単に有意義な寄付・ボランティアを行うことができることである。また、寄付先である登録団体にとってのメリットは、ボランティアと寄付者を同じプラットフォームで募集できることや、ダッシュボード(複数のグラフや表などを一覧で確認できる仕組み)を通して寄付活動を閲覧したり、他団体と比較したりすることができる点である。

なお、Giving.sgはMCCYの支援を受けており、Giving.sgの運営者である国立ボランティア・フィランソロピーセンター(The National Volunteer & Philanthropy Centre)の収入の大部分は、MCCYからの助成金である。なお、NBPCは役員決定時にMCCYの承認を必要としている³⁶⁵。

³⁶³ <https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/resources-files/research/others/scs-2022-report.pdf> (P13 Table D-2)

³⁶⁴ <https://www.giving.sg/about>

³⁶⁵ https://cityofgood.sg/wp-content/uploads/2023/10/NVPC-Annual-Report-FY2023_Final.pdf (P24, 29)

②NACが運営するクラウドファンディング(Sustain the Arts(stART)基金)

NACは、2021年に「stART基金」を導入し、小規模な文化芸術団体への寄付を促進し、組織能力を向上させることで、長期的に活動を維持できるような体制の構築を支援している。「stART基金」は、小規模な文化芸術団体への支援を希望する一般市民や民間企業からクラウドファンディング形式でNACが資金を集め、その資金をNACが採択した申請団体に対して提供するという形の基金である。この基金は、民間セクターの支援を促進し、芸術への寄付文化を育成することを目的としている。

「stART基金」は、金銭的な資金提供だけでなく、被助成団体の能力開発を支援し、データ管理や分析、インパクトレポート、資金調達、寄付者への説明責任など、被助成団体の長期的な持続可能性の向上に役立つ関連スキルの習得をサポートしている。「stART基金」はまた、小規模な文化芸術団体が慈善団体やIPCとしての登録を受ける際に必要な支援も提供している^{366 367}。

③National Museum of Singapore、National Gallery Singaporeへの工芸品・歴史的遺物の寄贈

National Museum of SingaporeやNational Gallery Singaporeは、前述したGiving.sgや直接振込による寄付の他に、工芸品・歴史的遺物の寄贈を受けている。寄贈する際は、寄贈申請フォームに必定事項を記入し、寄贈品の鮮明な写真を添付して各施設にメールで問い合わせる必要がある。その後、各施設による審査が行われる。寄贈が行われた場合、所得税控除の対象となる^{368 369 370}。

各寄付プラットフォームは、寄付を増やす方法の1つとして、公募のデジタル化や寄付金の使われ方や成果を可視化するための取り組みを実施している。例えば、Giving.Sgは、各慈善団体を1カ所にまとめ、寄付をデジタル化することで、寄付者が時と場所を選ばず容易に寄付を行える仕組みを作っている。また、寄付金の使われ方や成果の可視化の取り組みとして、寄付者がウェブサイトを通じて寄付の効果を追跡することができる仕組みを導入している。寄付者が、自分に関係のある寄付先や、緊急に資金を必要としている寄付先を選ぶことができる仕組みとなっており、必要性や緊急性が可視化されている他、具体的な貢献が可視化されることによって寄付者の満足度を高めている³⁷¹。

寄付の可視化に取り組む文化芸術分野の寄付プラットフォームの他の例として、恵まれない環境にある子供たちやその家族に対し、専門的かつエビデンスに基づいた持続可能かつ費用対効果の高い方法で、認定アートセラピーを提供することを支援しているレッドペンシルシンガポール(The Red Pencil Singapore)が挙げられる³⁷²。レッドペンシルシンガポールへの寄付は、サービス利用者が使用する筆、絵の具、粘土などに使われる。寄付は、ウェブサイトを通じて容易に行えるよう工夫されており、寄付者が自分の寄付が何に使われるのか、そして、いくら寄付すべきかをより明確に知ることができる仕組みになっている。図表2-2-4はウェブサイトの寄付画面である。S\$30(約3,360円)を寄付することで、1セットのアートセラピーを提供できることが一目で分かる³⁷³。

³⁶⁶ [https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/sustain-the-arts-\(start\)-fund/overview](https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/sustain-the-arts-(start)-fund/overview)

³⁶⁷ [https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/sustain-the-arts-\(start\)-fund/how-to-apply](https://www.nac.gov.sg/support/funding-and-schemes/sustain-the-arts-(start)-fund/how-to-apply)

³⁶⁸ <https://www.nhb.gov.sg/nationalmuseum/contribute/donate>

³⁶⁹ <https://www.nhb.gov.sg/nationalmuseum/contribute/donate-an-artefact>

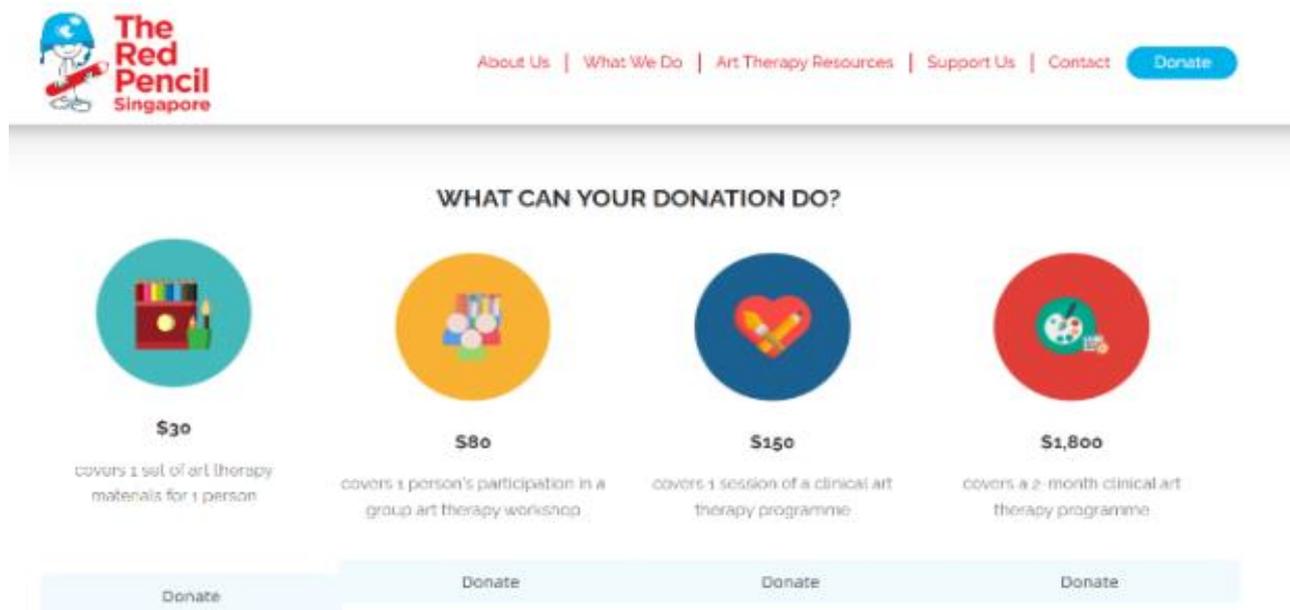
³⁷⁰ <https://www.nationalgallery.sg/join-give/make-a-gift/artwork-donations/donate>

³⁷¹ <https://www.giving.sg/donate>

³⁷² <https://redpencil.org/singapore/>

³⁷³ <https://redpencil.org/singapore/support-us/donate-to-redpencil-singapore/>

図表2-2-4 寄付金の使い道の可視化の例



出典: The Red Pencil Singapore³⁷⁴ウェブサイト より

また、寄付を増やす方法の1つとして、シンガポール内国歳入庁 (Inland Revenue Authority of Singapore) は、個人または法人が芸術産業の活性化のために行う寄付を税控除の対象としている³⁷⁵。現金寄付の場合、認定されたIPCに対して行われる寄付については、寄付金額の最大2.5倍の税控除を受けることができる。この制度は、文化芸術分野に限らず、全てのIPCが対象となる³⁷⁶。なお、Giving.sgでは、税控除の対象となる寄付先のみを選択することも可能である³⁷⁷。

個人または法人による博物館への工芸品・歴史的遺物の寄贈の場合、税控除の対象となる条件は、寄付先の博物館がNHBの認定博物館資格を取得していること、かつ、寄贈品がNHBによって収集に値するとみなされていることである。また、公共展示用の彫刻や美術品をNHBまたはその認定先に寄贈する企業や個人も、税控除の対象となる³⁷⁸。

³⁷⁴ <https://redpencil.org/singapore/support-us/donate-to-redpencil-singapore/>

³⁷⁵ <https://www.iras.gov.sg/who-we-are/what-we-do/annual-reports-and-publications/taxbytes-iras/individuals/in-brief-six-types-of-donations-which-are-tax-deductible>

³⁷⁶ <https://www.iras.gov.sg/taxes/other-taxes/charities/donations-tax-deductions>

³⁷⁷ <https://www.giving.sg/donate>

³⁷⁸ <https://www.iras.gov.sg/taxes/other-taxes/charities/donations-tax-deductions>

Tote Boardによる文化芸術分野への貢献

Tote Boardは、Singapore PoolsやSingapore Turf Clubが運営する賭け事やゲーム活動から生じた収入のうち、それらの活動の運営費などを差し引いた余剰分を、カジノ入場料とともに、コミュニティの価値ある目的のために活用している。幅広い分野への助成金提供組織として、Tote Boardは包括的で活気のあるコミュニティの構築に貢献する。具体的には、公共・社会・慈善目的の活動、または、文化・芸術・スポーツの促進を目的とした活動に助成金が提供される³⁷⁹。文化芸術分野における例としては、Singapore Symphony Orchestra (SSO)、Singapore Dance Theatre (SDT)、Singapore Chinese Orchestra (SCO) への支援、7年間にわたるEsplanadeの建設とその後の経常費用、シンガポール初の国立の芸術学校であるシンガポール芸術学校のキャンパス建設、旧最高裁判所と旧市庁舎をナショナルギャラリーシンガポールに改修するための工事などに対して助成金を提供している^{380 381}。

また、Tote Boardは「2-1-1. 教育分野との連携」で前述したNAC-AEPを支援するために、「NAC-AEP アーツファンド³⁸²」を開始した。ここでは、質の高い芸術教育プログラムの費用を助成することで、学生の芸術への関心を高めることが目指されている³⁸³。2023年の助成額は、1年につき1校あたりS\$1万5,000（約168万円）であった。各学校は、助成の対象となる芸術プログラムを公式リストより選択することができる。対象となるプログラムは、NAC-AEPの下で承認されたもの、または、一般に公開されているプログラムのうちジャンルや開催期間などの条件を満たすものである。助成金は、教育省との協力のもと支給される。なお、地域の芸術産業を支援するために、学校に割り当てられる年間金額の少なくとも60%を、シンガポールの文化芸術団体によるプログラムに使用することが、条件として定められている³⁸⁴。

³⁷⁹ <https://sso.agc.gov.sg/Act/STBA1987>

³⁸⁰ <https://www.toteboard.gov.sg/who-we-are>

³⁸¹ <https://www.toteboard.gov.sg/grants/what-toteboard-cares-about>

³⁸² 正式名称は「アーツファンド」のみであるが、第1部第2章「2-3-1. 助成制度の分類」で前述した「アーツファンド」との混同を防ぐため、ここでは「NAC-AEP アーツファンド」と表記する。

³⁸³ [https://www.nac.gov.sg/singapore-arts-scene/arts-education/national-arts-council-arts-education-programme-\(nac-aep\)/overview-of-nac-aep](https://www.nac.gov.sg/singapore-arts-scene/arts-education/national-arts-council-arts-education-programme-(nac-aep)/overview-of-nac-aep)

³⁸⁴ [https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/education-assets/annex_2024-tote-board-arts-grant-guidelines-for-schools_final-\(updated-as-of-28-dec-2023\).pdf](https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/education-assets/annex_2024-tote-board-arts-grant-guidelines-for-schools_final-(updated-as-of-28-dec-2023).pdf)

2-3.文化芸術における海外との連携

シンガポールは、国として経済ハブを目指すだけでなく、文化芸術都市としてもハブを目指している³⁸⁵。グローバル化の方針として、海外作品をシンガポールにて公開するだけでなく、独自の文化芸術の発信にも注力している。建国から60年にも満たない多民族国家であるシンガポールにとって、独自のものと呼べる文化芸術の構築は重要な課題の1つである。その手法の1つとして、伝統的な芸術形態を維持すると同時に、現代的な表現方法を取り込むことを意識しながら、文化芸術活動を推進している。

また、シンガポールでは、文化芸術を都市の生態系に組み込むことで、人々の地理的・文化的境界を超えたつながりや対話、パートナーシップを築いている。国際的な芸術イベントを開催することで、世界中から芸術家、コレクター、芸術ファンを集める一方で、海外におけるイベントにも積極的に参加し、世界の芸術ステージにてシンガポールの存在感をアピールしている。シンガポールアーツプラン(2023-2027年)における3つの戦略的なテーマの1つ、「クリエイティブエコノミー」でも、国際的なパートナーシップの重要性について記述されている³⁸⁶。

ここでは、具体的な取り組みとして、海外の芸術作品をシンガポールにて公開している例、シンガポールの芸術作品を海外にて公開している例、その他のパートナーシップの例について記述する。

(a)シンガポール国内における海外の芸術作品の上演

①シルク・ドゥ・ソレイユ(Cirque du Soleil)による上演

Cirque du Soleilは、大手通信会社であるM1がスポンサーとなり、1999年に初めてシンガポールにて公演を行った。Cirque du SoleilがM1とのパートナーシップを結んで20周年となる2019年の公演「KURIOS - Cabinet of Curiosities」は、世界17か国から国際色豊かな芸術家が出演する作品で、文化芸術領域においても体操、アクロバット、曲芸、手品、ヨーヨー、道化、演劇、音楽など多岐にわたっている。エネルギッシュなジブシージャズとエレクトロスウィングのサウンドトラックをバックに、マッドサイエンティストの奇妙な物語が描かれる。「KURIOS - Cabinet of Curiosities」の特別試写会にはM1が支援している慈善団体の子供たちが約650名招待された^{387 388}。

②マリーナベイサンズ(Marina Bay Sands)シアターにおける海外作品の上演

Marina Bay Sandsシアターでは、「ハミルトン」、「ウィキッド」、「ウエストサイドストーリー」、「マンマ・ミーア!」、「ライオンキング」、「アナと雪の女王」など、ディズニーの名作を含む国際的に人気のあるミュージカルや演劇作品が数多く上演されてきた³⁸⁹。

③Singapore Theatre Company(STC)による海外作品の上演

STCは、1998年に「Golden Child」のアソシエイトプロデューサーとしてシンガポールの劇団として初めてブロードウェイに進出し、トニー賞に3度ノミネートされた。近年の国際的なコラボレーションには、サー・イアン・マッケラン(Sir Ian McKellen)主演のロイヤルシェイクスピアカンパニーの「リア王」や「かもめ」、オスカーを受賞したサム・メンデス(Sam Mendes)の「The Bridge Project(2009-2011)」、サイモン・マクバーニー(Simon McBurney)、蜷川幸雄、ピーター・ブルック(Peter Brook)の演出による「3 Titans of Theatre」などがある。また、STCは2015年にピーター・ブルックの「Battlefield」を共同制作した³⁹⁰。2018年にはSTCにて演劇を学んだ生徒の卒業公演としてイギリスの劇作家であるジェームズ・フリッツ(James Fritz)の「The Fall」を公演した³⁹¹。

³⁸⁵ [https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/resources-files/arts-masterplan/arts-and-culture-strategic-review-\(2012\)/renaissance-city-report-3-\(rcp3\).pdf](https://www.nac.gov.sg/docs/default-source/resources-files/arts-masterplan/arts-and-culture-strategic-review-(2012)/renaissance-city-report-3-(rcp3).pdf) (P3)

³⁸⁶ <https://www.nac.gov.sg/about-us/oursgartspan> (フルレポートP82)

³⁸⁷ <https://www.m1.com.sg/about-us/news-releases/2019/m1-hosts-650-children-for-an-exclusive-preview-of-kurios-by-cirque-du-soleil>

³⁸⁸ <https://www.rosettemedia.com/post/cirque-du-soleil-kurios>

³⁸⁹ <https://www.marinabaysands.com/entertainment/shows.html>

³⁹⁰ <https://www.singaporetheatrecompany.sg/about>

³⁹¹ <https://www.singaporetheatrecompany.sg/show/thefall/>

(b)シンガポール人芸術家による芸術作品の海外における上演・展示

①南洋理工大学現代美術センター(Nanyang Technological University Centre for Contemporary Art Singapore)によるレジデンスプログラム

南洋理工大学の国立研究センターである現代美術センターは、2022年、駐シンガポール欧州連合代表部と共同で、欧州連合(European Union: 以下、EU)の対外政策手段によるプロジェクトを実施した。このプロジェクトは、選ばれた芸術家に対して、EU加盟国での3ヶ月間のレジデンスと、レジデンスでの経験からインスピレーションを得た新作を制作する機会からなる長期的な活動を提供した。これらの作品は、同センターのキュレーションによるグループ展において一般に公開された。この展覧会は、シンガポールの芸術家に対して地域横断的な芸術プロジェクトに参画する機会を提供すると共に、シンガポール国外のより広い芸術コミュニティにシンガポールの芸術を周知する機会となった³⁹²。

②Wild Riceによる国際ツアー

Wild Riceは、シンガポールの演劇の国際的な知名度を高めると同時に、より深く有意義な地域・異文化間のコラボレーションを促進することに尽力している演劇カンパニーである。彼らは、世界中の観客を魅了するような世界クラスの作品のツアーを継続することで、シンガポールの国際的な存在感を高めている。これまでに上演した都市には、ブリスベン、メルボルン、タスマニア、ウェリントン、クアラルンプール、マカオ、モンリオール、モスクワなどがある³⁹³。

③T.H.E. Dance Companyによる国際ツアー

T.H.E. Dance Companyは、身体の動きを通して、深い本能や衝動を理解し、表現するといった手法を特徴とするダンスカンパニーである。シンガポールを代表するコンテンポラリーダンスカンパニーとして、シンガポール以外にもマレーシア、インドネシア、タイ、ラオス、韓国、日本、台湾、中国、インド、フランス、イタリア、ポーランド、デンマーク、ラトビア、アラブ首長国連邦、オーストラリア、ニュージーランドにおける主要なフェスティバルにおいて公演やツアーを開催してきた³⁹⁴。

(c)文化芸術における国際協力を促進するその他の活動

①カルチャーリンクシンガポール(CultureLink Singapore)によるコラボレーションの促進

芸術家マネジメント・プロデュース企業兼芸術コンサルティングエージェンシーであるCultureLinkは、対象都市や国際的な舞台における芸術の普及、交流、コラボレーションを行うためのパイプ役の役割を担い、異なる国の芸術家や組織間の異文化対話やコラボレーションを促進する活動を展開している³⁹⁵。

②ASEANカルチャーハウス(ASEAN Culture House)主催イベントにおけるシンガポール文化の紹介

韓国国際交流財団(Korea Foundation)が韓国において運営するASEAN Culture Houseは、ASEAN 10カ国を気軽に楽しく理解する機会を提供する「Easy Access ASEAN」シリーズを実施しており、2018年にはシンガポールがテーマとなった。そこではシンガポールのダンスカンパニーによる公演や、シンガポールからの留学生によるシンガポール文化体験ワークショップ、シンガポールの文化を紹介する映画の上映会を含む数々のイベントを通じ、シンガポール独自のプラナカン文化が紹介された^{396 397}。

³⁹² <https://ntu.ccasingapore.org/news/ntu-cca-singapore-announces-artists-and-partner-institutions-for-sea-air-studio-residencies-for-southeast-asian-artists-in-the-eu-cycle-1/>

³⁹³ <https://www.wildrice.com.sg/about-wild-rice/touring-collaborations/>

³⁹⁴ <https://www.the-dancecompany.com/content/1-the-dance-company>

³⁹⁵ <https://culturelink.com.sg/about/>

³⁹⁶ <https://www.ach.or.kr/acheng/cm/cntnts/cntntsView.do?mi=15174&cntntslid=2093>

³⁹⁷ <https://www.hapskorea.com/asean-culture-house-holding-a-series-of-singapore-themed-events-in-october/>

③ブリティッシュカウンシル(British Council)とのMoU

NACは2015年にブリティッシュカウンシルとMoUを締結し、今後の芸術関係者、行政官、組織間の文化的対話と交流のための明確な枠組みを構築した。英国とシンガポールはこのMoU締結以前より、セミナーへの講師としての招待、海外派遣プログラム、各種フェスティバルへの招待やパビリオンの企画、共同制作を含むさまざまな分野で協力関係を結んできた。2015年のMoUの内容は下記を含むものである³⁹⁸。

- 知識とスキル開発：テクニカルシアター、クリエイティブプロダクション、リーダーシップ、フェスティバルや展覧会のプログラミング、芸術行政などのマスタークラスや短期コースを含む知識とスキルの開発を行う。
- 交流・レジデンス・発表：青少年向けのコンテンツ制作、劇作、演劇における交流、レジデンス、作品発表の機会を提供する。
- 文芸プロジェクト：「Writing the City」プロジェクト、シンガポール作家フェスティバル、新しい文学賞などの文芸プロジェクトを実施する。
- 障がい者の為の芸術：芸術がいかにして生活を豊かにし、障害者の健康と福祉に貢献する価値をもたらすことができるかについて、ベストプラクティスを共有する。
- 文化リーダーシップ会議：英国や地域のオピニオンリーダーを集め、文化、芸術、教育政策について対話を行う。

このような活動を通じて、シンガポール政府は、文化芸術分野における国際的リーダーとしての地位の確立を目指す他、国際機関との連携を通じた多様なキャリアパス機会の創出、シンガポール文化の認知度向上、芸術を通じた相互理解の促進などを目指している。

³⁹⁸ <https://www.britishcouncil.sg/programmes/arts/cultural-skills/british-council-national-arts-council-mou>

おわりに

本調査では、シンガポールの文化芸術活動に対する支援をはじめとする文化振興方策について、ナショナルアーツカウンシルを中心としながら、文化コミュニティ青年省や国家遺産局といった公的機関から民間で文化芸術活動を行う組織まで幅広く実態調査を行った。

今回の調査ではヒアリングの中で、芸術団体に対するフィードバックの状況に関してポジティブな意見が多いことが興味深かった。このことは、担当者同士の距離感が近く、比較的良好な関係性が築かれていることの1つの表れとも捉えられるだろう。また、公的機関が、計画などの策定時に市民の意見を積極的に取り入れようとする姿勢も興味深い。人口が少ない都市国家であるからこそ可能であるとも考えられるが、それ以上に、多民族・多宗教国家であることによる影響が大きいようだ。この点について、シンガポールの政策には、各民族の文化的背景やアイデンティティを尊重し、それらに配慮する姿勢が見受けられる。同時に、シンガポール人に対して「国民」としての自覚を抱かせ、国民全体の一体性を高めようとする傾向もあるようだ。こうした中で文化芸術は、民族の多様性と国民の一体性のいずれにとっても、特に重要な役割を果たしていると考えられる。

また、今回の調査で明らかになったことの中でも、文化芸術の効果に関する考え方には大いに示唆を受ける結果となった。文化コミュニティ青年省、ナショナルアーツカウンシルともに、2010年頃までは、文化芸術の経済貢献が過度に強調されていたものの、その効果は明確には把握しづらいと考えられるようになり、結果としてその後は地域社会への貢献といった役割がより期待されるようになった。文化芸術による経済的な効果への注目から、地域社会の発展などへの貢献に注目するような考え方へとシフトしていることを認識しながらさまざまな施策に取り組んでいる様子が印象的であった。他方で、文化芸術団体が持続可能であること、経済的に成り立つことはとても重要であるとも考えられていた。このような点も含め、シンガポールの文化芸術振興を考える際には、文化芸術を維持・発展させるための仕組みのあり方は欠かせない観点だろう。

本報告書においてシンガポールの文化芸術活動に関する支援の一端を明らかにできたと考えている。本報告書は、多くの方々のご協力なしには執筆することが出来なかった。お忙しい中ヒアリングに快く応じてくださり追加の質問にも丁寧に対応してくださった文化芸術関係組織の皆様、素早く対応してくださった在日シンガポール大使館の担当者の方、そして本調査にご協力くださった全ての方に心よりの感謝を申し上げ、結びとしたい。

シンガポールにおける文化芸術活動に対する支援を はじめとする文化振興方策等に関する実態調査 報告書

[委託元] 独立行政法人 日本芸術文化振興会

〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1

<https://www.ntj.jac.go.jp>

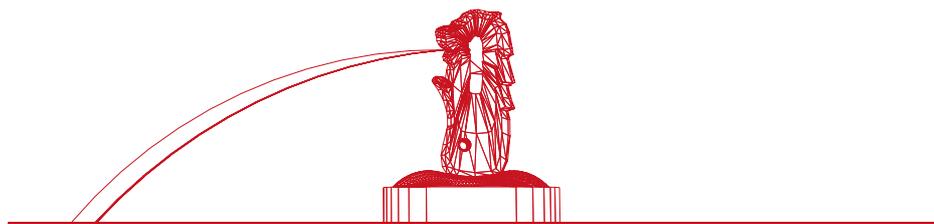
[受託先] Nomura Research Institute Singapore Pte. Ltd.

10 Marina Boulevard, Marina Bay Financial Centre, Tower 2, #33-02, Singapore 018983

<https://nrisg.com/>

発行日 令和6年5月

無断複写・転載はお断りします。



独立行政法人 日本芸術文化振興会 委託事業

シンガポールにおける文化芸術活動に
対する支援をはじめとする文化振興方策等に
関する実態調査



Nomura Research Institute Singapore Pte. Ltd.
令和6年5月